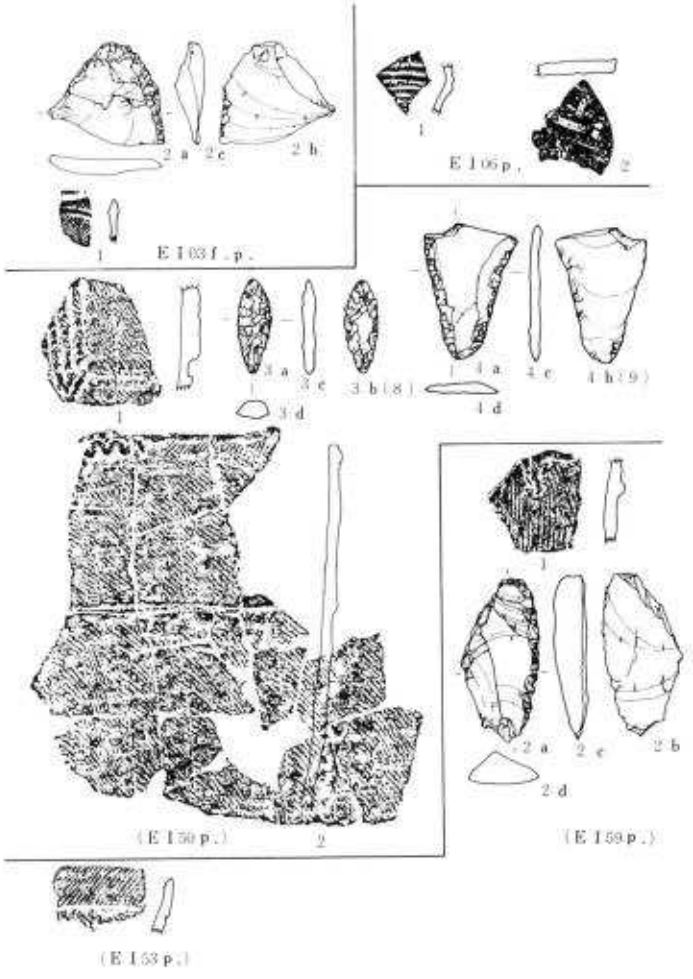
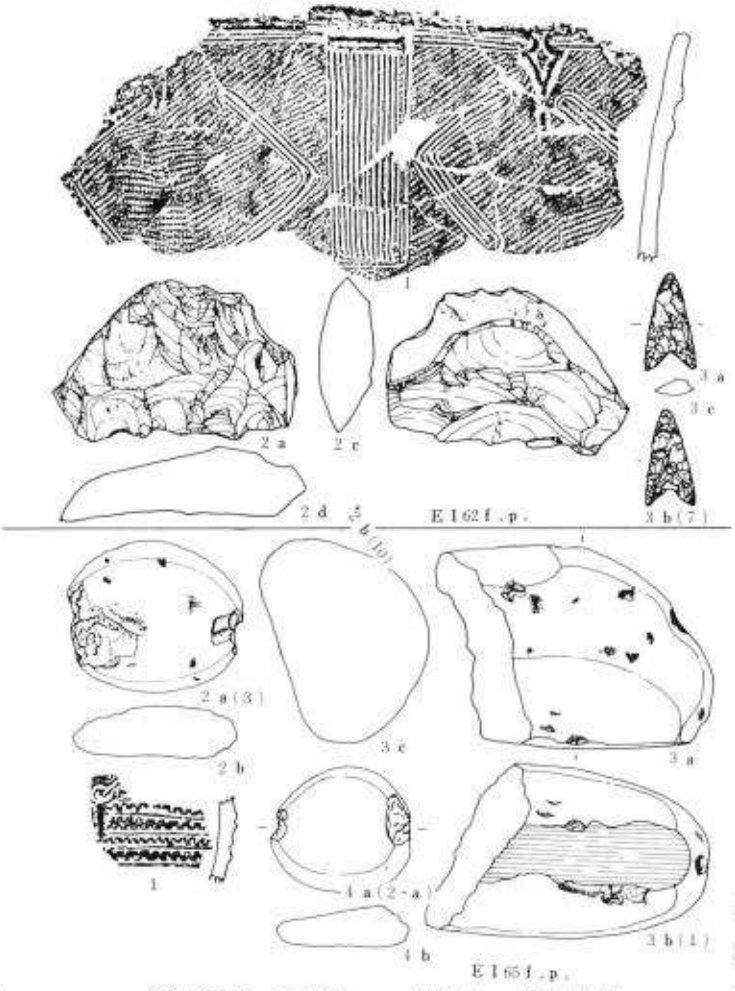
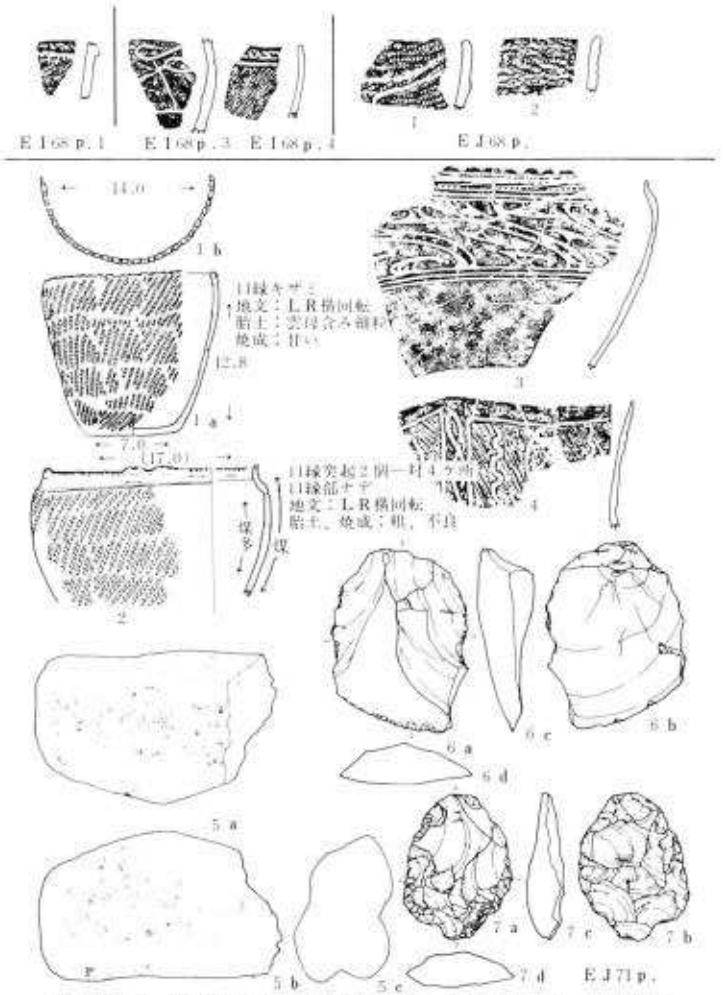


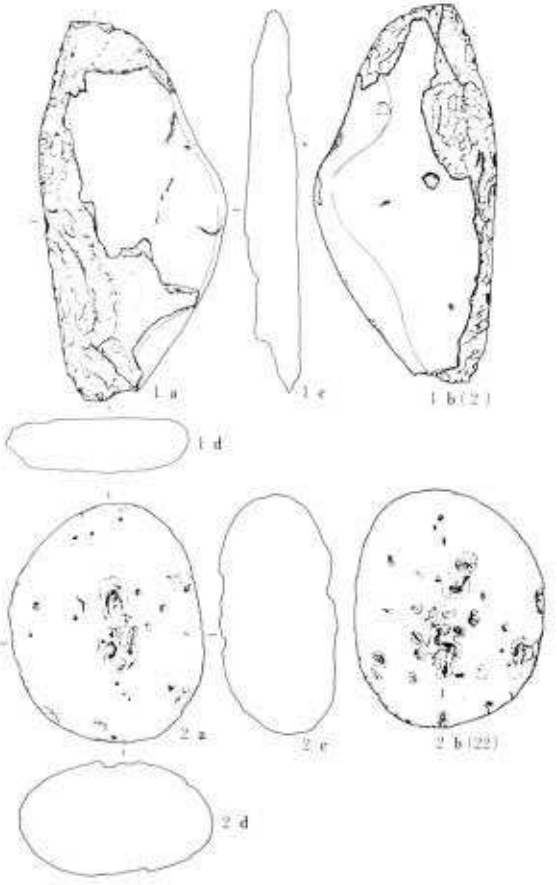
第162図　E103f.p、E106p、E150p、E153p、E159p.出土遺物



第163図　E162f.p、E165f.p.出土遺物



第164図　EI68p.1、EI68p.3、EI68p.4、EJ68p
EJ71p、出土遺物



第165図　EF74f.p.1.出土石器

3．石器製造跡の出土遺物

石核（第166図）

発見された石核は13点である。分布状態は全体に散在しているが、16、17、20、21、22の5点と61、65、377の3点はそれぞれ直径30cmの範囲内に集中している。

188は立方体状をなすが、他方は編平な大型剥片状を呈している。いずれも残核とみられる。このうち20は最終剥離痕がネガティブ面をなしており、剥片とも見られるものである。石核のほとんどは一部に自然面あるいは節理面を有するもので、もたないものは375の1点のみである。打面には自然面、節理面を打面とするもの（7点）、打面形成を行なったもの（2点）とがあり、前者が多い。中には作業面を打面とするものも認められる（6点）。作業面を打面とするものは、打面の除去されているものもあるが、90度、180度あるいはそれ以外の転移した打面を有するものである。作業面は1面（21）、2面（17、25、61、65）の他は特定されないものが多い。作業面の観察から剥取された剥片は3～5cmほどの縦長あるいは横長剥片で、特に定形化されたものではない。大きさも、1.5×2.5cm、3×4cm、3×6.5cm、5×4.5cm、5.5×5cm、6×3.5cmの如く一定ではない。

石材は泥岩類（珪質凝灰質泥岩9、珪質泥岩1）が10点、凝灰岩類（石質細粒凝灰岩、珪質石質極細粒凝灰岩各1）が2点、玻離質流紋岩が1点である。

剥片（第166図）

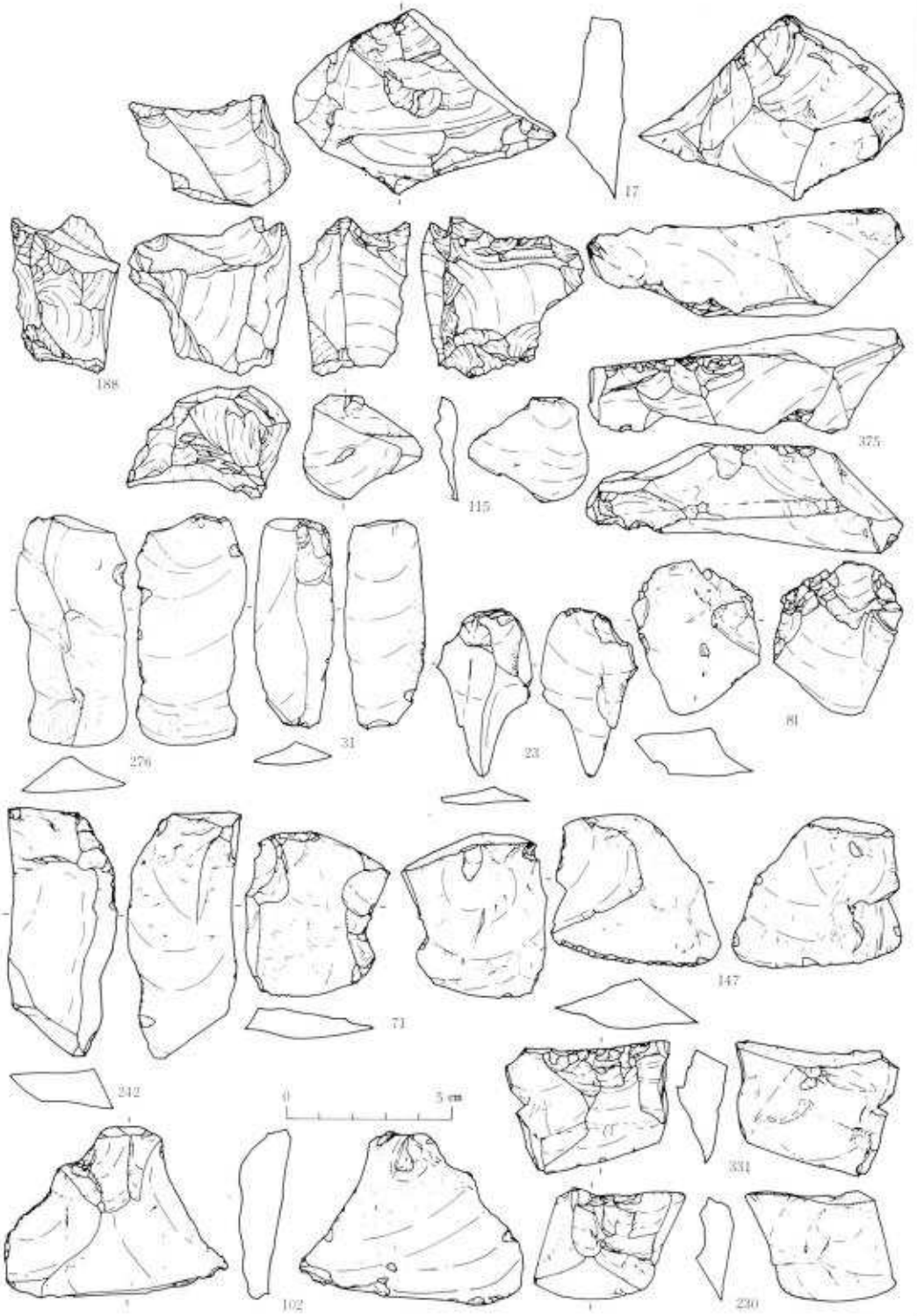
発見された剥片は151点である。このうち接合資料は7資料10点である。分布状態には粗密があり、8点、32点、20点、8点、18点、20点と6地点に群在する以外は極めて希薄な分布状態を示す。そのあり方は直径約5～60cmの範囲にまとまるもので、全体的には北東から南西にかけて帯状に分布している。

剥片には縦長、横長剥片の両様が認められ、その中間形態と見られるものも存在する。これらの中には明瞭に識別できないが、石刃様剥片、表皮除去剥片、打面形成剥片、調整剥片、目的剥片などが含まれていると考えられる。

縦長で両側縁がほぼ平行するものを石刃様剥片とした。3点の出土で1点は基部、1点は先端部を欠損している。いずれも主要剥離面と同一方向から剥離されたもので、背面中央に稜線をもつ断面三角形をなす。打面は2点とも自然面で、2点が側縁に自然面を残している。長幅指数は258、206であるが、総じて石刃としては粗雑なものである。

81等14点は自然面を大きく残すもので、表皮除去剥片と見られる。大きさには大・小があり形も縦長、横長が混在している。このうち3点は先行する剥離痕をもつもので目的剥片とも考えられるものである。打面は調整されて不明なものもあるが、自然面が8点、平坦打面が4点で前者が多い。なお、打撃点及び打瘤を除去した2点は、それ以外の調整痕は認められない。但し、対辺に使用痕の観察されるものが1点含まれている（147）。

器肉の薄いもの（12点）と形の不整なもの（8点）は調整剥片あるいは打面形成剥片と考え



（数字は登録番号である。）
（縮尺２分の１）

第166図　石器製造跡出土遺物

また、折損していて不明な4点を目的剥片から除外している。

目的剥片は折損しているものを含めて110点である。形態では242のように縦に細長いもの、71のようにほぼ方形に近いもの、102の如く横に細長いものなどがあり、縦長剥片、横長剥片に識別しにくいものも少なくない。中には帆立貝状のもの、短冊型のものなどが含まれ、また台形状を呈するもので断面形が急激に細まる楔型をなすものもある（331、230等6点）。これには調整痕をもつものが3点含まれている。

大きさは縦長剥片が9.1×6.7cm横長剥片が6.5×9.8cmを最大とし、2.9×2.0cmを最少とする。長さでは大（5.6～7.0cm、17点、22.4%）、中（3.6～5.5cm、37点、49.3%）小（2.1～3.5cm、8点、10.7%）と3区分でき、中が約半数を占める。幅でも大（6.1×7.0cm、12点、16%）、中（4.6×5.5cm、17点、22.4%）、小（3.2～4.0cm、29点、38.7%）に分けられ、これでは小がほぼ半数近くを占めている。厚さは大きいものほど厚い傾向があるが、0.6～1.6cmのものが61点（81.3%）で、ほとんどのものが含まれる。

打面は自然面を打面とするもの62例（56.4%）、平坦面を打面とするもの30例（27.3%）である。平坦打面は自然面を打面とするものより、極めて小さな面である。中には打面及び打瘤部を除去しているものが認められ（4点）、一部調整されているものを含めると5点となる。自然面を打面とするものが圧倒的に多いが打面とする以外に自然面を残すものが約半数（44.5%）存在する。右側縁に残すもの24点[注1]（21.8%）、左側縁に残すもの15点[注2]（13.6%）、対辺に残すものが10点[注3]（9.1%）である。

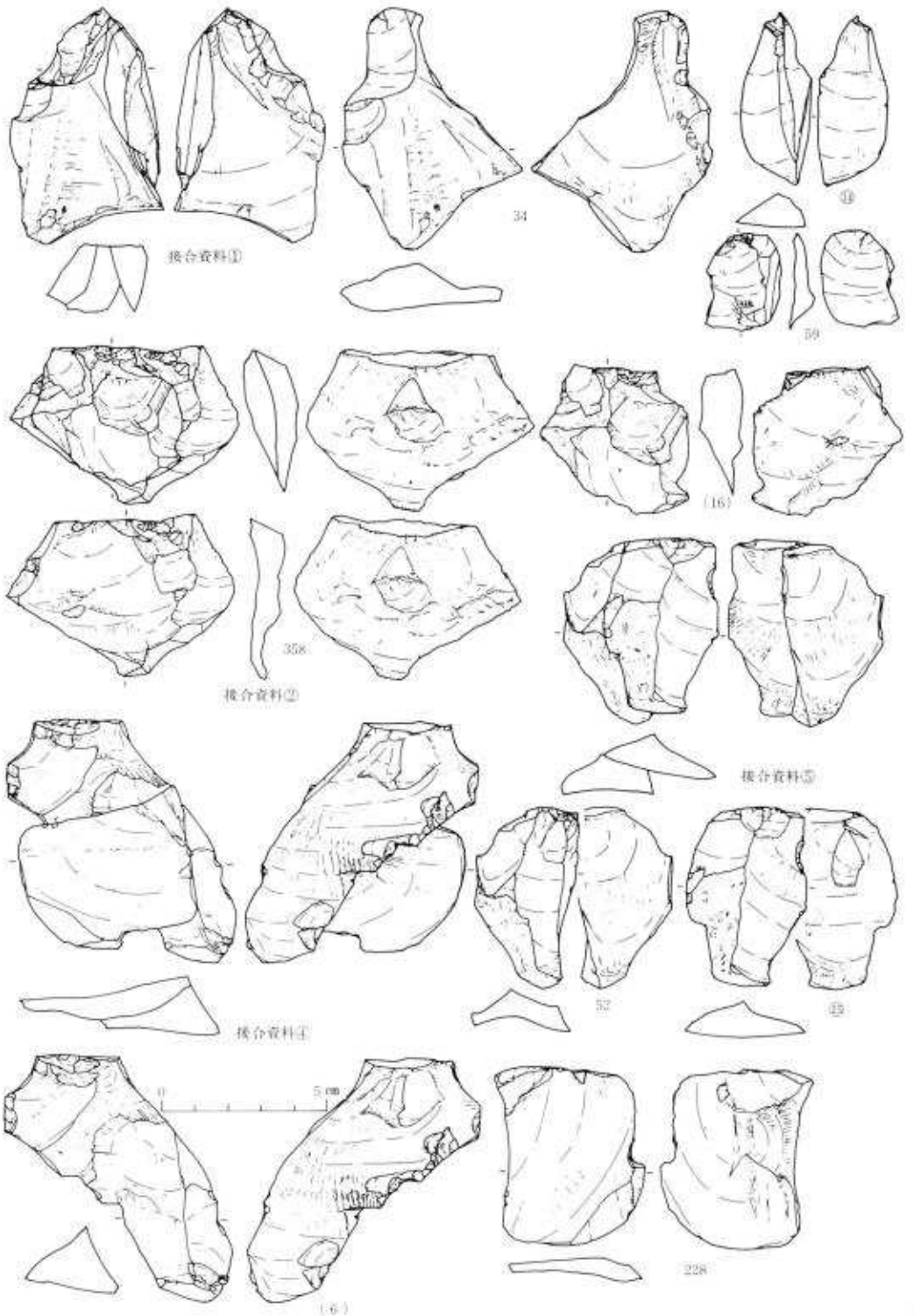
作業面は89点（80%）のものが主要剥離面と同一方向から剥離されているものである。数は少ないが主に90度転移しているもの11点（10%）、180度転移しているものが1点認められ、痕跡を残すものを加えるとさらに増加する。中には両面にポジティブ面をもつものが3点含まれている。

石材は硬質泥岩17、珪質泥岩7、硬質凝灰質泥岩47、珪質凝灰質泥岩8、泥質珪質凝灰岩23、石質細粒凝灰岩32、珪質石質極細粒凝灰岩9、流紋岩1、玻璃質流紋岩（鉄質石英）5、粘板岩ホルンフエルス1であり、泥岩類が79点（52.3%）、凝灰岩類が64点（42.4%）で、ほとんどのものが泥岩類凝灰岩類からなる。

注(1) このうち4点は側縁から対辺にかけて自然面を残すものである。

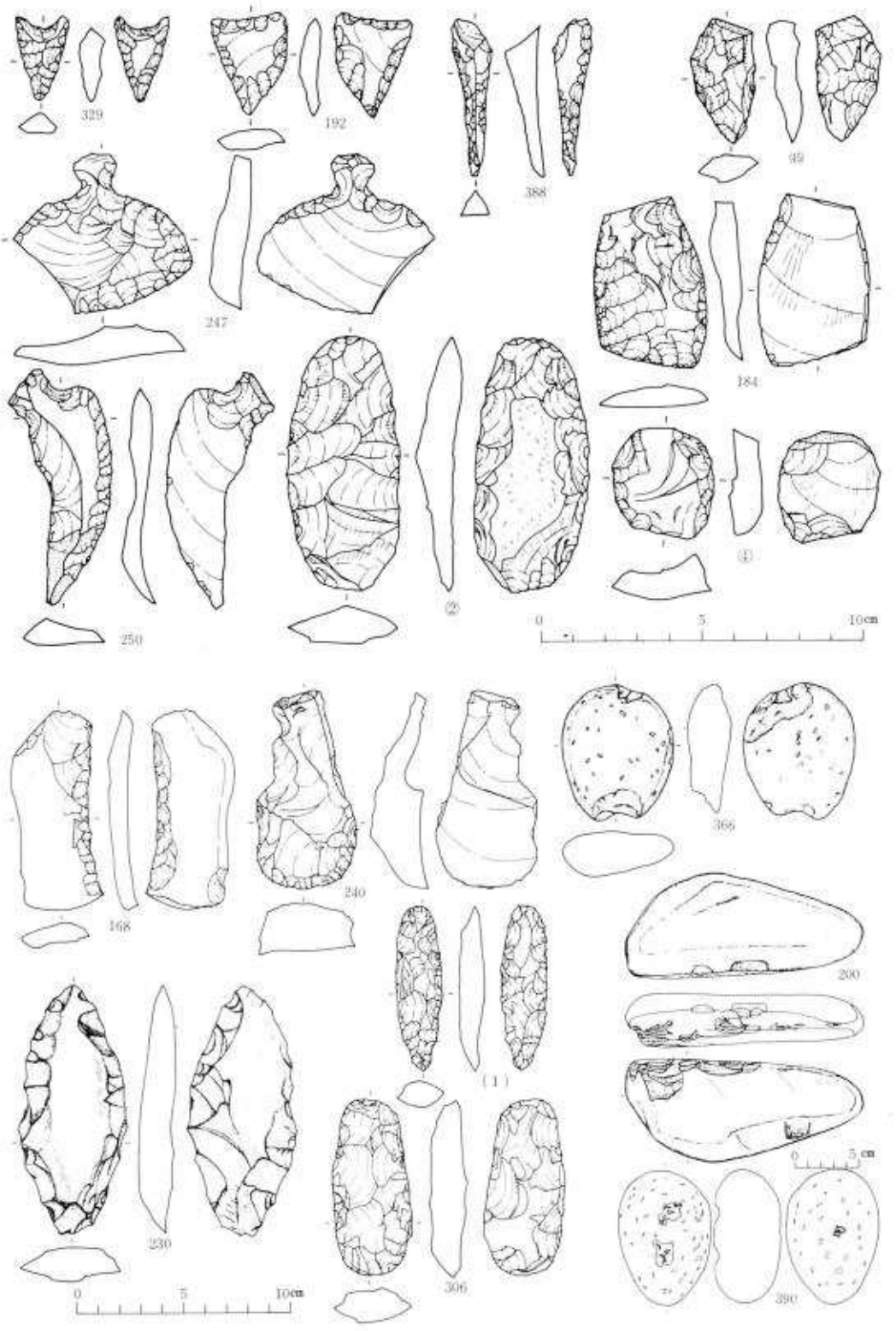
(2) このうち3点は側縁から対辺にかけて自然面を残すものである。

(3) このうち3点は両側縁から対辺にかけて自然面を残すものである。



（接合資料）（縮尺２分の１）

第167図　石器製造跡出土遺物



第168図　石器製造跡出土遺物

接合資料（第167図）

接合資料は７資料15点である。このうち４点はグリット出土遺物である。これらのものは20cm以内のものが接合するもので、それほど分布域は大きくない。③が石核と剥片が接合するもので他は剥片間の接合資料である、②、⑤、⑥が同一打面から連続的に剥離されたもので、④は打面が90度転移している。①は表皮除去剥片と目的剥片２点からなるもので、打面は180度転移している例である。⑦は剥片採取後に折損したものである。②、⑥、⑦が自然面を打面とし、①、⑤が平担面を打面としている。③、④は自然面と平担面の両者を打面としている。

砕片

発見された砕片は25点である。いずれも細片であり、調整剥片と考えられる。

石器製造跡出土石器一覧表

登録番号	出土地点	出土層位	分類	残存状況		最大値（cm）			重量（g）	材質
				完全	破損	たて	よこ	あつさ		
石 山										
159				○		2.6	1.6	0.6	1.6	石質細粒凝灰岩
165					○		2.2	0.4		石質細粒凝灰岩
192				○		3.0	2.0	0.6	8.0	石質細粒凝灰岩
212					○		1.6	0.6		粘板岩
229					○		1.8	0.7		石質細粒凝灰岩
石 棚										
280										
34	石質製造跡									
石 塔										
70				○		5.3	3.9	0.6	14.3	硬質凝灰質泥岩
267				○		5.1	2.1	0.6	5.1	鳴鳴質泥岩
268				○		7.1	1.8	0.7	0.7	片質石質無細粒凝灰岩
247					○	4.6		1.1		片質泥岩
230					○		2.4	0.7		片側凝灰質泥岩
44	石質製造跡			○		4.1	5.4	0.8	15.9	片質泥質凝灰岩
造 成 石 器										
85				○		6.4	2.5	1.7	36.9	硬質凝灰質泥岩
92				○		6.4	2.6	2.3	68.5	硬質凝灰質泥岩
163				◇		6.1	2.4	1.2	28.7	石質細粒凝灰岩
133				○		6.3	4.1	1.2	36.7	石質細粒凝灰岩
126				◇		6.2	3.6	1.8	47.8	硬質凝灰質泥岩
147				○		6.0	2.9	1.5	30.7	片質凝灰質泥岩
160				◇		5.9	1.8	2.0	12.2	硬質泥岩
1	11 I 11 I 24 27			○		7.2	2.2	1.4	21.3	石質細粒凝灰岩
37	11 I 11 I 24 27			○		5.3	2.6	0.8	5.6	石質細粒凝灰岩
2	11 I 11 I 24 27			○		7.8	1.5	1.2	11.2	チャート質粘板岩
	石質製造跡			○		7.1	2.1	1.6	30.7	硬質泥岩
研 器										
19					○		1.4	0.8		硬質凝灰質泥岩
50					○		2.5	1.8		片質泥質凝灰岩
58					○		1.8	1.2		硬質泥岩
78				○		5.2	1.6	1.2	20.6	硬質凝灰質泥岩
86				○		4.9	1.6	1.1	17.0	硬質凝灰質泥岩
97					○		4.1	0.9		石質細粒凝灰岩
110				○		6.1	3.1	0.9	18.2	硬質凝灰質泥岩
144				◇		4.7	3.2	1.4	32.4	硬質凝灰質泥岩
198				○		6.2	3.7	1.2	49.2	粘板岩
172				○		4.7	3.0	1.2	13.7	片質泥質凝灰岩
176				○		4.9	4.2	1.0	7.5	石質細粒凝灰岩
181				○		2.7	1.8	0.6	2.6	鳴鳴質泥岩（鉄石英）
184				○		5.3	2.1	0.9	16.1	片質泥質凝灰岩
191				○		4.1	4.1	1.5	13.0	片質凝灰質泥岩

登録番号	出土地点	出土層位	分類	残存状況		最大値(cm)			重量(g)	材質
				完全	破損	たて	よこ	あつさ		
232				○		4.7	3.1	1.0	9.5	玻璃質流紋岩(鉄石英)
239					○		3.5	1.3		硬質凝灰質泥岩
240				○		6.1	4.6	2.4	61.6	片質泥質凝灰岩
241				○		4.1	1.6	0.6	3.1	硬質凝灰質泥岩
242					○	計測不能				片質石質極細粒凝灰岩
249				○		6.5	4.3	1.2	30.2	石質細粒凝灰岩
250				○		5.6	3.0	1.1	15.1	片質石質極細粒凝灰岩
251				○		5.9	4.9	1.7	28.7	片質泥質凝灰岩
267					○		2.1	0.8		玻璃質流紋岩
274				○		4.5	2.2	0.4	5.1	玻璃質流紋岩
2	D-1、D-2 24.27				○		6.2	1.3		粘板岩
46	石器製作跡				○		2.5	0.6		片質泥岩
3	D-1、D-2 24.27			○		3.6	3.0	1.4	21.4	硬質凝灰質泥岩
4	D-1、D-2 24.27			○		3.3	3.1	1.2	17.6	石質細粒凝灰岩
5	D-1、D-2 24.27				○		3.2	0.5		硬質泥岩
9	D-1、D-2 24.27				○	計測不能				硬質凝灰質泥岩
	石器製作跡			○		4.4	3.1	0.8	9.7	泥質凝質凝灰岩
石 錐										
188				○		4.8	1.2	0.9	3.1	石質細粒凝灰岩
磨 石										
39				○		12.1	8.2	4.2	250.0	[illegible]
84				○		12.6	7.7	4.6	700.0	石英安山岩
200				○		15.2	8.0	4.2	430.0	遺跡形凝灰岩
386				○		6.4	5.7	3.4	260.0	花崗閃緑岩
凹 石										
159				○		10.3	8.1	5.2	230.0	両輝石安山岩
285					○		7.9	4.1		両輝石安山岩
390				○		10.4	8.4	5.2	480.0	両輝石安山岩
石 臼										
67					○			5.9		両輝石安山岩
138					○	計測不能				粘板岩ホルンフェルス
石 錘										
160				○		5.1	3.6	2.9	50.1	両輝石安山岩
300				○		6.1	5.1	2.3	80.1	両輝石安山岩
7	D-1、D-2 24.27			○		4.1	3.1	1.5	40.0	両輝石安山岩
磨製石斧の一部										
309					○					黒雲母片岩

※出土地点の空欄は石器製造跡遺物で出土位置が不明記しているものである。

4．遺物包含層出土の遺物（第169・170図）

Cブロックの北斜面に形成された遺物包含層からは、極めて多量の遺物を得た。それはすべての種類にわたっており、個別の詳論は諸般の事情でなしえない。ここではその一部を提示するにすぎない。なお、遺物の接合関係や、上・下層の土器の時代・時期を見ると、かなり動いていることが明らかである。したがって、その層には二次堆積の特徴が濃く出ているといってよい。したがって各層には厳密な時期的まとまりはない。

ちなみに遺物包含層出土の土器の時代・時期をあげると、縄文早期末～前期初、前期後葉、前期末、中期初～中葉、などがあり、主体は前期末、中期初である（なおⅢ層などからの晩期の出土例もある）。実測図には、各期の代表的例を掲げた。

石器については遺構出土のものに共通するもので、図示は省略し、一覧表に示した。

(1) 旧石器と思われるもの（第170図）

ナイフ・彫刻刀と思われるものを得たが、出土層位に問題があり、図示するにとどめる。両者とも良好なブレイドを素材としている。前者は一側縁（斜辺）以外についてプランティング風の剝離を加えている。後者は前者を斜めに半割したかの如き形状を示している。刃部と思われる部分のリングなどを見ると、その面形成の際の加撃が腹面（主要剝離面）側から行なわれていることがわかる。これは通常の彫刻刀面形成の際とは異なり若干疑問のあるところである。ここでは形状の類似を以って一応こう呼んでおく。

なお調査者によって旧石器とされたものにドリル様のものと、ナイフ様のもの、石核がある。最前者は縄文時代石器と技法・器面風化の度合が異ならず、旧石器とは認めがたい。ナイフ様のものにも断言するのがためらわれる。最後者は現物が見あたらず、詳細不明である。

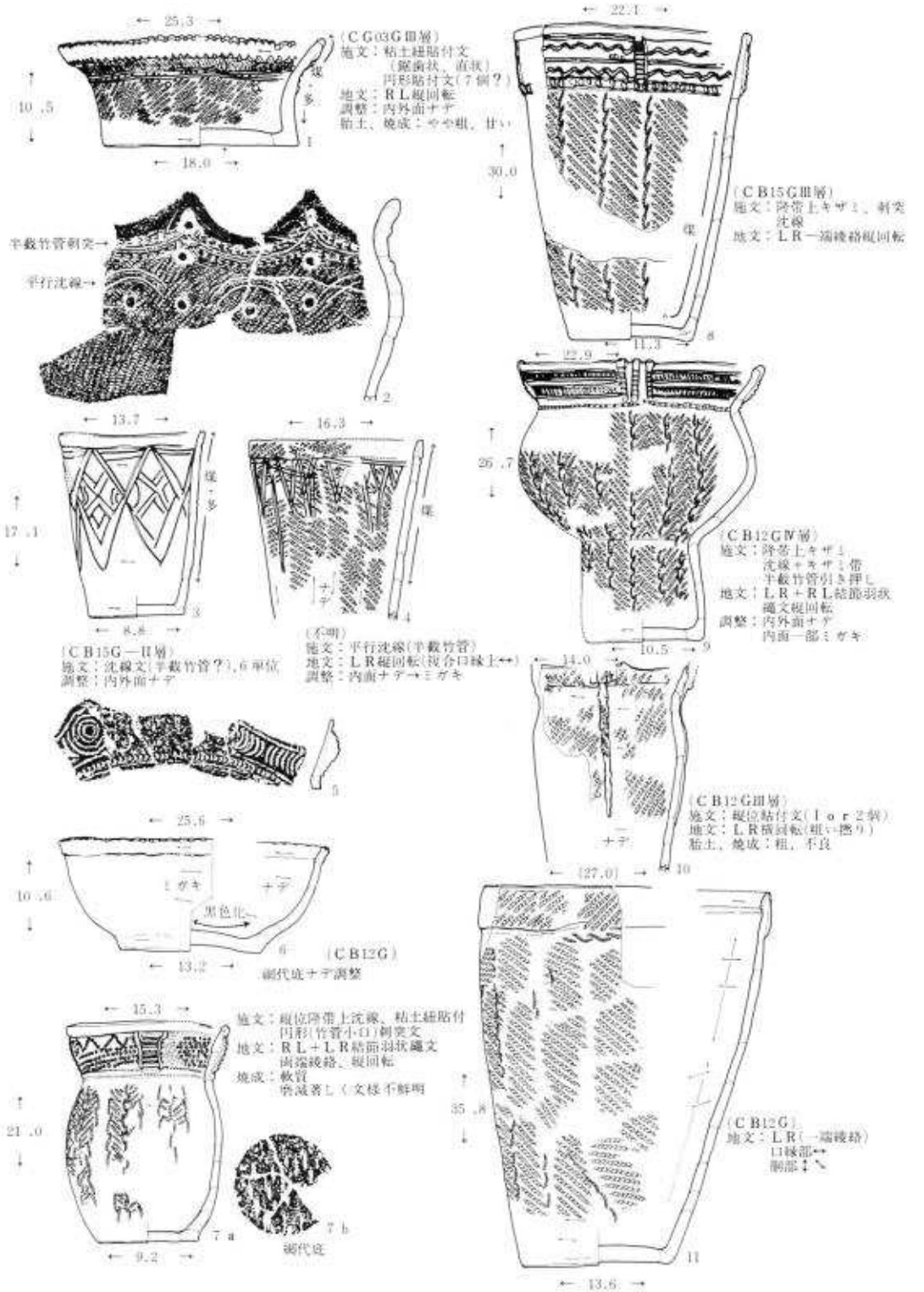
本遺跡の東隣の藤沢遺跡から、舟底型石器が出土している。したがって本遺跡を含む地帯に該期の遺跡が存在する可能性大である。周辺の遺跡については既にふれたとおり、下成沢・斉羽場・鍋羽衣台・大名野・大台野・和賀仙人・上萩森等の存在が著名である。

(2) 土　　器

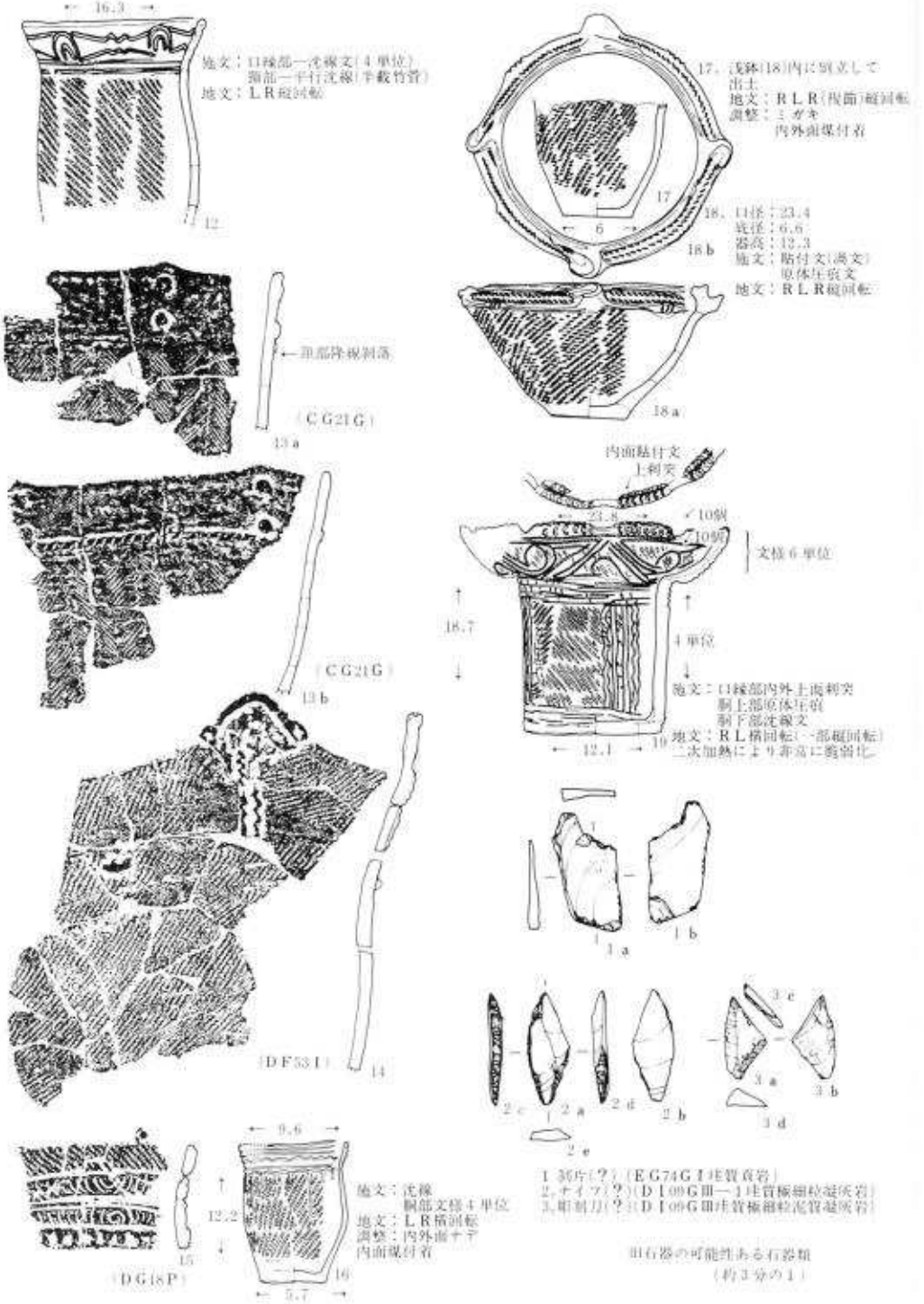
本遺跡出土の土器群は以下のようになり、それによった遺構の時期区分は既に行なった。ここではそれらの細部について若干補足しておく。

第1群土器（第176図）早期末と前期初頭のものと思われ、繊維を含むものが多い。後者は大木1・2式のものが多いと思われる。隣接する新平遺跡からも良好な資料が得られている（注1）。前者には、斜縄文・羽状縄文その他の数類型があり、一定以上の巾をもとう。なおこの群は各遺構から均質に出土しており、いわば基質的な存在ともいいうる。したがって本遺跡にかって該期の集落が存在した。あるいは周辺に未だ存在する可能性も大である。

第2群土器（第176図）大木5式類似のものと思われる浅い器形のものである。口縁端部を肥厚させ、かつほぼ垂直に立って、その上下端部に切り込みを入れて鋸歯状につくり出す。口縁～頸部には細い粘土紐貼付による鋸歯状の隆帯文が付され、その下位には円形の貼付文も附加



第169図　包含層出土の土器(約6分の1)



第170図　包含層出土の遺物（土器は約6分の1）

される。地文は斜縄文である。本遺跡ではこの一例のみであるが、やはり隣接の新平遺跡（註2）に類例がある。この種の資料も断片的なものしか岩手県内には知られていないが、一関市庄司合遺跡（註3）陸前高田市牧田貝塚（註4）水沢市中島遺跡（註5）盛岡市大館町遺跡（註6）などが該当しょう。

第3群土器（第171～173図・図版）大木6式類似のものをまとめた。ＣＪ24住居跡・ＣＩ21住居跡・ＣＪ30ｆＰ・ＤＡ24Ｐ他出土の土器群を指標とした。

第1類　膨らみをもった体部をもつ鉢の底部に、筒状のものを付した、所謂脚付鉢形土器である。鉢部と脚部は一体のものであり、各個が独立してはいない。器形・施文原体により細分できる。

1－a類　口縁部・肩部・体部の三部位に文様帯が設定される。さらに細分できる。①平縁をなす口縁端部が急激に外反し、その外方に刻み目乃至凹部が付され、口縁部文様帯とされる。頸部は半截竹管による波状乃至鋸歯状沈線が付される。刻み目をもつ隆帯で下限が区切られるものもある。体部文様帯は斜位に展開する半截竹管文・斜線の交点に付される円形貼付文などで構成される。地文は斜縄文が付されるが、原体回転方向には種々ある。脚部は篦ミガキなどで無文化される。

②口縁部が中程度の波状あるいは小突起をなす以外の特徴は①に共通する。口縁部には太い沈線（凹線）による円文・弧状文等が付される。以上の①・②の鉢部は、その中位が鋭角的に屈曲して最大胴径を形成し、既述の円形貼付文はそこに一致することが多い。

③・①・②に比し鉢体部の屈曲の度合が少なく、比較的滑らかに推移する。平縁と波状口縁の両者がある。口縁部と口頸部には平行沈線・半截竹管文（爪形文類似・鋸歯状文）などが組みあわされる。体部には半截竹管による併行沈線文が付されるが、①・②に比し簡略化した印象が強い。

1　b類　口縁部・肩部の2部位に文様帯が設けられる。器形により細分できる。①球状に張り出す体肩部と、比較的急激にすぼむ体下半部、比較的径の小さい脚部をもつ。口縁は㋑平線と㋺小突起4をもつものがある。前者の中には、長楕円形の区画4を設け、区画の連結部をブリッヂ状に肥厚させるものがある。区画内には周縁に爪形の刺突文が付される。後者では、突起下位にブリッヂ状に把手を付すものがある。結節沈線文・鋸歯状の隆線文その他が付される。肩部文様は㋑では半截竹管文によって渦文・鋸歯状文・斜行文・短沈線などが付される。

㋺でも同様のモチーフが、結沈線文で描出される。描法は口縁部と共通する。なお脚部をもたない球状の体部をもつ鉢の一例も便宜上ここに入れておく。

②体部の屈曲はあまりなく、脚部底径も大きめのもの、中波状乃至小突起を有する口縁が多い。肩部文様帯は刺突文・沈線程度で、①ほど文様としての効果はないものが主である。口縁部文様帯は渦文・鋸歯状文・弧状文等々、他に共通するものが主である。体部以下には地文のみが付される。原体縦位回転の羽状縄文等が多い。

第2類　最大径部位が口縁部に一致する深鉢乃至甕型である。外反する口縁・垂直に近い頸部、その中位に最大径をもつ体部（胴膨らみの）の三者で器形を構成する。細分しうる。

2－a類　波状口縁乃至小突起をもつ、器形は大・中・小の各種がそろう。口縁部は肥厚気味に作られたり、粘土紐が付されたりする。そこに凹線・隆帯・円形凹部・刺突文などが施される。突起部には円形文・縦位隆帯などが付される。施文原理によって細分できる。①頸部以下の文様体を一切もたない。頸部以下に直ちに地文の縄文・撚糸文などが付される。②頸部文様帯まではもつが体部のそれをもたない。施文は頸部を無文とするもの、隆帯をめぐらせるもの、半截竹管により波状文乃至鋸歯状文・平行沈線文を単独あるいは組みあわせるものなどがある。なお、下限に刻みや、縄文原体圧痕を付した隆帯をめぐらせるものも多い。体部地文は斜縄文が主である。③体部文様帯をもつもの、地文の上に半截竹管による縦・横・斜位の平行沈線・鋸歯状文が付され、それぞれの交点に円形乃至長楕円形の貼付文が加えられるものもある。

2－b類　平縁のものである。頸部文様帯を欠く例は存在しないが、体部文様帯の存否には先と同様に異同がある。

第3類　平縁の深鉢乃至甕型である。口縁部は帯状に肥厚され、沈線・刺突文・円文等が施文される。体部は中位に最大径がある。大～小までの各種がある。細分しうる。①口縁部文様帯以外のものをもたない。口縁部文様帯直下から直ちに地文が付されるか篦ミガキされる。②頸部文様帯的なものをもつ。器形では明白な頸部はつくり出していないが、文様帯の設定によってそれを印象づけている。平行沈線のみ・刺突文のみ・両者あわせ等のものがある。①・②の体部地文は原体の縦位回転によって付されたものが多い。なお、口縁部文様帯は鋸歯状乃至小波状が基本モチーフであるがその描出は、曲線文的なものと、直線（斜位の）的なものの二者がある。

第4類　体部のプロフィルが直線的にすぼまるもので、最大径部位が口縁に一致するものである。あるいは第3類と一括してもよいと思われるが、一応区別した。

口縁部は肥厚・外反し、そこに沈線によって渦文・鋸歯状文乃至波状文・あるいは刺突文等が展開される。細分しうる。①体部文様帯を欠く・口縁部文様帯下位に沈線をめぐらし、頸部文様帯を印象づける程度で、体部には地文（縄文・木目状・糸文地）のみが見られる。いずれにしても原体の縦位回転が主である。②体部文様帯をもつ、半蔵竹管による鋸歯状文・斜行文などである。若干疑問はあるが、一応ここに区分しておく。

第5類　内湾気味に立ち上がる口縁をもつ深鉢乃至甕型である。体部の膨らみには強弱があり、また平縁・波状口縁があるが一括した。口縁部文様帯のモチーフに特徴があり、渦文乃至円形文を中心とした、縦位の短沈線乃至円心円文である。細別しうる。

5-a類　体部文様を欠き、口縁部文様帯・頸部文様帯の二者からなる。後者は沈線と刺突文の併用が多いらしい。体部地文は原体縦位回転に加え、横位のそれも目立つ。綾絡文も目立つ。

5～b類　第1類・2類のそれに共通する体部文様をもつ。斜位沈線の交点に付される横位の

文様は、第1・2類においては貼付文であったが、本類では沈線である。

第6類（第　図・図版）外反する口縁部と、中位が膨らむ体部をもつ深鉢乃至甕型である。文様帯は一切もたず、地文のみ乃至無文である。口縁部の形状には①平線・②小波状口縁・③中程度の突起をもつ、ものの三者がある。口縁部は無文のままに残されるのが主だが、時に撚糸原体圧痕や、木目状撚糸文が付されるものもある。なお、口縁部未分化の中～小型の鉢も便宜上ここに加えた。地文には数種のものがある。

第7類（第　図）所謂浅鉢を集めた。CG15住居跡出土遺物の大半は第3群であり、この種のものも一応そのように見做した。

以上の第1類～7類を以って、大木6式の土器組成と見做しておく。ただし従来の諸知見を援用すると、これらには若干の時間的巾を想定した方がよいとも思われる。たとえば、本遺跡の第5類としたものは、宮城県長根貝塚における第二群土器にほぼ一致する。第5～b類としたものと器文・施文モチーフの極似するものが出土している。長根貝塚第二群土器は“大木6式の新しい部分”なる編年上の位置が与えられており、筆者らも賛意を表するものである。これと同様の観点で各類土器を見ると、第1～a類の③・第1～b類の②・第5類などのものは大木6式の中では、比較的新しい部分を構成する可能性もあろう。後述の大木7a式の器形・施文モチーフ等に共通する点も散見できることもあり、一応如上の想定をしておく。

第4群土器（第193～175図）　大木7a式と思われるものを集めた。DE18住居跡他出土のものを指標とする。

第1類　長大な脚部を有する所謂脚付鉢型土器である。第3群のそれとの相違は、この脚部の長さ、鉢体部の膨らみ具合に顕著に現われる。さらに細分できる。

I-a 類　文様帯は口縁部に限定され、肩部・体部には及ばない。口縁部には四分の一周毎目に縦位の貼付文（横位の刻みが附加されたもの）が付されるが、長楕円形区画の名残りのような隆帯で区画される。施文は平行沈線と小波状乃至鋸歯状文の組みあわせが多く、稀に所謂五領ヶ台系とされる三角形の切り込みが加えられるものもある。施文工具は半截竹管も存在するがその比率は減少し、その背の部分（外湾部）を用いるものが多い。体部文様は両端に綾絡を伴う帯状の羽状縄文が特徴的に用いられる。勿論原体は縦位回転がある。口縁部には平縁と波状乃至突起の二種があり、前者の頸部にブリッチ状の把手が付される例もある。①平縁と②波状口縁の両者がある。

I-b 類　口縁部が全体的に肥厚し（とりわけ口縁端部は複合口縁風に顕著に肥厚）、四分の一周毎（突起部下位）に二本一対の縦位の隆帯あるいはブリッチ状把手が付されるもの。地文に縄文が施されその他の施文は行なわれない。なお、隆帯の上端部がの字状の渦文風につくり出されるものや、それと同様のものが内面にもつくり出されるものもある。

第2類　中位に最大径部位をもつ体部と、長めで顕著に外反する口縁部を有する深鉢乃至甕型土器である。従来大木7a式の指標されることの多かった器形である。文様帯は口縁部に限定

され、その下限には隆帯（多くは刻み目、稀に縄文原体側面圧痕）の貼付で明確に区切られる。稀に沈線のみの場合もある。口縁部は四分の一周毎に縦位の隆帯（一本又は二本一対）で区画され、それに横位の刻みが附加される。また湾状の隆帯・円形のそれなどが併用されるものもある。モチーフは沈線による矢羽状・小波状・平行線などが多く、時に刺突文が加えられる。なお、貼付がブリッヂ状の把手化しているものもある。また貼付文が横長の位置に付され、モチーフの中に取り込まれるものもある。

体部文様は原体縦位回転が圧倒的に多く、かつその多くに綾絡文を伴う。これは第1類に共通したところであった。以上は口縁部形状によって三分され、まず2-a 類——大波状乃至突起を有するもの、2-b 類——平縁のものがある。前者の中には突起部内面に渦状の隆線文をつくり出したものもあり、上面観を意識しているとも見える。

2-c 類　口縁部全体が肥厚し（とりわけ端部は複合口縁風になる）、四分の一周毎に縦位の隆帯（1本乃至2本一対）が附加される。施文はかなり乱雑な小波状乃至鋸歯状文が付される程度で、地文のみのままに残されるものもまた多い。体部・口縁部下端に2個一対の貼付文が付されるものもある。第1群C類に共通する要素を多く有するグループである。

第3類　（第　図）平縁で口縁部の巾が狭くかつ体部との境界に明白なカーヴの変換点をもたない深鉢乃至甕型である。体部から口縁部までが直線的となり、全体が外傾する感を与えるものである。多くは口縁部文様帯のみを有し、体部にまで展開するものは稀である。体部文様は無文・帯状の条痕文乃至平行沈線文・縄文（斜縄文・羽状縄文・多くは綾絡を伴う）などからなる。細分する。第3-a 類口縁部文様帯は大略第2類に共通する。文様帯下限の隆帯も同様である。隆帯を欠く場合には沈線を以ってあてている。

なお、口縁部、体部ともに無文で、隆帯のみを有する一例も仮にここに含めた。

第3-b 類　大略 a 類に似るが、口縁部文様帯が a 類ほど発達しないもの、体部に貼付文をもつものなどを区別した。

第4類　口縁部と体部の区別がさらに不明瞭になりより深鉢型的な器形と帯状に肥厚した口縁部を有するものである。四分の一周毎に、上端部がの字状につくり出された縦位の隆帯（刻み目・原体側面圧痕等をもつ）や横長の貼付文が付される。また、隆帯を一条めぐらし、口縁部と体部を区画するものもある。口縁部形状で二大別できる。

第4-a 類　波状口縁や突起を有するもの。

第4-b 類　平縁のもの

第4-c 類　単純な深鉢型を仮にここに含めた。

少くとも以上の a・b 類は第3-b 類・2-c 類・1-c 類に共通するものといえよう。

第5類　複合口縁風に肥厚した口縁部を有し、体部にあまり変化のない深鉢乃至甕型土器である。口縁部は無文にされるのみであり、体部は無文・縄文（斜縄文・羽状縄文・綾絡文）などが施文される。原体縦位回転が多いと思われる。

なお、体部の膨らむ一例も仮にここに含めておく。

第6類　口縁部が外反し、体部中央が若干膨らむ深鉢乃至甕型土器である。地文のみが施される。縦位・横位回転の縄文が多いが、いずれも綾絡文を伴う。

第7類　所謂浅鉢型を集めた。いずれも口縁部が肥厚し、複合口縁風になっている。

7-a 類　体部無文のものである。口縁部に連続した凹部をつくり出す例もある。

7-b 類　口縁部文様帯に隆帯による渦文と、その下限に同様による小波状の隆線を付すもの、第2-a 類のモチーフに共通しよう。

7-c 類　肥厚部の下端に三角形の刻み目風のものを入れ、かつその下位に隆帯一条をまわし、全面に縄文を付すもの。全体の感じが、第4-c 類他に共通する。

第8類　小型の土器を仮に集めた。無文である。数類型あろうが一括した。

第9類　高拓型に近い一例を仮に区分した。無文である。肩部の横長の隆帯は、第2-c 類などに共通するものであろうか。

以上の第1類～9類までを一応大木7a式期の構成要素と見做しておく。ところで丹羽茂氏は、宮城県長根貝塚出土資料その他を用いて、大木7a式期の土器の細分を行った。（註8）それによると、まず長根貝塚を二期に分け、第8・9層出土土器を第Ⅰ段階、第6・7層出土のそれを第Ⅱ段階とした。

さらに氏は宮城県嘉倉貝塚第6地点の土器群を第Ⅱ段階以降の可能性あるものとしてあげた。複合口縁の深鉢で縄文の施文されるものと無文のものの他に、これらと組み合うと推定される、沈線間に三角形の刺突文が交互に加えられたものなどの一群である。

このような大木7a式細分説を参考にして本遺跡の第4群土器を見ると少なくとも二群の若干異なる要素をもつ土器群が内包されることが知られる。それは、従来の大木7a式観に大略合致するものと、やや異なる印象を与えるものの併存といい換えることもできる。前者はさておき、後者を見ると、それらは各類・各器形の中に異なる要素として均等に散在するかのようなあり方をしている。具体的には既にふれた第1-b類・第2-c類・第3-b類・第4類すべて・第7-c類などである。現状では区分しがたいが、第5・6類中にもあるいはそれらが含まれるかもしれない。これらの中には、たとえば第2-c類としたものなどは丹羽氏の第Ⅱ段階のものの一部に極似するものを含む。したがって上記の1-b類～7-c類は、大木7a式の比較的新しい部分に位置する可能性が大きいといえよう。本遺跡ではDG18p. とされた遺構から、この種のもののみが出土しており、時期的に独立しうる可能性を示唆していよう。またDE18住居跡の最終段階もこの種土器が占めている。この遺構にも若干の時間の巾を想定すべきことは別にふれた。

岩手県地方におけるこの種（若干新しい部分）の類例はあまり知らないが、盛岡市大館町遺跡におけるⅢa群3類・Ⅲa群2類・Ⅲa群6類・Ⅲa群7類・Ⅲa群9類の一部には、明らかにそれに該当する例が含まれているといえよう（註10）。また牧田貝塚第6群（註12）・中島

遺跡の第５類（註13）・天神ガ丘遺跡第３群土器第２類（註14）の一部も同様であろう。

以上大木7a式の細分の可能性に若干ふれたところで本群の説明を終える。なお、糠塚式については語る資格を欠くので、丹羽氏の見解に従がっておく（註11）。

第５群土器（第175図） 大木7b式に相当するものである。深鉢乃至甕型４～５種・浅鉢２種などからなる。従来の知見と比較し極端に異なる点はない。

第６群土器（第176図） 大木８式、とりわけ大木8a式に相当するものである。ほぼ従来の知見に合致するが、包含層出土の脚付鉢型的なものの器形・施文技法は、従来ほとんど見られなかったものであり、若干注意すべきであろう。脚部は半截竹管文的な併行沈線（直線・鋸歯状の二種）で４区画される。地文は斜縄文、鉢部は撚糸原体側面圧痕により渦文・斜行文などが描出され、口縁端部は肥厚し、そこに刺突文が付加される。口唇部には６～８ケの凹部が形成され、波状口縁乃至小突起風にされる。今後の類例蓄積の要のある器形であろう。

第７群土器 中期後～末葉のものを集めた。細片であり詳細不明である。

第９群土器 後期の土器を集めたが、上と同様に詳細不明である。

第10群土器（第176図） 晩期土器であり、大洞Ｂ－Ｃ式～ＣＩ式前後までの若干巾のあるものを含む。器種は粗製深鉢・精製浅鉢・台付鉢等が若干見られる。

本調査による出土土器は大略以上の如きものである。主体は第３・４群土器であるのはいうまでもない。なお、所謂円筒土器文化の種々のレベルでの影響はそれほど強いとは思われない。陸帯上への縄文原体側面圧痕や、撚糸原体側面圧痕文、あるいは綾絡文を伴う縄文の盛行などにその影響があるとも考えられるが、決して強力なそれとは見做しがたい、同様のことは石器にも見られた。所謂半円形偏平打製石器（本遺跡の半円形磨石）も決して多くなかったのである。

註１，２ 岩手大学所蔵資料による。

註３． 一関文化財調査報告書第10集 岩手県一関市厳美町 庄司合遺跡発掘調査概要（第二次調査） 一関市教育委員会 昭和52年３月

註４． 岩手県陸前高田市牧田貝塚発掘調査概要 陸前高田市教育委員会 昭和46年３月

註５． 水沢の原始古代遺跡 外浦・中島・鵜木三遺跡調査報告 水沢市教育委員会 昭和46年３月

註６． 盛岡市大館町遺跡発掘調査報告 盛岡市教育委員会 昭和53年３月

註７． 宮城県文化財調査報告書第19集 埋蔵文化財緊急発掘調査概報－長根貝塚－宮城県教育委員会 昭和44年３月

註８． 丹羽 茂 大木式土器 ２中期の土器 縄文化の研究４ 縄文土器Ⅱ 雄山閣出版株式会社 昭和56年

註９． 本沢慎輔氏の教示による。

註10． 註６に同じ

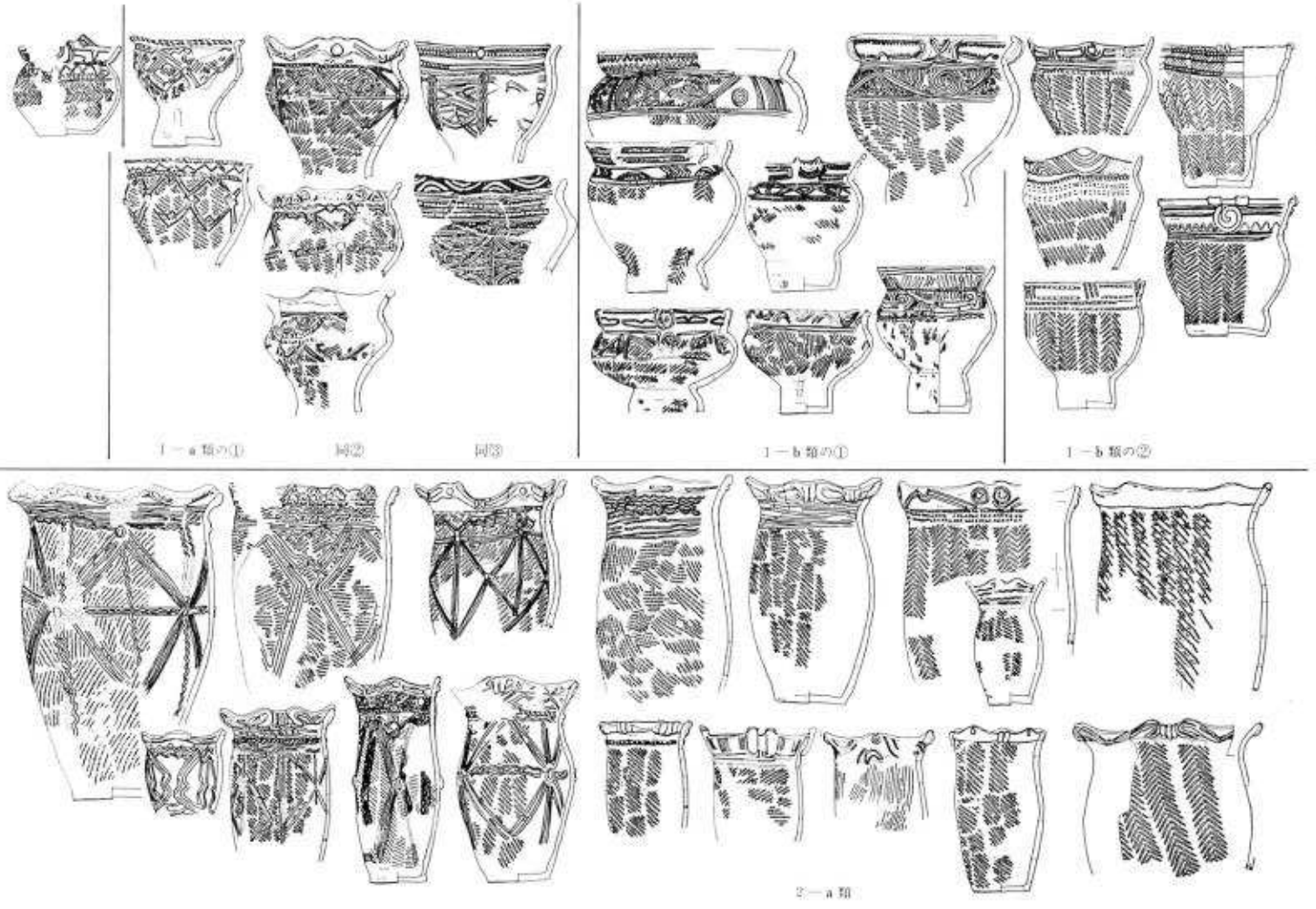
註11．　註8に同じ

註12．　註4に同じ

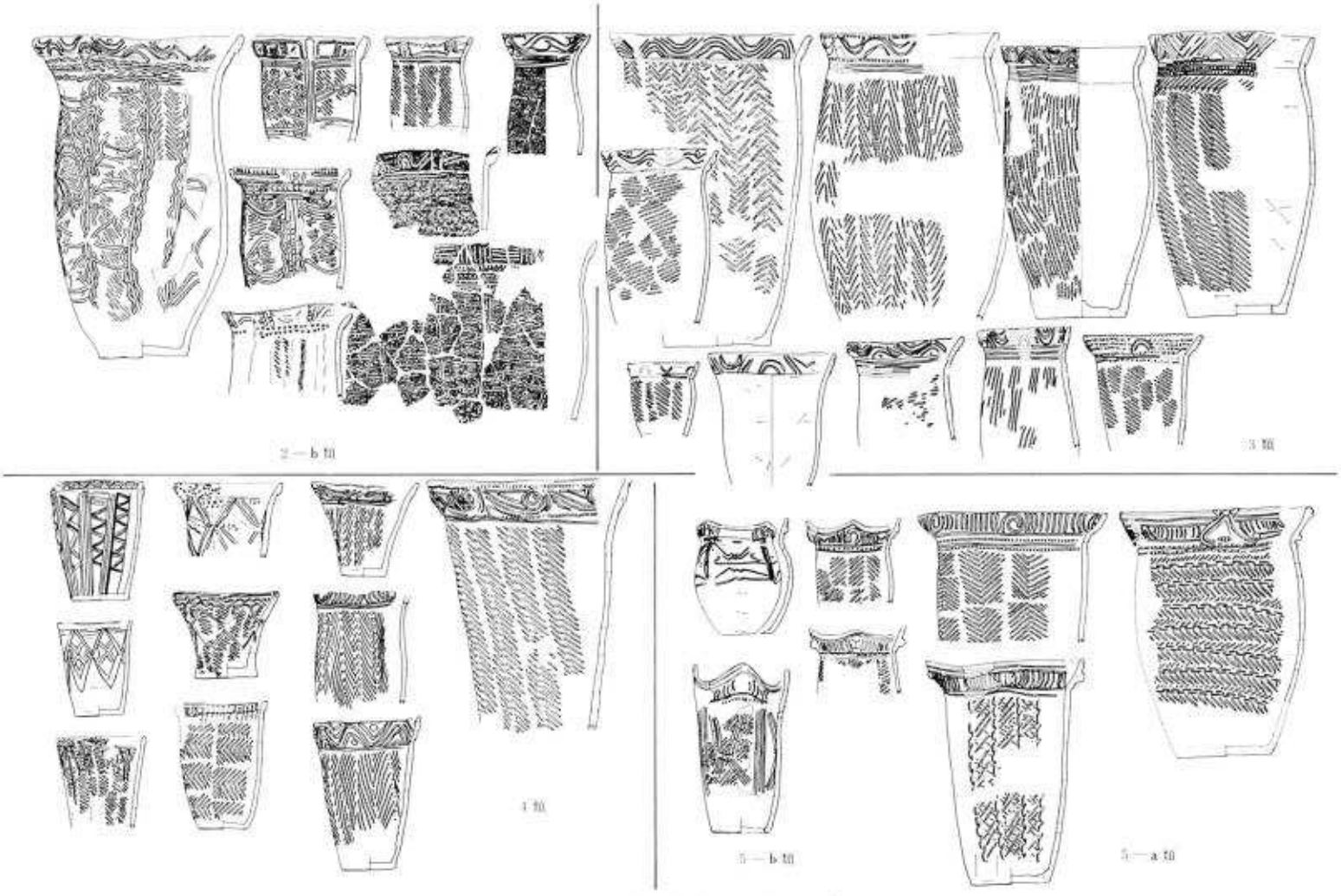
註13．　註5に同じ

註14．　岩手県稗貫郡大迫町天神ガ丘遺跡　大迫町教育委員会　昭和49年3月

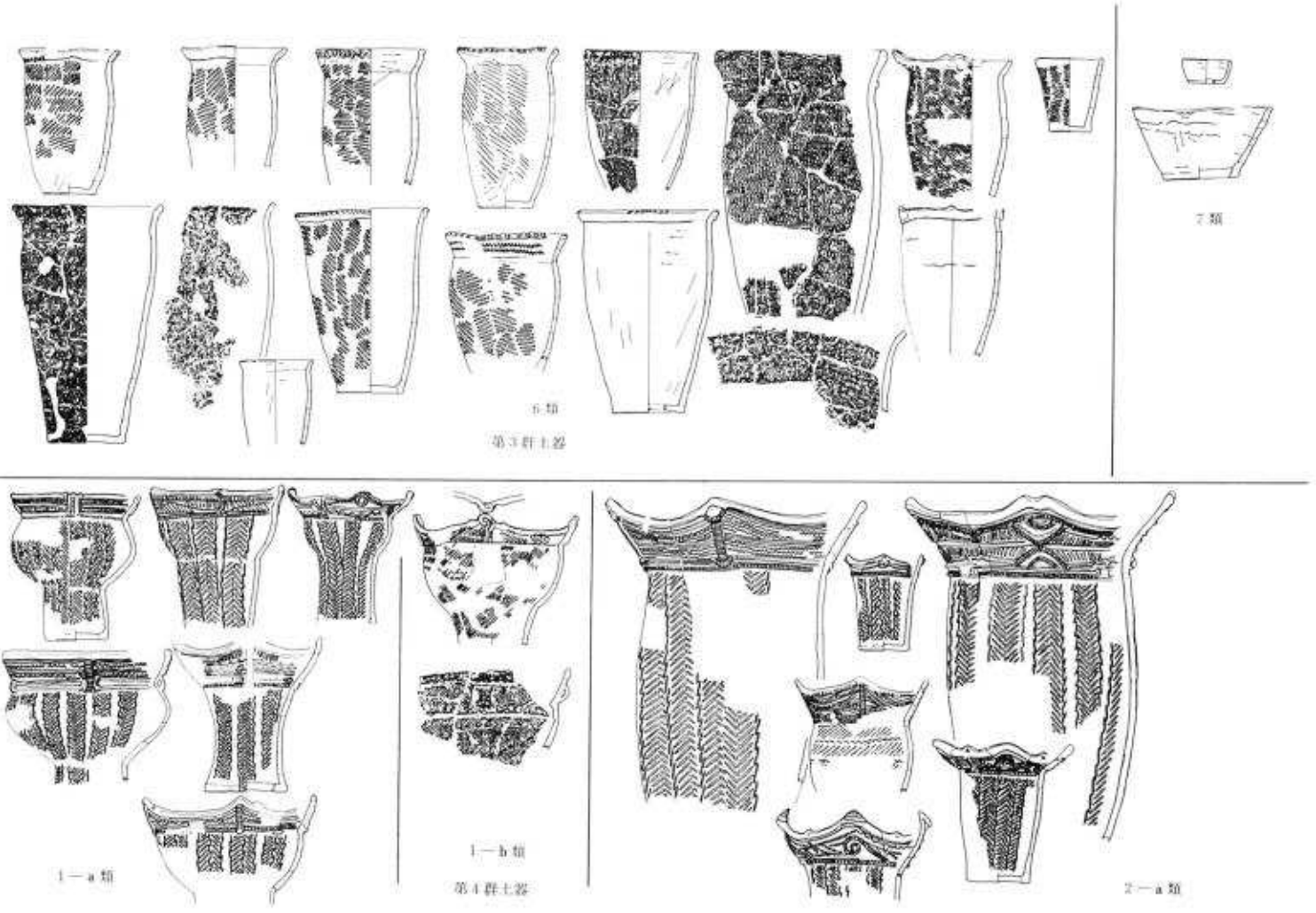
なお、大木7a式の細分は、鈴鹿良一氏から多大の示唆をうけさらに、鈴木優子と相原の討議を経て行ったものである。前記丹羽氏論文とともに両氏に深謝する。



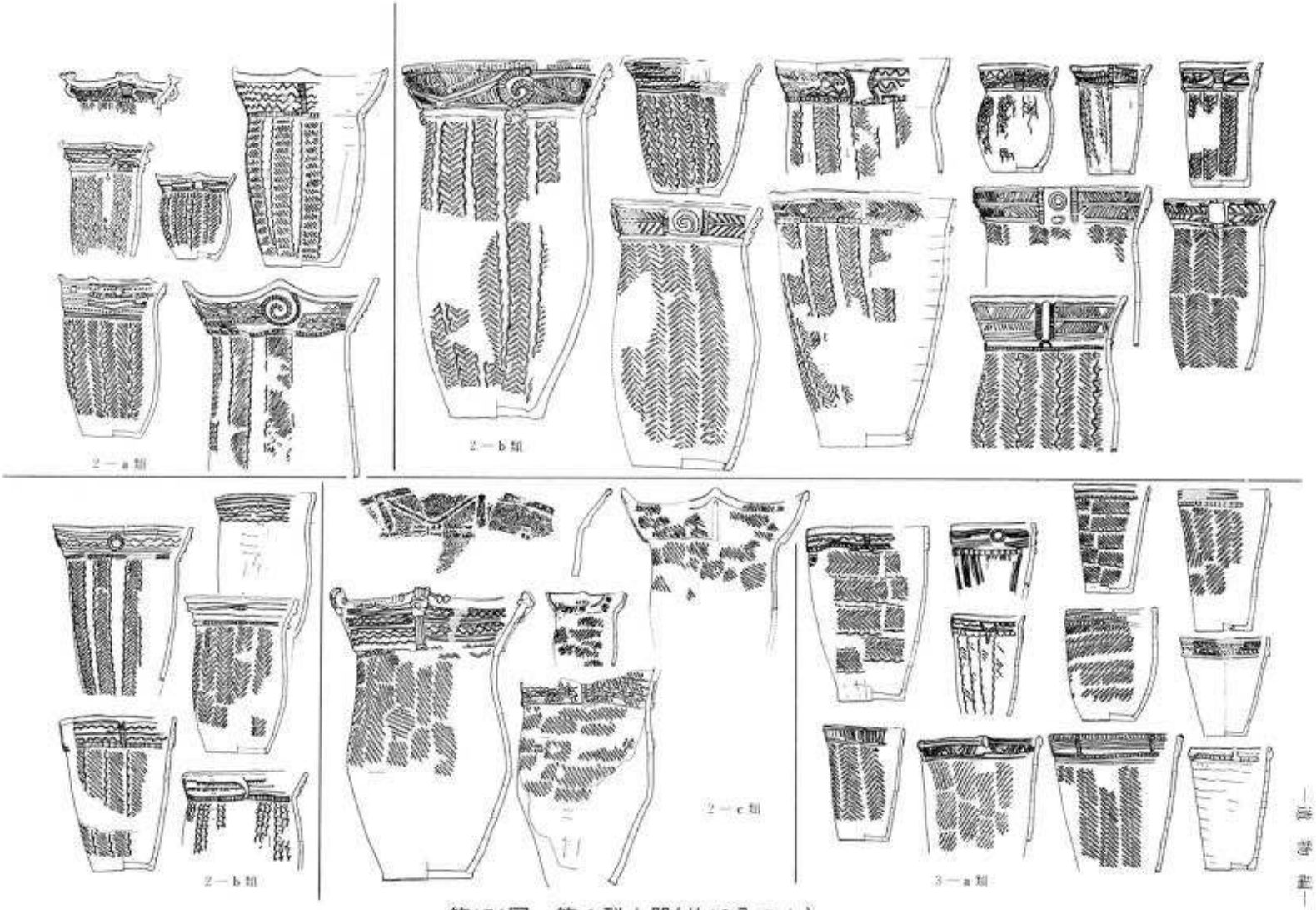
第171図　第3群土器(約12分の1)



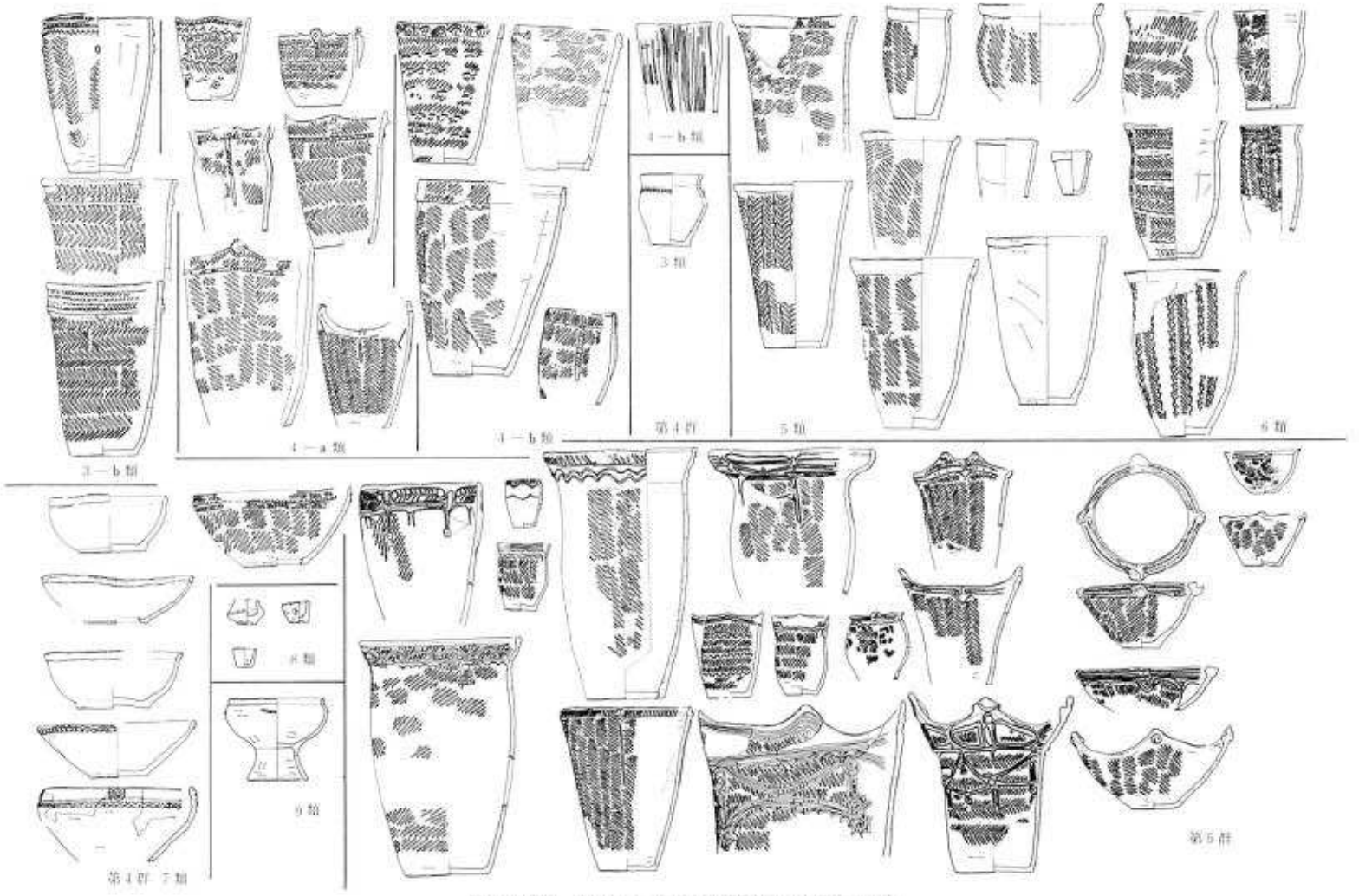
第172図　第３群土器（約12分の１）



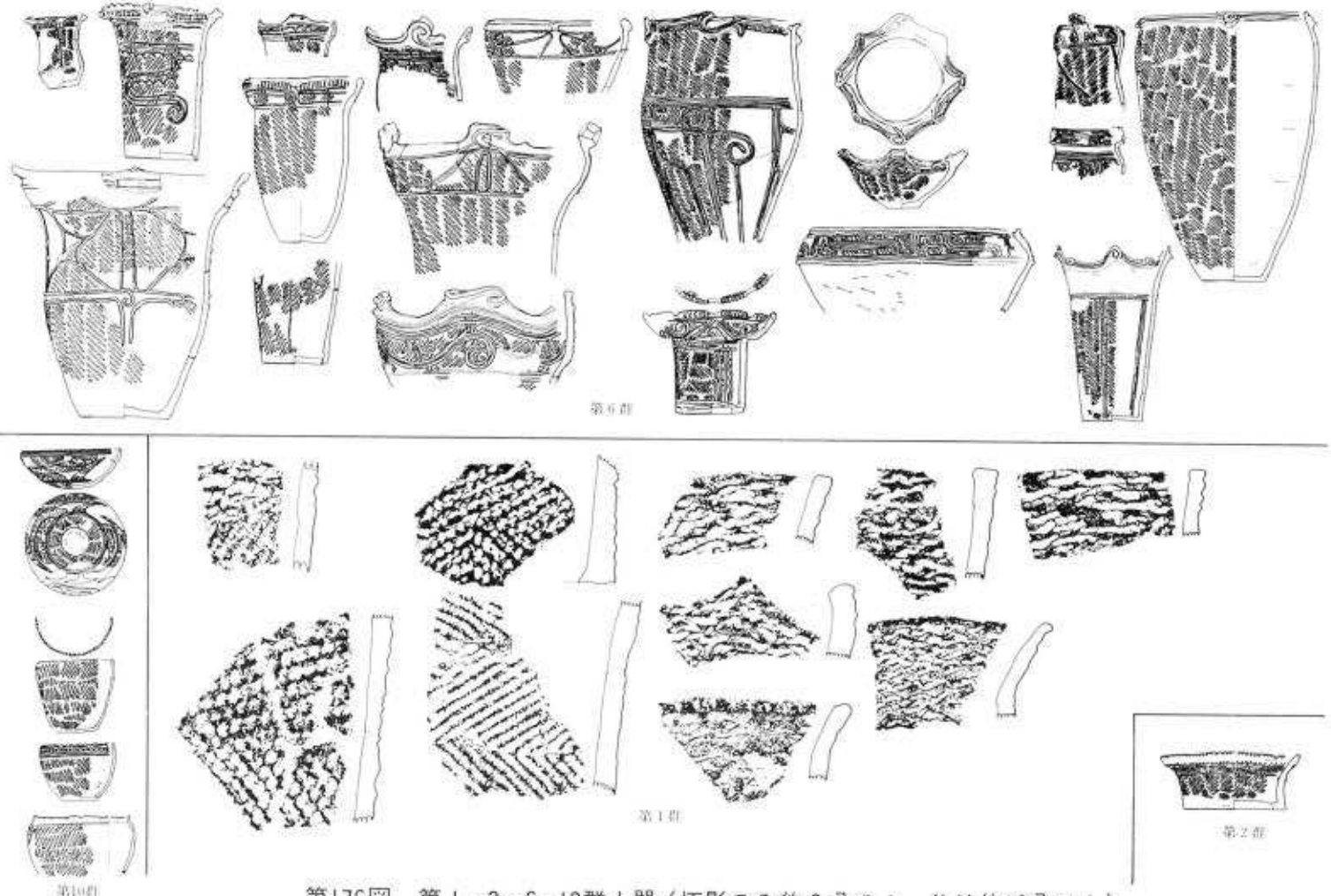
第173図　第3群・4群土器(約12分の1)



第174図　第４群土器（約12分の１）



第175図　第4・5群土器(約12分の1)



第176図　第1・2・6・10群土器（拓影のみ約3分の1、他は約12分の1）

(3) 石　　器

(イ) **縄文時代石器概観—分類基準—**　本遺跡出土の縄文時代の石器は次のように区分した。また遺構出土のものも包含層出土のそれも一括して扱かった。さらに当然ながら出土地点・層位等の明らかなもののみを採用し資料化した。そのうち包含層出土のものの点数を第5—1表に示した。遺構出土のそれは、各遺構の個別説明・表等に記した。

本遺跡で検出された石器類は、原石・石核（母岩)・剥片類と、狭義の石器類からなる。前三者については良好な資料が殆ど無いので説明は割愛する。石材という観点からすると、前三者（素材的性格の）と製品としての狭義の石器間に大きな異同は無く、殆ど重複する。最後者の狭義の石器類は大別すると次のようになる。

①石鏃　②石匙（皮はぎ）　③定形的掻器　④不定形的掻器　⑤使用痕ある剥片　⑥石錐　⑦磨製石斧　⑧打製石斧　⑨両刃石器　⑩片刃石器　⑪敲打石　⑫石錘　⑬磨石　⑭凹み石　⑮断面三角形磨石　⑯半円形打製磨石　⑰石皿　⑱砥石　⑲磨製品　⑳耳飾　㉑垂飾　㉒管玉状製品　㉓球状有孔石製品　㉔円形磨製石製品　㉕断面三角形磨製品　㉖不明破片

これらのうち①～⑱までは直接的労働の場で用いられるものであり、①～⑩までは刃物などの利器的性格が強い。①は刺突具、②～⑤は掻・削・切具、⑥は穿孔具、⑦～⑪は打割・打削堀削具（ただし⑪は粉粋具にも利用可能)、⑫は漁撈を主とする錘り関連、⑬～⑱は粉粋・製粉・研磨具関連などの諸用途が想定されている。⑲以降は用途不明品を含むが、直接的労働の場でというよりは装飾品や所謂信仰的分野で用いられるものが主体をなすこととなる。ただし㉕のみは具体的用途、対象は不明だが、より直接的労働の場で用いられた可能性がある。形態からすると、植物質のものを刈りとるものを想定したくはなる。

以上の用途想定に立った上で各器種の個別説明を行なう。なお既に何度かふれた如くに、本遺構の包含層における遺物の出土状況は、時間差が堆積層序と厳密には対応しないものであった。したがって石器も当然数時期のものが混在する可能性があるが、土器類の圧倒的多数のものが前期末～中期部頭のものであることを敷衍して、該期の石器組成の近似値的様相を示すものと解し、操作した。

註　なお縄文時代の彫刻器についてその存在を認識しようとする試みがあるときいている。これは極めて当然な試みであり、その成果の公表がまたれる。従来使用痕ある剥片などと分類されていたものに含まれることが多いと聞いている。とするならば、石器の総数の変化はあまりなく、その項目数の変化が生じる可能性がある。

(ロ) 各 論

石 鏃 刺突具の主要な部分を占めるものである。なお若干大型のものは槍になる可能性があるが、ここでは一括した。平面形態によって細分しうる。

(a) 所謂無茎式のもののうち、抉り入りのものである。両脚鏃的な脚長のものと、短かいものの両者があるが一括してある。

(b) 同様に無茎式のもので、抉りが入らず、基部辺が平担乃至かすかに内湾気味になる。

(c) 所謂有茎式のものである。

(d) 両端が尖るものであるが、柳葉型とはいいがたい短小・部厚なものが多い。

(e) 基部辺が若干外湾気味になる。

(f) 破片のため形態不明のものを一括した。当然刺突部たる先端部が主体をなす。刺突具等の具体的破損状況（使用の反映）は追求されてよい課題である。

以上のうちのⓐ～ⓔの数量比（完全品主体）を見ておくと、包含層・遺構においてもⓐ・ⓑが主体的に存在し、若干量の(d)・(e)が伴う。(c)は極めて稀である。既ち本遺跡の前期末～中期初頭の石鏃は無茎式主体ということになる。

製作技法の細部にわたる観察は実施しえなかったが、全般的に粗雑な技法である。完全品の一部を対象とし、縦方向の最大長（大きさ）と重量の度数分布を見ると長さは、1.5～3.5cm、重量は0.6～2.7ｇ前後の範囲内におさまるものが主体をなす。それ以上では、長さの変異はあまり大きくないのに対し、重量のばらつきが顕著である。これを素材として選択した岩石の比重の反映であろうか。長さ10.4cm、重量120gのものは槍的な機能を想定した方がよいのであろう。

(a)～(e)の各タイプの分布はほぼ重複しており、各タイプが斉一的に（各タイプの対象間に何らかの対応関係をもたない）用いられたとも考えられる。

石 匙(皮はぎ) もっとも定型性の高い掻・削具と考えられるものである。所謂ⓐ縦型とⓑ横型の２種がある。両者を集計すると次表のとおりである。これによるとⓐ：ⓑ＝52.7：46.8(%) となりほぼ同率で併存するといえる。それは出土状況の異同に関係なくいえる。ただし、包含層においてはⓑの方が多い点は若干異なる。

遺存状況は、ⓐ・ⓑの両者とも70%以上が完全品であり、比較的破損率の低い器種と見ることもできる。アスファルト様のものの付着例は観察できない。

石匙集計表

	縦型		横型		不明	計
	完全品	破損品	完全品	破損品	破損品	
包含層	27	10	39	10		86
遺構	44	18	31	8	1	102
小計	71(71.7)	28(28.3)	70(79.5)	18(20.5)	1	188
計	99(52.7)		88(46.8)		1(0.5)	188

定形的掻器　素材の周縁に成・整形のための加撃を行っているものをこう呼んだ。不定形掻器としたものが、刃部形成（素材の一側縁にのみ）の加撃しか行なわず、その形態が素材そのものに近いのに対し、成・整形的意図が読み取れる点をとらえた故である。形態によって細分可能である。

ⓐ　所謂ノッチ風のものである。一側縁に湾入部をつくり、そこに刃部を形成する。

ⓑ　長楕円形に近い平面形をもち、背面は全面が剝離され、腹面は部分的に剝離される程度のものである。断面形は三角形に近いが、底辺が若干外湾する。

ⓒ　両端が尖り柳葉形の平面形と、菱形に近い断面形をもち、全面に入念な押圧剝離が行なわれる。見ようによっては刺突具（槍）にも見えるが、細破砕痕が尖端部以外に多く見られるので、掻削具の仲間とした。

ⓓ　平面形は二等辺三角形基調で、断面形は三角形基調の、比較的部厚なものである。腹面側への剝離は無く、片面加工である。所謂石鏃の一部に重複しよう。

ⓔ　一端に加撃面を残すもので、平面形が細身で、一端の尖ったものである。断面形は三角形基調で、片面加工が多い。

ⓕ　ⓔと同様に一端に加撃面を残すもので、平面形が巾広になるもの。断面形態は三角形基調だが、底辺が若干張り出すものもある。腹面側の二側縁にも剝離が施される例が多い。

以上のⓐ～ⓔの比率を見ると、6．9：11．8：5．9：39．9：10．3：25.1となり、ⓓ・ⓕ・ⓑ・ⓔが主体的に存在し、ⓐ・ⓒが従的な位置を占めることとなる。しかしⓐのようなものが組成内にきちんと組み込まれている点は留意されるべきであろう。

不定形掻器　剝片の縁辺の一部に刃部を付したもので、素材の形態がその平面形となっている。所謂片刃のものが多いが若干量の両刃のものも混在する。前者に比し後者の刃部厚が厚く、その機能に異同のあることが想像できるが、ここでは一括してある。前者にはより削具的な、後者にはより掻器的な機能を想定できよう。

平面形態には意図的成整法の痕は見られず不定形といいうるが、断面形態や刃部付加位置等には一定の規則性とも見えるものがある。それは刃部の対辺に表皮が残存し、かつ残存部がもっとも厚くなる、というものである。したがって明らかな意図の反映が見えることとなり、不定形と断じきるわけにはいかない。この種石器は今後も検討の要がある。

器種組成の中ではかなり大きな比率を占め、日常労働の中での重要な道具であったと思われる。より実際的・機能的なものであり、使用、製作頻度のいずれもが高かったと思われる。

数量的に多いので、一覧表形式にまとめて示す。

使用痕ある剝片　その縁辺の一部に使用の痕跡（細破砕痕を主とする現象）を留める剝片であり、掻・削具的用途に用いられた可能性を想定したものである。厳密な意味での石器のカテゴリーにはおさまらないが一応組成の一部とした。

組成比率は多くはないが一定の数が存在しており無視しえない。不定形の掻器としたものに

類似するといえよう。この種石器の認定にはかなりの困難さが伴なうが、容観的識別法の確立が急務といえる。その点その組成比率は流動的であるといえる。これも詳細な説明は省略し一覧表で示す。

石錐 穿孔具である。錐部と把手部が明確に分化したものであるらしい。石器組成の中での比率は極めて低く、若干異常と思われる。

磨製石斧・打製石斧・両刃石器・片刃石器 打割・削・掘削具類と思われるものを一括する。磨製石斧以外の点数は少なく、その特徴を指摘できないので説明は省略し、図版・一覧表の提示に留める。ただし両刃・片刃石器としたものの中に石核が混じる可能性は皆無ではない。この種のもっとも実質的な利器は縄文時代石器組成の中に一定の位置を保ち続けたものである。しかし石器としての認定に種々のばらつきが存在したとの指摘もあり、この種石器の正当な位置付けは今後も必要であろう。

磨製石斧は完全品の形で遺存する例は極めて稀で、ほとんどが破損品の形で検出されている。その用途・機能からして当然の結果ではあろう。また破損後に再度刃部を付したり、他へ転用された例も散見される。その素材をほぼ周辺部に求めうるにしては、若干意外な措置とも思われるが、石斧の破損後の転用は通時的に見られた現象である。なお完全品と破損品の比率は、包含層・遺構ともに10%台：80～90%台である。

敲打石 適切な名称とは思わないが、仮にこう呼ぶ。粘板岩質の偏手礫の一長辺に剝離痕（破砕痕）を有し、そこを用いて打割的行為を行なったと想定できるものである。二点とまことに少数であるが独立させておく。

石錘 偏平・円形乃至楕円形基調の礫の周縁の相対する二個所を加撃し、凹部乃至湾入部をつくり出すものである。加撃は相互に異なる方向から行なわれる。完全品を主資料とし、その特徴の一部を以下に記す。まず平面形（素材とそれに対する凹部のあり方）に三種ある。

(A) 素材の礫が楕円形乃至長楕円形基調で、その長軸方向の二側縁（長辺部）に凹部を作る。

(B) Aと同種の素材を用いるが、その短軸方向の二側縁（短辺）に凹部を作り出す。

(C) 円形乃至隅丸楕円形基調の素材の、相対する二側縁に凹部を作り出す。

以上三種の完全品による数量比を見ると、A：B：C＝ 120： 117：62となり、前二者が主体をなす（なおこの数字は出土地点の異同を考慮せず、一括した数量である）。

次に、この三種のタイプ別度数分布（長軸長cm・重量g）を見るとAは長軸長は 4.7～10.6前後の範囲に散在するが、9 cm前後以下のものが主体をなそう。重量は10～ 300g の範囲に分布するが、100g 前後以下と、それ以上 180g 前後までと二種の集中部分があるかのようである。Bについては、長軸長4.0～10.5cmの範囲に分布し、重量は10～300gの範 囲に分布する。長さは5～9 cmの範囲内（より細かく見ると5～8 cm前後の範囲内）に集中し、重量は40～100g内に顕著に集中し、120～180 g の範囲内がそれに次ぐ。以上のA・Bは極めて類似した内容をもつといえる。最後にCを見ると、軸長は4.7～9.9cmの範囲内に分布し、重量は20 g 前後から420

gの間に散在する。集中範囲は、軸長は4.7～7.5cmの間に重量は30～100gと、180g前後の二群が考えられる。

以上の三種を総合すると、軸長は5～7cm前後と、それ以上のものの二種に、重量は20～100g前後と、それ以上の二群にそれぞれ大別可能である。

本類石器のその他の特徴を以下に記すと、まず凹部形成の加撃は、相互に異なる方向から行なわれる。次にその器面に研磨痕を留めるものが存在する。研磨の意図は不明であるが、転用品を含む可能性などを示すものかもしれない。ただし縄文時代の石錘の成形技法中に研磨があることは事実であり、それに関連するとも見做しうる。またその表面に凹み石と同様の小穴を有する例も存在する。これも転用品混在の可能性を示すものであろう。顔料の塗彩例や、アスファルト類の付着例のいずれも検出されていないが、凹部形成例はある（第152図の7・註）。

本類石器の用途・機能が錘とされるについて、何ら異論は無い。

註　盛岡市萪内遺跡出土例にアスファルト類の付着の事実がある。これは連結した紐乃至縄の固定のための措置と考えられている。工藤利幸氏の教示による。

磨　石　卵状・球状・板状の円礫の一部（片面のみと両面の二者がある）に明白な（研）磨痕を有するものである。両輝石安山岩あるいは花崗閃緑岩など、粗雑な素材を用いているが、（研）磨部は極めて平滑で、場合によっては光沢すら有する。いかなるものを対象とした場合にこのような面が結果するかは検討されるべきであろう。詳細な説明は省き一覧表で示す。

断面三角形磨石　従来特殊磨石などと呼称されてきたものである。横断面形態が隅丸方形（あるいは隅丸台形）乃至隅丸三角形をなす長楕円形基調の礫の一側縁（隅丸台形的なものにあっては、その器厚の薄い部分）に（研）磨痕を残す。そこはほぼ完全に平坦面化しており、かなり入念に使用されたことを示している。そこをとらえ、磨石のカテゴリー内におさまる機能・用途を有すると考えている。なお対象は不明である。若干の細分が可能である。

(A)　素材の周縁部のいずれにも剝離痕を留めないもの。(研）磨部に相対する辺は素材の形態そのものである。

(B)　（研）磨部に剝離痕が伴うもの。剝離後に（研）磨作業という工程であろう。剝離は（研）磨部形成のための調整剝離的措置であろうか。その場合は、外湾していたであろう素材の一側縁を直線的なものとする意図であったろう。この(B)の平面形態は別にふれた半円形打製磨石に類似してくる。しかし後者の剝離が全周縁に及ぶのに対し、本類はかなり限定的であることから区別した。また断面形態も異なるものが多い。

以上のA・Bはさらに①完全品、②破損品（半欠品が大部分）の二種の残存状況に分けられ、②はさらに破損部断面への（研）磨痕の有無（㋑それをもつもの）により細分できる。②—㋑なる断面の（研）磨痕は、(研）磨部に近い部分に多く見られる。この種石器は、完全品のみならず、破損品も同様に用いられた可能性がある。

なお、(B)に残在する剝離部が、意図的に形成されたとする解釈の他に、ある労働・行為の

結果として生じたとするものもあり得よう。その場合には、打割・粉砕的な行為→擂・磨・擦的な行為・労働という工程を想定することもできる。あるいは、その両者がほぼ同時的に行なわれうると見てよい。遺物を個別に見ると、上記二者が併存するとも考えられるあり方を示しかなり類似することではあるが、一応区別して記した。

岩手県内を通時的に見ると、早期（蛇王洞Ⅱ式前後）から中期中葉前後まで存続するらしい。その存在が顕著になるのは、前期末～中期初であり、盛行期といえるのは中期であろう。県南部・県北部による地域的差異はあまり無い。

註　早期　蛇王洞Ⅱ式前後　　小堀内　　早稲田Ⅴ類前後　　水沢市駈上

前期末～中初　水沢市中島　　北上市滝ノ沢　　雫石町塩ケ森

中期中葉　紫波町西田　　盛岡市大館

なおタイプ別の出土点数（の一部）を示すと次表のようになる。a・bが同数程度で存在しかつ完全品は少ない。破損部断面にも（研）磨痕をもつものも少数ながらきちんと存在する。

断面三角形磨石集計表

	a — 1	a — 2	a—2—イ	b — 1	b — 2	b—2—イ
包含層	18	50	1	13	47	4
遺構	19	61	6	18	61	6
小計	37	111	7	31	108	10
計	155			149		

半円形磨製磨石　従来半円形打製石器などと呼称されてきたものに類似するが、一側縁に明白な磨痕が残存し、打割具的なものではないことが明らかであるので、やや長い名称ではあるが、如上のものとした。用途は基本的には磨石のカテゴリー内にあると考えている。板状の礫を素材として用い、その　周縁に加撃し、平面形を半円形に整えるか、長楕円形をなす板状礫の長軸方向の両端部を加撃し剝離し、半円形に仕上げる。いずれの場合にも、外湾する側縁の対辺は直線状をなし、そこに剝離痕と(研）磨痕が併存する。剝離の後の研磨　が作業工程であろう。剝離のみでは両刃石器に類似するが、さらに研磨（痕）が加わることから、磨石的用途・機能を想定した。その対象は明らかではない。

残存状況からすると、①完全品、②破損品（半欠品が多い）の二大別が可能で、②はさらに④破損部断面下部（研磨面に近い・連続する部分）にも研磨痕を残すものと、そうでないものに細分できる。これは別にふれている断面三角形磨石にも同様に見られるところである。したがって本類土器と断面三角形磨石の用途とは極めて近似するものであると考えられる。素材の礫の形（一次的な）と、それに対する成・整形作業工程の有無が両者の相異の原因とも考えられる。

なお剝離痕と（研）磨痕の併存の解釈については、断面三角形と同様の、打割的行為と磨・

搗的行為両者への使用の可能性も成立しうる。

この種石器は円筒土器への共伴例が多く指摘されてきたところであり、それは妥当なものである。岩手県内では、北部に濃く、南部に疎に分布することとなっている。通時的には断面三角形磨石とほぼ同様のことがいえよう。平石町塩ケ森遺跡などは、その製作址的な可能性をもつ（註）。ちなみにその一部の集計結果を示しておく。完全品が多い感があるが、大略断面三角形磨石に類似する傾向といえよう。

	1	2	2-f
遺物包含層出土	14	30	2
遺　構　出　土	5	9	1
計	19	39	3

砥　石　両輝石安山岩や熔岩類、粘板岩ホルンフエルス・細粒凝灰岩などの一部に、数条の沈線様のものが存在し、砥石としての機能を想定できるものである。上記のように、素材の性質に粗雑なものと緻密なそれの両様が存在することは、研磨にかけられる対象の異同に対応する、あるいは作業工程の異同に対応するとも考えられ、おそらくはその両者であろう。その形態を意図的に整えたものは無く、素材の形態そのままである。以下に一覧表で示す。

凹み石　卵状・球状の円礫の表面に、単独または複数の凹部・小穴を有する。小穴は片面の場合が多いが、両面にもつ若干例も存在する。また（研）磨痕を留める部分が併存する例も多くあり磨石の転用品も含まれよう。あるいはより積極的に磨石と本類石器の用途は極めて近似していたことの反映と見做すべきなのであろう。同様の凹部は断面三角形磨石や半円形打製磨石の側面にもかなり見られるところでもある。以上のことからここに記した四種の石器の機能・用途が類似していた可能性を想定し、破砕・粉砕・搗具類としたところであった。

詳細な説明は省略し、一覧表で示す。

石　皿　いずれも破片の形でのみ得た。両輝石安山岩などの粗雑な素材を板状に仕上げたものをこう見做した。脚を付したり、穿孔したりした例は皆無である。詳細な説明は省き、一覧表で示す。

磨製品　具体的機能・用途は想定できないが、研磨による仕上げ、成形痕の顕著なものをここに集めた。装飾品類似あるいは信仰関係の遺品でもあるうか。

(ハ) 石器の組成比率について 遺構・包含層出土の石器類のうち、器種を同定しうるもの2815点中の、各器種別の点数を示すと次表のようになる(第5—1表)。参考のため、不明品をも含めた総点数（一部破片も混じる）2824点を基準にした場合と、不明品を除外した2815点を基準にした場合、さらに、より直接的生産活動に関係したと考えられるもの2715点を基準にした場合、の三例を併せ示した。いずれの場合も大差はない。

個別に見ると、掻・削具類は全体では40%以上を示し、組成の大半を占める。その内部では不定形が圧倒的に多く、定形的掻器、石匙の順に後続する。定形性の度合の高いものほど比率が低いとも見えるが、使用痕ある剥片はそれほど多くない。これは石器認定に問題があったことに起因することも考えられ、反省点の一つである。

穿孔具・打割具類の比率は低い。石錘は15%前後を占め、組成中に確固とした位置を保つ。粉砕具類は30%近くを占め、極めて顕著な存在といえる。内部では、断面三角形磨石が主体をなすことが明らかである。磨石・石皿には先の認定上の問題が関係する。これも今後の検討課題・留意点である。それによってはこの種石器の組成比率は変動しうる。装飾品類は4%前後と、少ないながらも確固とした位置を示す。刺突具類は6%前後と、あまり多くはない。

以上のように、本遺跡の石器組成（前期末～中期初のそれと思われる）は、掻・削具類、粉砕具類を主体とし、漁撈具を副次的に伴ない、刺突具・打割具類の影のうすいものであったといえる。

次に若干の類例と比較する。同期の良好な例が得られないので、中期中葉の西田遺跡例と比較しておく。報告は次の前提に立っている。適切な表現であり、その要点を引用しておく。「(前略) 縄文時代(注1)が狩猟、採集、漁撈の経済に拠っているとする通説に一応基き石器類を分類するならば、狩猟に要するものとして石鏃、石槍などの刺突具類、加工用具としての石匕、植物等の採集に要するものとして各種スクレーパー類（又、時には切断具類も含められるか？)、敲く、滑す、磨るなどの加工用具としての石器類、それに伴う石皿等が含められる。又漁撈用具としての銛・浮子、石錘などが挙げられる。この点に注目して石器の出土頻度を見るならば次の点が指摘される。

○1類に総括した刺突具類が極端に低頻度を示すこと（中略)。石槍に到っては僅か1点のみの出土であった。

○3・4・5類の刃器類は出土量が多量とは言えないが、おのおの形態や刃部の在り方に差異をもち、用途のバラエティさを窺わせる。

○（中略）10類石器の占めるパーセンテイジの高さが注目される。10類石器は磨るという機能のみの石器とそれに伴って敲く、滑すという機能を合せ持つものとが見られ、前者が多い。いずれ植物等の加工用具と目される石器類が最も多用された石器類であることを示している(中略)。

○少数ではあるが石錘が出土した。

以上を総括して「石器類は各種出土しているが、それらの分類によれば、ここに居住する人

々の主たる生業として植物採集が挙げられた。狩猟具具の僅少さは特異であったが、この遺跡が墓域を有する特殊性から、集落跡とは分離する狩猟の場を予想させた（後略）。」

と結んだ。即ち、植物採集の加工用具と思われる敲打、擦り潰し具が多数出土する傾向の指摘であり、本遺跡に共通する。スクレーパー類（本遺跡の掻・削具類）があまり多くないのは相違点であるが、これは遺跡の性格、出土遺構の相違等の反映、あるいは認定上の若干の問題点の反映の結果の可能性がある。

同じく中期中葉の大地渡遺跡も大略類似する。刺突8.8%、掻削具57.3%、磨・擦・具29.0%が主体をなしている。刺突具類[註2]の僅少さは共通しよう。

以上のように本遺跡における石器組成は、大略中期のそれの傾向に一致するものと見做して大過なかろう。植物質食料の処理・加工用具の比率が高い点は縄文時代における植物質食料料の占める比率の高さの指摘[註3]を考慮しても、なおかつ時期的特徴と見做しうるものであり、それはひいては貯蔵穴の多数存在、大型住居の存在とも符合するとも見做しうるものであろう。短絡的結合のそしりを覚悟の上で指摘しておく。なお石錘の存在の意義については未だ解釈を下さないでおく。時期的特徴・地域的特徴のいずれか[註4]の確認など、果たされるべき作業をまずふまえるべきであろう。和賀川流域の前期末～中期初の遺跡では石錘の検出例が多い。[註5・6]

註1　西田遺跡、岩手県文化財調査報告書第51集　東北新幹線関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅶ－岩手県教育委員会・日本国有鉄道盛岡工事局　昭和55年3月。

註2　大地渡遺跡、同　第56集、東北縦貫自動車関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅷ－（石鳥谷・花巻地区）岩手県教育委員会・日本道路公団、昭和56年3月、所収

註3　鈴木公雄、2、縄文時代論、日本考古学を学ぶ、(3)原始・古代の社会、有斐閣選書有斐閣　昭和55年所収

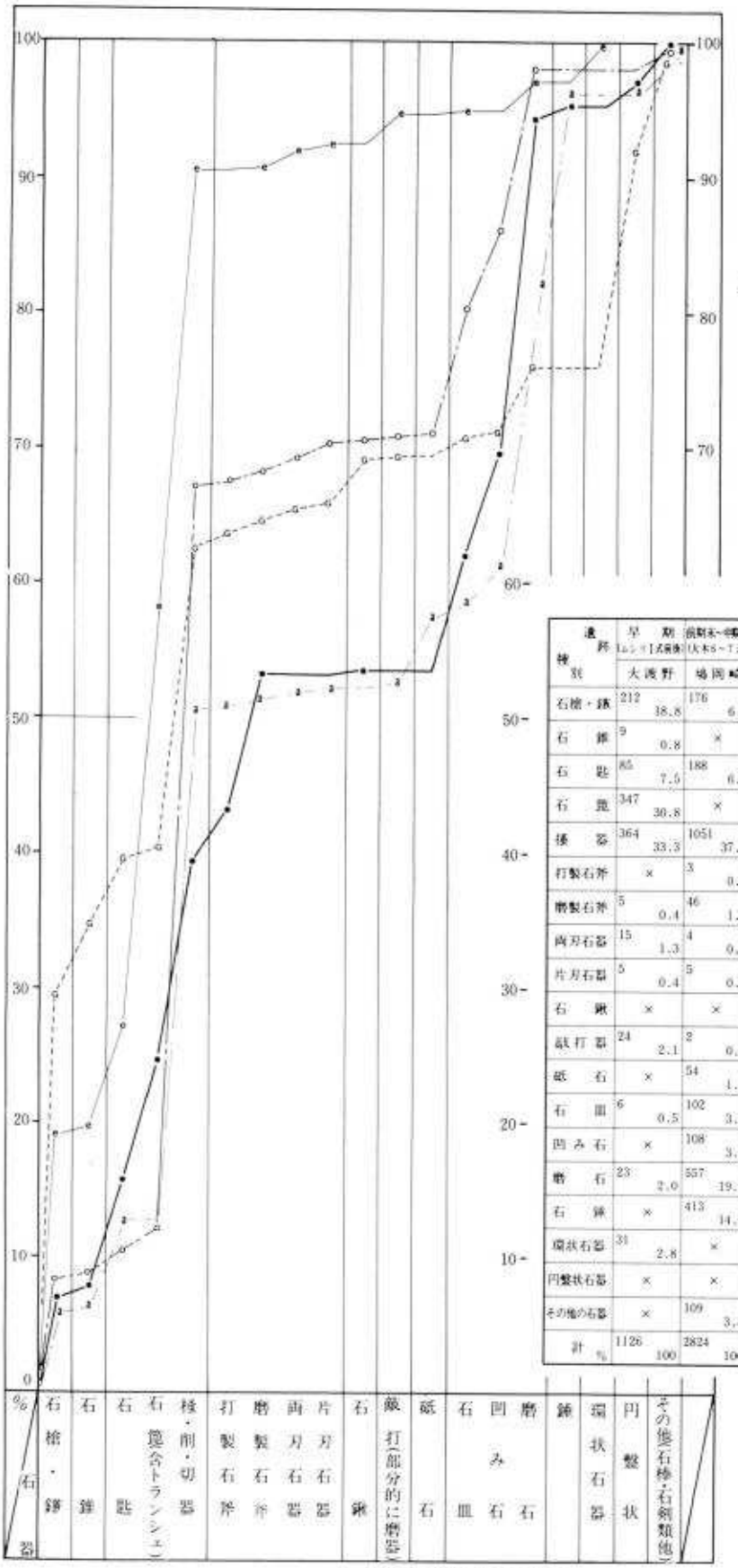
註4　なお晩期には刺突具類の比率が増すことも知られている。
東裏遺跡、岩手県文化財調査報告書第55集、東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅵ－　岩手県教育委員会、日本道路公団、昭和55年3月

註5　北上市滝ノ沢遺跡、江釣子村新平遺跡などが該当する。石錘についての渡辺誠氏の見解（編布作成時の錘説）は岩手県においても検討されるべきであろうが、今後にゆずった。
渡辺誠　編物用錘具としての自然石の研究　名古屋大学文学部研究論集LXXX　1981．3．所収

註6　参考例として第5－2表のような時期別組成グラフを示しておく。早期については次によった。
大渡野遺跡、岩手県文化財調査報告書第32集　東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅱ－　岩手県教育委員会・日本道路公団　昭和54年3月　所収

5—1表

器種		点数	比率 (1)	比率 (2)	比率 (3)
刺突	石鏃	176	6.2	6.3	6.5
掻・削具	石匙	188	6.7	6.7	6.9
	定形的掻器	245	8.7	8.7	9.0
	不定形 〃	702	24.9	24.9	25.9
	使用痕ある剥片	104	3.7	3.7	3.8
	小計	1239	43.7	44.0	45.6
穿孔	石錐	6	0.2	0.2	0.2
打割具	磨製石斧	46	1.6	1.6	1.7
	打製 〃	3	0.1	0.1	0.1
	両刃石器	4	0.1	0.1	0.1
	版刃 〃	5	0.2	0.2	0.2
	敲打器	2	0.1	0.1	0.1
	小計	60	2.1	2.1	2.2
漁撈	石錘	413	14.6	14.7	15.2
磨・擦・敲・具	磨石	178	6.3	6.3	6.6
	凹み石	108	3.8	3.8	4.0
	断面三角形磨石	312	11.0	11.1	11.5
	半円形 〃	67	2.4	2.4	2.5
	石皿	102	3.6	3.6	3.8
	砥石	54	1.9	1.9	2.0
	小計	821	29.1	29.2	30.2
その他	磨製品	66	2.3	2.3	計 2715
	耳飾	11	0.4	0.4	
	垂飾	16	0.6	0.6	
	管玉状石製品	2	0.1	0.1	
	球状有孔 〃	2	0.1	0.1	
	円形磨製 〃	1	0.04	0.04	
	断面三角形 〃	2	0.1	0.1	
	小計	100	3.5	3.6	
	不明（破片）	9	0.3	計 2815	
	総計	2824	計 2824		



第5－2表
石器組成類例

※凡例
- 大渡野
- 西田
- 大地渡
- 東裏
- 鳩岡崎

遺跡 / 種別	早期 (ムシリ[式前後) 大渡野	前期末～中期初 (大木8～7a) 鳩岡崎	中期 (大木8a式前後) 西田	中期 (大木8b式前後) 大地渡	晩期 (大洞C1式前後) 東裏
石槍・鏃	212 18.8	176 6.2	23 6.9	70 8.4	402 28.9
石錐	9 0.8	×	3 0.9	4 0.5	84 6.0
石匙	85 7.5	188 6.7	27 8.1	13 1.6	57 4.1
石篦	347 30.8	×	28 8.4	13 1.6	15 1.1
掻器	364 33.3	1051 37.0	51 15.3	457 55.0	311 22.4
打製石斧	×	3 0.1	12 3.6	3 0.4	9 0.6
磨製石斧	5 0.4	46 1.6	33 9.9	6 0.7	16 1.2
両刃石器	15 1.3	4 0.1	×	9 1.1	16 1.2
片刃石器	5 0.4	5 0.2	×	7 0.8	14 1.0
石鍬	×	×	1 0.3	2 0.2	33 2.4
敲打器	24 2.1	2 0.1	×	3 0.4	×
砥石	×	54 1.9	29 8.7	5 0.6	×
石皿	6 0.5	102 3.6		64 7.7	28 2.0
凹み石	×	108 3.8	25 7.5	60 7.2	8 0.6
磨石	23 2.0	557 19.7	84 25.2	107 12.9	67 4.8
石鍾	×	413 14.6	2 0.6	×	×
環状石器	31 2.8	×	×	×	×
円盤状石器	×	×	6 1.8	×	231 16.6
その他の石器	×	109 3.8	9 2.7	34 4.1	45 3.2
計 %	1126 100	2824 100	333 99.9	831 10.3	1391 100

石器組成例集積グラフ

5－3表

石材名	産出地	石材名	産出地	石材名	産出地	石材名	産出地
凝灰質粗粒砂岩	奥羽山地—中新統	硬質細粒泥岩	奥羽山地か夏油—古生界	緑色角礫岩	奥羽山地—中新統	珪質石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
凝灰質細粒砂岩	〃—〃	硬質極細粒泥岩	奥羽山地—中新統	粗粒砂角礫岩	〃—〃	花崗閃緑岩質凝灰岩	〃—〃
凝灰質砂岩	〃—〃	ホルンフェルス質極細粒泥岩	夏油川—古生界	細砂質凝灰岩	〃—〃	泥質珪質凝灰岩	〃—〃
流紋岩質凝灰質砂岩	〃—〃	ホルンフェルス質泥岩	夏油—〃	緑色砂質凝灰岩	〃—〃	流紋岩質珪質凝灰岩	〃—〃
硬砂岩	北上山地—古生界	石質泥岩	奥羽山地—中新統	流紋岩質細粒凝灰岩	〃—〃	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地—古生界
千枚岩	和賀仙人附近—〃	泥岩	夏油川か和賀仙人附近—古生界	細粒凝灰岩	〃—〃	滑石	宮守村(?)—〃
粒板岩	夏油—〃	両輝石安山岩	奥羽山地—〃	淡緑色細粒凝灰岩	〃—〃	石英	?
〃	北上山地—〃	〃	焼石岳火山群第四紀	石質細粒凝灰岩	〃—〃	角閃玲岩	北上山地(?)奥羽山地(?)—中世代
チャート質粘板岩	〃—〃	〃	奥羽山地東縁—鮮新統	淡緑色石質細粒凝灰岩	〃—〃	黒雲母岩	北上山地か和賀仙人附近—古生界
砂質粘板岩	〃—〃	塔岩極細粒両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀	硬質細粒凝灰岩	〃—〃	こはく	六原層灰地南の台地—鮮新統
粘板岩ホルンフェルス	夏油—〃	輝石安山岩	奥羽山地—中新統	流紋岩質凝灰岩	〃—	水晶	奥羽山地(?)
石灰質粘板岩	和賀仙人附近—〃	珪質輝石安山岩	〃—鮮新統	緑色凝灰岩	〃—〃	黒曜岩	奥羽山地東縁—鮮新統
ホルンフェルス質細粒粘板岩	夏油—〃	玻璃質安山岩	〃—中新統	プロピライト	〃—〃	玉髄	奥羽山地—中新統
凝灰質粘板岩	和賀仙人附近—〃	石英安山岩	〃—〃	淡緑色凝灰岩	〃—〃	蛋白石	〃—〃
硬質泥岩	夏油—〃	玻璃質安山岩	〃—〃	濃緑色凝灰岩	〃—〃	松脂岩	〃—〃
〃	奥羽山地—中新統	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代	プロピライト質凝灰岩	〃—		
凝灰質硬質泥岩	〃—〃	流紋岩	奥羽山地—中新統	石質凝灰岩	〃—〃		
珪質泥岩	〃—〃	玻璃質流紋岩(鉄石英)	〃—〃	緑色石質凝灰岩	〃—〃		
泥質珪質泥岩	〃—〃	斜長石流紋岩	〃—〃	硬質泥質凝灰岩	〃—〃		
珪質石質凝灰質泥岩	〃—〃	蛇紋岩	北上山地—古生界	石質泥質凝灰岩	〃—〃		
珪質凝灰質泥岩	〃—〃	緑泥片岩	胆沢川上流か和賀仙人—〃	珪質泥質凝灰岩	〃—〃		
硬質凝灰質泥岩	〃—〃	半花崗岩	夏油川上流・和賀仙人・北上山地—中新	泥質凝灰岩	〃—〃		
石質極細粒凝灰質泥岩	〃—〃	粗粒砂角礫凝灰岩	奥羽山地—〃	石質極細粒凝灰岩	〃—〃		
石質凝灰質泥岩	〃—〃	流紋岩質角礫凝灰岩	奥羽山地東縁—〃	流紋岩質極細粒凝灰岩	〃—〃		
砂質凝灰質泥岩	〃—〃	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—〃	珪質極細粒凝灰岩	〃—〃		
角門石極細粒泥岩	夏油川—古生界	淡緑色角礫凝灰岩	〃—〃	泥質極細粒凝灰岩	〃—〃		

(二) 石器の材質について、佐藤二郎氏によると本遺跡出土の石器類の材質は第5—3表のようになる（石核類・原石類もほぼ製品と重複するので、独立項目としては扱かわなかった)。大半は奥羽山地にその供給源を求めうるものが占めるが、若干の北上山地産のものがある。それは砂砂岩・粘板岩の一部分・蛇紋岩・半花崗岩・輝緑凝灰岩質チャート・滑石・角閃玲岩・黒雲母岩などである。この事実は、奥羽山地起源のものの中に、両輝石安山岩の一部・花崗閃緑岩の一部・こはくなどのように、若干遠隔の地に産地を想定しうるものを含むことを勘案すると、縄文時代前期末～中期初を主体とする時期に、石器材料の移動があったことを想定せしめるに十分である。その背景の具体相の解明は今後の課題であるが、基礎的事実の一つとして提示しておく。

㈱、石器器種と石材の関係について、佐藤二郎氏の同定による石材と器種の対応関係を示すと第5—4表のようになる。これについて簡単に見ておく。石鏃は⑬～⑮・⑰・㊺への集中が顕著であるが、⑥・⑦・⑨の粘板岩質のものも存在するのが注意される。石匙はほぼ石鏃の傾向に重複するが、㊲の「集中」にも注意したい。定形的掻器～使用痕ある剥片まではほぼ同傾向を有し、⑥・⑨・⑬～⑮・⑰～⑲・㉖・㊱・㊲・㊿・㊸・㊺・㊼・㊼などが多用されている。石錐は量的に少ないが、鏃以下の傾向の延長下にあると見てよい。磨製石斧は⑥・㉗・㊹・㊺などが多い。ここでも⑥・⑨等の粘板岩質のものの存在は若干意外とも思える。打製石斧～片刃石器も類例が少ないので詳細不明としておく。敲打器としたものは⑥のみである。石錘には顕著な傾向がある。㉘・㉚・㉝～㉟・㊹・㊼・㊽・㊿・㊹～㊾などへ集中し、とくに㉘・㊹・㊾などへが目立つといえる。磨石～砥石までは共通した傾向を示し、それは石錘にも共通する。ただし粘板岩質のものも加わり、⑥・⑨・㉘・㉚・㉝・㉟・㊱・㊹・㊼・㊽・㊿・㊸～㊽・㊺などが多用されている。磨製品は⑤・⑥・㉘・㊿・㊹・㊾などが多用されているが、性質が粗なものと密なものの相反する二者が併用されている点に注意したい。耳飾りは⑦・㊽・㊶・㊷が選択されるが㊷への集中が特徴的であろう。垂飾りとしたものは同様に⑦への集中が顕著であるが、⑦・㊽・㊿・㊸・㊹も若干量が用いられる。管玉状のものは⑦のみである。これ以下の器種は類例が少なく、明確な傾向性の指摘はできないが、不明とした破片の中には、その石材から類推して器種を想定しうるものを含むとも考えられる。以上をまとめると、刺突・掻・削・切具関連の器種は泥岩・流紋岩・各種の凝灰岩と若干量の結晶質のもの、良質な粘板岩系統のものを重点的に選択・採用し、磨石・砥石までの粉粋・搗・擦具関連のものは両輝石安山岩を中心とする安山岩類・花崗閃緑岩・角礫凝灰岩他の粗な凝灰岩類を選択する傾向を明らかにもつといえよう。前者の中でも磨製石斧等の製作技法が異なるものは、他とは明白に異なる材を選択している。以上のように即にいくつかの報文中でふれられているものと同様の、器種による石材の選択の明確な意図（縄文人の）の一端が表出しているものとしておく。

番号	石器種別 ＼ 石材	鏃	匙	定形的掻器	不定形掻器	使用痕ある剝片	錐	磨製石斧	打製石斧	両刃石器	片刃石器	敲打器	石錘	磨石	凹み石	断面三角形磨石	半円形磨石	石皿	砥石	磨製品	耳飾	垂飾	管玉状	球状有孔石製品	円形磨製石製品	断面三角形磨製品	不明（破片）
①	凝灰質粗粒砂岩												3	②												
②	凝灰質細粒砂岩	1			1																					
③	凝灰質砂岩																		1							
④	硬砂岩							①								1	1④									
⑤	千枚岩													②						③						
⑥	粘板岩	⑧	2④	10㉑	3⑯	④		4③			1①	2		①		2②	3⑨		1	6⑥							2
⑦	チャート質粘板岩	①	①		1																1	1				
⑧	砂質粘板岩																									1
⑨	粘板岩ホルンフェルス	③		5⑫	③	②		1②	②		①		②			5⑧	⑤		1①	①							
⑪	石灰質粘板岩																①									
⑫	ホルンフェルス質細粒粘板岩																1									
⑫	凝灰質粘板岩							①									①			②						
⑬	硬質泥岩	15㊶	19㉑	㉕	98⑫	㊷							1			1				1①						
⑭	凝灰質硬質泥岩	5③	11⑤	7⑦	27⑱	⑥							①													
⑮	珪質泥岩	10②	18⑧	13⑨	34㉖	①														2						
⑯	泥質珪質泥岩	2	1	1	1																					
⑰	硬質凝灰質泥岩	15⑫	18⑫	14㉒	48㊷	⑲	1																			
⑱	石質極細粒凝灰質泥岩			⑥	㉕	④																				
⑲	石質凝灰質泥岩			①	3⑬															②						
⑳	砂質凝灰質泥岩			1																						
⑳	角閃石極細粒泥岩															1										
㉒	硬質細粒泥岩			1																						
㉓	硬質極細粒泥岩	1	4	1	3																					
㉔	ホルンフェルス質極細粒泥岩	1		1																						
㉕	ホルンフェルス質泥岩			2	1												1									
㉖	石質泥岩	1①	1	25	2①								①													
㉗	泥岩			4	1			4								1				1						
㉘	両輝石安山岩			②	2			①					26⑰	35㊲	19㊲	52㊵	3⑧	37㊼	12⑨	⑰						
㉙	塩基極細粒両輝石安山岩													2	2			1	3							
㉚	輝石安山岩												5⑪	1	1②	1③										
㉛	珪質輝石安山岩			1	1																					
㉜	玻璃質輝石安山岩														1	1		1		3						
㉝	石英安山岩				1								2②	②	③	①		⑨								
㉞	玻璃質安山岩												7			2	1									
㉟	花崗閃緑岩							①					6	10⑧	3④	10④		2								
㊱	流紋岩	①	①	③	1②					①				①	①	4③		①								
㊲	玻璃質流文岩(鉄石英)	1①	8⑫	1③	3⑨	③													1							
㊳	斜長石流紋岩			①	①																					
㊴	蛇紋岩				1																					
㊵	緑泥片岩												①①													
㊶	半花崗岩												①													
㊷	粗粒砂角礫凝灰岩																									
㊸	流紋岩質角礫凝灰岩																	1								
㊹	プロピライト質角礫凝灰岩												⑪	①	③	⑤	2									
㊺	淡緑色角礫凝灰岩																									
㊻	細砂質凝灰岩																								2	
㊼	緑色砂質凝灰岩												⑨			②										
㊽	流紋岩質細粒凝灰岩	5		4	4								③		①	①	②			1	2	3		1		
㊾	淡緑色細粒凝灰岩		4	①	②			①									①			①				1		
㊿	石質細粒凝灰岩	③	①	2④	13㉑	⑤	①	①		1	①		14⑧	3	1①	3①	1		2①	4①		1				1
(51)	淡緑色石質細粒凝灰岩							2													1					
(52)	硬質細粒凝灰岩				①								2													
(53)	流紋岩質凝灰岩												4①	2①	1①	2		①	2			1				
(54)	緑色凝灰岩					1		6②					65㊾	9⑤	10④	38⑮	2②	1③	2①	2④		1				
(55)	プロピライト							①					12⑥	2①	2②	14⑰	1③	1								
(56)	淡緑色凝灰岩				①	①		①					⑪	1		⑥	①	1					1			
(57)	濃緑色凝灰岩							1②					⑤	①	①	1㉓	1⑤		①							
(58)	プロピライト質凝灰岩				1			①					16⑪	6①	8	32④	2⑤	2①	1	①						
(59)	石質凝灰岩	1	1①	1	2②	②				1			26⑤						3①	4②						
(60)	緑色石質凝灰岩							2																		
(61)	硬質泥質凝灰岩	2	1	4	20		1							1												
(62)	石質泥質凝灰岩				1																					
(63)	珪質泥質凝灰岩	1①	1	1①	7⑬	④																				
(64)	泥質凝灰岩		1																							
(65)	石質極細粒凝灰岩	5㉓	2⑦	3⑯	11③	⑥	①	8	1				2		⑲			1	①							
(66)	流紋岩質極細粒凝灰岩	1			4								1													
(67)	珪質極細粒凝灰岩	1②	5③	2④	8⑧	①	2						1	1		1			①							
(68)	花崗閃緑岩質凝灰岩															1										
(69)	泥質珪質凝灰岩		2																							
(70)	流紋岩質珪質凝灰岩	1	2																							
(71)	輝緑凝灰岩質チャート		①											①												
(72)	滑石																			1	7	9	2			1
(73)	水晶																									1
(74)	こはく																									3
(75)	黒曜岩	①	1①																							
(76)	玉髄		1②		①	③								①	①											
(77)	蛋白石				1																					
(78)	松脂岩				②																					
(79)	角閃岩															1										
(80)	黒雲母岩															1①										
(81)	緑色角礫岩																	1								
(82)	粗粒砂角礫岩																		1							
(83)	流紋岩質凝灰質砂岩													①												
(84)	細粒凝灰岩											①					①									
(85)	泥質極細粒凝灰岩		①		⑤	①																				
(86)	珪質石質凝灰質泥岩	②																								
(87)	珪質凝灰質泥岩	①	②	③	⑧	⑥																				
(88)	珪質石質極細粒凝灰岩	①	②		⑦	②																				
(89)	石英													①												
	計	176	188	245	702	104	6	46	3	4	5	2	413	178	108	312	67	102	54	66	11	16	2	2	1	2	9

2815 2824

5—4表　○を付したものは、包含層出土数、そうでないものは遺構出土である。

C I 21住居跡

登録番号	出土地点	出土層位	分類	残存状況 完全	破損	最大値(cm) たて	よこ	あつさ	重量(g)	付着物他	備考(材質)
1	C I 2 1	ベルト中	石鏃a	○		4.4	2	0.6	3.1	凝灰岩硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	〃	ベルト中	〃b	○		4	2.2	0.8	5.7	流紋岩珪質凝灰岩	〃 — 〃
											—
3	〃		不定形			4.9	4.1	1.9	29	珪質泥岩	〃 — 〃
4	〃	貼床部分	〃			3.6	2.5	0.7	6.3	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
5	〃		〃			4.2	2.7	0.9	8	凝灰岩質硬質泥岩	〃 — 〃
6	〃	床面直上	〃			5.1	2.2	0.4	5.1	珪質泥岩	〃 — 〃
7	〃	床面直上	〃			8	4.4	1.2	30	珪質泥岩	〃 — 〃
8	〃		〃			5.8	4.6	0.6	19	凝灰岩質硬質泥岩	〃 — 〃
9	〃	No.2	〃			6.4	7.6	1.2	40	硬質泥岩	〃 — 〃
10	〃	埋土内	〃			4.4	4.2	0.5	11.2	凝灰岩質硬質泥岩	〃 — 〃
11	〃		〃			8.1	5.1	1.4	50	硬質泥岩	〃 — 〃
12	〃	Ⅱ	〃			6.9	5.2	0.9	30	凝灰岩質硬質泥岩	〃 — 〃
											—
13	〃	ベルト中	石錐B	○		6.3	5.3	2	180	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
14	〃		〃A	○		6.6	4.6	1.2	50	緑色凝灰岩	〃 — 〃
15	〃	床面直上	〃B	○		6.6	5.2	1.8	90	〃	〃 — 〃
16	〃		〃A	○		5.4	4.4	1.7	50	〃	〃 — 〃
17	〃		〃B	○		7	6.6	1.7	90	〃	〃 — 〃
18	〃		〃A	○		7.6	6.9	1.6	130	プロピロライト質凝灰岩	〃 — 〃
19	C A 1 2	床面直上	石錐B	○		6.8	6	1.7	90	緑色凝灰岩	〃 — 〃
											—
20	C I 2 1	ベルト中	石匙横	○		5.4	7	1.2	40	凝灰岩質硬質泥岩	〃 〃
21	〃		〃縦	○		6.3	3.1	1.1	18	流紋岩質珪質凝灰岩	〃 — 〃
22	〃	ベルト中	〃縦	○		7.3	1.2	1	8.4	〃	〃 — 〃
23	〃	ベルト中	〃縦	○		8.5	1.4	0.9	11	凝灰岩質硬質泥岩	〃 — 〃
											—
24	〃	埋土内	定形b	○		5.4	5.5	1.4	40	凝灰岩質硬質泥岩	〃 〃
											—
25	〃	Ⅱ層	磨製石斧		○	9.4	5.9	2.5	240	緑色石質凝灰岩	〃 〃
26	〃		〃		○	5.7	5.2	2.3	100	緑色凝灰岩	〃 — 〃
											—
27	〃		[illegible]−2			11.4	6.4	4.2	390	プロピライト	〃 〃
											—
28	C J 2 1	No.1 Pit	[illegible]−2			9.5	5.7	5	380	プロピライト質凝灰岩	〃 〃
29	C I 2 1	埋土	〃			10.2	7.8	7.4	700	プロピライト	〃 — 〃

C G15住居跡

1	C G 1 5	No. 1	石鏃b		○	3	1.6	0.2	1	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
2	〃		〃b		○	2.6	1.8	0.4	2.1	〃	〃 — 〃
3	〃		〃a	○		2.8	1.9	0.6	1.8	〃	〃 — 〃
4	〃		〃a	○		2.6	1.8	0.5	1.8	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
5	〃		〃a		○	3.4	1.5	0.8	3	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
6	〃		〃a		○	3.5	2.1	0.5	2.3	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
7	〃		〃a		○	3.6	2.2	0.4	2.5	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
9	C J 1 5		石匙横	○		3	3.4	0.8	5	鉄石英	奥羽山地—中新統
10	C G 1 5		〃横	○	○	2.8	2.2	0.7	2.8	〃	〃 — 〃
11	〃		〃横		○	3.1	3.7	0.4	3.8	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
12	〃		〃横		○	3	6.4	0.8	12.3	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
13	〃	No. 14	〃縦	○		7.7	2.4	0.8	11.5	硬質泥岩	〃 — 〃
14	〃	一括土器	〃縦	○		7.3	3.2	0.6	14	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
15	〃		〃縦	○		4.4	1.4	1.1	4.3	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
16	〃		定形f	○		5.4	5.5	1.4	40	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
17	〃	ベルト	〃b	○		6.6	2.8	1.3	30	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
18	〃		〃b	○		6.3	2.4	1.4	21	硬質泥岩	〃 — 〃
19	C J		〃b	○		5.7	2.6	1.3	19.8	珪質泥岩	〃 — 〃
20	C G 1 5	ベルト	〃b	○		4.4	3.4	1.4	18.2	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
21	〃		〃b	○		5.4	2.8	1.1	18.8	粘板岩	早池・仙人—古生界
22	C J 1 5	ベルト	不定形			3.7	3.6	1	13.8	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
23	C G 1 5		〃			3.7	5.8	1	20.3	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
24	C J 1 5	ベルト	〃			4.7	2.8	0.5	5.2	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
25	〃	〃	〃			4.8	3.5	1.3	22.2	珪質泥岩	〃 — 〃

26	CG 15	No.24	不定形			4.7	3	1.2	19.7	石質細粒凝灰岩	奥羽山地－中新統
27	〃	No.15	〃			7.8	2.4	1.3	26.5	珪質泥岩	〃 － 〃
28	〃		〃			6.8	4.5	0.9	27.5	〃	〃 － 〃
29	〃	ベルト	〃			2.7	2.8	1	9.7	硬質凝灰質泥岩	〃 － 〃
30	〃		〃			9.5	7.3	1.7	110	珪質泥岩	〃 － 〃
31	CJ		〃			3.3	3	1	10	硬質泥岩	〃 － 〃
32	CG 15	ベルト	〃			2.9	2.4	0.5	3.5	石質細粒凝灰岩	〃 － 〃
33	〃		〃			6.9	2.6	1.3	30	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地－古生界
34	〃		〃			2.8	2.6	1.1	3.7	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地－中新統
35	〃	ベルト	〃			3.8	1.9	1.7	3.7	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地－古生界
36	CJ 15	ベルト	〃			7.5	4	1.1	30	硬質泥岩	奥羽山地－中新統
37	CG 15		〃			7	3.9	1.5	50	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地－古生界
38	CJ 15	以東	〃			7.7	4.5	2.7	40	流紋岩質極細粒凝灰岩質	奥羽山地－中新統
39	CG	ベルト	〃			6.4	3.8	1.2	30	珪質泥岩	奥羽山地－中新統
40	〃		〃			2.6	2.7	0.9	8.2	硬質泥岩	〃 － 〃
41	〃		〃			8.5	2.2	1.6	40	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地－古生界
42	〃		〃			5.2	4.8	1.9	50	〃	〃 － 〃
43	〃		〃			5	4	1.2	30	〃	〃 － 〃
44	〃		〃			5.8	4.5	1.1	20.3	〃	〃 － 〃
45	CG 15	ベルト	石錘A		○	6.3	5.2	2.5	110	緑色凝灰岩	奥羽山地－中新統
46	〃		〃 A		○	5.8	3.8	1.4	30	石質細粒凝灰岩	〃 － 〃
47	〃		〃 A	○	○	7.8	6.5	2.2	150	緑色凝灰岩	〃 － 〃
48	〃	No.22	〃 C	○		7.5	6.9	1.3	80	流紋岩質凝灰岩	〃 － 〃
49	〃		〃 B	○		8.1	6.5	2.1	140	輝石安山岩	〃 － 〃
50	〃		〃 A	○		7.3	6.3	1.9	100	緑色凝灰岩	〃 － 〃
51	CG 15		〃 B	○		7	5.1	2	110	〃	〃 － 〃
52	〃		〃 B	○		5.2	4.5	1.6	50	輝石安山岩	〃 － 〃
53	〃		〃 B	○		6.4	5.8	1.6	90	緑色凝灰岩	〃 － 〃
54	〃		〃 A	○		5.9	4	0.7	30	硬質泥岩	〃 － 〃
55	〃		〃 B	○		7.2	5.3	2.2	110	緑色凝灰岩	〃 － 〃
56	〃		〃 B	○		6	4	1.4	40	輝石安山岩	〃 － 〃
57	〃		〃 C	○		5.4	5.2	1.5	50	〃	〃 － 〃
58	CG 15		〃 C	○		7.3	6.8	2.6	170	緑色凝灰岩	〃 － 〃
59	〃	No.11	〃 A	○		7.4	5.7	1.8	90	〃	〃 － 〃
60	〃		〃 A	○		7.8	4.3	0.9	40	〃	〃 － 〃
61	〃		〃 C	○		4.7	4	1.1	25.8	輝石安山岩	〃 － 〃
62	〃	No.20	〃 B	○		5.6	5.2	1.8	70	緑色凝灰岩	〃 － 〃
63	CG 15	ベルト	〃 B	○		6.3	5	1.4	70	〃	〃 － 〃
64	〃		〃 C	○		5.1	5	1.8	70	〃	〃 － 〃
65	〃		磨石	○		10.2	9.6	5.8	710	〃	
66	〃		〃	○		9.9	7.4	2.2	440	流紋岩質凝灰岩	〃 － 〃
67	CG 15		〃	○		11.5	10.8	5.1	970	花崗閃緑岩	〃 － 〃
											最深ダム付近－中生代
68	CG 15		凹み石	○		11.2	7.6	4.7	580	両輝石安山岩	
69	〃		〃	○		11.4	8.4	4.8	680	〃	焼石岳火山群－第四紀
70	CG 15		〃	○		16.2	5.9	5.8	600	緑色凝灰岩	〃 － 〃
71	〃		〃	○		10.5	8.6	4.4	550	流紋岩質凝灰岩	奥羽山地－中新統
72	CG 15	ベルト	石皿		○	7.6	7.4	1.6	120	両輝石安山岩	奥羽山地－鮮新統
73	〃		磨石		○	9.8	6.3	1.6	150	石質細粒凝灰岩	奥羽山地－中新統
74	CG	No.1	ピット1			16.5	7.6	3.3	620	緑色凝灰岩	〃 － 〃
75	〃	ベルト	〃			17.5	8.2	4.3	920	〃	〃 － 〃
76	CG		No.2-1			12	6.6	3.2	430	〃	〃 － 〃
77	〃		〃 a-2			11.3	7.7	5.7	520	両輝石安山岩	奥羽山地－鮮新統
78	〃	ベルト	〃 a-2			9.4	5.8	5.9	390	輝石安山岩	奥羽山地－中新統
79	CG 15	No.8	〃 a-2			7.7	6.1	3.1	190	流紋岩	〃 － 〃
80	〃	ベルト	〃 a-2			15.5	8.4	5	560	緑色凝灰岩	〃 － 〃
81	〃	〃	〃 b-1			11.1	4.9	2.9	170	流紋岩質凝灰岩	〃 － 〃
82	CG 15		〃 b-1			4.8	6.4	2.8	210	〃	〃 － 〃
83	〃		〃 b-1			13.4	7	5	660	緑色凝灰岩	〃 － 〃
84	〃		〃 b-2			16.7	9.8	5.4	1 230	プロピライト	〃 － 〃
85	〃		〃 b-2			9.6	6.7	3.5	280	両輝安山岩質	〃 － 鮮新統
86	〃	ベルト	〃 b-2			10.5	6.5	3.3	290	〃	〃 － 〃
87	〃	No.12	〃 b-2			9.8	6.7	4.1	380	〃	〃 － 〃
88	CG 15	ベルト	〃 b-2			7.9	6.2	3.3	200	〃	〃 － 〃
89	〃	No.3	〃 b-2			17.5	6.6	2.5	420	緑色凝灰岩	奥羽山地－中新統

90	CG 15	東西ベルト	断三b-2			7.3	5.9	3.3	200	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
91	〃	〃	〃 b-2			11	9.1	5.8	530	プロピライト	〃 — 〃
92	〃	南北ベルト	〃 b-2			7.9	5.6	3.9	130	〃	〃 — 〃
93	〃	東西ベルト	〃 b-2			11.1	7.5	2.8	320	硬砂岩	北上山地—古生界
94	CG 15	No.19	〃 b-2			8.9	6.3	2.6	230	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
95	〃	No.4	整製品	○		2.6	2.5	0.5	4	石質粗粒凝灰岩	〃 — 〃
96	〃		〃		○	1.9	1.7	0.4	2	〃	〃 — 〃
97	〃		石匙(縦)	○		6.5	2.9	0.8	12	珪質泥岩	〃 — 〃
98	〃		〃(不明)		○	2.5	3.7	0.7	4.5	黒曜岩	奥羽山地東縁—新新統
99	CG 15		不定形			7.3	4.4	1.3	40	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
100	〃		〃			7.2	5.7	1.7	50	硬質泥岩	〃 — 〃
101	〃		石核			4.5	4	2.5	30	鉄石英	〃 — 〃
102	CG 15		敲打器	○		13.7	4.5	2	180	粘板岩	堆積・陸人—古生界
103	〃		〃		○	10.5	3.3	1.4	70	〃	〃 — 〃
104	CG 15		石錘b	○		3.9	2.9	1	11	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
105	〃		〃 b	○		3.2	2	0.7	4.3	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
106	CG 15		〃 a	○		2.1	1.4	0.7	0.5	流紋岩質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
107	〃		〃 a	○		3.9	1.9	0.6	3	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
108	CG 15		〃 a	○		3.7	1.8	0.7	3	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
109	〃		〃 a		○	3.2	2	0.3	2.3	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—古生界
110	〃		〃 a		○	3.6	1.8	0.5	2	凝灰質細粒砂岩	奥羽山地—中新統

CJ24C I 21住居跡

1	CI 21	Ⅱ	石錘a	○		3.2	1.7	0.4	1.5	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
2	〃	拡張区Ⅱ	〃 a		○	4.3	2.2	0.7	4.5	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
3	〃	東西	〃 a	○		3.4	2.1	0.4	3.3	〃	〃 — 〃
4	〃	B B	〃 b	○		3.6	2.4	0.8	5.8	〃	〃 — 〃
5	CJ 15	B B	〃 b	○		3.2	2	0.8	3.5	石質泥岩	〃 — 〃
6	CI 21	拡張部Ⅱ	〃 b	○		5	3.5	0.9	13	珪質泥岩質凝灰岩	〃 — 〃
7	CI 21	拡張区Ⅱ	石匙縦	○		7.2	4.2	1.1	30	珪質泥岩	〃 — 〃
8	〃	拡張区Ⅱ	〃 縦	○		6.4	3.5	1	22.7	硬質泥岩	〃 — 〃
9	〃	拡張区Ⅱ	〃 縦	○		6.7	2.3	0.8	11.6	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
10	CJ 15		〃 縦	○		5.3	2.3	0.9	6.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
11	CJ 21	Ⅱ	〃 縦		○	9.1	3.3	1.2	40	〃	〃 — 〃
12	CJ 24	No.26	〃 縦		○	6.1	2.2	0.6	8	〃	〃 — 〃
13	CJ 15	CJ 12	〃 横	○		5.3	4.8	1	17.5	〃	〃 — 〃
14	CJ 12	床面直上	〃 横	○		3	4.4	1.1	8.8	鉄石英	〃 — 〃
15	CI 21	拡張Ⅱ層	〃 横	○		5.1	7.3	0.9	30	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
16	〃	4	〃 横	○		4.8	4.9	0.8	7.8	〃	〃 — 〃
17	CJ 15	遺物E群	定形d			3.4	3.7	1.2	14	硬質泥岩	〃 — 〃
18	CI 12	竪穴埋土	〃 d			4	2.7	1.2	12.5	〃	〃 — 〃
19	CI 18	〃	〃 f	○		5.9	2.7	1.1	21.5	〃	〃 — 〃
20	CJ 24	拡張Ⅱ層	〃 f	○		5.5	2.6	1.1	21.5	〃	〃 — 〃
21	CJ 21	〃	〃 f	○		6.7	2.7	1.2	26	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
22	CJ 18	竪穴埋土	〃 f	○		6	4.5	1.8	60	〃	〃 — 〃
23	CJ 21	拡張Ⅱ層	〃 b	○		8.3	3.2	1.6	50	硬質泥岩	〃 — 〃
24	CI 21	〃	〃 b	○		6.6	2.9	1.4	30	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
25	〃	〃	〃 b	○		7	2.5	1.4	30	硬質泥岩	〃 — 〃
26	CJ 24	〃	〃 b	○		8.8	2.8	2.2	50	〃	〃 — 〃
27	CI 21	〃	〃 b	○		10.8	2.8	1.9	50	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
28	CI 12	〃	不定形			9	2.8	1.2	40	石質凝灰質泥岩	〃 — 〃
29	CJ 21	〃	〃			11.1	3.8	1.8	90	硬質泥岩	〃 — 〃
30	CI 21	No.30	〃			7.9	4.2	1.5	40	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
31	CJ 24	拡張Ⅱ層	〃			10.8	7.9	2.5	130	〃	〃 — 〃
32	CJ 21	西側拡張	〃			8	5.5	1.7	70	硬質泥岩	〃 — 〃
33	CI 21	拡張区Ⅱ	〃			8.9	4.1	1.1	60	〃	〃 — 〃
34	〃	〃	〃			6	3.5	0.8	15.1	〃	〃 — 〃
35	〃	東西北側	〃			10.2	5.9	3.4	150	〃	〃 — 〃
36	〃	拡張区Ⅱ	〃			6.2	3	1.4	24	黒曜石	奥羽山地東縁—新新統
37	CJ 15		〃			7.7	5.9	1	29	硬質泥岩	奥羽山地—中新統

38	C J 2 4	No. 10	不定形			7.7	5.5	1.9	80	硬 質 泥 岩	奥羽山地—中新統
39	〃	床直上	〃			7.4	5.5	1.5	40	〃	〃 — 〃
40	〃	Ⅱベルト	〃			7.4	4.6	1	30	〃	〃 — 〃
41	C J 1 5		〃			5.1	5.3	1.7	50	鉄 石 英	〃 — 〃
42	C I 2 1	Ⅱ—③	〃			6.1	3.3	1.6	38	珪 質 泥 岩	〃 — 〃
43	〃	Ⅱ—③	〃			9.1	3.4	2.1	70	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
44	〃	Ⅱ	〃			7.6	5.2	2.6	60	珪 質 泥 岩	〃 — 〃
45	C J 2 4	Ⅱ—①	〃			6.8	5.3	1.6	50	石 質 泥 岩	〃 — 〃
46	C J 2 1	Ⅱ—③	〃			2.6	3.5	0.4	4.3	石 質 細 粒 凝 灰 岩	〃 — 〃
47	C I 2 1	Ⅱ	〃			4.6	3.2	3	17.3	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
48	C J 2 4	Ⅱ—①	〃			6.1	3.5	1.4	24.5	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
49	C I 1 2	Ⅱ—③	〃			5.8	2.6	1.2	16.8	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
50	C J 1 2	Ⅱ—①	〃			5.9	4.8	0.9	26.5	石 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
51	C I 2 1	Ⅱ—①	〃			6.4	5.3	0.8	19.6	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
52	C J 2 4	床直上	〃			3.4	1.6	0.4	3.2	珪 質 泥 質 凝 灰 岩	〃 — 〃
53	C I 2 1	Ⅱ	〃			5	1.9	0.3	3	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
54	〃	埋土④	〃			3.7	2.5	0.7	7.5	〃	〃 — 〃
55	C J 1 2	Ⅱ—①	〃			5	4.4	1.4	30	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
56	C I 2 1	Ⅱ—③	〃			6.6	3.3	1.3	30	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
57	〃	Ⅱ—③	〃			5.4	3.9	1.4	30	〃	〃 — 〃
58	C I 2 1	Ⅱ—②	〃			6.6	3	1	14.6	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
59	〃	Ⅱ—①	〃			4	2.1	0.7	16.2	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
60	C J 1 5	ベルト	〃			3.7	36	1.5	15.8	〃	〃 — 〃
61	C I 2 1	Ⅱ	〃			3.7	2.5	1	6.2	石 質 極 細 粒 凝 灰 岩	〃 — 〃
62	〃	Ⅱ—②	〃			6.4	3.3	1.6	50	珪 質 泥 岩	〃 — 〃
63	C J 1 5	ベルト	〃			4.1	1.8	1.1	30	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
64	C I 2 1	Ⅱ—③	〃			7.1	3.3	1.2	8.6	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
65	C J 2 1	Ⅱ	〃			6.4	3.5	0.9	18.5	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
66	C I 2 1	Ⅱ	〃			6.2	3.5	1.3	30	珪 質 泥 岩	〃 — 〃
67	C J 1 5	ベルト	〃			5.6	2.5	1.7	30	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
68	C I 2 1	Ⅱ—①	〃			3.5	3	1	7.3	〃	〃 — 〃
69	〃	No. ①	〃			5.1	3.9	1.1	17	石 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
70	C I 1 8		〃			4	2.7	0.7	6	石 質 極 細 粒 凝 灰 岩	〃 — 〃
71	C J 1 5	グリット	〃			6	3.6	0.8	16	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
72	〃	グリット	〃			6.6	5.4	1.1	60	石 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
73	C J 2 1	Ⅱ	〃			5.1	3.3	0.8	11	珪 質 泥 質 凝 灰 岩	〃 — 〃
74	〃	Ⅱ—③	〃			6.1	3.1	1.1	17.6	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
75	C I 2 1	Ⅱ—②	〃			3.4	3.2	0.8	10.6	石 質 極 細 粒 凝 灰 岩	〃 — 〃
76	〃	Ⅱ—①	〃			4.7	3.6	1.1	12	〃	〃 — 〃
77	〃	Ⅱ	〃			4.2	3.2	0.8	14	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
78	C J 1 5	ベルト	〃			2.6	2.6	0.5	4	硬 質 泥 岩	〃 — 〃
79	〃	ベルト	〃			4.3	2.9	1.5	15.6	石 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃
80	〃	グリット	〃			3.6	2.8	0.8	12.7	石 質 極 細 粒 凝 灰 岩	〃 — 〃
81	C J 1 8	貯穴埋土	石錘C		○	5	5.1	1.5	50	石 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
82	C I 2 1	Ⅱ—①	〃 A	○		6.9	5.5	1.8	100	緑 色 凝 灰 岩	〃 — 〃
83	〃	Ⅱ	〃 C	○		7.4	7	1.9	100	石 質 凝 灰 岩	〃 — 〃
84	C J 2 4	Ⅱ—①	〃 A	○		8.6	5.8	2.7	180	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
85	C J 2 1	Ⅱ	〃 C	○		6.6	6	1.8	100	緑 色 凝 灰 岩	〃 — 〃
86	〃	Ⅱ	〃 A	○		7.8	5.4	2	90	石 質 凝 灰 岩	〃 — 〃
87	C I 2 1	Ⅱ—②	〃 A	○		7.9	6.1	2	140	花 崗 閃 緑 岩	鷲沢ダム付近—中生代
88	〃	Ⅱ—③	〃 B	○		10.1	7.8	2.1	240	尚 絅 石 安 山 岩	焼石火山群—第四紀
89	C J 2 4	周 辺	〃 A	○		8.5	6.2	2.3	130	石 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
90	C I 2 1	Ⅱ—③	〃 A	○		9.3	9.6	2.3	160	凝 質 質 粗 粒 砂 岩	〃 — 〃
91	〃	Ⅱ—③	〃 C	○		6.3	6.5	2.4	100	石 質 粗 粒 凝 灰 岩	〃 — 〃
92	〃	埋土④	〃 A	○		8.4	5.9	2.2	140	玻 璃 質 安 山 岩	〃 — 〃
93	C J 2 1	Ⅱ	〃 B	○		7.7	6.5	1.5	100	凝 灰 質 粗 粒 砂 岩	〃 — 〃
94	C I 2 1	Ⅱ—③	〃 B	○		8.4	5.6	2.1	120	緑 色 凝 灰 岩	〃 — 〃
95	〃	Ⅱ—②	〃 A	○		8.8	6.8	2.4	200	〃	〃 — 〃
96	〃	Ⅱ—①	〃 B	○		8.5	6.6	1.8	140	石 質 凝 灰 岩	〃 — 〃
97	C I 2 1	Ⅱ—②	〃 B	○		5.9	5	1.9	80	〃	〃 — 〃
98	C J 2 4	N 30	〃 C	○		6.6	6.4	2.1	120	玻 璃 質 安 山 岩	〃 — 〃
99	C I 2 1	Ⅱ—②	〃 A	○		8.4	6	2.2	140	〃	〃 — 〃
100	〃	Ⅱ—③	〃 A	○		8.5	5.4	1.6	100	石 質 凝 灰 岩	〃 — 〃
101	C J 1 2	床面直上	〃 A	○		8	5.5	1.4	80	凝 灰 質 粗 粒 砂 岩	〃 — 〃
102	C J 2 1	埋 土	〃 A	○		5.8	4.8	1.4	60	石 質 凝 灰 岩	〃 — 〃
103	C I 2 1	Ⅱ	〃 A	○		7.5	5.1	1.4	70	〃	〃 — 〃
104	〃	Ⅱ—②	〃 C	○		5.2	4.5	1.8	60	〃	〃 — 〃
105	〃	Ⅱ—③	〃 B	○		6.8	4.8	1.3	70	緑 泥 片 岩	和賀川上流—?—仙人—古生界
106	C J 2 4	87 番	〃 B	○		8.2	5.3	2.4	130	石 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統

107	C I 21	埋土④	石錐C	○		7.4	6.9	2.1	150	玻璃質安山岩	奥羽山地—中新統
108	〃	Ⅱ—①	〃 B	○		7.5	6.1	1.4	80	石質凝灰岩	〃 — 〃
109	〃	Ⅱ—③	〃 A	○		7.3	6	2	120	〃	〃 — 〃
110	C J 24	N 30	〃 A	○		5.8	4.6	1.3	50	〃	〃 — 〃
111	〃	N 30	〃 C	○		6.3	5.9	2.5	130	石英安山岩	奥羽山地東縁—中新統
112	C I 21	Ⅱ—③	〃 A	○		7.7	6.4	2.2	150	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
113	〃	埋土④	〃 B	○		7.2	5.5	1.6	70	石質凝灰岩	〃 — 〃
114	C I 15	竪穴埋土	〃 C	○		5	4.9	2.4	80	〃	〃 — 〃
115	C J 24	N 30	〃 B	○		8.6	7.7	1.8	160	〃	〃 — 〃
116	C J 15	ベルト	〃 C	○		6	5.9	1.4	70	〃	〃 — 〃
117	C J 24	3	〃 C	○		6.4	5.6	2.1	100	花崗閃緑岩	豊沢ダム付近—中生代
118	C I 21	Ⅱ—(2)	〃 B	○		7.4	6.4	2.3	140	玻璃質安山岩	奥羽山地—中新統
119	〃	Ⅱ—(3)	〃 B	○		6.8	4.6	1.2	60	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
120	〃	(4)	〃 C	○		6	6	1.6	90	石質凝灰岩	〃 — 〃
121	C J 18	竪穴埋土	〃 C	○		5.8	5.7	1.5	70	緑色凝灰岩	〃 — 〃
122	C I 21	Ⅱ—(2)	〃 A	○		7.9	6.3	2.1	110	玻璃質安山岩	〃 — 〃
123	〃	Ⅱ—(2)	〃 A	○		7	5.8	2.1	100	〃	〃 — 〃
124	C J 15	ベルト	〃 B	○		6	5.2	1.7	70	石質凝灰岩	〃 — 〃
125	C J 21		磨石		○	7.3	6.2	5.1	280	花崗閃緑岩	豊沢ダム付近—中生代
126	C I 21	Ⅱ—(3)	〃		○	9.5	8.8	5	680	〃	〃 — 〃
127	〃	Ⅱ—(2)	〃		○	8.5	8.2	4.2	470	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
128	〃	Ⅱ—(2)	〃	○		13.6	7.5	5.3	830	花崗閃緑岩	豊沢ダム付近—中生代
129	〃	Ⅱ—(3)	〃	○		12.8	6.5	5	760	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
130	〃	埋土	〃	○		9.5	8.5	7.1	800	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
131	〃	Ⅱ—①	〃	○		12.4	7	4.3	580	〃	〃 — 〃
132	C J 24	Ⅱ—(1)	〃	○		12.8	8.3	5.7	870	〃	〃 — 〃
133	C I 21	Ⅱ—(1)	〃	○		9.5	7.3	4.3	390	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
134	C J 24	Ⅱ—(3)	〃	○		11	8.8	9	1,200	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
135	C I 21	Ⅱ—(3)	凹み石		○	8.5	7.6	2.7	230	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
136	〃	埋土	〃		○	10.7	8.3	6.8	740	〃	〃 — 〃
137	〃	Ⅱ—(3)	〃		○	10.2	7.4	5.5	390	〃	焼石岳火山群—第四紀
138	C J 18	竪穴埋土	〃		○	12.5	8.7	4.7	440	〃	奥羽山地—中新統
139	C I 21	Ⅱ—(2)	〃		○	10.2	7.9	3.7	360	〃	〃 — 〃
140	C J 21	Ⅱ	〃		○	7.7	7.9	4.2	210	〃	〃 — 〃
141	C J 24	床下(3)	〃	○		9.4	7.6	5.8	560	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
142	C I 21	Ⅱ—(3)	〃	○		9.7	6.6	4.9	460	〃	〃 — 〃
143	〃	CCJ18	〃	○		9.6	6.2	4.8	220	〃	〃 — 〃
144	C J 21	Ⅱ	〃	○		11.2	7.2	3.2	380	〃	〃 — 〃
145	C J 24	床0(3)	〃	○		11	9.5	5.1	750	花崗閃緑岩	豊沢ダム付近—中生代
146	〃	床下0(3)	〃	○		11.8	7.7	3.2	370	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
147	C I 21	Ⅱ—(3)	磨石			11.1	6.3	4	290	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
148	C J 24	Ⅱ—(1)	〃			16.7	9.3	5.7	1,150	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
149	C I 21	ベルト	磨石			7.8	6.7	3.8	250	緑色凝灰岩	〃 — 〃
150	〃	Ⅱ—(2)	〃			10.3	7.1	6	530	両輝石安山岩	〃 — 〃
151	〃	Ⅱ	磨石			7.8	6.2	5.4	270	緑色凝灰岩	〃 — 〃
152	C J 24	NO P11	〃			11.2	7.5	6.7	720	両輝石安山岩	〃 — 〃
153	C I 21	Ⅱ—(3)	〃			9.5	6.9	6	380	〃	奥羽山地東縁—中新統
154	C I 21	Ⅱ—(3)	〃			10.1	6.2	4.3	340	粘板岩ホルンフェルス	夏油川—古生界
155	〃	Ⅱ—(1)	〃			6.8	5.8	4.6	230	流紋岩	奥羽山地—中新統
156	〃	Ⅱ—(3)	〃			10.2	6.3	5.4	470	花崗閃緑岩	豊沢ダム付近—中生代
157	〃	Ⅱ	〃			7.5	4.9	3.1	150	玻璃質安山岩	奥羽山地—中新統
158	〃	ベルト	〃			7.1	5.8	3.9	180	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
159	〃	Ⅱ	〃			9.6	8	3.8	430	〃	奥羽山地東縁—中新統
160	C J 21	床面直上	磨石			11.1	7.2	2.7	210	〃	〃 — 〃
161	C I 21	Ⅱ—(3)	〃			7.2	7	3.6	140	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
162	C J 21	Ⅱ	〃			9.6	7.1	4.4	330	〃	〃 — 〃
163	C I 21	ベルト	凹石			7.6	5.8	3.8	170	粘板岩ホルンフェルス	夏油川—古生界
164	C J 15		〃			7.5	3	2.7	100	〃	〃 — 〃
165	C I 21	Ⅱ—(2)	〃			8.4	6.4	2.1	160	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
166	〃	埋土	〃			8.8	6.4	3.2	280	花崗閃緑岩	豊沢ダム付近—中生代
167	〃	ベルト	〃			8.5	7.4	4	410	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
168	C J 21	埋土右	〃			10.7	6.7	5.6	550	玻璃質安山岩	〃 — 〃
169	C I 21	Ⅱ—(3)	〃			12.5	7.9	4	440	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
170	C J 21	Ⅱ	〃			11.2	5	3.7	250	流紋岩	〃 — 〃
171	C I 21	Ⅱ—(3)	〃			8.8	6.7	5.4	400	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
172	〃	Ⅱ	〃			11	6.5	3.3	350	両輝石安山岩	〃 — 〃
173	C J 21	床面直上	〃			12.2	6.2	3.7	320	緑色凝灰岩	〃 — 〃

174	C I 21	埋 上	第 3-1			12.8	5.4	3.7	350	流 紋 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—中新統
175	〃	Ⅱ—①	〃			15.9	7.2	3.3	710	リロヒライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
176	C I 18	竪穴埋土	〃			13.3	6.1	4.3	450	〃	〃 — 〃
177	C J 21	Ⅱ	第Ⅲ層			12.1	7.1	2.5	340	粘 板 岩	夏油川・仙人—古生界
178	C J 24	Ⅱ—①	〃 ②			8.2	7.1	3	230	珪 質 岩 安 山 岩	奥羽山地—中新統
179	C I 21	Ⅱ—①	〃			8.3	5.3	1.9	120	粘 板 岩	夏油川・仙人—古生界
180	〃	Ⅱ	〃			12	6.9	3.4	580	砂 岩	北上山地—古生界
181	C J 24	床 3	石皿			4.9	4.3	3.2	120	流 紋 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—中新統
182	C I 21	Ⅱ	〃			9.2	7.4	3.9	340	〃	〃 — 〃
183	C J 24	Ⅱ—①	〃			11.9	8.8	2	250	〃	〃 — 〃
184	C J 18	竪穴埋土	〃			8.5	7.2	7.8	490	〃	〃 — 〃
185	C J 21	Ⅱ	〃			9.8	4.4	4.2	250	〃	〃 — 〃
186	C J 18	竪穴埋土	〃			30.6	6.1	3.8	250	花 崗 閃 緑 岩	豊沢ダム付近—古生界
187	C J 21	Ⅱ	〃			14.4	13.8	7.4	1620	流紋岩質角礫凝灰岩	奥羽山地東縁—中新統
189	C J 18	竪穴埋土	〃			25.3	10.2	2.7	710	流 紋 石 安 山 岩	〃 — 〃
190	C J 24	床 下	〃			20	8.5	7.2	1570	〃	〃 — 〃
191	C I 21	Ⅱ—①	〃			5.4	7.9	1.4	140	〃	〃 — 〃
192	C J 21	Ⅱ	〃			26.8	19.5	3.1	1940	〃	〃 — 〃
193	C I 21	埋土(4)	敲石?			9.2	5.7	2.7	250	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
194	C J 21	Ⅱ—②	〃			8.5	5.5	3.2	230	粘板岩ホルンフェルス	夏油川—古生界
195	C I 21	N 30/4	〃			7.9	4.3	2.2	120	石 質 極 細 粒 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
196	〃	Ⅱ—③	〃			6.8	4.8	2.3	120	〃	〃 — 〃
197	〃	Ⅱ	〃			5.9	4.6	2.9	110	粘 板 岩	夏油川・仙人—古生界
198	〃	Ⅱ—①	〃			8.8	4.1	2	120	〃	〃 — 〃
199	C I 24	G N O	砥石			9.1	4.3	2.5	130	流 紋 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—中新統
200	C I 21	Ⅱ—②	〃			6.1	3.5	1.3	50	〃	〃 — 〃
201	C J 24	Ⅱ—①	〃			6.5	3.1	1	10	粘板岩ホルンフェルス	夏油川—古生界
202	C I 21	Ⅱ—①	〃			7.7	7.2	0.7	40	石 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
203	〃	Ⅱ—①	〃			8.3	7.2	0.8	50	〃	〃 — 〃
204	C I 21	Ⅱ	安山石			13.4	3.1	0.8	60	粘 板 岩	夏油川・仙人—古生界
205	〃	Ⅱ—①	〃			5	4	1	20	石 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
206	C I 18	竪穴埋土	〃			9.4	4.4	1.9	110	珪 質 岩 安 山 岩	〃 — 〃
207	〃	〃	〃			9.3	8.5	3.5	200	〃	〃 — 〃
208	C J 27	拡 走 面	〃			7.5	4.4	0.8	30	〃	〃 — 〃
209	C J 21	I	敲石?			7.1	5.1	3.2	190	石 質 極 細 粒 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
210	C J 21		石錘 d			4.4	1.4	0.5	2.7	硬 質 凝 灰 質 泥 岩	〃 — 〃

E C62住居跡

1	E C 02	No. 21	周み石			16.2	9.3	4.2	630	花 崗 閃 緑 岩	豊沢ダム—中生代
2	〃	B L 6	不定形			5.4	4.3	1.3	20	石 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
3	〃	B L 3	〃			6	4.1	1.2	30	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
4	〃	〃	石錘痕			5.5	3	0.8	11	極細粒石質凝灰岩	〃 — 〃
5	〃	B L 1	石錘痕			5	2.5	0.3	4	硬 質 泥 岩 凝 灰 質	〃 — 〃

D E18住居跡

1	D F 12		石錘B			7.8	6.5	2	150	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
2	D E 18	C 埋 上	〃 B			7.9	6.7	2.2	150	〃	〃 — 〃
3	〃	23 No.19	〃 A			9	6.9	2.2	180	流 紋 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
4	D F 15	埋 上	〃 A			8.9	6.5	1.8	130	石 質 細 粒 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
5	D E 12	〃	〃 A			11.3	7	2.7	380	流 紋 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
6	D E 09	〃	〃 A			8.4	6.1	2.4	160	〃	〃 — 〃
7	D F 15	〃	〃 A			8	6.8	2.5	180	〃	〃 — 〃
8	D E 15	〃	〃 C			7.8	7.3	2.2	170	〃	〃 — 〃
9	D E 06		〃 B			5.2	4.9	1.6	50	石 質 細 粒 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
10	D E 09	埋 上	〃 A			9.7	6.1	1.5	140	緑 色 凝 灰 岩	〃 — 〃
11	〃	〃	〃 C			5.3	5.1	1.8	70	〃	〃 — 〃
12	D G 12	Ⅱ	〃 A			5.4	4.8	0.6	30	花 崗 閃 緑 岩	豊沢ダム付近—中生代
13	D F 12		〃 A			7.9	5.2	1.7	100	石 質 細 粒 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
14	D G 06	埋 上	〃 A			7	4.4	2.1	80	流 紋 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
15	D D 09	〃	〃 A			7.9	5.1	1.8	100	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
16	〃	〃	〃 A			8.1	7.9	3	290	流 紋 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
17	D E 09	竪穴埋土	〃 C			6.3	6.2	1.6	90	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
18	D E 18		〃 A			5.8	6.3	1.9	80	流 紋 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統

19	D F 0 6	一括	石錘C	○		6.9	6	1.8	100	石 質 細 粒 凝 灰 岩	奥羽山地－中新統
20	D F 1 5	埋土	〃 C	○		4.9	4.9	1.4	60	〃	〃 － 〃
21	D E 1 2	埋土	〃 A	○		6.5	4.1	1.6	60	安 山 岩	奥羽山地東縁－鮮新統
22	D F 0 9	〃	〃 B	○		6.3	4.8	1.7	70	石 質 細 粒 凝 灰 岩	奥羽山地－中新統
23	D E 0 6	Ⅱ	〃 B	○		6.3	5.1	1.7	70	安 山 岩	奥羽山地東縁－鮮新統
24	D F 1 2		〃 C	○		8.7	7.9	1.8	180	〃	〃 － 〃
25	D D 0 9	埋土	〃 C	○		8	7.3	2.5	180	石 質 細 粒 凝 灰 岩	奥羽山地－中新統
26	D E 1 8		〃 A	○		6.4	3.7	1.8	70	安 山 岩	奥羽山地東縁－鮮新統
27	D F 0 6		〃 A	○		5.4	3.6	1	20	流 紋 岩 質 凝 灰 岩	奥羽山地－中新統
28	D E 0 9	竪穴埋土	〃 C	○		5	4.4	1.5	40	安 山 岩	奥羽山地東縁－鮮新統
29	D F 1 2	埋土	〃 A	○		8.1	5.6	1.3	80	〃	〃 － 〃
30	D E 1 8	〃	〃 A	○		7.8	6.5	3.2	150	〃	〃 － 〃
31	〃	〃	〃 B	○		6.4	5.6	2.1	90	石 質 細 粒 凝 灰 岩	奥羽山地－中新統
32	D F 1 2		〃 B	○		6.6	5.5	2.2	100	安 山 岩	奥羽山地東縁－鮮新統
33	D E 0 9		〃 A	○		6.3	4.3	1.8	70	〃	〃 － 〃
34	D F 1 2	竪穴埋土	〃 A	○		6.3	4.5	1.4	50	〃	〃 － 〃
35	D D 0 9	埋土	〃 A	○		8.8	5.4	2	120	流 紋 岩 質 凝 灰 岩	奥羽山地－中新統
36	D F 0 3		円み石	○		9.8	7.4	4	450	花 崗 閃 緑 岩	鷲倉ダム付近－中生代
37	D E 0 9	竪穴埋土	〃	○		7.5	7.4	5.7	240	安 山 岩	奥羽山地東縁－鮮新統
38	〃		〃	○		6	5.8	2.1	90	〃	焼石岳火山群－第四紀
39	〃	埋土	〃	○		14.5	7.4	2.9	390	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地－中新統
40	D E 1 8	No.67	円み石	○		13.1	8.3	3.6	450	安 山 岩	奥羽山地東縁－鮮新統
41	〃		〃		○	7.1	6.3	3.1	110	〃	〃 － 〃
42	D E 1 2	埋土	〃		○	10.2	5.5	3.5	290	〃	〃 － 〃
43	D F 1 5	竪穴埋土	礫石		○	8.4	6.6	3.5	320	流 紋 岩 質 凝 灰 岩	奥羽山地－中新統
44	D E 0 9	埋土	〃		○	9.2	6	2.8	120	〃	〃 － 〃
45	D E 0 9	竪穴埋土	〃		○	5.9	4.7	1.7	30	珪 石 英	〃 － 〃
46	D E 0 6	〃	〃		○	5.2	4.6	0.8	30	石 質 細 粒 凝 灰 岩	〃 － 〃
47	D E 0 9	〃	〃		○	10.9	4.6	4.7	260	粘 板 岩	夏油川・知人－古生界
48	D F 0 6	一括	石錘c		○	3.5	1.1	0.7	2.5	頁 岩 泥 岩	奥羽山地－中新統
49	D E 5 3	埋土	〃 c		○	4.1	1.5	0.7	3.7	〃	〃 － 〃
50	D E 1 8		〃 c		○	4.3	1.5	0.9	5	頁 岩 質 凝 灰 岩 泥 岩	〃 － 〃
51	D E 0 6	竪穴埋土	〃 c		○	3.7	1.6	0.8	2.1	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
52	D E 1 8		〃 b		○	3.2	1.9	0.6	1.5	頁 岩 質 凝 灰 岩 泥 岩	〃 － 〃
53	D E 0 6	Ⅱ	〃 b		○	3.5	2.3	0.7	6.2	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
54	〃	竪穴埋土	〃 b		○	2.2	1.5	0.4	0.6	流紋岩質細粒凝灰岩	〃 － 〃
55	〃	〃	〃 b		○	3.5	1.9	0.6	3	〃	〃 － 〃
56	D E 0 6	〃	〃 a		○	3	2.1	0.5	2	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
57	D E 1 8	No.74	〃 a		○	2.9	1.9	0.4	2.2	珪 石 英	〃 － 〃
58	D E 0 9	埋土	〃 a		○	2.7	2	0.4	2	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
59	D F 1 2	〃	〃 a	○		3.1	2	0.5	2	頁 岩 質 凝 灰 岩 泥 岩	〃 － 〃
60	〃	〃	〃 a	○		3.5	2	0.6	2.5	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
61	〃	〃	〃 a	○		2.9	2.2	0.4	2	頁 岩 質 凝 灰 岩 泥 岩	〃 － 〃
62	D E 1 8	〃	〃 a	○		2.2	1.7	0.4	1.2	流紋岩質細粒凝灰岩	〃 － 〃
63	D E 1 8		石匙縦		○	2.9	2.7	0.9	5.7	頁 岩 質 凝 灰 岩 泥 岩	奥羽山地－中新統
64	D G 5 3	埋土	〃 縦		○	5	3.2	1.3	16.8	流紋岩質細粒凝灰岩	〃 － 〃
65	D E 0 9	〃	〃 縦		○	5.5	2	0.8	7	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
66	D E 1 8		〃 縦		○	4.8	3.4	1.1	14.8	珪 質 泥 岩	〃 － 〃
67	〃	No.71	〃 横	○		4.9	3.9	1	14	玉 髄	〃 － 〃
68	〃	No. 150	〃 横	○		3.8	4.3	1	10	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
69	D E 0 9		〃 横	○		4.5	6.3	0.8	17.5	珪 質 泥 岩	〃 － 〃
70	D E 1 8	No.94	〃 横	○		6.5	4.3	0.7	20.5	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
71	D F 1 5	埋土	〃 横	○		4.5	5.5	1.3	18.8	頁 岩 質 凝 灰 岩 泥 岩	〃 － 〃
72	D E 0 9	〃	〃 横	○		5.2	4.3	0.7	14	〃	〃 － 〃
73	〃	〃	〃 横	○		6.8	3.1	0.9	19	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
74	D G 1 5	竪穴内	〃 横	○		3.3	6.5	1.1	14.8	頁 岩 質 凝 灰 岩 泥 岩	〃 － 〃
75	D E 0 3		〃 横	○		4.2	5.1	0.6	9.8	珪 質 極 細 粒 凝 灰 岩	〃 － 〃
76	D G 5 3	埋土	〃 横	○		4.4	5.9	0.6	13	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
77	D E 1 8	No.79	〃 縦	○		6.7	2.9	0.9	18.8	珪 質 泥 岩	〃 － 〃
78	D F 1 2	埋土	〃 縦	○		4.1	3.1	0.9	7	珪 石 英	〃 － 〃
79	D E 0 3		〃 縦	○		6	1.8	0.7	7.3	珪 質 泥 岩	〃 － 〃
80	D F 1 2		〃 縦	○		10	1.8	0.9	15	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃
81	D E 1 8	No.47	〃 縦	○		6.6	2.6	0.8	12.5	珪 質 極 細 粒 凝 灰 岩	〃 － 〃
82	D E 0 9	竪穴埋土	〃 縦	○		6.7	2.9	1	15.8	頁 岩 泥 岩	〃 － 〃

83	DE 18		石匙縦	○		6.8	2	0.5	8.3	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地－中新統
84	DE 18	東西ベルト東	〃縦	○		6.1	2.4	0.9	16.5	珪質泥岩	〃－〃
85	DE 09	埋土	〃縦	○		6	2.1	0.6	7	〃	〃－〃
86	〃	〃	〃縦	○		7.8	3.1	0.9	18	硬質泥岩	〃－〃
87	DE 18	No.156	〃縦	○		6.4	2.2	0.6	7.5	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
88	DE 18		〃縦	○		4.4	1.9	0.7	4.3	流紋岩質細粒凝灰岩	〃－〃
89	DG 53	埋土	〃縦	○		5.1	1.7	0.8	6.8	硬質泥岩	〃－〃
90	DE 06	〃	〃縦	○		9.4	1.6	0.9	11	〃	〃－〃
91	〃	〃	〃縦	○		5.3	2.2	0.6	6.5	流紋岩質細粒凝灰岩	〃－〃
92	DE 18		定形d	○		7.6	3.6	2.2	70	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流－古生界
93	DE 09	埋土	〃d	○		7	4.2	1.7	70	粘板岩	〃－〃
94	DG 03	〃	〃d	○		7.4	4.2	1.8	50	粘板岩ホルンフェルス	〃－〃
95	DF 12	〃	〃d	○		7.2	4.5	1.3	50	〃	〃－〃
96	DE 53	〃	〃b	○		6.9	2.9	1.4	30	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地－中新統
97	DE 09	〃	〃b	○		7.1	2.7	1.5	20	〃	〃－〃
98	DE 53		〃c	○		8.2	2.4	1.7	30	〃	〃－〃
99	DE 09		〃c		○	6.9	2.8	2.1	30	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流－古生界
100	DE 09	埋土	〃e		○	5.7	4.4	1.6	50	粘板岩	夏油川・仙人－古生界
101	DE 03	〃	〃e		○	3.3	2.5	1.1	7.9	硬質泥岩	奥羽山地－中新統
102	DE 09	〃	〃e		○	4.3	2.7	1	11.8	粘板岩	夏油川－古生界
103	DE 18	No.31	〃e		○	4.3	3.7	1.5	25	硬質泥岩	奥羽山地－中新統
104	〃		〃e		○	3.9	2.6	1.2	14	珪質極細粒凝灰岩	〃－〃
105	DE 09	埋土	〃e	○		4.3	3	1	11.7	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
106	DF 53	〃	〃e	○		5.9	3.5	1.2	20	粘板岩	夏油川・仙人－古生界
107	DE 18	No.143	〃e	○		8.7	2.5	1.6	40	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地－中新統
108	DE 06	II	〃e	○		6.7	2.7	1.3	25.8	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流－古生界
109	DG 53		〃e	○		4.4	2.7	1.1	14.5	粘板岩	〃－〃
110	DE 18	No.35	〃e	○		4	2.7	1	10	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地－中新統
111	DE 18	No.11	〃e	○		6.6	1.8	0.5	5.8	珪質泥岩	〃－〃
112	DE 03		〃e	○		6.7	3.2	1.5	30	粘板岩	夏油川・仙人－古生界
113	DE 18		〃e	○		2.8	3.1	1.1	12.6	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地－中新統
114	〃		〃a	○		8.8	5	1.3	70	珪質輝石安山岩	奥羽山地－鮮新統
115	DE 09		〃a	○		10.7	3.2	1.1	50	珪質泥岩	奥羽山地－中新統
116	DF 53		〃f	○		9.4	4	1.3	40	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
117	DE 18	No.113	〃f	○		4.4	2.6	1	10	流紋岩質細粒凝灰岩	〃－〃
118	DE 09	竪穴埋土	〃f	○		6.8	3.9	1.6	40	珪質極細粒凝灰岩	〃－〃
119	DE 18		〃f	○		7.2	2.8	1.3	27.6	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
120	DE 06		〃f	○		5.3	2.6	1.2	19.3	粘板岩	夏油川・仙人－古生界
121	DE 09		〃f	○		5.6	2.6	1	18.3	硬質泥岩	奥羽山地－中新統
122	DF 03		〃f	○		6.9	3.2	1.2	22.5	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
123	DE 18		〃f	○		5.4	3.3	0.6	15.5	珪質泥岩	〃－〃
※3	DF 15	竪穴埋土	〃c			10.3	2.8	1.2	30	〃	〃－〃
124	DE 06	埋土	不定形			8.2	5.7	1.7	80	粘板岩	夏油川・仙人－古生界
125	DF 53	〃	〃			5.5	2.7	1.8	20	硬質泥岩	奥羽山地－中新統
126	DE 09	竪穴埋土	〃			4.4	4	0.9	7.7	〃	〃－〃
127	DE 06		〃			5.4	3.4	0.8	8.3	〃	〃－〃
128	DF 12	竪穴埋土	〃			10.6	7.6	1.3	11.0	珪質輝石安山岩	奥羽山地－鮮新統
129	DE 18	床直上	〃			8.3	5.2	1.5	60	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地－中新統
130	DG 53		〃			7.3	4.6	1.2	40	〃	〃－〃
131	DE 06	埋土	〃			4.4	4	1.3	20	〃	〃－〃
132	DG 09	竪穴埋土	〃			6.4	3.9	1	17	流紋岩質細粒凝灰岩	〃－〃
133	〃	埋土	〃			8.8	3.7	1.2	40	粘板岩	夏油川・仙人－古生界
134	DE 06		〃			6	5.9	1.2	40	硬質泥岩	奥羽山地－中新統
135	DF 09	埋土	〃			7.7	3.8	0.9	23.6	珪質泥岩	〃－〃
136	DE 09		〃			7.3	3.6	1.5	40	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
137	〃		〃			5.5	4.3	0.8	15.3	石質細粒凝灰岩	奥羽山地－古生界
138	DE 18		〃			6.5	2.8	1.3	27.3	硬質泥岩	奥羽山地－中新統
139	〃		〃			5.7	4.9	0.8	30	石質細粒凝灰岩	奥羽山地－古生界
140	DE 09	竪穴埋土	〃			7.5	6.7	1.6	80	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地－中新統
141	〃	〃	〃			5.7	4.4	1.4	30	珪質極細粒凝灰岩	〃－〃
142	DE 18	No.7	〃			3.1	2.6	0.7	5.8	流紋岩質細粒凝灰岩	〃－〃
133	DE 09	埋土	〃			5.9	3.1	1.3	16	硬質泥岩	〃－〃
144	DF 12	〃	〃			5.3	3.2	1.1	17.5	〃	〃－〃
145	DE 12	埋土	〃			7.9	4.3	2	70	〃	〃－〃
146	DF 06		〃			4.1	3.1	1.1	12.3	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
147	DE 09	埋土	〃			4.3	2.9	1	12.5	流紋岩質細粒凝灰岩	〃－〃
148	DE 18		〃			6.2	3.7	2	50	珪質極細粒凝灰質	〃－〃
149	DF 06	一括	〃			7.2	2.7	1.5	32.3	硬質泥岩	〃－〃
150	DE 06	埋土石	〃			5.5	2.9	0.8	11.7	硬質凝灰質泥岩	〃－〃

151	DE 18	No.121	不定形			3.5	2.6	0.9	7.6	硬質泥岩	奥羽山地－中新統
152	DD 12	埋土	〃			8.6	6.8	3.2	120	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
153	DE 18		〃			5.7	3.8	1	18.3	〃	〃－〃
154	DF 06	一括	〃			5.5	3.3	1.4	24.5	〃	〃－〃
155	DE 18	No.76	〃			5.4	5.1	1.2	30	硬質泥岩	〃－〃
156	DF 53	埋土	〃			4.3	5.1	0.7	14.2	〃	〃－〃
157	DE 12	〃	〃			4.2	2.1	0.7	7.6	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
158	DE 18		〃			3.4	4.1	1.1	16.5	硬質泥岩	〃－〃
159	DE 18		〃			5.9	5.5	0.9	19	石質細粒凝灰岩	〃－〃
160	〃		〃			5.2	4.6	0.7	17.5	硬質泥岩	〃－〃
161	DE 06		〃			5.1	4.4	0.6	13.6	珪質極細粒凝灰岩	〃－〃
162	DE 09		〃			7.2	2.9	1.9	26	硬質泥岩	〃－〃
163	DE 18		〃			7.8	4.7	1.7	70	〃	〃－〃
164	DG 12	Ⅱ	〃			3.8	5.7	1.5	30	〃	〃－〃
165	DE 09	埋土	〃			5.4	5	1.5	40	〃	〃－〃
166	DE 18		〃			4.2	2.8	1.1	13.2	〃	〃－〃
167	DE 09	埋土	〃			7.5	3.7	1	27.2	〃	〃－〃
168	DE 06	〃	〃			3.8	2.7	0.8	6.8	〃	〃－〃
169	DE 09		〃			3.7	2.2	0.5	3.8	〃	〃－〃
170	〃	柱穴埋土	〃			5.8	2.6	0.7	8.8	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
171	〃		〃			7	4.9	1.5	30	硬質泥岩	〃－〃
172	DE 18	No.36	〃			3.1	2	0.9	7	珪質泥岩	〃－〃
173	〃		〃			5	2.6	1	16	硬質泥岩	〃－〃
174	〃	No.45	〃			5.3	4.2	0.8	12	〃	〃－〃
175	DE 09	柱穴埋土	〃			4.5	3.3	1.5	22	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
176	DE 06	〃	〃			4.8	4.2	1	15.6	硬質泥岩	〃－〃
177	DE 09	〃	〃			5.8	3.4	0.8	9.5	珪質泥岩	〃－〃
178	DE 18		〃			6.3	3.3	1.1	21	硬質泥岩	〃－〃
179	〃	No.37	〃			4.2	2.2	1.1	9.8	〃	〃－〃
180	〃	No.31	〃			2.9	2.2	0.6	4	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
181	DE 09	埋土	〃			5.8	3.5	1.1	30	硬質泥岩	〃－〃
182	DE 06	〃	〃			5.2	6	1.6	40	〃	〃－〃
183	〃	〃	〃			2.2	2	0.9	2.8	蛋白石	〃－〃
184	DE 06	Ⅱ	〃			4.9	3.2	0.6	15	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
185	DE 09	埋土	〃			5.5	6.1	1	23.5	硬質泥岩	〃－〃
186	DF 03		〃			4.2	2.5	0.7	6.1	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
187	DF 09		〃			4.3	4.1	0.5	5	珪質泥岩	〃－〃
188	DF 09	埋土	〃			5.2	3	1	15.2	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
189	DE 09	柱穴埋土	〃			3.6	3.3	0.7	11.6	硬質泥岩	〃－〃
190	〃	〃	〃			9.3	5.6	2.2	100	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
191	DE 18		〃			7.7	5.1	1.5	50	〃	〃－〃
192	DF 12		〃			6.1	3.2	1	14.2	〃	〃－〃
193	DE 06	埋土	〃			6.2	5.3	1.1	26.3	硬質泥岩	〃－〃
194	DF 15	柱穴埋土	〃			5.9	4.1	0.7	14	珪質泥岩	〃－〃
195	DE 12	埋土	〃			5.5	3.5	1	14.5	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
196	DF 12	柱穴埋土	〃			3.9	3	1	13	珪質泥岩	〃－〃
197	DE 09		〃			4.7	3.1	0.8	9	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
198	〃	埋土	〃			4.3	2.7	1.6	16.5	珪質極細粒凝灰質	〃－〃
199	DF 53		〃			3.9	2.5	0.6	4	硬質泥岩	〃－〃
200	DE 18	No.100	石鏃	○		7.1	1.7	0.9	6.6	珪質極細粒凝灰岩	奥羽山地－中新統
201	DE 09	柱穴埋土	〃		○	4.4	1.3	0.6	3.2	硬質凝灰質泥岩	〃－〃
202	DE 18		〃		○	4.7	2.7	0.4	2.5	珪質極細粒凝灰岩	〃－〃
203	DE 06	Ⅱ	磨製石斧		○	8.4	3.7	2.5	120	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地－中新統
204	DF 53	埋土	磨石		○	10.2	8.4	2.9	280	両輝石安山岩	奥羽山地東縁－中新統
205	DE		〃		○	14	7.6	3.4	370	〃	〃－〃
206	DF 12		〃	○		10.8	7.3	6.9	790	〃	焼石岳火山群－第四紀
207	DE 18	埋土	〃	○		5.7	4.8	3.1	100	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地－中新統
208	DE 06	Ⅱ	〃	○		7.3	5.4	2.9	120	〃	〃－〃
209	DF 03	埋土	〃	○		6.9	6.8	2.6	170	両輝石安山岩	奥羽山地東縁－中新統
210	DF 18	軽石くい域	〃	○		9.1	6.7	3.2	220	石質細粒凝灰岩	奥羽山地－中新統
211	DE 06	Ⅱ	〃	○		9	8.3	3.9	460	両輝石安山岩	焼石岳火山群－第四紀
212	DE 18		〃	○		10.1	7.8	3.6	450	〃	〃－〃
213	DE 06	埋土	〃	○		10.9	5.7	2	170	緑色凝灰岩	奥羽山地－中新統
214	DE 18	No.76	〃	○		10.1	9	5	660	花崗閃緑岩	豊沢ダム付近－中生代
215	DE 09	埋土	[illegible]			8.9	7.9	3	280	両輝石安山岩	奥羽山地東縁－鮮新統
216	DE 06	Ⅱ	[illegible]			7.7	5.1	2.9	90	〃	〃－〃

217	D E　0 9	竪穴埋土	第三b-1			16.9	9.4	6.8	1,300	両輝石安山岩	奥羽山地一鮮新統
218	D E　1 8	〃	〃 b-1			7.6	4.5	2.9	130	〃	奥羽山地東縁一鮮新統
219	D E　0 6	Ⅱ	〃 b-2			12.9	7.5	3.9	470	〃	〃　〃
220	D E　0 9	竪穴埋土	〃 b-2			10	6.1	3.5	260	〃	〃　〃
221	〃	〃	〃 b-2			7.9	5	2.9	160	〃	〃　〃
222	D E　1 8	上 64	〃 b-2			9.8	8.2	5.3	440	〃	〃　〃
223	D E　0 6		〃 b-2			9.7	8.5	2.2	200	石英細粒凝灰岩	奥羽山地一中新統
224	D E　0 9		〃 a-2			7.3	5.9	4.3	240	両輝石安山岩	奥羽山地東縁一鮮新統
225	D F　0 3		〃 a-2			7.7	6.1	3.9	190	〃	〃　〃
226	D E　0 6	埋　土	〃 a-2			9.3	7.7	5.4	410	〃	〃　〃
227	D E 0 0 9	竪穴埋土	〃 a-2			9.1	9	5	690	〃	〃　〃
228	〃	〃	〃 a-2			8.2	6.1	5	340	〃	〃　〃
229	D E　1 8	埋　土	〃 a-2			7.5	5.6	3.8	220	〃	〃　〃
230	D E　0 6	Ⅱ	〃 a-2			8.5	5.4	4.9	310	〃	〃　〃
231	D E　0 9	埋　土	磨 凹a-2			9.5	5.9	3.5	330	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流一古生界
232	D E		〃			7.8	5.3	3.3	160	両輝石安山岩	奥羽山地東縁一鮮新統
233	D E　0 9	竪穴埋土	半円状2			12.2	6	2.2	190	両輝石安山岩	奥羽山地東縁一鮮新統
234	D E　1 8	柱穴ﾎﾟｯﾄ	〃			8.5	8.2	2.9	330	〃	〃　〃
235	D E　0 6	埋　土	石　皿			14.1	7	4.1	380	両輝石安山岩	焼石岳火山群一鮮新統
236	D E　1 8	上 106	〃			9.4	9.2	2.5	230	〃	奥羽山地東縁一鮮新統
237	〃	埋　土	〃			6.9	4.7	3.1	110	〃	〃　〃
238	D E　1 2	〃	〃			12.6	9.1	4.1	590	〃	〃　〃
239	D F　1 2	〃	〃			8.2	6	4.6	200	〃	〃　〃
240	D E　1 8	〃	〃			16.7	16.6	5.4	170	〃	焼石岳火山群一第四紀
241	〃		〃			8.9	8.9	5.9	680	〃	〃　〃
242	D F　0 3		〃			8.5	7.4	6	500	〃	奥羽山地東縁一鮮新統
243	D E　0 9	埋　土	〃			14	10.4	2.8	580	〃	〃　〃
244	D E　1 8	周　辺	〃			14.5	13.9	2.4	770	〃	〃　〃
245	〃	上 119	〃			10	8.1	9.1	1010	〃	焼石岳火山群一第四紀
246	〃	埋　土	〃			13.9	7.9	2.8	350	〃	〃　〃
247	D F　1 5	竪穴埋土	〃			22	10.5	10.6	1,300	〃	奥羽山地東縁一鮮新統
248	D E　1 8	周　辺	〃			14.5	8.9	2.4	440	〃	〃　〃
249	D F　1 2	埋　土	磨製品			6.1	3.5	1	30	石英粗粒凝灰岩	奥羽山地一中新統
250	D E　0 9		〃			5.8	4.5	1.2	40	緑色凝灰岩	〃　〃
251	D G　0 6	埋　土	〃			7.3	4.4	1.6	50	石英粗粒凝灰岩	〃　〃
252	D E　0 9	〃	〃			11.4	3	1.6	70	粘板岩	夏油川仙人一古生界
253	D E　0 6	〃	〃			15.9	2.5	2.1	110	〃	〃　〃
254	D E　0 9	〃	〃			4.7	2.2	1.1	14.5	〃	〃　〃
256	D E　0 6	Ⅱ	〃			8.2	2.7	1.3	40	〃	〃　〃
257	D E　0 9	竪穴埋土	石錘 a			3.6	2.1	0.5	2.4	珪質泥岩	奥羽山地一中新統
258	D F　1 5	竪穴埋土	石匙横			4.1	3.5	0.9	14.8	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地一中新統
259	D E　0 9	〃	〃横			4.2	5.2	1	17.3	珪質角礫粗粒凝灰岩	〃　〃
260	〃	〃	〃縦			2.8	3.2	0.5	8	珪質泥岩	〃　〃
261	D F　1 5	〃	〃横			1.8	7.4	0.8	8	〃	〃　〃
262	〃	〃	〃縦			5.1	3	0.5	5.8	鉄石英	〃　〃
263	〃	〃	〃縦			7.6	2.5	1	18.2	硬質凝灰質泥岩	〃　〃
264	D E　0 9	〃	〃縦			6.9	3.9	0.7	17.8	〃	〃　〃
265	D F　0 6		不定形			8	4.7	2.3	80	粘板岩	夏油川仙人一古生界
266	D E　0 9	竪穴埋土	〃			5.9	2.8	1	17.3	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地一中新統
267	D E　0 9	竪穴埋土	磨製石斧			6.4	3.2	1.2	30	石英角礫粗粒凝灰岩	〃　〃
1	D E　1 8	上 145	磨　石			7.7	6.9	6.4	470	両輝石安山岩	焼石岳一第四紀
2	〃	上 69	〃			10.5	7.3	3.3	180	流紋岩質凝灰岩	奥羽山地一中新統
3	〃	上 135	〃			9.1	4.7	5.7	370	硬質泥質凝灰岩	〃　〃
4	〃	上 94	〃			10	8.8	6.6	820	両輝石安山岩	焼石岳一第四紀
5	〃	上 54	〃			19	7.7	5.7	650	淡緑色凝灰岩	奥羽山地一中新統
6	〃	上 62	石　皿			22.6	13.5	3.9	1,840	プロピライト	〃　〃
7	〃	上 96	砥　石			11.1	10.4	3.7	180	両輝石安山岩	焼石岳一第四紀
8	〃	上 133	凹　c-2			3.9	8.7	5.3	650	〃	〃　〃
9	〃	上 147	凹　c-2			8.3	7.4	4.5	280	プロピライト	奥羽山地一中新統
10	〃	上 37	凹　c-2			12.2	7.5	4.2	590	〃	〃　〃
11	〃	上 140	石錘B			6.9	6.4	2.1	220	〃	〃　〃
12	〃	上 69	〃 B			7.6	5.5	1.8	90	〃	〃　〃
13	〃	上 51	〃 A			7.7	6.7	2	150	〃	〃　〃
14	D E　1 8		定形的d			6.2	3.2	1.4	30	珪質泥岩	〃　〃
15	〃	上 69	〃 l			5.7	2.2	1.4	16.2	硬質泥岩	〃　〃

16	DE 18	点 140	不定形			4.7	3.7	1.2	21.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
17	〃	点 140	石鏃a	○		2.7	2	0.5	5.5	〃	〃—〃
18	〃	点 143	〃a	○		2.7	2	0.4	1.5	〃	〃—〃

DJ21住居跡

1	DJ 21		石鏃a	○		3.4	2.4	0.5	2.5	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
2	〃		石匙縦	○		5.4	1.6	0.7	6.5	硬質凝灰質泥岩	〃—〃
3	〃		〃		○	4.9	1.9	0.8	7	〃	〃—〃
4	〃		不定形			5.3	3.8	1.6	30	硬質凝灰質泥岩	〃—〃
5	〃		〃			7.5	2.4	1.1	20	〃	〃—〃
6	〃		〃			5.9	4.8	1	25.6	珪質泥質凝灰岩	〃—〃
7	〃		〃			6.5	4.5	1	23	〃	〃—〃
8	〃		〃			4.4	3.5	1	14.6	〃	〃—〃
9	〃		〃			5.1	3.6	1.2	13.2	〃	〃—〃
10	〃		半円形			10.5	6.4	3.3	340	ホルンフェルス質細粒粘板岩	夏 油—古生界
11	〃	東西ベル	石 皿		○	6.8	7.2	5.5	430	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中生代
12	〃	東西ベル	〃		○	11.1	8.8	4.2	560	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
13	〃	東西ベル	磨製品		○	5.1	4.6	2.3	60	硬質泥岩	〃—〃

EA12住居跡

1	EA 12		石鏃B	○		5.9	5	1.4	50	プロピライト凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	〃		〃C	○		5	5.1	1.4	50	緑色凝灰岩	〃—〃
3	〃		〃B	○		6.9	4.9	1.3	70	プロピライト凝灰岩	〃—〃
4	〃		〃C	○		5.8	5.6	1.4	60	緑色凝灰岩	〃—〃
											〃—〃
5	〃	埋 土	定形的	○		5.9	3.1	1.1	22	流紋岩細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
6	〃	〃	〃	○		4.2	3.1	0.6	7.8	珪質泥岩	〃—〃
7	〃	〃	不定形			5.4	3.5	1	15.4	流紋岩細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
8	〃	ベルト	〃			4.9	2.3	0.8	9	凝灰質硬質泥岩	〃—〃
9	〃	埋 土	〃			4.8	3.6	1	14.5	〃	〃—〃
10	〃	〃	〃			3.6	3.1	1.1	11.3	珪質泥岩	〃—〃
11	〃		〃			3.5	2.3	0.4	6	凝灰質硬質泥岩	〃—〃
12	〃	床面下	〃			4.7	3.4	1	15.4	〃	〃—〃
13	〃		〃			8.7	5.1	1.7	50	〃	〃—〃
14	〃		〃			4.8	2.5	0.7	6.8	〃	〃—〃
15			石鏃a	○		2.3	1.9	0.5	2	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
16			〃b	○		2.3	1.9	0.6	1.4	流紋岩細粒凝灰岩	〃—〃
17	EA 12	床面南西	石匙縦	○		6.5	2.4	0.8	12	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
18	EA 12		〃	○		7.2	2.7	0.8	17.4	凝灰質硬質泥岩	〃—〃
19	〃	埋 土	〃横		○	5	3.3	1.2	17.8	〃	〃—〃
20	EA 12		砥 石		○	7.4	4.6	3.2	70	熔岩細粒両輝安山岩	焼石岳—第四紀
21	〃		〃		○	8.6	6.8	1.9	100	凝灰質砂岩	奥羽山地—中新統

EE50住居跡

1	EE 50住	埋土内	使用痕		○	6.2	7.2	1.8	40	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	〃		石鏃A	○		7.4	5.3	1.7	100	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	〃		凹み石	○		11.6	8	5.5	650	両輝石安山岩	奥羽山地—鮮新統
4	〃	埋土内	石 核			9.7	5.2	2.9	130	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
5	〃		〃			8	5.4	4	150	硬質泥岩	〃—〃

DH18住居跡

1	DH 18		[illegible]			6.7	5.4	3	130	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統

ＤＪ50住居跡出土石器一覧表

1	ＤＪ　５０	埋土	不定形			5.6	3.5	0.9	18.5	硬質泥質凝灰質	奥羽山地—中新統
2	〃	張床埋土	〃			5	2.3	0.5	5.5	〃	〃　—　〃
1	ＤＦ　１５	埋土	石錐a	○		2.7	1.9	1	5	硬質泥岩	〃　—　〃

ＥＡ21住居跡出土石器一覧表

1	ＥＡ　２１	埋道部上	石錐a		○	2	1.7	0.4	1.3	硬質泥質凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	〃	埋土	石匙横	○		3.7	4.4	1	14.5	〃	〃　—　〃
3	〃	ベルト埋	不定形			4.5	2.5	1.1	10.5	〃	〃　—　〃
4	〃	埋土	〃			4.3	3.2	0.7	13	〃	〃　—　〃

ＤＡ24住居跡出土石器一覧表

1	ＤＡ　２４		磨石	○		11.5	7.9	5.8	780	花崗閃緑岩	豊浦ダイ—中世代
2	〃	埋土	石錐B		○	4.5	4.6	0.9	20	緑色凝灰石	奥羽山地—中世代
3	〃	埋土	定形e	○		6.1	4.8	1	13.2	硬質泥岩	〃　—中新統
4	〃	埋土	石皿			17	7.9	1.2	170	両輝石安山岩	奥羽山地—鮮新統
5	〃	埋土	ﾁｯﾌﾟ			19.5	8.4	3	640	〃	〃　—　〃

ＥＩ62住居跡出土石器一覧表

1	ＥＩ　６２		磨石		○	15.2	6.2	4.5	490	プロピライト	奥羽山地—中新統
2	〃	カマド付			○	13.2	7.8	6	900	〃	〃　—　〃
3	〃				○	7.5	7.5	3.3	380	〃	〃　—　〃
4	〃	カマド住			○	11.3	7.5	6.4	530	〃	〃　—　〃
5	〃				○	7.5	7.7	6.5	450	緑色凝灰岩	〃　—　〃
3	ＤＥ　１８		ﾁｯﾌﾟ			10.9	7	5.2	390	〃	焼石岳—第四紀
4	〃		ﾁｯﾌﾟ			11.8	6.3	6.1	600	角閃岩	北上・奥羽（？）—中世代
5	〃		ﾁｯﾌﾟ			14.8	6.7	2.9	430	両輝石安山岩	奥羽山地—中新統
6	〃		ﾁｯﾌﾟ			9.6	6.9	2.9	250	プロピライト質凝灰岩	〃　—　〃
7	〃		ﾁｯﾌﾟ			7.2	5	2.4	120	黒雲母片岩	胆沢川上流？—古生界
8	〃		ﾁｯﾌﾟ			7.7	5.1	3.9	240	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
9	〃		磨石		○	12.2	5	4	330	〃	〃　—　〃
10	〃		〃		○	8.6	5.1	4.7	280	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
11	〃		〃	○		16.2	8.5	5.6	1150	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
12	〃		〃	○		11.6	8.5	6.2	850	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
13	ＤＥ　０９		石錐B	○		6.9	6.2	2	100	〃	奥羽山地—中新統
14	ＤＥ　１８		石皿		○	7	5.2	3.1	160	〃	焼石岳—第四紀
15	〃		凹み石		○	5.9	5.4	4.4	150	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
16	〃		不定形			4.3	3.1	0.5	14	硬質泥質凝灰質	〃　—　〃
17	〃		〃			6	3.8	1	17	硬質泥岩	〃　—　〃
18	〃		〃			6.9	5.7	1.4	70	石質細粒凝灰岩	〃　—　〃
19	〃	〃	〃			7.3	5	1.8	60	〃	〃　—　〃
20	〃		定形f	○		6.3	3.1	1.5	30	〃	〃　—　〃
21	〃		石匙縦		○	3.9	2.5	0.9	9.7	鉄石英	〃　—　〃
22	〃		定形e		○	3.7	1.9	1.1	8	石質泥岩	〃　—　〃
23	〃		石錐a		○	3.2	1.8	0.7	2.5	硬質泥質凝灰質	〃　—　〃
24	〃		両刃石	○		17	8.2	3.4	560	淡緑色角礫凝灰石	〃　—　〃
25	〃		磁石		○	11.1	6.9	5	300	石質凝灰岩	〃　—　〃
※36	ＤＩ　５３		定形d		○	8.6	3.2	1.2	40	硬質凝灰質泥岩	〃　—　〃
※12	ＤＪ　０９		不定形			7.7	4.1	0.8	20	〃	〃　—　〃
※13	〃		〃			10.6	5.2	1.3	70	〃	〃　—　〃
1	ＣＧ　２１		石錐B	○		6.9	5.9	2.2	110	両輝石安山岩	奥羽山地—古生界
2	〃		不定形			6.9	3.3	1.5	40	石質泥質凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	〃		〃			4.5	3.4	0.8	11.2	石質細粒凝灰岩	〃　—　〃
4	〃		〃			3.3	2.9	0.4	2.7	硬質泥岩	〃　—　〃
5	〃		〃			4.6	1.6	0.6		石質細粒凝灰岩	〃　—　〃
6	〃		〃			3.9	2.9	0.8	6.7	硬質泥岩	〃　—　〃
※5	ＣＩ　２１		不定形			4.4	2.5	1.2	15	〃	〃　—　〃
※7	〃		〃			4.3	2.5	0.9	8.3	硬質泥岩	〃　—　〃
※8	〃		〃			3.1	3.0	0.7	6.0	〃	〃　—　〃

※9	C I 21		石鏃B	○		8.0	6.1	2.2	70	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
※2	C H 74		〃		○	7.0	5.8	1.7	90	（ヒロマライト）	〃 — 〃

C ブロックピット (1)

1	C B 56		石皿		○	20.5	12.8	5	1,770	両輝石安山岩	幾石岳—第四紀
2	C B 18		石鏃A	○		6.7	5.7	1.9	90	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	〃		〃A	○		8.7	6.3	1.8	130	〃	〃 — 〃
4	〃		〃B	○		8.2	5.6	1.8	100	〃	〃 — 〃
5	〃		石皿		○	5.9	5.1	3.7	140	両輝石安山岩	幾石岳—第四紀
6	〃		ﾌﾚｰｸ1			17	5.3	5	510	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
7	〃		不定形			5.6	3.3	1.6	30	硬質泥質凝灰岩	〃 — 〃
8	〃		〃			6.2	3.7	1.1	22.4	硬質泥岩	〃 — 〃
9	C B 53		石鏃A	○		7.8	6.1	1.9	120	緑色凝灰岩	〃 — 〃
1	C C 56		定形d		○	7.6	3.7	1.7	40	硬質泥質凝灰岩	〃 — 〃
2	〃		磨製品	○		4.5	3.7	1.1	30	珪質泥岩	〃 — 〃
3	C C 59		ﾌﾚｰｸ1			9.1	5.3	3.6	250	角閃極細粒泥岩	夏油川—古生界
1	C D 15		不定形			7.1	6.9	1.8	70	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	〃		石鏃c		○	6.9	4.7	1.5	60	緑色凝灰岩	〃 — 〃
3	〃		磨石	○		11.3	9.8	3.7	560	両輝石安山岩	〃 —古生界
4	〃		凹み石	○		8.3	7.8	4.1	260	〃	〃 — 〃
5	〃		ﾌﾚｰｸ2			9.9	6.2	4.4	310	プロピライト	〃 —中新統
6	〃		磨製品	○		7.5	5.3	1.3	90	緑色石質凝灰岩	〃 — 〃
7	〃		不定形			7.5	2.9	1.1	30	硬質泥質凝灰岩	〃 — 〃
1	C H 59		石鏃A	○		8.4	4.2	1.8	80	緑色凝灰岩	〃 — 〃
1	C I 30		磨石	○		11.2	6.5	5.1	510	両輝石安山岩	〃 —古生界
2	C I 24		不定形			4.8	2.5	1.2	15	石質極細粒凝灰岩	〃 —中新統
3	〃		〃			7.2	5.4	1.7	70	珪質泥岩	〃 — 〃
4	C I 62		〃			4.4	2.8	1	11	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
5	C I 27		ﾌﾚｰｸ1			10	7.6	2.7	320	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
1	C J 30		ﾌﾚｰｸ2			7.2	5.8	4.9	250	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
2	〃		磨石		○	9.5	5.4	4.8	230	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	〃		不定形			5.9	4.1	1.1	30	硬質泥質凝灰岩	〃 — 〃
4	〃		定形f			3.4	2.7	0.8	7	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
5	〃		石錐様	○		6.1	4.6	1.1	30	〃	〃 — 〃
6	〃		ﾌﾚｰｸ1			6.9	5.6	4.5	170	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
7	〃		定形d	○		5.8	3.8	1.5	30	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
8	〃		石鏃B		○	9.1	6.9	1.8	140	石英安山岩	〃 — 〃
9	〃		不定形			5.3	3.3	1	20	硬質泥質凝灰岩	〃 — 〃
10	〃		〃			4.6	2.6	1.3	20	〃	〃 — 〃
11	〃		〃			5.6	3.2	1.5	30	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
12	〃		ﾌﾚｰｸ1			9.5	6	4.7	300	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
13	〃		磨石		○	9.7	6.8	5.2	500	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
14	〃		磨製品	○		12.2	3.2	1.8	100	石質凝灰岩	奥羽山地—中新統
15	〃		〃	○		5.1	4.1	0.6	18.2	滑石	宮守？ —古生界
16	〃		石皿		○	15.2	12	6.7	1,240	紫雲極細粒両輝石安山岩	幾石岳—第四紀

D ブロックピット (1)

1	D A 15	埋土	両刃石	○		11	6.6	2.1	130	石質凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	D A 27		磨石		○	6.8	4.9	2.6	40	両輝石安山岩	幾石岳—第四紀
3	〃		石皿？		○	16.8	13.7	14.7	3,690	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
4	D A 24		石鏃B	○		8	6.3	1.9	140	〃	〃 — 〃
5	〃		ﾌﾚｰｸ1			8.8	7.3	4.3	450	両輝石安山岩	幾石岳—第四紀
6	〃		ﾌﾚｰｸ2			10.7	8.5	5.7	650	プロピライト	奥羽山地—中新統
7	〃		磨石		○	8.2	4.3	3.9	280	両輝石安山岩	幾石岳—第四紀
8	D A 33		ﾌﾚｰｸ1			14.2	6.9	3.5	580	結晶岩ホルンフェルス	夏油—古生界
9	D A 15	登録No.4	ﾌﾚｰｸ1			14.1	7.4	5.4	670	プロピライト	奥羽山地—中新統
10	D A 15	埋土	ﾌﾚｰｸ2			7.1	6.6	4.2	250	流紋岩	〃 — 〃
11	〃	〃	凹み石	○		10.6	8.1	4.2	520	緑色凝灰岩	〃 — 〃
1	D B 21		石鏃c			6.3	6.2	1.6	70	石質凝灰岩	〃 — 〃
2	D B 30		石匙			6.3	3.6	1.4	30	結晶岩	夏油—古生界
3	〃		定形的			7.7	2.7	1.2	30	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
4	D B 24		石鏃B	○		6.5	5.8	1.8	90	両輝石安山岩	幾石岳—第四紀
5	D B 24		ﾌﾚｰｸ1			7.2	5.1	4	200	花崗閃緑岩質凝灰岩	奥羽山地—中新統
6	〃		ﾌﾚｰｸ1			15.2	6.6	6	690	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
7	D B 15		石鏃c	○		6.9	6.6	2.1	100	緑色凝灰岩	〃 — 〃
8	〃		磨石		○	9.8	5.6	2.7	100	両輝石安山岩	幾石岳—第四紀
9	〃		不定形			6	4.2	1.1	30	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
10	〃		〃			5.1	2.5	1.3	14.7	珪質泥岩	〃 — 〃
11	〃		〃			4.1	3.4	0.5	7.7	硬質泥岩	〃 — 〃

12	DB 15		不定形			5.1	4.2	0.9	20	硬質泥質凝灰岩	奥羽山地—中新統
13	DB 12		〃			10.1	5.6	1.7	90	珪質泥岩	〃 — 〃
14	〃		〃			6	4.3	1	14.7	凝質泥質凝灰岩	〃 — 〃
15	DB 27		磨石			8.9	6.2	4.8	360	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
16	〃		〃			10.4	8	4.6	500	斑糲石安山岩	焼石—第四紀
17	DB 12		不定形			5.1	3.2	2	40	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
18	〃		〃			3.9	2.9	0.4	4	硬質泥岩	〃 — 〃
19	DB 18		敲製品			6.7	5.4	2	110	緑色凝灰岩	〃 — 〃
20	〃		〃			8	2	1.2	30	石質凝灰岩	〃 — 〃
21	〃		磨石			8.5	5.8	2.6	130	緑色凝灰岩	〃 — 〃
22	〃		〃			13.8	5.9	3.2	350	〃	〃 — 〃
23	〃		〃			9.2	8	4.1	450	斑糲石安山岩	焼石—第四紀
24	〃		石錘B			6.3	4.9	1.4	60	〃	〃 — 〃
25	〃		〃 A			8	6.6	2.3	150	プロピライト	奥羽山地—中新統
26	〃		砥石			12.3	12	8.5	530	斑糲石安山岩	焼石—第四紀
27	DB 30		ﾌﾚｰｸ			8.6	7.4	5	350	〃	〃 — 〃
28	〃		磨製品			7	5.6	1.2	80	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
29	DB 18		不定形			8.3	5.2	3.4	130	硬質泥質凝灰岩	〃 — 〃
30	〃		〃			6	4.3	1.3	30	硬質泥岩	〃 — 〃
31	〃		ﾌﾚｰｸ			7.4	6.8	5.1	210	硬 〃	夏油—古生界
32	DB 24		定形的			7.6	4.5	1.8	50	〃	奥羽山地—中新統
33	DB 21		ﾌﾚｰｸ			9.9	10	7.1	1,070	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
34	DB 15		磨石			7.7	5.5	5.3	250	プロピライト	〃 — 〃
35	〃		石錘B			7.2	6.4	2.1	120	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
36	〃		ﾌﾚｰｸ			12.5	7.5	6.9	570	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
37	DB 30		石錘B			7.4	7.3	1.6	130	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
38	DB 24		砥石			16.1	13.6	7.4	990	斑糲石安山岩	焼石—第四紀
40	DB 18		磨石			9.9	7.6	4.8	550	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
41	DB 21		石錘			7.8	6.3	2	140	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
42	DB 24		〃			9.2	6	1.7	100	〃	〃 — 〃
1	DD 24		石匙横			4	5.8	1.6	12.5	硬質泥岩	〃 — 〃
2	〃		ﾌﾚｰｸ			11.1	5.8	3.2	270	斑糲石安山岩	〃 —古生界
3	DD 21		石匙b			3	1.7	0.3	1.4	流紋岩質細粒凝灰岩	〃 —中新統
4	DD 15		石錘B			8.2	6.1	2.6	150	斑糲石安山岩	〃 —古生界
5	〃		ﾌﾚｰｸ			6.2	5.4	4.3	200	〃	〃 — 〃
6	DD 24		砥石			7	7	4	140	〃	〃 — 〃
1	DE 24		ﾌﾚｰｸ			13.1	5.2	3.6	340	〃	〃 — 〃
2	〃		石皿			15.3	11.1	7.1	1,380	〃	〃 — 〃
1	〃		不定形			4.2	3.5	1.8	30	玻璃質流紋岩	〃 —中新統
2	〃		ﾌﾚｰｸ			9.8	5.8	2.9	260	緑色凝灰岩	〃 — 〃
4	DF 27	a	石錘B			6.9	5.8	2.3	100	〃	〃 — 〃
5	〃	a	削製石器			5	4.3	0.8	30	〃	〃 — 〃
1	DH 09	埋土a	不定形			3.6	2.5	0.8	6.5	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
2	DH 15		石錘A			7.8	4.9	1.8	80	緑色凝灰岩	〃 — 〃
3	〃		砥石			5.6	3.6	2.6	40	斑糲石安山岩	焼石岳—第四紀
4	〃		石錘			10.8	8.6	3.2	320	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
5	〃		ﾌﾚｰｸ			9.6	4.4	4	170	斑糲石安山岩	焼石岳—第四紀
6	DH 50		石錘d			4.3	1.7	0.9	5.5	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
7	DH 15		磨石			10.8	6.2	3	330	緑色凝灰岩	〃 — 〃
8	〃		使用痕			5.5	3.1	0.7	10.3	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
9	〃		石皿			14.5	12.8	10.7	2,250	緑色角礫岩	〃 — 〃
1	DG 15		不定形			7.1	5	1.6	50	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	〃		〃			5.2	3	0.8	13	〃	〃 — 〃
3	〃		砥石			8.2	6	4	120	閃岩輝石安山岩	焼石岳—第四紀
4	DG 18		不定形			6.6	5.2	1.1	40	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
5	DG 12	埋土	〃			4.8	2.7	0.8	9	珪質泥岩	〃 — 〃
6	〃	〃	石錘A			7	5	1.1	40	流紋岩質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
7	DG 18		不定形			4.7	3.8	1.4	20	硬質泥岩	〃 — 〃
8	DG 12		石匙縦			4	2.5	0.7	6	鉄石英	〃 — 〃
9	〃		石錘d			4.4	1.9	0.8	7	珪質泥岩	〃 — 〃
10	〃		定形e			6.3	2.1	1	13.5	玻璃質流紋岩	〃 — 〃
11	〃		石錘A			11.2	8.6	2	220	石質凝灰岩	〃 — 〃
12	〃	埋土	〃 B			8.2	7.2	1.8	140	〃	〃 — 〃
13	〃		ﾌﾚｰｸ			13.3	6.9	4.6	530	緑色凝灰岩	〃 — 〃
14	〃		ﾌﾚｰｸ			14.6	5	3	360	〃	〃 — 〃
15	DG 15		石皿			18	12.2	6	15.7	玻璃質輝石安山岩	〃 — 〃
16	〃		不定形			8.7	5.8	1.8	90	硬質泥岩	〃 — 〃
17	〃		〃			4	3.2	0.9	10	流紋岩質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
18	〃		石錘A			6.5	5.2	1.6	60	緑色凝灰岩	〃 — 〃

1	D I 0 9		不定形			10	6.5	2.6	140	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
2	〃		定形b	○		7.6	2.7	1.3	30	硬質泥岩	〃—〃
3	〃		不定形			4.2	3.9	1	8.7	流紋岩質極細粒凝灰岩	〃—〃
4	〃		〃			6.9	2.4	1	15.1	珪質泥岩	〃—〃
5	〃		〃			3	2	0.6	2.6	〃	〃—〃
6	D I 0 6		石錐C	○		5.7	5.5	2.1	100	硬質細粒凝灰岩	〃—〃
7	〃		不定形			3.1	2	0.7	4.1	流紋岩質極細粒凝灰岩	〃—〃
8	〃		石匙縦		○	2.7	2.3	0.4	3.1	硬質泥岩	〃—〃
9	〃		磨石		○	10.8	10.4	5.4	700	斜輝石安山岩	〃—古生界
10	D I 0 9	埋土	▶ a-1			8.2	7.8	5.8	470	緑色凝灰岩	〃—中新統
11	D I 0 6		定形f	○		4.6	3.5	1.2	22.7	粘板岩	夏油—古生界
12	〃		〃		○	3.8	3.6	1.2	18.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
13	〃		不定形			2.6	1.9	0.4	1.3	〃	〃—〃
14	〃		凹み石		○	8.8	5.5	4.2	310	緑色凝灰岩	〃—〃
15	〃		▶ a-1			11.9	8.9	5.8	650	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
16	D I 1 2		石皿		○	16.8	13.8	6	2,020	斜輝石安山岩	焼石岳—第四紀
17	D I 2 1		石錐B	○		9.6	6.3	2.4	160	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
18	〃		不定形	○		5.8	3.8	0.9	20	硬質凝灰質泥岩	〃—〃
19	D I 0 6		石錐A	○		7.2	4.5	2.6	90	硬質細粒凝灰岩	〃—〃
20	〃	壁中	▶ a-2			8.2	7.1	4.9	240	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
21	D I 0 3	下部	▶ a-2			10.7	6.4	6.1	520	斜輝石安山岩	奥羽山地—中新統
22	〃	〃	石匙横	○		5.1	3.2	0.6	9	硬質泥岩	〃—〃
23	D I 2 1		▶ a-1			9.6	6.4	4.6	320	緑色凝灰岩	〃—〃
24	D I 2 1		▶ a-2			11	7.7	4	330	斜輝石安山岩	奥羽山地—古生界
25	〃		定形f	○		4.7	2.3	0.9	11.2	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
26	D I 0 6	壁中	▶ a-1			14.4	7.7	7.5	1,080	緑色凝灰岩	〃—〃
27	D I 2 1		不定形			8.9	6.8	1.7	90	硬質泥岩	〃—〃
28	D I 2 1		▶ a-1			8	6.7	2.8	210	緑色凝灰岩	〃—〃
29	D I 1 2		石錐a	○		1.7	1.3	0.5	0.6	硬質泥岩	〃—〃
30	D I 2 1		不定形			5.1	1.8	0.7	7	珪質泥岩	〃—〃
31	D I 0 6		石錐b	○		2.1	1.4	0.4	1	硬質凝灰質泥岩	〃—〃
32	〃		凹み石	○		13.5	7.6	3.3	420	プロピライト	〃—〃
33	D I 2 1	埋土上部	不定形			4.5	2.5	0.7	9	硬質凝灰質泥岩	〃—〃
34	D I 6 5		▶ a-1			9.9	5.9	5.6	440	緑色凝灰岩	〃—〃
37	D I 0 6		石錐	○		10.2	8.9	2.3	320	プロピライト質凝灰岩	〃—〃
1	D J 6 8	B L 1	不定形			5.8	2.8	0.9	13.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	D J 6 8		石匙縦		○	6.4	2.2	0.9	15.5	珪質極細粒凝灰岩	〃—〃
3	〃		〃 横		○	4.5	2.6	0.6	8	珪質泥岩	〃—〃
4	D J 5 9		〃 縦	○		7.5	3.1	0.7	10.3	硬質凝灰質泥岩	〃—〃
5	D J 6 8	B L 6	〃 縦			7.1	1.8	0.5	7.7	〃	〃—〃
6	D J 6 9	埋土上部	不定形			10.7	5.9	2.6	130	〃	〃—〃
7	D J 6 8	B L 6	石錐B	○		6.9	5.7	1.8	100	緑色凝灰岩	〃—〃
8	〃	〃	石匙縦	○		6.3	2.8	0.5	8.5	珪質泥岩	〃—〃
9	〃	〃	〃 縦	○		8.2	2.2	0.7	15	〃	〃—〃
10	D J 5 0	上部	定形d		○	6.4	3	1.8	30	硬質泥質凝灰岩	〃—〃
11	〃		石匙縦	○		5.5	1.6	0.5	4	珪質泥岩	〃—〃

Eブロックピット(1)

1	E A 5 0	上部	不定形			2.7	2.2	0.6	2.8	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	E A 0 3		▶ a-2			5.9	5.2	3.2	130	緑色凝灰岩	〃—〃
3	〃		凹み石		○	8	4.7	2.2	130	泥岩	夏油川か仙人—古生界
4	〃		磨石		○	10	7.9	4.8	160	粗粒砂角礫岩	奥羽山地—中新統
5	E A 0 9	埋土ML	石匙縦	○		7.2	3.8	1.1	30	硬質極細粒泥岩	〃—〃
6	E A 1 5		凹み石	○		11.8	7.2	4.4	260	溶岩質極細粒斜輝石安山岩	焼石岳—第四紀
7	E A 6 5		不定形			10.7	5.8	1.6	90	硬質極細粒泥岩	奥羽山地—中新統
8	E A 5 0		〃	○		4.6	3.8	1.3	19	石英安山岩	〃—〃
9	E A 0 3		石錐A	○		6.8	4.8	1.1	50	プロピライト質凝灰岩	〃—〃
10	E A 6 8		石匙縦	○		5.7	1.9	0.8	7	硬質極細粒泥岩	〃—〃
11	E A 0 3		半円形		○	6.8	6.2	1.3	80	石質細粒凝灰岩	〃—〃
12	E A 2 7		磨製品	○		9.2	8.5	2.3	220	珪質泥岩	〃—〃
13	〃		石錐C	○		5.9	4.4	1.5	50	プロピライト質凝灰岩	〃—〃
14	E A 0 3		石皿		○	9	5.1	2.7	150	〃	〃—〃
15	〃		磨石		○	7.5	5.1	3.2	90	輝石安山岩	〃—〃
16	E A 5 9		定形d	○		9.8	4.1	2.4	90	石質細粒凝灰岩	〃—〃
17	〃		〃 d	○		7.5	4.2	2.1	70	泥岩	夏油川か仙人—古生界
18	E A 0 3		石皿		○	9.6	6.4	3.4	330	斜輝石安山岩	焼石岳—第四紀
19	〃		〃		○	12.2	8	4.5	580	〃	〃—〃
20	E A 5 9	上部	石匙縦	○		7	2.4	1	17	硬質極細粒泥岩	奥羽山地—中新統
21	〃	〃	石錐a	○		4.7	1.7	0.5	6	硬質泥岩	〃—〃

22	E A 0 3		石鏃A	○		6.4	5.2	1.6	60	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
23	E A 0 9	上部	〃 B		○	4.4	4.1	1.1	20	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
24	E A 5 9	下部	ﾌﾚｰｸ			11	6.2	3.6	330	緑色凝灰岩	〃 — 〃
25	E A 6 8		定形d	○		4.4	1.5	0.5	6.3	硬質極細粒泥岩	〃 — 〃
26	〃		石鏃d	○		10.4	4.7	2.5	120	ホルンヘエルス質極細粒泥岩	夏油川—古生界
27	E A 0 3		定形f	○		6	5	1.7	40	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
28	E A 5 0		不定形			3	2.5	0.6	2.3	石質極細粒泥岩	〃 — 〃
29	〃	ベルト中	定形d		○	8.5	5.2	2.1	120	ホルンフェルス質極細粒泥岩	夏油川—古生界
30	E A 5 9	上部	不定形			5.8	5.9	0.7	30	硬質極細粒泥岩	奥羽山地—中新統
31	E A 1 5	埋土	削み石	○		10.4	5.8	3.6	180	輝石安山岩	〃 — 〃
32	E A 0 3		石匙縦	○		8	1.6	0.7	9.8	硬質極細粒泥岩	〃 — 〃
33	〃		不定形			9.6	4.2	2	90	硬質泥岩	〃 — 〃
34	〃		〃			7.4	4	1.7	50	〃	〃 — 〃
35	E A 1 8		磨石	○		11.8	9.2	6.3	1,010	斑糲石安山岩	〃 — 〃
37	E A 0 3		ﾌﾚｰｸ			17.3	5.4	2.9	440	緑色凝灰岩	〃 — 〃
1	E B 0 9	埋土	石鏃A	○		8.1	6.6	2.6	200	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
2	E B 0 9	〃	磨石	○		9	6.4	3.7	380	斑糲石安山岩	奥羽山地—鮮新統
3	〃	〃	不定形			3.4	3.2	0.5	5.8	硬質泥質凝灰岩	〃 —中新統
4	〃		敲石	○		7.4	4.9	2	80	斑糲石安山岩	奥羽山地—鮮新統
5	E B 1 5		ﾌﾚｰｸ			8.3	6.4	3.6	240	〃	〃 — 〃
6	〃		磨製石斧		○	5.2	4.2	2.5	80	石質極細粒凝灰岩	〃 —中新統
7	E B 0 9		ﾌﾚｰｸ			14.1	8.2	6.1	1,000	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
8	〃		石皿		○	11.5	6.2	6.1	740	斑糲石安山岩	奥羽山地—鮮新統
9	E B 5 0		〃		○	14.5	8.7	1.9	290	淡色緑色凝灰岩	〃 —中新統
10	E B 0 9		ﾌﾚｰｸ			11.6	5.6	4.6	400	斑糲石安山岩	〃 —古生界
11	E B 5 4	床面直上	石鏃A	○		6.5	6.8	1.4	60	緑色凝灰岩	〃 —中新統
12	E B 5 0		不定形			5.2	3.5	0.9	15.2	泥質珪質泥岩	〃 — 〃
13	E B 5 4		石鏃b	○		3	1.7	0.9	4	〃	〃 — 〃
14	E B 0 6		ﾁｯﾌﾟ			7	6.3	2.4	160	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
15	E B 1 2	壁中	磨石	○		9.3	8.8	4.8	500	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
16	E B 0 9	埋土中	石鏃A	○		8.6	6.9	2.3	170	斑糲石安山岩	奥羽山地—鮮新統
17	E B 0 6		ﾌﾚｰｸ			10.4	7	4.5	270	プロピライト質凝灰岩	〃 —中新統
18	〃		ﾌﾚｰｸ			10	6.9	4	250	〃	〃 — 〃
19	E B 0 9	埋土中	ﾌﾚｰｸ			13.4	6.3	3.6	430	〃	〃 — 〃
20	〃	〃	磨石	○		8.8	8.1	3.3	280	斑糲石安山岩	〃 —古生界
21	E B 0 9	〃	敲石	○		15	6	3	340	緑色凝灰岩	〃 —中新統
22	〃		石鏃a	○		2.7	1.5	0.5	1.2	泥質珪質泥岩	〃 — 〃
23	E B 1 5		ﾌﾚｰｸ			13.3	7.3	4.5	500	緑色凝灰岩	〃 — 〃
24	〃		ﾌﾚｰｸ			11.8	4.9	2.8	210	〃	〃 — 〃
25	E B 1 2		磨石		○	9.1	5.1	4.1	260	〃	〃 — 〃
26	〃		磨石1			16.6	8.3	3.3	570	粘板岩	夏油川か仙人—古生界
27	E B 6 2		石匙縦		○	6.5	3.4	1	22.5	泥質珪質凝灰岩	奥羽山地—中新統
28	E B 0 9		ﾌﾚｰｸ			12.1	6.9	5.2	450	斑糲石安山岩	〃 —古生界
29	E B 5 3	下部	ﾌﾚｰｸ			10.4	7.1	3.2	360	プロピライト質凝灰岩	〃 —中新統
30	〃	〃	削み石		○	6.7	6.2	3.6	80	閃岩質極細粒斑糲石安山岩	焼石岳—第四紀
31	E B 0 3		定形f	○		5.4	3	1.8	30	珪質泥質凝灰岩	奥羽山地—中新統
32	〃		石鏃C	○		6.3	6.5	1.8	80	石質凝灰岩	〃 — 〃
33	〃	下部	石匙縦	○		5.9	2.4	0.6	8.5	泥質珪質泥岩	〃 — 〃
34	〃	〃	定形楕	○		7.7	2.9	1.5	30	珪質泥岩	夏油川—古生界
35	〃	〃	〃		○	6.1	3.4	1.2	20	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
36	E B 5 3		〃 b		○	4.8	3.6	1	20	珪質泥岩	〃 — 〃
37	E B 0 6		石鏃C	○		6.2	6	1.6	90	緑色凝灰岩	〃 — 〃
38	E B 6 2		不定形			4.5	3.7	0.9	13	蛇紋岩	北上山地—古生界
39	〃		定形d	○		7.5	4.9	1.5	50	硬質細粒泥岩	奥羽山地か夏油—古生界
40	E B 5 0		石匙横	○		5.7	2.3	0.8	11.6	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
41	E B 5 0		不定形			2.2	1.9	0.3	1	硬質泥岩	〃 — 〃
42	E B 1 2		定形f	○		4	1.8	0.7	5.8	珪質泥岩	〃 — 〃
43	E B 0 9		削み石	○		7.6	7.1	3.8	190	斑糲石安山岩	奥羽山地—鮮新統
44	E B 0 9	埋土中	不定形			6.1	3.8	0.9	15.5	珪質泥質凝灰岩	奥羽山地—中新統
45	E B 1 5		石匙縦	○		6.1	2.9	0.7	10	硬質泥岩	〃 — 〃
46	E B 5 9		〃 横	○		4.7	5.9	0.9	13.6	泥質珪質凝灰岩	〃 — 〃
47	〃		ﾌﾚｰｸ			14.3	6.8	2.9	440	プロピライト	〃 — 〃
48	E B 1 5		磨製品	○		4.6	3.3	1.1	20	流紋岩質細粒凝灰岩	〃 — 〃
49	E B 0 3	東側穴	定形d		○	5.3	3.9	1.2	30	泥質珪質泥岩	〃 — 〃
50	E B 1 5	フラスコ	ﾌﾚｰｸ			17.8	6.5	2.9	470	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
51	E B 0 9	埋土中	不定形			7.5	5.5	1.1	50	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
52	E B 5 0		円盤			7.2	6.9	3.5	200	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
53	E B 5 3		ﾌﾚｰｸ			6.3	4.7	2.3	90	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
54	E B 6 2		磨製石斧		○	4.4	2.9	2.8	60	緑色凝灰岩	〃 — 〃
55	E B 5 0		石鏃	○		5.6	5.8	1.9	70	〃	〃 — 〃

56	EB 50		石鏃	○		6.5	5.8	2.1	90	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
57	EB 03		〃	○		4.7	5.1	1.7	50	〃	〃 — 〃
58	EB 53		不定形		○	2.8	2.6	0.5	8	〃	〃 — 〃
1	EC 50		不定形			8.4	3.8	1.4	50	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	EC 06	上部	ﾌﾚｰｸ			5.1	7.9	2.5	250	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
3	EC 06	〃	石匙横			3.1	5.4	0.7	9.2	粘板岩	夏油—古生界
4	EC 15		不定形			5.7	3.1	1.1	12.5	両輝石安山岩	奥羽山地—中新統
5	〃		〃			5.8	2.8	1.1	19.2	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
6	〃		凹み石	○		9.2	8.4	6	640	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
7	EC 24		定形d	○		8	3.8	1.8	60	ホルンフェルス質泥岩	夏油—古生界
8	EC 21		石匙縦		○	5.2	2	0.5	6	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
9	EC 24		定形e	○		7.2	2.4	1.6	22.8	硬質泥質凝灰岩	〃 — 〃
10	EC 24		石鏃A	○		10.7	8.2	1.6	170	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
11	EC 24		〃 B	○		7.4	6.7	2.3	150	花崗閃緑岩	豊沢ダム—中世代
12	EC 27		〃 B	○		6	5.2	1.9	70	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
13	〃		不定形			6.4	5	2.1	70	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
14	EC 50		石匙横	○		5.6	3.4	0.7	13.8	鉄石英	〃 — 〃
15	〃		磨石1			18.5	8.6	4.7	780	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
16	EC 21		不定形			7.1	3.8	0.9	40	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
17	EC 50		石鏃b	○		2.2	1.8	0.3	0.6	石質凝灰岩	〃 — 〃
18	EC 65	下部	不定形			7.8	5.4	1.2	40	硬質泥岩	〃 — 〃
19	EC 15		石鏃A	○		8.5	7.4	1.3	100	緑色凝灰岩	〃 — 〃
20	EC 06	中央下部	ﾌﾚｰｸ			9.9	7.4	5.6	450	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
21	EC 06	上部	定形d	○		4.8	4	1.5	30	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
22	〃	〃	〃 d			6.8	1.9	1.2	30	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
23	EC 27		ﾌﾚｰｸ			8.8	8.2	4.4	480	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
24	EC 50		不定形			8.4	3.8	1.3	50	ホルンフェルス質泥岩	夏油—古生界
25	EC 27		定形d	○		7.6	4.1	1.9	60	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
26	EC 53		石匙縦		○	4.1	2.2	0.8	6.7	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
27	EC 27	下部	ﾌﾚｰｸ			8.8	7.7	2.7	300	緑色凝灰岩	〃 — 〃
28	〃	〃	ﾌﾚｰｸ			11	5	3.3	230	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
29	〃	〃	紡石		○	6.5	5	2.5	70	緑色凝灰岩	〃 — 〃
30	EC 24		ﾌﾚｰｸ			12.6	6.2	5.7	550	〃	〃 — 〃
31	EC 56		不定形			5.7	4.5	0.8	28	石質凝灰岩	〃 — 〃
32	〃		石匙縦			6.1	1.9	0.7	6.8	石質泥岩	〃 — 〃
33	EC 71	縁から45cm	凹み石			11.4	6.5	2.8	300	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
34	EC 15		磨製石斧		○	6.4	6.2	2.9	220	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
35	EC 06		定形f		○	2.4	2.5	0.9	5.5	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
36	EC 68	BL1	不定形			6.8	4.8	0.9	30	〃	〃 — 〃
37	〃	BL5	〃			9	7.7	3.8	420	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
38	〃	BL5	〃			9.4	5	3.4	160	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
39	〃	東西ベルト	〃			8.5	3.4	1	30	流紋岩	〃 — 〃
40	〃	〃	〃			4.6	2.4	1	8	石質泥岩	〃 — 〃
41	EC 68	東西ベルト	不定形			6.4	2	0.5	7.5	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
42	EC 06		凹み石	○		9.6	8.5	4.3	440	プロピライト	〃 — 〃
43	EC 27		石鏃A	○		7.6	4.7	2.2	90	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
44	〃		〃 C	○		6.4	5.3	2.1	90	〃	〃 — 〃
45	EC 56		ﾌﾚｰｸ			7.7	6	3.7	180	〃	〃 — 〃
46	〃		石鏃e	○		5.3	3	1	15	〃	〃 — 〃
47	〃		ﾌﾚｰｸ			7.3	7.2	2.7	170	緑色凝灰岩	〃 — 〃
48	EC 53		石鏃A	○		9	6.7	2	160	プロピライト	〃 — 〃
49	EC 21		定形d		○	5.7	3.5	1.7	40	ホルンフェルス質泥岩	夏油—古生界
50	〃		磨石	○		13.4	7.9	6.9	1,050	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
51	〃		〃	○		10.4	9.1	6.3	740	〃	奥羽山地—中新統
52	EC 62		石皿		○	10.8	5	3.2	300	〃	〃 — 〃
53	〃	上部	磨石1	○		16.2	6.1	3.3	370	ホルンフェルス質結灰岩	奥羽・夏油—古生界
1	ED 18	埋土	不定形			8	4.2	2.5	100	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	ED 18	〃	〃			3.7	2.6	1.2	7.1	〃	〃 — 〃
3	〃	〃	〃			4.4	2.7	1.4	16	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
4	ED 24					11.3	8.7	2.9	550	プロピライト	〃 — 〃
5	〃		ﾌﾚｰｸ			10.1	7.2	4	390	両輝石安山岩	〃 — 〃
6	〃		ﾌﾚｰｸ			8.2	6.1	6.4	320	緑色凝灰岩	〃 — 〃
7	〃		ﾌﾚｰｸ			15.1	6.6	4.8	730	泥岩	夏油川か仙人—古生界
8	ED 15		石匙横	○		3.6	4.9	0.8	11.2	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
9	〃		磨製石斧		○	4.8	3.2	0.9	20	泥岩	夏油川か仙人—古生界
10	ED 53		〃		○	4.	3.8	1.9	50	〃	〃 — 〃
11	ED 24		ﾌﾚｰｸ			13.3	9.3	2.7	450	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
12	ED 68	上部	磨製石斧	○		13.6	6.9	3	250	石質極細粒泥岩	夏油川—古生界

13	E D 2 1		■a-1			7.1	6.1	3.3	200	両輝石安山岩	奥羽山地—鮮新統
14	〃		■a-1			11.2	7.8	6.6	630	緑色凝灰岩	〃 —中新統
15	E D 5 3		凹み石	○		9.3	7.7	5.5	520	〃	〃 — 〃
16	E D 5 9		石鏃b	○		2.4	1.5	0.4	1	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
17	E D 5 3		不定形			6	6.4	1.2	40	珪質泥岩	〃 —鮮新統
18	E D 6 2		定形d	○		6.1	4.1	2.1	50	凝灰質硬質泥岩	〃 —中新統
19	E D 5 3		不定形			4.3	3	1.2	16	〃	〃 — 〃
20	E D 5 9	セクション	定形d	○		7.6	3.5	1.5	40	泥岩	夏油川か仙人—古生界
21	E D 5 0		定形f	○		5.6	3.2	1.5	30	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
22	E D 1 5		〃	○		8.8	4.4	2.2	70	泥岩	夏油川か仙人—古生界
23	〃		■a-1			8.3	5.7	2.6	200	両輝石安山岩	奥羽山地—鮮新統
24	E D 5 6	上部	定形d	○		5.3	3	1	20	凝灰質硬質泥岩	〃 —中新統
25	E D 5 9		石匙縦			5.1	2.8	0.5	21.5	〃	〃 — 〃
26	E D 5 3		■a-1		○	8.5	8.9	6.8	670	プロピライト	〃 — 〃
27	E D 2 7		磨石			11.2	8.5	6.2	800	捕岩極細粒両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
28	E D 1 8		不定形			8.2	4.8	1.6	60	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
29	〃		〃			7.2	2.2	1.7	20	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
30	〃		〃			5.7	5	1.2	30	泥岩	夏油川か仙人—古生界
31	E D 2 4	上面	〃			6.4	3.9	1.6	40	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
32	E D 5 ヨ		石鏃B	○		7	6.1	1.5	100	両輝石安山岩	〃 —鮮新統
33	〃		■a-1			9.6	7.4	4.4	400	〃	〃 — 〃
34	E D 5 3		磨製石斧	○	○	11.8	4.7	3	280	緑色凝灰岩	〃 —中新統
35	〃		石匙		○	5.2	4	1	15	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
36	E D 1 8		半円形			10	5.7	2.8	240	緑色凝灰岩	〃 — 〃
1	E E 2 4		■a-1			12.8	5.4	2.1	240	粘板岩	夏油川か仙人—古生界
2	〃		凹み石	○		9.6	8.1	4.6	450	玻璃質輝石安山岩	奥羽山地—中新統
3	E E 5 9	上部	不定形			6.9	6.6	1.8	70	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
4	E E 2 4		〃			7.6	3.8	1	30	硬質泥岩	〃 — 〃
5	〃		石鏃c	○		5.1	1.9	0.6	5.2	珪質泥岩	〃 — 〃
6	E E 1 2		磨石			9	8.5	6.7	740	両輝石安山岩	〃 —古生界
7	〃		不定形			4.5	3.2	1.8	26	硬質凝灰質泥岩	〃 —中新統
8	〃		■a-1			5.3	5.4	3.3	110	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
9	〃		■a-1			14.7	7	4.8	700	〃	〃 — 〃
10	〃		砥石			9	7.3	4.1	290	両輝石安山岩	〃 —古生界
11	〃		石鏃C		○	4.9	3	1.4	20	石質凝灰岩	〃 —中新統
12	〃		〃B	○		4.7	3.8	1.5	40	〃	〃 — 〃
13	E E 1 5		■a-1			8.9	5.9	4.1	270	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
14	〃		磨石	○		10.9	7.5	6.3	670	両輝石安山岩	焼石岳—中生代
15	E E 5 9	C層下部	不定形			3.6	2.9	1	12.5	硬質泥質凝灰岩	奥羽山地—中新統
16	E E 0 3		石鏃A	○		7.1	5.3	1.8	90	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
17	E E 0 3		〃	○		8.4	6.7	2.1	160	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
18	〃		不定形			5.9	3.4	1.5	23.5	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
19	E E 1 2		凹み石	○		8.4	6.7	3.3	220	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
20	〃		〃	○		6.2	5.4	4.9	200	〃	〃 — 〃
21	E E 1 2		不定形			4.2	3.2	0.8	8.7	硬質泥質凝灰岩	〃 — 〃
22	E E 5 0		磨石	○		10.3	5.6	2.8	180	両輝石安山岩	〃 — 〃
23	〃		磨製石斧	○		6.1	1.7	0.9	17	粘板岩	夏油川か仙人—古生界
24	E E 6 8		砥石	○		10.6	8.4	5.4	700	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
25	E E 2 4		磨製品		○	8.2	2.7	1.3	40	泥岩	夏油川か仙人—古生界
26	E E 5 0		〃		○	10.2	3.4	2	90	粘板岩	〃 — 〃
27	〃		定形f	○		8.4	3.6	2.5	80	硬質泥質凝灰岩	奥羽山地—中新統
28	E E 0 3		石鏃b		○	2.5	2.4	0.5	2.8	硬質泥岩	〃 — 〃
29	〃		石鏃	○		4.1	2.6	0.6	4	珪質泥岩（珪化木）	〃 — 〃
30	E E 1 2	不明	石鏃			3.4	2.1	0.3	2.5	石質極細粒泥岩	夏油川—古生界
31	E E 0 3		不定形			4.1	2.1	0.7	5.5	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
32	E E 6 2	C埋土	石鏃A	○		5.8	4.9	1.7	90	緑色凝灰岩	〃 — 〃
33	E E 5 0		■a-1			8.6	8.5	4.9	320	玻璃質輝石安山岩	〃 — 〃
34	E E 6 8		石鏃A	○		6.5	4.8	1.8	60	花崗閃緑岩	〃 —中世代
35	〃	I上部Ⅰ	■a-2			9.7	7.3	4.8	330	珪質極細粒凝灰岩	〃 —中新統
36	E E 6 5	床面	定形d	○		10.2	4.6	2.3	120	硬質泥岩	〃 — 〃
37	E E 2 4		石鏃b	○		2.6	1.7	0.4	1	珪質泥岩	〃 — 〃
38	E E 0 3		不定形			8.6	4.7	1.4	50	チャート質粘板岩	北山山地—古生界
39	E E 5 9		凹み石	○		9.6	8.8	4.7	540	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
40	〃		〃	○		10.6	6.2	3.3	230	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
41	E E 0 9	理土中	砥石		○	8.1	5.6	5.2	70	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
42	E E 1 5		磨石	○		11.3	9.1	5.8	600	両輝石安山岩	〃 — 〃
43	〃		石鏃A	○		7.5	6.5	1.8	100	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
44	E E 7 4		石斧	○		7.4	4.1	1.2	40	泥岩	夏油川か仙人—古生界
45	E E 1 2		石錘		○	14.3	10	4.3	530	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀

46	EE 62		定形d	○		7.5	3.9	1.6	50	泥岩	夏油か仙人—古生界
47	EE 57		石鏃b	○		2.7	1.5	0.5	1.5	硬質極細粒泥岩	夏油川— 〃
48	EE 15		不定形			5.5	3	1.4	22.3	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
49	EE 71		〃			4.1	3.7	1.9	30	〃	〃 — 〃
50	〃		〃			4.1	3.4	0.9	11.5	〃	〃 — 〃
51	EE 68	上縁36cm	磨石	○		9.4	8.5	6.7	750	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
52	EE 27		石鏃B	○		6.2	5.5	1.6	60	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
53	EE 12		磨石	○		12	9.6	4	690	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
54	〃		▶			7.3	7.4	4.1	290	〃	〃 — 〃
55	〃		不定形			6.4	2.4	1.3	20	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
56	EE 50		▶			10.4	7.4	4.6	530	両輝石安山岩	〃 —古生界
57	〃		▶			8	6.9	5.5	320	花崗閃緑岩	鳴沢ダム—中世代
58	EE 59		磨石	○		11.2	8	6.5	880	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
59	EE 59		片刃石	○		9.1	3.6	2.4	100	粘板岩	夏油川か仙人—古生界
60	〃		▶			11.9	7.2	5.6	730	プロピライト	奥羽山地—中新統
61	EE 15		磨石		○	10.4	10	6.5	850	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
62	EE 03		石匙横		○	5.4	3.8	1.2	30	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
63	〃		▶			16.9	8.2	5.4	1,230	花崗閃緑岩	〃 — 〃
64	EE 12		▶			7.7	6.3	5.9	340	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
65	EE 03		磨製品	○		4.8	3.6	1.2	40	石質凝灰岩	〃 — 〃
66	EE 68		磨石		○	6.1	4.2	4.4	210	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
67	EE 65		敲石		○	15.7	11.5	5.9	930	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
68	〃		〃		○	12.9	5.8	3.8	420	〃	〃 — 〃
69	EE 59		凹み石	○		10.3	7.2	6.1	580	〃	〃 — 〃
70	〃		敲石			10	5.9	4.2	370	緑色凝灰岩	〃 — 〃
1	EG 27	下部	石鏃A	○		8.5	7	2	160	緑色凝灰岩	〃 — 〃
2	EG 21		〃B	○		6.1	4.6	1.6	20	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
3	〃		両刃石	○		11.3	9.2	4.1	350	〃	〃 — 〃
4	EG 03		▶			14.6	6.5	3.1	470	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
5	〃		不定形			7.1	4.7	1.8	60	硬質泥岩	〃 — 〃
6	〃		石鏃A	○		6.7	6.7	1.3	70	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
7	〃		〃A	○		6.9	5.7	1.7	100	緑色凝灰岩	〃 — 〃
1	EF 27	№1上部	磨石	○		12.6	9.7	5.8	920	花崗閃緑岩	焼石岳—中生代
2	EF 74	下部				15.2	7.2	2.1	290	凝灰質緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	〃	〃	磨製品		○	4.9	2.2	1.6	24	溶岩質極細粒両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
4	EF 27		石鏃B	○		6.5	5.4	1.7	90	緑色凝灰岩	奥羽山地—古生界
5	〃		石匙横	○		4.4	6.2	1	19	石質凝灰岩	〃 —中新統
6	〃		定形d		○	6.1	3.3	1.4	28.2	〃	〃 — 〃
7	〃	上部	石鏃c	○		4.1	1.6	1.1	6	珪質泥岩	〃 — 〃
8	EF 50		▶			17.7	6	2.4	350	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
9	EF 56		磨製石斧		○	10.5	5.3	3.1	270	緑色凝灰岩	〃 — 〃
10	〃		〃		○	5.4	5.5	2.1	100	凝灰質緑色凝灰岩	〃 — 〃
11	EF 50		〃		○	8.2	6.1	2.5	220	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
12	EF 56		▶		○	11	6.9	2.3	250	凝灰質緑色凝灰岩	〃 — 〃
13	EF 27	g層	定形d	○		8.8	5.4	2.5	170	粘板岩	夏油川か—仙人—古生界
14	〃	〃	磨石	○		10.4	6.7	2.9	180	溶岩質極細粒両輝石安山岩	奥羽山地—中新統
15	EF 62	登—②	▶			13.8	6.3	3.3	300	粘板岩	夏油川か—仙人—古生界
16	〃	登—③	不定形			4.4	6.3	1.4	30	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
17	EF 27		石鏃B	○		7.8	5.5	1.5	90	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
18	EF 71		不定形			5.9	3.5	1.6	30	硬質泥岩	〃 — 〃
19	EF 68		〃			3	2.8	1.1	9.2	〃	〃 — 〃
20	EF 27	上部	凹み石	○		9.3	8.2	4.2	380	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
21	EF 24		定形e	○		9	2.6	1.4	40	珪質泥岩	〃 — 〃
22	EF 74	上部	凹み石	○		9.5	7.1	4.5	410	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
23	EF 71		石匙横	○		6.6	3.8	0.7	18.6	硬質泥岩	〃 — 〃
24	EF 27	h	石皿		○	26	16.5	7.8	3,330	両輝石安山岩	焼石岳—第四紀
25	EF 74		石鏃	○		5.7	5.9	1.6	60	流紋岩質凝灰岩	奥羽山地—中新統
1	EH 53		定形d	○		7.5	4.2	1.9	50	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
2	EH 50		半円g			7.8	6.2	1.4	100	硬質極細粒泥岩	夏油川—古生界
3	EH 71		石鏃C		○	6.1	5.4	1.7	80	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
4	EH 56		〃B	○		6	5.4	1.8	70	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
5	EH 03		〃A		○	9.9	6.1	2	190	〃	〃 — 〃
6	EH 06		凹み石	○		8.2	8.3	3.7	300	緑色凝灰岩	〃 — 〃
7	〃		磨石	○		8.8	5.5	2	120	〃	〃 — 〃
8	〃		▶			12.3	5.6	2.9	230	〃	〃 — 〃
9	EH 06		▶			13	7	5.9	610	花崗閃緑岩	鳴沢ダム—中生代
10	〃		磨製石斧		○	10.8	5.7	2.6	230	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統

1	E J 7 1		凹み石		○	9.6	6	4.4	240	両輝石安山岩	奥羽山地—古生界
2	E J 7 1		石匙横		○	5.2	4	1.9	15	泥質凝灰岩	〃 —中新統
3	E J 7 1	セフ北8	磨石	○		15.5	7	2	220	両輝石安山岩	〃 —古生界
4	〃		不定形			6.5	4.9	1.5	50	〃	鏡石岳—第四紀

E I ブロックピット

1	E I 6 5	Q 4 — a	■ a-7			12.6	8.4	6.3	680	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	〃	Q 2 a 層	石鏃B	○		5.6	5.1	1.8	60	〃	〃 — 〃
3	〃	Q 2 — b	〃 B	○		7.1	6.1	1.9	110	プロピライト	〃 — 〃
4	〃	Q 4 — c	磨石	○		12.9	8.1	3.1	480	〃	〃 — 〃
5	E I 6 8		石皿		○	18.2	10.1	9.1	2,680	両輝石安山岩	〃 —鮮新統
7	E I 6 2	1番バミ	石鏃a	○		3.8	1.9	0.6	9.5	珪質泥岩	〃 —中新統
8	E I 5 0		〃 d	○		3.8	1.3	0.8	3.5	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
9	〃		不定形			5.3	3.7	0.3	7.7	〃	〃 — 〃
10	E I 6 2	東西1層	〃			9.7	6.7	2.7	170	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃

石器製造址ピット

1	石器製作跡	東溝土器	不定形			4.8	3	0.8	9	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	〃 P 11		定形d	○		7.3	2.9	1.5	30	〃	〃 — 〃
3	〃 P 153		〃			7.5	3.6	1.5	40	〃	〃 — 〃
4	〃 P 2		石匙	○		1.6	1.5	0.7	8.1	〃	〃 — 〃
5	〃		磨石	○		11.9	9.1	3.6	560	両輝石安山岩	〃 —古生界
6	〃		■ a-1			17.4	7.6	5.7	990	プロピライト	〃 —中新統

仮No.ピット

1	仮No. 4		石匙縦			6.7	1.5	0.7	6	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
2	仮No. P 10		不定形			5.3	3.6	1.2	30	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
1	仮No. 3		半円磨			15	8	2.9	490	両輝石安山岩	鏡石岳—第四紀
2	仮No. 3		〃	○		8.6	7.1	2.9	280	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
1	仮No. 8		石匙横	○		6.6	3.4	0.8	17.8	硬質泥岩	奥羽山地—中新統

遺物包含層出土石器計測表 〔石鏃〕

登録番号	出土地点	出土層位	分類	残存状況 完全	残存状況 破損	最大値(cm) たて	最大値(cm) よこ	最大値(cm) あつさ	重量(g)	石材	備考
1	BJ 15	II—1	b		○	3.6	1.5	0.5	2	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	BI 15	II	b		○	3	2.3	1.1	6	〃	〃 — 〃
3	BI 18	II—1	b		○	3	2	0.8	3.3	硬質泥岩	〃 — 〃
4	BI 15	II—4	a		○	3	1.5	0.5	1.8	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
5	BJ 18	II—9	a	○		2.8	1.6	0.5	1.5	粘板岩	夏油川上流・仙人—古生界
6	BJ 15	II—5	a	○		3.1	1.7	0.5	1.6	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
7	BI 15	II—6	a	○		6.1	2	5	4	硬質泥岩	〃 — 〃
8	BJ 15	II—19	a	○		2.7	1.9	0.8	3	粘板岩	夏油川上流・仙人—古生界
9	BI 15	II—8	a	○		1.6	1.2	0.3	0.3	石質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
10	BH 15	II—1	c	○		3.2	1.3	0.5	2	珪質泥岩	〃 — 〃
11	BJ 18	II—8	a	○		4.3	2	0.9	6.2	流紋岩	〃 — 〃
12	BJ 15	III—6	b	○		2.2	1.5	0.5	0.7	硬質泥岩	〃 — 〃
13	BH 15	III—9	a	○		2	1.4	0.5	0.9	粘板岩	夏油川上流・仙人—古生界
14	BJ 12	IV—7	a		○	3.6	1.4	0.5	1.7	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
15	BJ 09	I—1	b		○	2.5	1.8	0.5	1.8	〃	〃 — 〃
16	BJ 12	II—2	b			3.3	2.2	0.9	5.5	粘板岩	〃 — 〃
17	BI 15	II—12	b			3.2	2.5	0.9	5.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
18	BI 15	II—9	a	○		2.9	1.7	0.5	2	〃	〃 — 〃
19	BJ 12	III—12	c	◇		4.7	3	0.8	9	硬質泥岩	〃 — 〃
20	BG 15	III—1	b	○		5.1	2.7	0.9	18.5	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
21	BJ 12	IV—3	a	○		2.7	1.7	0.5	1.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
1	CA 62	I—2	c		○	2.4	1.6	0.5	2.5	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	CICJ 9	I	c		○	5.7	1.8	1	9.6	〃	〃 — 〃
3	CB 18	I—6	a		○	2.6	1.8	0.3	1.6	〃	〃 — 〃
4	CB 15	I—4	a		□	2.6	1.6	0.5	1.7	〃	〃 — 〃
5	CI 12	I—3	a		○	2.8	1.8	0.4	1	〃	〃 — 〃
6	CB ?	I—7	a		○	3	1.9	0.6	2.4	硬質泥岩	〃 — 〃
7	CI 12	I—5	a		○	4.4	1.5	0.8	3.9	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
8	CI 12	I—7	a		○	2.4	1.8	0.7	2.2	石質極細粒凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
9	CB 18	I—10	a		○	3.6	2.2	0.6	3.7	硬質泥岩	〃 — 〃
10	CA 18	I	不明		○	3.5	1.5	0.4	2.3	〃	〃 — 〃
11	CI 12	I—6	〃		○	2.3	1.5	0.6	2.6	珪質石質凝灰質泥岩	〃 — 〃
12	CA 18	I	〃		○	4.3	1	0.6	2.7	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
13	CI 12	I—1	〃		○	2.3	1.5	0.3	0.8	硬質泥岩	〃 — 〃
14	CI 12	I—8	〃		○	2.4	0.8	0.2	0.3	〃	〃 — 〃
15	CC 59	I—1	A	○		3.5	1.8	0.4	2.3	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
16	CI 12	I—4	b	○		2	1.5	0.3	0.8	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
17	CJ 15	I	d	○		3.1	1.1	0.6	2	珪質石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
18	CE 18	I—1	a	□		4.7	2.8	1.3	15.8	硬質泥岩	〃 — 〃
19	CB 03	I—2	a	○		2.3	1.5	0.6	1.1	チャート質粘板岩	北上山地—古生界
20	CD 59	I—3	不明		○	3.6	2.4	0.5	4.4	石質極細粒凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
21	CB 12	IV—13	a	○		2.6	1.8	0.3	1.3	粘板岩	船質仙人付近—古生界
22	CA 15	IV—14	a	○		2.1	1.5	0.7	1.3	〃	石鏃？〃 — 〃
23	CA 12	IV—10	a		○	3	1.6	0.7	2.3	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
24	CA 12	IV—12	不明			5.1	2.8	1	13.2	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
25	CA 18	II—4	b	○		3.2	2.2	0.8	4.6	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
26	CB 15	II	b	○		2.8	1.4	0.5	1.4	〃	〃 — 〃
27	CI 53	II	不明			2.4	2.5	0.4	1.5	珪質石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
28	CB 18	II—14	〃			2.4	1.6	0.5	2	石質細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
29	CA 15	II—6	a		○	3.1	1.7	0.5	1.8	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
30	CH 15	III—21	不明			2	1.8	0.3	0.8	硬質泥岩	〃 — 〃
31	CA 12	III—2	a	○		2.7	1.7	0.5	1.4	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
32	CA 15	III—5	a	○		3.4	1.6	0.7	2.7	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
33	CI 12	III	a	○		3.5	1.9	0.9	3.8	硬質泥岩	〃 — 〃
34	CJ 03	III	a		○	3.1	2	0.3	4.6	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
35	CA 12	III—2	a	○		2.9	1.8	0.6	1.6	硬質泥岩	〃 — 〃
36	CH 15	III	a	○		3.4	2	0.6	2.5	〃	〃 — 〃
37	CJ 09	III	a	○		4	2	0.3	1.8	〃	〃 — 〃
38	CJ 12	III	a		○	2.4	1.5	0.5	1.4	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
39	CA 15	III—10	a		○	2.9	1.5	0.6	1.7	硬質泥岩	〃 — 〃
40	CJ 18	III	a	○		3.3	1.6	0.6	2.5	〃	〃 — 〃
41	CB 12	III—12	a	○		3.3	1.8	0.5	2	硬質泥岩	〃 — 〃
42	CJ 15	III	a		○	3.4	2.2	0.6	3	〃	〃 — 〃
43	CH 06	III	a		○	5.3	1.5	0.7	3.8	〃	〃 — 〃
44	CA 18	III—5	c	○		3.3	2.3	0.6	4	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
45	CJ 12	III	c	○		3.4	2	0.7	4	粘板岩	船質仙人付近—古生界
46	CC 09	III	c	○		4.3	2.7	1	10.8	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
47	CHIJ 50	?	c	○		2.9	1.8	0.9	3.8	(鉄石英) 硬質流紋岩	〃 — 〃
48	CJ—18	III	b	○		6.9	2.4	1.5	23.8	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃

49	C J 0 6	Ⅲ	b	○		2.3	1.8	0.3	1.3	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
50	C J 1 8	Ⅲ	b	○		4.1	2.7	1.1	10	硬質泥岩	〃 — 〃
51	C F 0 3	Ⅲ	b	○		7.4	2.2	1	19.6	硬質凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
52	C J 0 9	Ⅲ	b	○		2.7	2.4	0.5	2.8	硬質泥岩	〃 — 〃
1	E A 0 3	Ⅰ	a	○		2.5	2.2	0.5	1.9	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
2	E E 2 1	Ⅰ	a	○		1.6	1.5	0.5	0.8	〃	〃 — 〃
3	E H 2 7	Ⅰ	a	○		3.2	2	0.4	1.8	硬質泥岩	〃 — 〃
4	E C 1 5	Ⅰ	a		○	5.3	2	0.6	5.1	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
5	E A 1 8	Ⅰ	b	○		3.6	1.8	0.6	3	硬質泥岩	〃 — 〃
6	E G 2 7	Ⅰ	c		○	4	1.4	0.5	1.8	〃	〃 — 〃
7	E B 1 8	Ⅰ—1	不明		○	3.3	1.6	0.4	1	黒曜石	奥羽山地東縁—中新統
8	E C 6 2	Ⅰ	a	○		5.7	3.2	1.3	18.5	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
1	D C 1 8	Ⅱ		○		6	3.5	3.7	6.3	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	D C 0 6	Ⅱ		○		3.5	1.9	0.4	2.5	粘板岩	他人付近—古生界
3	D A 1 5	Ⅱ		○		3.9	2.6	0.9	6	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
4	D E 1 8	Ⅱ		○		3.2	1.8	0.5	1.8	〃	〃 — 〃
5	D B ?	Ⅱ		○		3.1	2	0.6	2.2	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
6	D J 1 2 G	Ⅱ		○		3.7	2.5	0.5	2.6	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
7	D E 1 2	Ⅱ		○		4.5	1.3	0.5	3	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
8	D D 2 4	Ⅱ			○	2.1	1.6	0.4	1	硬質泥岩	〃 — 〃
9	D E 1 2	Ⅱ	不明			2.6	2.9	0.3	1.6	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
10	D E 1 2	Ⅱ		○		2.6	2.2	1.6	3	硬質泥岩	〃 — 〃
11	D H 1 2	Ⅱ		○		3	1.8	0.7	3	〃	〃 — 〃
12	D J 1 2	Ⅱ		○		3.2	1.8	0.6	2	〃	〃 — 〃
13	D J ?	Ⅱ			○	2.5	1.7	0.4	1.2	〃	〃 — 〃
14	D D 2 1	Ⅱ			○	3.5	1.8	0.6	2.2	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
15	D J 0 9	Ⅱ			○	3.7	2.6	1.3	11.5	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
16	D J 1 2	Ⅱ			○	3.6	1.9	0.7	3.2	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
17	D I 2 1	Ⅰ—1	d		○	5.4	1.6	0.8	3	硬質泥岩	〃 — 〃
18	D G 0 3	Ⅲ	不明			2.7	2.1	0.8	4.4	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
19	D J 0 9	Ⅲ	a		○	2.1	1.8	0.3	0.8	珪質泥岩	〃 — 〃
20	D A 1 2	Ⅲ	a	○		2.3	1.6	0.5	1	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
21	D H 1 8	Ⅲ	c		○	2	1.1	0.4	0.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
22	D A 1 5	表面点上	不明		○	2.2	1.6	0.5	1.5	〃	〃 — 〃
23	D E 1 2	Ⅲ	a	○		2.8	1.8	0.5	2.1	極細粒珪質凝灰岩	〃 — 〃
24	D E 1 2	Ⅲ	a	○		3.3	2	0.5	2.3	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
※2	D C 1 8 G	Ⅲ	a	○		3.3	2	0.5	2	玻璃質流紋岩	〃 — 〃
※35	D I 6 2 G	古山床土面	b	○		2.6	1.7	0.3	1.3	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
(石匙)											
1	C A 5 0	Ⅰ—3	横		○	2.8	5.8	0.7	12.3	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	C E 1 8	Ⅰ—3	〃		○	3.5	3.1	0.5	4.5	珪質石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
3	C E 5 6	Ⅰ—1	〃		○	4.9	3.7	0.6	9	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
4	C E 5 9	Ⅰ—1	〃		○	3.1	4.3	0.6	5.8	(鉄石英) 玻璃質流紋岩	〃 — 〃
5	C D 0 6	Ⅱ	縦		○	7	4.3	1	33	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
6	C I C J 1 2	Ⅰ	横	○		4.7	5.8	0.7	12.3	石質凝灰岩	〃 — 〃
7	C H 1 8	Ⅰ	〃	○		2.3	4.8	0.6	6.3	珪質石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
8	C D 0 3	Ⅰ—1	〃		○	2.6	3.8	1	9.2	(鉄石英) 玻璃質流紋岩	〃 — 〃
9	C F 1 2	Ⅰ	〃		○	4.1	3.8	0.6	8	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
10	C B 6 2	Ⅰ—2	〃		○	2.6	4.3	1.1	9	チャート質粘板岩	北上山地—古生界
11	C I 1 2	Ⅰ—9	縦	○		4.9	2.5	0.7	7.2	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
12	C B 1 5	Ⅰ—7	〃	○		3.9	0.9	0.5	2	(鉄石英) 玻璃質流紋岩	〃 — 〃
13	C A 1 5	Ⅰ	〃	○		6.2	3.6	1.1	12	硬質泥岩	〃 — 〃
14	C E 1 8	Ⅱ—5	〃		○	5.2	1.2	0.7	8.2	珪質泥岩	〃 — 〃
15	C G 5 3	Ⅱ	横	○		6.9	3.3	0.8	30	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
16	C H 1 2	Ⅱ	〃	○		5.3	5.1	0.8	11.5	黒曜岩	奥羽山地東縁部—鮮新統
17	C H 0 9	Ⅱ—1	〃	○		6.9	3.5	0.9	21.8	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
18	C J 0 6	Ⅱ	〃	○		5	4.3	0.6	11	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
19	C E 0 6	Ⅱ	〃	○		2	3.2	0.4	2.5	(鉄石英) 玻璃質流紋岩	〃 — 〃
20	C A 1 5	Ⅱ—4	〃	○		5.2	3.5	1.3	21	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地—古生界
21	C I 5 3	Ⅱ—1	〃	○		4.2	6.5	1	30	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
22	C I 1 8	Ⅲ	縦		○	4.2	3.3	1.2	12.8	硬質泥岩	〃 — 〃
23	C G ?	Ⅲ	〃		○	4.1	2.4	0.7	6.6	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
24	C J 1 5	Ⅲ	横	○		6.1	2.7	1	14.6	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
25	C J 1 2	Ⅲ	〃	○		5.9	3.8	0.7	12.5	珪質泥岩	〃 — 〃
26	C C C D 9	Ⅰ—2	〃	○		3.4	4.7	0.8	8.5	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
27	C A 1 5	Ⅲ	〃	○		5.5	6.1	0.6	12	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
28	C C C D 9	Ⅰ—2	〃	○		4	5.1	1.1	20.3	玉髄	〃 — 〃
29	C A 1 2	Ⅲ—1	〃	○		4.3	5	0.8	11.8	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
30	C J C I C H 5 0	Ⅲ	〃	○		5.6	4.4	0.8	16	〃	〃 — 〃
31	C J 5 0	Ⅲ—14	〃	○		3.8	4.5	1	12	硬質泥岩	〃 — 〃
32	C J 1 5	Ⅲ	〃	○		3.2	2.3	0.8	4.8	(鉄石英) 玻璃質流紋岩	〃 — 〃

33	CJ 12	Ⅲ	横	○		2.5	4.1	0.6	5.4	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
34	CH ?	Ⅲ	＊	○		4.6	4.3	1.1	15.2	＊	＊ — ＊
35	CI 50	Ⅲ—11	＊	○		4.8	6.9	0.6	14.6	凝灰質硬質泥岩	＊ — ＊
36	CH 03	Ⅲ	＊	○		3.6	5.5	0.5	7.5	硬質泥岩	＊ — ＊
37	CI 09	Ⅲ	＊	○		3.8	5.1	0.6	11.3	粘板岩	和賀仙人付近—古生界
38	CH 06	Ⅲ	＊	○		4.8	4.4	0.9	12.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
39	CJ 18	Ⅲ	縦	○		7.3	3.7	1	27.7	凝灰質硬質泥岩	＊ — ＊
40	CI 09	Ⅲ	＊	○		6.1	3.6	0.8	16.8	硬質泥岩	＊ — ＊
41	CI 03	Ⅲ	＊	○		9.5	3.4	0.8	30	珪質極細粒凝灰岩	＊ — ＊
42	CG 50	Ⅲ	＊	○		6.2	2.9	0.6	10	石質極細粒凝灰岩	＊ — ＊
43	CJ 12	Ⅲ	＊	○		8.2	4.6	1	40	珪質凝灰質泥岩	＊ — ＊
44	CJ 18	Ⅲ	＊	○		6.8	4.4	1	30	玉髄	＊ — ＊
45	CJ 18	Ⅲ	＊	○		5.2	2.8	0.9	13	石質極細粒凝灰岩	＊ — ＊
46	CC 09	Ⅲ	＊	○		7.4	3.1	1.1	25	粘板岩	和賀仙人付近—古生界
47	CJ 50—53	Ⅲ	＊	○		7.7	3.1	0.8	19.4	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
48	CI 12	床面直上	楔型	○		2.3	2.3	0.5	2	(鉄石英) 玻璃質流紋岩	＊ — ＊
1	BA 18	Ⅰ—1	横	○		2	2.1	0.5	2.4	鉄石英	奥羽山地—中新統
2	BH 15	Ⅰ—2	縦	○		5.4	1.6	0.6	6.4	粘板岩	夏油川上流・和賀仙人—古生界
3	BI 15	Ⅱ—1	横	○		3	5	0.6	7.5	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
4	BJ 12	Ⅲ—7	＊	○		3.8	3.9	0.9	1.8	硬質泥岩	＊ — ＊
5	BJ 12	Ⅲ—11	縦	○		1.5	5.6	0.5	4.4	珪質泥岩	＊ — ＊
6	BJ 12	Ⅳ—8	横	○		3.9	5.8	1.2	22.9	硬質泥岩	＊ — ＊
7	BJ 12	Ⅳ—11	＊	○	○	5.5	2.1	0.7	17	珪質泥岩	＊ — ＊
1	DI 71	Ⅰ—1	縦	○		6.1	1.6	0.7	7.1	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	DB 03	Ⅰ—5	＊	○		4.9	2.2	0.6	6.8	流紋岩	＊ — ＊
3	DO 03	Ⅰ	横		○	4.7	3.2	0.7	11	硬質凝灰質泥岩	＊ — ＊
4	DA 18G	Ⅱ	＊	○		6	3.7	0.8	17.2	硬質泥岩	＊ — ＊
5	DA 06	Ⅱ	＊	○		5.2	6.6	0.9	20.8	硬質凝灰質泥岩	＊ — ＊
6	DA 53	Ⅱ—3	＊	○		4.3	2.5	0.8	9.3	玻璃質流紋岩 (鉄石英)	＊ — ＊
7	DA 15G	Ⅱ	＊	○		2.5	1.8	0.5	2.1	＊	＊ — ＊
8	DA 15G	Ⅱ	縦		□	4.1	3.1	0.8	13.5	硬質泥岩	＊ — ＊
9	DA 06G	Ⅱ	＊	○		7.9	2.1	0.8	9.8	硬質凝灰質泥岩	＊ — ＊
10	DA 03	Ⅱ	＊	○		6	2.8	0.6	8.2	＊	＊ — ＊
11	DA 15	Ⅱ—G	＊		○	4.5	3.4	1.1	14.3	＊	＊ — ＊
12	DA 18G	Ⅱ	＊		○	4	3.2	0.8	8	硬質泥岩	＊ — ＊
13	DB 15	Ⅱ	＊	○		5.4	5.1	0.9	14.6	硬質凝灰質泥岩	＊ — ＊
14	DB 12	Ⅱ	＊	○		3.8	4.6	0.7	11.3	＊	＊ — ＊
15	DE 50	Ⅱ	＊		○	5.5	2.7	0.5	11	硬質泥岩	＊ — ＊
16	DI 09	Ⅱ	＊	○		5	1.6	0.4	3.2	＊	＊ — ＊
17	DJ 09	Ⅱ	＊	○		4.2	1.3	0.3	2.3	＊	＊ — ＊
18	DJ 12	Ⅱ—U	横	○		3.6	5.7	0.9	12.5	＊	＊ — ＊
19	DI 09	Ⅱ	＊	○		6.6	2	0.5	6.5	＊	＊ — ＊
20	DA 56	Ⅱ	＊	○		7.6	2.8	1.1	16	玻璃流紋岩 (鉄石英)	＊ — ＊
21	DJ 12	Ⅱ	＊	○		2.9	4	0.8	6.7	硬質泥岩	＊ — ＊
22	DI 12	Ⅱ	＊	○		4.7	2.8	0.6	10	珪質泥岩	＊ — ＊
1	ED 62	Ⅰ	縦	○		2.6	5.1	1	9	鉄石英	奥羽山地—中新統
2	EG 62	Ⅰ	＊	○		3.5	5.7	0.7	12.3	硬質凝灰質泥岩	＊ — ＊
3	EH 71	Ⅰ—1	＊		○	2.8	4.4	0.7	12.6	＊	＊ — ＊
4	EF 59	Ⅰ	横	○		3.5	4.1	0.9	4.4	硬質泥岩	＊ — ＊
5	EA 62	Ⅰ—1	＊		□	4.2	4.3	0.6	16	粘板岩	夏油川—古生界
6	EA 12	Ⅱ	＊	○		2.6	7.6	0.7	8.6	泥質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
7	EA 50	Ⅰ	縦	○		2.2	7	0.7	12.5	珪質泥岩	＊ — ＊
8	EB 15	Ⅰ	＊	○		4.3	0.9	0.5	4	硬質凝灰質泥岩	＊ — ＊
1	FB 65	Ⅰ	縦		○	3.5	3.3	0.8	7.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
〔定形的遺器〕											
1	BJ 12	Ⅳ—4		○		6.1	5.1	1	25	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	BJ 12	Ⅳ—11		○		5.4	2.1	0.8	9.8	両極石英安山岩	＊ — ＊
3	BI 15	Ⅱ—5	d		○	4.7	4	1.7	30	硬質凝灰質泥岩	＊ — ＊
4	BI 18	Ⅱ	d		○	6.3	4.6	3.4	50	＊	＊ — ＊
5	BJ 18	Ⅱ	d		○	4.3	3.8	1.8	25	＊	＊ — ＊
6	BJ 15	Ⅱ—4	e	○		6.7	1.8	0.8	14	硬質泥岩	＊ — ＊
7	BI 18	Ⅱ—6	e	○		5	1.8	1.2	9.5	珪質泥岩	＊ — ＊
8	BJ 50	Ⅱ	d		○	3.4	2.9	1.3	16	硬質泥岩	＊ — ＊
9	BH 15	Ⅱ	f	○		5.7	3.7	1	26.8	石質極細粒凝灰岩	＊ — ＊
10	BC 15	Ⅱ—1			□	3.4	4.3	0.6	1	両極石英安山岩	奥羽山地東縁部・夏油川流域一帯散見
11	BC 15	Ⅱ—2			○	4.7	2.8	0.5	1	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
※1	BJ 56	Ⅰ—1	d	○		11.1	3.5	2.1	70	硬質凝灰質泥岩	＊ — ＊
※2	BJ 12	Ⅱ—1	d	○		9.1	3.7	1.3	50	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
※3	BJ 15	Ⅱ—2	d	○		4.9	3	0.7	12	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統

※4	BA 24	I—1			○	7	2.9	1.8	40	石質極細粒凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
1	CA 53	I—2			○	4.3	3.6	2	30	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	CI 12	I			○	7	2.5	1.9	16.6	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
3	CI 13	I			○	6.2	2.8	1.3	24.8	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
4	CCCD9	I	f	□		7.8	4.2	1.7	45	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
5	CI 15	I	f	○		8.9	3.5	1.3	30	〃	〃 — 〃
6	CECF18	I	f	○		5.4	3.3	1.3	25.8	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
7	CG 50	I	f	○		5.7	2.8	1.4	23	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
8	CI 12	I	d	○		6.2	2.8	1	18	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
9	CJ 62	I	d	○		9.4	4.4	2.4	80	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
10	CB 15	I—1	b	○		6.4	2.3	1.4	21.5	石質極細粒凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
11	CD 59	I—4	b	○		5.1	3.5	1	14.8	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
12	CA 15	I	f	○		7.3	2.1	1.1	16.6	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
13	CB 62	I	f	○		3.3	3.5	0.9	14	硬質泥岩	〃 — 〃
14	CB 62	I—1	f	○		4.8	2.5	1	17.2	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
15	CB 59	I	f	○		5.6	3.2	1.8	30	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
16	CF 06	I—1	f	○		6.8	3.2	1.3	40	珪質泥岩	〃 — 〃
17	CB 59	I—1	f	○		5.5	3.5	1.2	22.2	硬質泥岩	〃 — 〃
18	CB 67	I—3	f		○	4.6	2.3	0.9	11.5	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
19	CE 18	I—4	f	○		5.5	2.5	0.7	20	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
20	CB 62	I—4	f		○	4.7	2.4	0.7	7.2	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
21	CB 06	I	d		○	7	4.1	1.9	50	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
22	CB 18	I—3	d	□		7.5	3.6	1.8	65	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
23	CA 15	M—18	b		○	6.2	3.2	1.7	30	珪質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
24	CB 09	M—3	b		○	7.6	2.3	1.4	30.5	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
25	CI 56	II—2	d		○	8.7	6	2.2	140	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
26	CB 09	II—2	d		○	6	3.8	1.8	40	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
27	CA 15	II	d		○	3.3	1.7	1	6.3	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
28	CG 56	II	d		○	6	3.2	1.2	30	〃	〃 — 〃
29	CJ 56	II—3	d		○	6.4	4.8	1.7	40	〃	〃 — 〃
30	CG 56	II	d		○	6.5	4	1.5	40	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
31	CC 50	II—4	d		○	5.2	4.6	1.9	60	斜長石流紋岩	奥羽山地—中新統
32	CI 15	II	d		○	7.1	2.6	1	20.3	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
33	CG 53	II—1	d	○		8.3	4.6	2.2	70	硬質泥岩	〃 — 〃
34	CI 06	II	d	○		8.9	4.2	1.4	40	〃	〃 — 〃
35	CH 53	II	c	○		7.5	2.5	1.5	25	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
36	CI 21	II	c	○		7.9	2.3	1.2	24.8	〃	〃 — 〃
37	CE 50	II—3	b	○		4.6	2.8	1.5	21.5	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
38	CJ 12	II	c		○	6.7	2.3	1.4	21.2	粘板岩	和賀仙人付近—古生界
39	CJ 12	II	c		○	3.6	1.5	1.1	4.8	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
40	CB 15	II—20	c		○	6.1	2.6	1.2	16.7	粘板岩	和賀仙人付近—古生界
41	CG 06	II	f	○		4.6	3.5	1.2	18.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
42	CB 12	II—10	f	○		6	3.9	0.7	18.7	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
43	CG 50	II	f	○		6.1	2.9	1	17.1	珪質泥岩	〃 — 〃
44	CJ 18	II	f	○		7.9	3.8	1.4	45.5	玻璃質流紋岩	〃 — 〃
45	CJ 18	II	f	○		6.2	2	0.9	10	珪質泥岩	〃 — 〃
46	CI ?	II	f	○		9.1	4.7	2	90	〃	〃 — 〃
47	CF 03	II	f	○		5.1	3.9	1.8	24	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
48	CI 18	II	f	○		6.9	2.6	1.1	22	流紋岩	〃 — 〃
49	CG 06	II	f	○		8.8	3.1	2.1	70	硬質泥岩	〃 — 〃
50	CA 12	II—4	f	○		6.9	2.6	1.3	22	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
51	CI 50	II	a	○		6.7	2.1	0.7	8	〃	〃 — 〃
52	CD 09	II	a	○		5.8	4.1	0.8	13	珪質泥岩	〃 — 〃
53	CG50—53	II	a	□		8.8	3.1	1.2	30	硬質泥岩	〃 — 〃
54	CI 18	II	a	○		7.1	3.9	1.1	30	玻璃質流紋岩	〃 — 〃
55	CI 50	II—5	a	○		7.1	3.7	1.8	40	硬質泥岩	〃 — 〃
56	CJ 15	II	a	□		6.3	4.2	1.3	40	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
57	CJ 09	II	a	○		7.7	35	1.3	30	〃	〃 — 〃
58	CJ 18	II	a	○		10.1	4.4	2.7	120	〃	〃 — 〃
59	CJ 09	II	a	○		6.1	3.5	1.6	26.8	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
60	CJ 15	II	a	○		5	3.3	1.1	19.5	流紋岩	〃 — 〃
61	CJ 18	II		○		6.2	4.2	1.5	40	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
62	CI 12	II		□		6.6	4.3	2.2	50	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
63	CJ 50	II—3		□		3.7	2.7	1.3	10.5	〃	〃 — 〃
64	CH 03	II		○		4.7	3.3	2	40	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
65	CI 50	II—12	d		○	6.5	4.4	2.1	80	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
66	CH 03	II	d		○	5.9	3.6	1.6	30	〃	〃 — 〃
67	CH 06	II	d		○	6.3	4	2.2	60	硬質泥岩	〃 — 〃
68	CI 50	II	d		○	4.8	1.9	1.2	14	珪質泥岩	〃 — 〃
69	CHO ?	II	d		○	2.4	2.2	0.8	4.8	硬質泥岩	〃 — 〃
70	CI 12O	II	d		○	3.2	3	1	10.2	粘板岩	和賀仙人付近—古生界
71	CB 12	II—6	d		○	6	4.5	2.5	60	玻璃質流紋岩	奥羽山地—中新統

72	CH 03	Ⅲ	d		○	7.8	5	1.9	90	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
73	CI ?	Ⅲ	d		○	4.1	1.6	0.8	5.5	〃	〃 — 〃
74	CB 09	Ⅳ—5	f	○		7.1	3.2	1.1	22	凝灰質珪質泥岩	〃 — 〃
75	CA 16	Ⅳ—15	e		○	4.7	2.3	0.9	10.5	珪質泥岩	〃 — 〃
1	DJ 27	Ⅰ		○		7.9	3.2	1.2	30	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
2	DG 50	Ⅰ		○		4.9	3.1	1.1	16	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
3	DGDH15	Ⅰ		○		7.4	2.9	2.1	30	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
4	DA 09	Ⅲ			□	6.4	2.7	1.5	22.8	〃	〃 — 〃
5	DE24G	Ⅲ			○	6.7	5.4	1.5	50	粘板岩	仙人付近—古生界
6	DD 18	Ⅲ		○		7.3	4	1.7	40	〃	〃 — 〃
7	DA 03	Ⅲ		○		10.3	3.9	1.9	80	〃	〃 — 〃
8	DA24G	Ⅲ		○		9.3	5	2	90	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
9	DA 12	Ⅲ		○		9.7	4.3	1.1	60	粘板岩	仙人付近—古生界
10	DD 18	Ⅲ		○		7.8	4.4	1.5	50	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
11	DA 06	Ⅲ		○		6.8	2.1	1.2	19.6	硬質泥岩	〃 — 〃
12	DC 18	Ⅲ		○		5.7	3.4	1.2	14	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
13	DC 15	Ⅲ		○		6.7	3.5	2.5	40	硬質泥岩	〃 — 〃
14	DB 15	Ⅲ		○		6.8	3.9	1.9	41	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
15	DB 12	Ⅲ		○		4.6	3	1.2	14	〃	〃 — 〃
16	DI 50	Ⅱ	d	○		6.3	3.4	1.5	34	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
17	DD 21	Ⅱ	d	○		8.6	3.1	1.9	50	硬質泥岩	〃 — 〃
18	DD 21	Ⅱ	d	○		5.6	2.6	1.3	19	粘板岩	仙人付近—古生界
19	DH 15	Ⅱ—U	d	○		5.1	2.7	1.5	21.4	〃	〃 — 〃
20	DJ 50	Ⅱ	d	○		5.4	3.4	1.6	24	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
21	DG 15	Ⅱ	b	○		6.5	3.2	1.3	28	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
22	DJ 12	Ⅱ	b	○		5	3.5	0.9	22.5	〃	〃 — 〃
23	DH 12	Ⅱ H	b	○		5.8	3.2	1.2	22.5	硬質泥岩	〃 — 〃
24	DJ 15	Ⅱ			□	3.2	2.8	0.8	9.6	〃	〃 — 〃
25	DI 09	Ⅱ			○	5.8	3	1.2	20.4	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
26	DA 56	Ⅱ			□	4.4	4.4	0.8	22.5	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
27	DE 24	Ⅱ—4			□	3.3	2.5	0.8	6.9	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
28	DE 12	Ⅱ			○	3.4	2.1	1.1	5.6	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
29	DF 24	Ⅱ			○	3.5	1.9	1	6.6	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
30	DD 18	Ⅱ			○	3.4	2.2	1.1	9.6	硬質泥岩	〃 — 〃
31	DI 12	Ⅱ		○		6	2.3	0.9	15.8	〃	〃 — 〃
32	DJ 09	Ⅱ		○		4.5	2.8	1.1	15	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
33	DF 24	Ⅰ—1	b	○		8	2.1	1.3	22.8	石質凝灰質泥岩	〃 — 〃
34	DD 09	Ⅲ	c		○	7	2.3	1.7	25	粘板岩	仙人付近—古生界
35	DE 12	Ⅱ	e	○		7.8	2.5	1.5	30	極細粒珪質凝灰岩	奥羽山地—中新統
36	DD 15	Ⅱ	c	○		6.1	1.4	1.2	9.8	粘板岩	仙人付近—古生界
37	DJ 15	Ⅱ	d	○		8.2	4	1.6	60	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
38	DG 12	Ⅱ—1	d	○		7.8	2.9	1.4	50	粘板岩	仙人付近—古生界
39	DJ 15	Ⅱ	d		□	7	2.7	0.9	15.8	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
40	DA 59	Ⅰ	d	□		8.6	4.3	2.2	100	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
41	DH 68	Ⅰ—1	d	○		9.5	3.8	2.5	90	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
42	DJ 53	Ⅰ—1	d	○		7.7	4	1.5	60	粘板岩	仙人付近—古生界
43	DI 18	Ⅱ		○		6.2	4	1.3	30	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
44	DA 12	埋上				3.2	1.8	0.6	30	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
1	EE 71	Ⅰ—1	d			7.6	2.2	1.6	40	珪質泥質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	EG 62	Ⅰ	d			8.9	4.9	2.7	140	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
3	EF 56	Ⅰ—1	d			9.7	3.7	1.9	140	〃	〃 — 〃
4	EG 62	Ⅰ	d			6.6	3.8	1.8	40	粘板岩	〃 — 〃
5	EG 65	Ⅰ—2	d			6.6	3.8	1.4	50	粘板岩ホルンフェルス	〃 — 〃
6	EF 71	Ⅰ	d			5.7	3.9	1.3	45	珪質泥細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
7	EF 12	Ⅰ	d			7.3	5	1.3	60	粘板岩	夏油川—古生界
8	EF 12	Ⅰ	d			8.8	5.1	2.4	130	流紋岩	奥羽山地—中新統
1	FB 62	Ⅰ	d	○		6.2	3.1	1.6	50	珪質泥質凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	FF 33			○		7.3	4	1.4	50	淡緑色細粒凝灰岩	〃 — 〃

〔不定形機器〕

1	BE 12	Ⅲ				3.9	3.6	1	14.3	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	BG 14	Ⅰ				5.5	5.1	2.8	80	〃	〃 — 〃
3	BB 03	Ⅰ				4.8	6.3	1.3	30	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
4	BJ 59	Ⅰ—1				9.1	3.6	1.3	40	珪質泥岩	〃 — 〃
5	BF 15	Ⅰ—1				6.4	4.1	0.9	24	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
6	BA 18	Ⅰ—1				6.9	2.9	0.7	14	硬質泥岩	〃 — 〃
7	BJ 18	Ⅰ—2				4.7	6.9	1.8	50	〃	〃 — 〃
8	BJ 18	Ⅰ—6				6.4	5.4	1.1	30	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
9	BB 03	Ⅰ				4.1	5.2	1.4	30	硬質泥岩	〃 — 〃
10	BI 18	Ⅱ—7				7.9	3.3	1.4	30	〃	〃 — 〃
11	BI 15	Ⅱ				2.3	2.2	0.4	2.3	珪質泥岩	〃 — 〃

12	B I 15	II		5.1	3.4	1	16.4	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
13	B I 15	II—15		7.4	5.3	1.4	50	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
14	B I 15	II		4	2.5	1.5	9.6	硬質泥岩	〃 — 〃
15	B I 18	II		4.9	2.4	1.2	13.7	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
16	B E 18	II		4.2	3.7	0.8	19.5	硬質泥岩	〃 — 〃
17	B I 15	II—3		3.9	3.8	1	9.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
18	B J 15	II		3.8	2.8	1.5	14.3	鉄石英	〃 — 〃
19	B J 18	II—5		5	5.5	1.2	36	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
20	B H 12	II		5.5	4.2	1	17.5	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
21	B G 15	II—3		3.9	3.2	0.9	11	硬質泥岩	〃 — 〃
22	B I 12	II—3		4.2	3	0.8	9.5	〃	〃 — 〃
23	B H 15	II		4.9	3.2	1	13.7	〃	〃 — 〃
24	B H 15	II		6.6	6.6	2.3	60	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
25	B J 50	II		5.3	3.1	1.2	17.5	硬質泥岩	〃 — 〃
26	B J 50	II		3.1	2.8	0.4	3.2	粘板岩	夏油川上流・仙人—古生界
27	B H 12	II		3.6	3.1	0.9	12.1	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
28	B H 15	II		7.6	3.7	2	40	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
29	B H 15	II		9	5.2	1.6	70	〃	〃 — 〃
30	B I 15	II		7.1	3.9	1.2	31.8	〃	〃 — 〃
31	B J 12	II		3.9	3.5	0.8	9.3	硬質泥岩	〃 — 〃
32	B J 12	II		3.1	2.7	0.7	4	〃	〃 — 〃
33	B G 15	II		4.1	3.1	0.9	11	〃	〃 — 〃
※17	C J 12 G	〃		5.1	3.1	1.0	13	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
※18	〃	〃		5.9	2.5	0.8	7.5	硬質泥質凝灰岩	〃 — 〃
※19	〃	〃		6.8	4.9	1.6	50	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
1	C F 18	I		10.6	2.9	3.8	40	石質極細粒凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
2	C H 18	I		4.9	2.7	0.8	9.3	珪質泥岩	〃 — 〃
3	C C C D 9	I ～ II		5.7	3.9	1.3	27	硬質泥岩	〃 — 〃
4	C F 15	I		5.1	3.4	0.9	18.2	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
5	C I 12	I		4.6	3.6	1.2	12.5	硬質泥岩	〃 — 〃
6	C A 15	I		4.9	3.9	1.1	13	〃	〃 — 〃
7	C C C D 15	I		5.8	3.2	1.3	26.8	〃	〃 — 〃
8	C F 18	I		3.8	3.9	1.1	16.3	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
9	C I 12	I		4.9	3.4	1.3	26.2	硬質泥岩	〃 — 〃
10	C A 18	I		3.1	2.9	0.9	7.3	硬質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
11	C E C F 18	I		5.6	5.8	1.2	40	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
12	C I C J 10	I		6.6	4.2	1.7	50	硬質泥岩	〃 — 〃
13	C G 18	I		5	4.3	0.7	18.5	珪質泥岩	〃 — 〃
14	C C C D 15	I		7.1	4.3	1.5	40	硬質泥岩	〃 — 〃
15	C I 06	I		4.2	3.6	0.8	9.5	珪質石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
16	C B 15	I—8		4.1	3.6	1.4	17	〃	〃 — 〃
17	C I 15	I		3.9	3.7	1.3	15.9	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
18	C H 18	I		4.8	3.7	0.8	11	硬質泥岩	〃 — 〃
19	C G C H 18	I		5.6	4.2	1.1	28	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
20	C C 12	I		3.8	3.6	0.9	8.6	〃	〃 — 〃
21	C F 18	I		4	4.1	0.9	8.6	石質凝灰岩	奥羽山地—中新統
22	C B 15	I—3		5.5	3.4	0.7	15	硬質泥岩	〃 — 〃
23	C B 15	II		5.1	4.3	0.9	15.6	〃	〃 — 〃
24	C I 15	I		4.4	2.5	0.7	6.3	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
25	C D 59	I—1		5.9	4	0.8	18.4	硬質泥岩	〃 — 〃
26	C B 18	I		7	4	1.4	36	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
27	C I 15	I		5.3	3.7	0.9	17	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
28	C A 12	I—1		8.5	4	2.2	50	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
29	C I 06	I		5.7	3.8	1	28	珪質泥岩	〃 — 〃
30	C A 15	I		5.6	3.6	1.5	26	硬質泥岩	〃 — 〃
31	C G 15	I		5.2	2.2	0.7	5.8	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
32	C C 50	I—1		8.6	3.5	2	50	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
33	C F 53	I—4		5.3	4.8	1.2	38	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
34	C B 18	I—11		5.8	2.3	0.7	9.5	硬質泥岩	〃 — 〃
35	C I 06	I—1		5.7	2.3	1.2	11.5	〃	〃 — 〃
36	C A 62	I—1		3.8	3	1.3	13.2	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
37	C B 18	I—2		12.4	5	3.5	70	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
38	C I 12	I—10		4.9	3.6	1.7	40	珪質石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
39	C E 50	I		4.9	4.4	1.8	50	淡緑色凝灰岩	〃 — 〃
40	C C 50	I—4		5	3	1.2	15.3	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
41	C B 62	I—6		5.9	4.5	1.8	50	〃	〃 — 〃
42	C E 59	I—2		7.6	4.3	1.9	50	珪質泥岩	〃 — 〃
43	C F 12	I		5.4	3	1.3	21	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
44	C J 06	I		6.8	3.4	1.6	40	珪質石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
45	C A 15	I		6.2	4.5	1.2	30	硬質泥岩	〃 — 〃
46	C I 06	I		4.7	2.7	1	8.5	松脂岩	〃 — 〃
47	C J 15	I		3.9	2.3	0.8	6.2	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃

48	C B 0 6	I — 3		5.3	2.9	1.4	15.1	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
49	C B 1 8	I		5.4	2.7	0.6	8.5	硬質泥岩	〃 — 〃
50	C F 5 6	I — 1		10	10.8	1.9	210	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
51	C B 5 9	I		8.5	6	1.8	90	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
52	C A 5 0	I — 5		10.1	8.3	1.5	100	珪質石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
53	C C 5 0	I — 2		10.8	5.8	4.2	200	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
54	C B 1 5	I — 2		6.2	2.3	0.8	13.5	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
55	C G 1 5	I		3.4	2.8	1.3	12.5	塩基性岩	奥羽山地—中新統
56	C C 5 9	I		5	3.3	0.8	15	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
57	C B 1 5	I — 14		2.3	1.6	0.8	2.5	黒曜石	奥羽山地東縁—鮮新統
58	C A 1 5	II — 17		3.4	2.9	1.3	11.2	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
59	C I 1 5	II		4.2	2.8	0.9	13	〃	〃 — 〃
60	C I 0 6	II		6.9	5	1.2	32.8	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
61	C I 0 6	II		4.5	3.3	1.4	16	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
62	C H 0 6	II		6.5	5.4	2	70	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
63	C F 5 0	II — 4		6	4	1.3	30	硬質泥岩	〃 — 〃
64	C B 5 0	II — 13		3.3	4.7	1.2	12.8	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
65	C E C F 6	I — 1		12.6	3.4	2.2	70	〃	〃 — 〃
66	C A 1 8	II — 1		7.6	3.2	1.4	30	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
67	C H 5 0	II		6.5	4.5	1.6	50	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
68	C I 5 6	II		5.1	3.3	1.4	19	〃	〃 — 〃
69	C I 5 3	II		5.1	2.6	1.7	18.6	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
70	C D 0 6	II		5.2	2.4	1.1	12.8	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
71	C I 1 5	II		5	3	1.2	16.2	硬質泥岩	〃 — 〃
72	C E 0 6	II		6.7	3.8	1.1	30	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
73	C B 0 9	II — 1		8	5.1	1.2	40	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
74	C E 0 6	II		3	7.1	0.9	17	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
75	C I 2 1	II — 2		4.9	5.6	1.3	27.5	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
76	C D 0 6	II		6.3	3.2	1.1	22.7	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
77	C F 0 6	II		7.3	4.2	1.2	303	珪質泥岩	〃 — 〃
78	C I 2 1	II — 3		6.1	3.2	0.6	7.8	珪質石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
79	C E 5 0	II — 4		6.4	4.4	1.2	31	硬質泥岩	〃 — 〃
80	C D 0 6	II		4.9	3.7	1	15.2	斜長石流紋岩	〃 — 〃
81	C J 0 6	II		4.8	3.2	0.9	14.6	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
82	C A 1 5	II		7.2	5.6	1.5	50	〃	〃 — 〃
83	C I 1 5	II		8.4	4.5	3.3	70	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
84	C H 5 0	II		8.4	3.9	1.4	60	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
85	C I 1 5	II		6.2	4.8	0.9	23.7	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
86	C B 1 8	II — 14		4	3.9	1	10	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
87	C I 5 3	II		6.4	2.7	0.6	8.6	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
88	C D 0 6	II		5.8	3.4	1.2	30	珪質石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
89	C J 0 6	II		7	2.9	0.8	15.6	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
90	C G 5 6	II — 1		4.4	1.8	0.4	3.8	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
91	C F 0 6	II		3.9	2.6	0.7	5.8	(鉄石英) 玻璃質流紋岩	〃 — 〃
92	C A 1 2	III		3.3	3.1	0.8	6.6	硬質泥岩	〃 — 〃
93	C G 5 0	II		4.7	4	0.8	12.5	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
94	C J 0 6	II		4.8	3	0.9	11.7	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
95	C J 0 6	II		4.3	3.9	1.4	13.2	〃	〃 — 〃
96	C G 0 3	III		7.9	3.8	1.6	40	珪質泥岩	〃 — 〃
97	C H 0 3	III		5.4	4.4	1.5	30	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
98	C I 1 2	III		5	3.2	1	11.5	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
99	C I 5 0	III		5.8	3.4	0.8	10	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
100	C J 1 2	III		6.8	4.7	1.5	50	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
101	C J 0 3	III		6.4	3.5	1.3	22.2	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
102	C J 0 9	III		6.6	3.2	1	20	硬質泥岩	〃 — 〃
103	C F 0 3	III		4.1	3.1	0.8	8.8	〃	〃 — 〃
104	C J 5 0	III		5.2	4	1.3	23	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
105	C I 1 8	III		7.1	2.1	1	17.5	〃	〃 — 〃
106	C F 0 3	III		6	3.3	0.9	21.8	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
107	C J 1 2	III		5.6	4.2	0.8	15.8	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
108	C J 1 2	III		6.7	4	2.2	70	硬質泥岩	〃 — 〃
109	C J 1 8	III		3.5	7.6	1.1	23	玻璃質流紋岩	〃 — 〃
110	C I 0 3	III		4.8	3.4	1	22	硬質泥岩	〃 — 〃
111	C D 0 9	III		3.6	2.7	1.1	9.3	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
112	C H 0 3	III		7.1	3.7	1.1	30	硬質泥岩	〃 — 〃
113	C I 5 3	III		8.2	5.8		100	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
114	C I 1 5	III		7.5	3.8	1.1	30	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
115	C H 1 8	III		5.9	4	1.8	40	粘板岩	和賀仙人付近—古生界
116	C E 0 6	III — 4		4.5	3	0.7	10.5	珪質泥岩	奥羽山地—中新統
117	C G 50 — 53	III		4.2	1.9	0.7	4.5	硬質泥岩	〃 — 〃
118	C D 0 9	III		2.9	2.6	0.7	6	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
119	C J 0 3	III		8.6	3.8	1.4	40	硬質泥岩	〃 — 〃
120	C A 1 2	III		4.2	1.6	0.8	3.3	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃

121	C B 1 5	Ⅲ—22		3.7	3.1	1.8	16.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
122	C J 1 8	Ⅲ		4	3.6	1.2	17.7	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
123	C A 1 5	Ⅲ—20		7.4	5.7	1.5	50	流紋岩	〃 — 〃
124	C H 1 8	Ⅲ		3.4	3	1.2	12.3	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
125	C J 1 5	Ⅲ		3.3	2.7	0.8	7.5	硬質泥岩	〃 — 〃
126	C J 0 9			3.5	1.8	1.2	4.7	珪質泥岩	〃 — 〃
127	C G ?	Ⅲ		3.3	3	1.1	9	〃	〃 — 〃
128	C B 1 5	Ⅲ C		5.4	2.5	0.7	10.3	硬質泥岩	〃 — 〃
129	C G 0 9	Ⅲ		3.3	2.3	1.2	4.5	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
130	C H 0 6	Ⅲ		6.5	8	1.3	80	〃	〃 — 〃
131	C I 1 2	Ⅲ		4.1	3	1.3	15	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
132	C A 1 2	Ⅰ		5.6	3.6	6.9	21	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
133	C J 1 5	Ⅲ		2.3	2.1	0.7	4.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
134	C H 0 3	Ⅲ		8.2	6.1	1.4	60	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
135	C J 1 8	Ⅲ		4.2	5	1.5	30	珪質泥岩	〃 — 〃
136	C G 5 6	Ⅲ—1		6.7	4.8	1.7	50	硬質泥岩	〃 — 〃
137	C J 50～53	Ⅲ		4.8	2.9	1	16.2	〃	〃 — 〃
138	C H 0 3	Ⅲ		3.9	3	0.8	10.7	〃	〃 — 〃
139	C A 1 2	Ⅲ		5.6	4.8	1.2	30	淡緑色細粒凝灰岩	〃 — 〃
140	C I 1 2	Ⅲ		6.4	4.7	0.8	22.6	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
141	C J 0 6	Ⅲ		3.8	4.6	0.8	16	硬質泥岩	〃 — 〃
142	C J 0 9	Ⅲ		3.8	2.4	0.8	7.5	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
143	C J 1 5	Ⅲ		4.2	2.1	0.9	8.5	硬質泥岩	〃 — 〃
144	C A 1 2	Ⅲ—17		3.2	3.2	1.4	12	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
145	C J 0 9	Ⅲ		4.2	3	0.8	5.8	硬質泥岩	〃 — 〃
146	C C 1 2	Ⅲ		10.2	5.6	2.2	80	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
147	C I 1 8	Ⅲ		5.4	3.9	1.2	16	珪質泥岩	〃 — 〃
148	C D 0 9	Ⅲ		4.8	3.4	1.1	19	硬質泥岩	〃 — 〃
149	C J 0 3	Ⅲ		3.1	3.6	0.8	7.6	〃	〃 — 〃
150	C J 1 8	Ⅲ		3.7	3	0.7	9	〃	〃 — 〃
151	C J 1 2	Ⅲ		4	3	1.2	15	〃	〃 — 〃
152	C A 1 5	Ⅲ		3.8	3.2	0.6	8	〃	〃 — 〃
153	C B 1 5	Ⅲ		3.7	2.7	0.9	9.5	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
154	C G 0 3	Ⅲ		4.2	2.8	1.2	12.5	珪質泥岩	〃 — 〃
155	C J 0 3	Ⅲ		3.4	3	0.6	5	硬質泥岩	〃 — 〃
156	C A 1 2	Ⅲ—15		3.3	4.1	0.8	12.3	〃	〃 — 〃
157	C J 0 9	Ⅲ		3.2	2.4	0.8	4.8	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
158	C B 1 5	Ⅲ		3.7	4.5	1	20.5	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
159	C C C D 9	Ⅱ—3		3.1	2.6	1.2	9	〃	〃 — 〃
160	C I 50～53	Ⅲ		3.4	2	0.6	4.5	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
161	C F 0 3	Ⅲ		4.5	3.2	0.9	9	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
162	C B 1 8	Ⅲ		3.5	3.6	0.7	9.5	〃	〃 — 〃
163	C G 0 3	Ⅲ		7.3	2.6	1.4	30	珪質泥岩	〃 — 〃
164	C J ?	Ⅲ		7.8	4.8	2.2	50	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
165	C J 1 2	Ⅲ		3.6	3.4	1	11	〃	〃 — 〃
166	C D 0 9	Ⅲ		7.8	4.6	1.7	70	〃	〃 — 〃
167	C I 03 G	Ⅲ		4.2	4.1	0.9	16.2	硬質泥岩	〃 — 〃
168	C J 1 5	Ⅲ		4.4	2.7	1.3	15.8	〃	〃 — 〃
169	C I 1 8	Ⅲ		3	3.5	0.5	4.6	玉髄	〃 — 〃
170	C C 0 9	Ⅲ		4.9	2.9	1	13.2	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
171	C B 1 5	Ⅲ—18		1.9	1.6	0.3	0.5	〃	〃 — 〃
172	C I 5 0	Ⅲ		2.3	2.4	0.6	3.8	〃	〃 — 〃
173	C G 5 0	Ⅲ		2.7	1.8	0.4	1.3	〃	〃 — 〃
174	C B 1 2	Ⅳ		8.4	4.4	1.3	50	硬質泥岩	〃 — 〃
175	C B 1 2	Ⅳ		7.3	5.3	1.6	50	粘板岩	相賀仙人付近—古生界
176	C B 0 9	Ⅳ—4		9	5.2	2.4	110	〃	〃 — 〃
177	B I 1 2	Ⅳ—5		4.9	3.1	1.2	14	〃	〃 — 〃
178	C B 1 2	Ⅳ		3.2	2.8	1	8.5	凝灰質硬質泥岩	奥羽山地—中新統
179	C G 1 5	Ⅱ		4.6	3.4	1	22	硬質泥岩	〃 — 〃
1	D A 0 3	Ⅰ—15		4.8	3.3	1.2	15.1	粘板岩	仙人付近—古生界
2	D D 2 4	Ⅰ		4.8	2.3	0.6	6.8	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	D A 0 3	?		5.7	2.8	0.8	12.7	極細粒珪質凝灰岩	〃 — 〃
4	D G 5 0	Ⅰ		5.6	3.1	1.5	22.5	玻璃質流紋岩（鉄石英）	〃 — 〃
5	D I 6 2	Ⅰ—1		2.7	3.7	0.6	5.3	硬質泥岩	〃 — 〃
6	D J 2 1	Ⅰ		4.8	4.5	1	19.5	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
7	D A B 5 0	Ⅰ		2.7	3.5	0.8	8.3	玻璃質流紋岩（鉄石英）	〃 — 〃
8	D I 2 7	Ⅰ		6.1	3	1.1	17	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
9	D J 1 2	Ⅰ		4.1	6.8	1.5	40	〃	〃 — 〃
10	D F 2 7	Ⅰ		5.1	3.4	1.2	23	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
11	D A 18 G	Ⅱ		6.1	3.9	2.1	25	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
12	D D 06 G	Ⅱ		4.5	3	0.9	10.8	硬質泥岩	〃 — 〃
13	D A 18 G	Ⅱ		6.4	4.1	1.4	28	〃	〃 — 〃

14	DA12G	Ⅲ		4.2	2.1	0.6	4	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
15	DA 12	Ⅲ		6.1	3	0.7	16	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
16	DA 18	Ⅲ—1		2.5	2.5	0.6	3	〃	〃 — 〃
17	DD 12	Ⅲ		4.7	9.2	1.5	50	硬質泥岩	〃 — 〃
18	DC 15	Ⅲ		3.6	3.2	0.8	9.3	〃	〃 — 〃
19	DE 18	Ⅲ		3.5	2.9	1	10.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
20	DC 18	Ⅲ		4.2	2.2	0.5	3	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
21	DG 03	Ⅲ		3.4	2.8	0.8	6.9	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
22	DC ?	Ⅲ		4.2	1.5	1.4	9	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
23	DA 18	Ⅲ		9.3	2.4	1.2	30	〃	〃 — 〃
24	DA 18	Ⅲ		4.8	5.2	1.3	26	〃	〃 — 〃
25	DA18G	Ⅲ		3	3	.7	7.5	〃	〃 — 〃
26	DD 09	Ⅲ		4.5	3.7	1	12.1	硬質細粒凝灰岩	〃 — 〃
27	DA 03	Ⅱ		5.3	5.1	1.1	40	硬質泥岩	〃 — 〃
28	DA 06	Ⅲ		2.9	2.3	0.7	5.3	〃	〃 — 〃
29	DD 12	Ⅲ		6.3	4.8	0.9	19.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
30	DA 03	Ⅲ		5.5	3.9	1.5	30	〃	〃 — 〃
31	DC 15	Ⅲ		3.9	2.5	1.2	11.8	硬質泥岩	〃 — 〃
32	DA 12	Ⅲ		4.3	3.3	1.5	20.1	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
33	DA 18	Ⅲ		3.2	3.3	0.6	7	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
34	DA 15	Ⅲ		6.5	3.6	1.3	23	〃	〃 — 〃
35	DG 03	Ⅲ		3.3	2.5	0.9	5.6	珪質泥岩	〃 — 〃
36	DA 15	Ⅲ		3.7	2.1	0.6	5.7	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
37	DG 03	Ⅲ		7.2	3.6	1.2	40	粘板岩ホルンフェンス	夏油川上流—古生界
38	DC 18	Ⅲ		4.3	3.8	1.2	20.3	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
39	DE 18	Ⅲ		5.1	3.9	0.8	13.3	〃	〃 — 〃
40	DD06G	Ⅲ		5.9	4.8	1	20	〃	〃 — 〃
41	DF 15	Ⅲ		3.8	2.5	0.4	4	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
42	DF 15	Ⅲ		3.9	2.2	0.7	6	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
43	DD 09	Ⅲ		3.3	2.8	0.7	6.8	〃	〃 — 〃
44	DD 06	Ⅲ		4.7	3.9	0.7	10	〃	〃 — 〃
45	DC 18	Ⅲ		5.5	2.4	0.8	11.1	〃	〃 — 〃
46	DE 06	Ⅲ		6.5	4.6	1	21.5	〃	〃 — 〃
47	DE12Gd	Ⅲ		6	3.6	1.5	30	珪質泥岩	〃 — 〃
48	DA 15	Ⅲ		3.7	2.5	0.6	6	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
49	DC 09	Ⅲ		5.6	3.4	1.1	22.5	硬質泥岩	〃 — 〃
50	DD 15	Ⅲ		5.8	4.5	1	21	〃	〃 — 〃
51	DA 12	Ⅲ		5.2	1.8	1	11.8	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
52	DA 15	Ⅲ		3.1	3.3	0.6	5	硬質泥岩	〃 — 〃
53	DA 15	Ⅲ		5.5	3.9	1.3	25	〃	〃 — 〃
54	DA18G	Ⅲ		7.1	2.2	1	14.5	〃	〃 — 〃
55	DA 18	Ⅲ		6.2	4.9	2.4	60	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
56	DD09G	Ⅲ		5	2.1	0.4	5.2	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
57	DA 06	Ⅲ		7.1	2.6	1	26.8	硬質泥岩	〃 — 〃
58	DC 15	Ⅲ		3.9	3.4	1.9	20.5	粘板岩	仙人付近—古生界
59	DA15G	Ⅲ		4.8	2.6	0.5	10	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
60	DA 06	Ⅲ		7.6	1.8	1.1	13.7	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
61	DA 03	Ⅲ		4.5	2.1	1	8.2	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
62	DA 06	Ⅲ		2.3	2.6	0.6	3	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
63	DA 18	Ⅲ		4.9	3.3	1.2	14	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
64	DA 18	Ⅲ		4.7	2.4	0.6	5.3	流紋岩	〃 — 〃
65	DB 18	Ⅲ		4.4	2.6	1.5	12	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
66	DB 12	Ⅲ		12.7	5.8	2.5	140	〃	〃 — 〃
67	DB 53	Ⅲ		4.8	4.1	2.1	35	珪質泥岩	〃 — 〃
68	DB 18	Ⅲ		4.7	2.1	0.5	4.5	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
69	DB 12	Ⅲ		3.3	3.2	1.3	20	〃	〃 — 〃
70	DB 18	Ⅲ		4.7	3.8	0.8	11.6	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
71	DG 18	Ⅱ		6.2	4.2	1.9	40	硬質泥岩	〃 — 〃
72	DF 50	Ⅱ		3.2	2.8	0.8	6.4	〃	〃 — 〃
73	DG 12	Ⅱ		2.9	2.3	0.4	3.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
74	DA 15	Ⅱ		4.1	2.5	0.9	9.1	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
75	DH 15	Ⅱ		4.2	2.5	0.9	10.4	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
76	DG 03	Ⅱ		3.2	1.5	0.4	2.5	硬質泥岩	〃 — 〃
77	DE 12	Ⅱ		3.9	2.8	0.8	7.6	〃	〃 — 〃
78	DC 24	Ⅱ		4.1	2.5	0.6	7.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
79	DD 21	Ⅱ		6.7	3.5	0.9	176	硬質泥岩	〃 — 〃
80	DH 12	Ⅱ		4.7	4	2	35.8	〃	〃 — 〃
81	DG 18	Ⅱ		4.7	3.7	2.1	37.3	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
82	DF 50	Ⅱ		2.3	2.5	0.8	4	硬質泥岩	〃 — 〃
83	DJ 53	Ⅱ		3.3	3.5	1.1	16.2	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
84	DG 50	Ⅱ		2.7	1.9	1.9	5.1	〃	〃 — 〃
85	DI 09	Ⅱ		3.8	3.1	0.7	7.5	硬質泥岩	〃 — 〃
86	DA 59	Ⅱ		5.6	2	0.6	5.9	玻璃質凝灰岩（鉄石英）	〃 — 〃

87	DG 18	Ⅱ		2.2	2.5	0.5	3.3	硬質泥岩	奥羽山地—中新統	
88	DE 12	Ⅱ		3.9	3.8	1.2	18.2	〃	〃	— 〃
89	DD 21	Ⅱ		3	1.9	0.3	1.8	〃	〃	— 〃
90	DJ 15	Ⅱ		4.8	3.5	1.1	22.7	石質粗粒凝灰岩	〃	— 〃
91	DB 21	Ⅱ		5.7	3.4	0.8	15.5	硬質泥岩	〃	— 〃
92	DH 12	Ⅱ		5.8	2.1	0.6	5.8	〃	〃	— 〃
93	DF 50	Ⅱ		5.1	2.6	0.9	10	〃	〃	— 〃
94	DJ 15	Ⅱ		2.5	2.9	1.1	7.2	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
95	DJ 09	Ⅱ		6.5	3.3	1.3	21	硬質泥岩	〃	— 〃
96	DJ 12	Ⅱ		5.8	4.4	1.2	27.2	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
97	DG 03	Ⅱ		6.2	4.6	1.3	40	硬質泥岩	〃	— 〃
98	DF 21	Ⅱ		5.5	5.6	1.6	40	珪質泥岩	〃	— 〃
99	DA 53	Ⅱ		10.7	8	1.4	70	硬質泥岩	〃	— 〃
100	DA 56	Ⅱ		6.5	5.7	1.1	38	石質粗粒凝灰岩	〃	— 〃
101	DD 21	Ⅱ		5.6	4	1.3	19.4	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
102	DE 24	Ⅱ		6.1	4.7	1.6	21.5	硬質泥岩	〃	— 〃
103	DA 56	Ⅱ		5.9	4.5	1.6	39	玻璃流紋岩（鉄石英）	〃	— 〃
104	DJ 09	Ⅱ		2.6	1.9	0.5	1.8	硬質泥岩	〃	— 〃
105	DG 18	Ⅱ		6.9	5.1	1.5	60	〃	〃	— 〃
106	DA 21	Ⅱ		4.6	2.8	1.2	11.7	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
107	DB 53	Ⅱ		7	2.3	1.4	18.2	〃	〃	— 〃
108	DI ?	Ⅱ		3.2	3.5	0.8	7.5	〃	〃	— 〃
109	DF 03	Ⅱ		1.7	2.8	0.3	2	〃	〃	— 〃
110	DH 03	Ⅱ		5.7	5	1	24.1	〃	〃	— 〃
111	DC 27	Ⅱ		5.5	4.9	1	20.6	〃	〃	— 〃
112	DH 18	Ⅱ		9	4.1	0.9	32.8	〃	〃	— 〃
113	DI 12	Ⅱ		4.5	3.5	1.4	19	〃	〃	— 〃
114	DC 18	Ⅱ		5.6	9.6	1.4	40	硬質泥岩	〃	— 〃
115	DG ?	Ⅱ		5.3	4	0.8	18	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
116	DH 18	Ⅱ		4.2	3.6	0.7	10.8	硬質泥岩	〃	— 〃
117	DG 50	Ⅱ		4.7	4.3	0.5	9.6	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
118	DG 15	Ⅱ		3.2	0.9	0.5	19	硬質泥岩	〃	— 〃
119	DC 21	Ⅱ		4.6	2.8	1.3	9.3	〃	〃	— 〃
120	DG 50	Ⅱ		3.8	2.2	0.8	7.3	石質細粒凝灰岩	〃	— 〃
121	DJ 12	Ⅱ		3.4	2.1	0.3	2.4	硬質泥岩	〃	— 〃
122	DD 24	Ⅱ		6.2	4.2	1	23.3	〃	〃	— 〃
123	DH 18	Ⅱ		3.5	4.3	0.7	9.5	〃	〃	— 〃
124	DG 18	Ⅱ		4.4	5.3	1	25	〃	〃	— 〃
125	DB 53	Ⅱ		1.7	3	0.3	1.6	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
126	DE 12	Ⅱ		3.7	2.7	1	7.5	〃	〃	— 〃
127	DA 50	Ⅱ		5	2.8	0.8	10.5	〃	〃	— 〃
118	DD 21	Ⅱ		2.8	1.6	0.7	4.3	硬質泥岩	〃	— 〃
129	DE 12	Ⅱ		4.6	2.2	0.4	3.8	〃	〃	— 〃
130	DI 09	Ⅱ		4.2	2.1	0.5	5.7	〃	〃	— 〃
131	DA 59	Ⅱ		2.9	2.6	1.3	10	石質細粒凝灰岩	〃	— 〃
132	DH 12	Ⅱ		4.8	3.5	0.9	14	硬質泥岩	〃	— 〃
133	DJ 15	Ⅱ		3.6	2.3	0.5	19.8	珪質凝質凝灰岩	〃	— 〃
134	DA 59	Ⅱ		3.4	2.8	0.6	4.8	〃	〃	— 〃
135	DB 53	Ⅱ		3.1	3	1.1	10.8	石質細粒凝灰岩	〃	— 〃
136	DF 03	Ⅱ		5.1	2.8	0.9	7.4	玻璃質流紋岩（鉄石英）	〃	— 〃
137	DA 56	Ⅱ		4.7	4	0.9	19.5	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
138	DA 09	Ⅰ—3		5.3	3.9	1.3	27.5	〃	〃	— 〃
139	DA 59	Ⅰ		5.9	4	2	40	〃	〃	— 〃
140	DI 50	Ⅰ		3	2.5	0.5	6.5	石質細粒凝灰岩	〃	— 〃
141	DF 65	Ⅰ		3.2	2.5	0.5	3.7	硬質泥岩	〃	— 〃
142	DA 65	Ⅰ		3.5	3.2	1.1	8.7	〃	〃	— 〃
143	DI 59	Ⅰ		4.9	3.9	1.4	22	石質細粒凝灰岩	〃	— 〃
144	DA 09	Ⅰ		4.6	3.1	1.4	16	硬質泥岩	〃	— 〃
145	DA 18	Ⅰ		4.6	3	1.2	14.8	珪質泥質凝灰岩	〃	— 〃
146	DJ 3	Ⅰ—1		7.1	2.6	0.9	12.8	硬質泥岩	〃	— 〃
147	DE 24	Ⅰ		4.7	3.2	1.3	15.2	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
148	DA 56	Ⅰ		5.7	3.3	1.1	23.6	珪質泥岩	〃	— 〃
149	DC 18	Ⅰ		5.8	3.5	1.5	30.3	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
150	DA 09	Ⅰ—4		8.2	5.7	2.6	140	硬質泥岩	〃	— 〃
160	DA 15	床面直上		8.2	1.5	0.3	1	硬質凝灰質泥岩	〃	— 〃
161	DC06G	Ⅱ（斜面）		5.8	8	1.7	60	石質凝灰岩	奥羽山地か北上山地—古生界	
※1	DC18G	Ⅱ		4.3	3	0.8	10.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統	
※2	DC 24	表23		8.9	6.7	1.6	90	〃	〃	— 〃
※3	〃	表22		6.7	6.5	1.9	90	〃	〃	— 〃
※36	DE—DF12	Ⅰ		5.7	4.8	2.1	60	〃	〃	— 〃
※37	〃	〃		6.0	5.0	2.0	50	硬質泥岩質凝灰岩	〃	— 〃
※39	DB18G	Ⅱ		9.2	6.2	1.7	100	硬質泥岩	〃	— 〃

1	EE 24	I		5.4	3.8	1.1	27	硬質泥岩	奥羽山脈—中新統
2	EA 62	I		5.9	5.2	0.9	21	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
3	ED 51	I		3.6	2.7	0.9	7.5	珪質極粗粒凝灰岩	〃 — 〃
4	EB 56	I		2.8	2.9	0.4	2.1	硬質泥岩	〃 — 〃
5	EA 03	I		2.3	2.2	0.6	4.3	泥質極粗粒凝灰岩	〃 — 〃
6	EE 21	I		4.6	3.3	1	15	硬質泥岩	〃 — 〃
7	ED 62	I — L		7.1	4.7	1.2	20	泥質極粗粒凝灰岩	〃 — 〃
8	EA 65	I		3.3	1.6	0.5	4.2	珪質泥岩	〃 — 〃
9	EA 65	I		7	3.5	1	20.5	硬質泥岩	〃 — 〃
10	EG 62	I		4.6	5	0.9	15.1	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
11	EA 71	I		8	4.6	1.4	40	〃	〃 — 〃
12	EF 18	I — L		6.4	3.6	1.1	29	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
13	EA 21	I		9	4	1.4	30.1	泥質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
14	EA 09 G	II		5.6	3.1	0.7	22.5	〃	〃 — 〃
15	EA 12	II		4.8	2.7	2.1	20	珪質泥岩	〃 — 〃
16	EB 03	II		7.9	3.2	1.4	23	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
17	EH 12	II — 3		4.7	4.2	1	19.4	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
18	EF 15	I — 1		4	4.3	1.1	17.2	〃	〃 — 〃
19	EF 12	I		7	5.3	1.7	50	泥質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
20	EA 06	I		6.5	4.8	1.2	40	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
21	EF 24	I		5.7	4.2	1	40	珪質泥質細粒凝灰岩	〃 — 〃
22	EH 59	I — 1		8.6	4.9	1.8	70	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
23	ED 71	I		5.9	4.7	1.7	40	〃	〃 — 〃
24	EA 59	I — 1		6	2.2	1.1	13.6	硬質泥岩	〃 — 〃
25	EA 62	I		6.3	3.9	1.1	40	〃	〃 — 〃
26	EF 12	I		7.3	6.2	2	100	粘板岩	夏油川—古生界
27	EG 74	I		4	3.6	1	11	硬質泥岩	奥羽山脈—中新統
28	EH 15	I — 2		6.6	6.4	1.4	70	鉄石英	〃 — 〃
29	EF 68	I		4.9	4.3	0.8	10.7	珪質泥岩	〃 — 〃
30	EH 03	I — 1		8.7	6.4	2.2	140	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
31	ED 62	I		5.1	4.4	1.2	27	〃	〃 — 〃
32	EE 71	I — 2		7.1	4.6	1.5	30	硬質泥岩	〃 — 〃
33	EA 05	I		6.6	4.9	1.2	40	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
※36	EA 15	I		2.7	2.5	0.8	4.3	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
1	FA 62	I		5	5.5	0.7	1.6	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	FA 59	I		9.3	5.1	0.8	30	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
3	FA 62	I		7	4.9	1.1	30	〃	〃 — 〃
4	FA 05	I		4.9	3.4	0.7	8	〃	〃 — 〃
5	FF 62	I		9.2	3.7	2.3	80	〃	〃 — 〃
6	FA 65	I		6.1	4.7	1.6	60	珪質泥岩	〃 — 〃
1	GJ 53	II		6.7	1.5	1	12.9	珪質泥岩	〃 — 〃

〔使用痕ある剥片〕

1	BJ 15	I		3.6	2.7	0.3	3.2	硬質泥岩	奥羽山脈—中新統
2	BJ 59	I — 1		3.5	5	0.7	16.6	〃	〃 — 〃
3	BJ 59	I — 2		6.8	5.8	2.1	30	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
4	BF 53	I		6.6	6.8	1.8	56	粘板岩	夏油川上流・仙人—古生界
5	BB 03	I		4.6	4.4	2.6	30	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
6	BI 15	II — 17		7	7.4	2.3	90	〃	〃 — 〃
7	BA 15	II		4.7	3.9	1.2	23.6	〃	〃 — 〃
8	BI 15	II		3.2	2.2	0.6	4.8	玉髄	〃 — 〃
9	BI 18	II — 3		6.4	2.9	0.6	9.5	硬質泥岩	〃 — 〃
10	BI 15	II		4	2	0.7	4.8	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
11	BI 00	II		5.2	5.6	2.6	50	〃	〃 — 〃
12	BH 15	II		4	3.2	0.8	9.8	珪質泥岩	〃 — 〃
13	BJ 50	II		3.4	2.8	1.0	11.3	珪質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
14	BJ 12	IV		5.3	5.6	2.4	50	硬質泥岩	〃 — 〃
1	CF 18	I		5.1	4.6	1.4	38	石質凝灰岩	奥羽山脈—中新統
2	CB 50	I		9.6	3.9	1.3	40	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
3	CG 09	I		6	4.3	1	30	淡緑色凝灰岩	〃 — 〃
4	CB 50	I		3.8	2.4	0.9	7	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
5	CI 06	I		6.1	6.3	1.6	37	珪質石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
6	CI 06	IV		5.7	4.7	1	28.6	石質極細粒凝灰	〃 — 〃
7	CI 15	IV		6.4	6.1	1.2	40	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
8	CB 09	IV		3.8	3.4	1.1	10.7	硬質泥岩	〃 — 〃
9	CI 15	IV		8.6	5.8	1.2	80	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
10	CE 06	II		9.1	3.5	1.5	50	石質凝灰岩	〃 — 〃
11	CA 18	II — 1		6.7	3.4	1	30	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃
12	CF 12	II		4.5	4.3	1	15.3	〃	〃 — 〃
13	CI 53	II — 2		5.7	2	1.2	11.5	玉髄	〃 — 〃
14	CF 53	II		6.5	4.2	1.9	50	石質極細粒凝灰質泥岩	〃 — 〃

15	CE 5 0	Ⅱ		7.9	3.2	2	40	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
16	CE 1 2	Ⅱ		8.3	6.9	1.6	70	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
17	CH 5 3	Ⅱ		3.5	2.2	1.2	5	珪質石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
18	CH 1 8	Ⅱ		11.4	5.7	1.3	100	粘板岩ホルンフェルス	夏油上流—古生界
19	CH 1 8	Ⅱ		7	5.3	1.7	60	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
20	CG 0 3	Ⅱ		4.6	7.3	0.8	30	〃 〃	〃 — 〃
21	CG50－53	Ⅱ		2.3	2.2	0.6	4	(鉄石英) 玻璃質流紋岩	〃 — 〃
22	CJ 1 8	Ⅱ		3.7	2.5	0.9	9.8	硬質泥岩	〃 — 〃
23	CJ 0 3	Ⅱ		6	3.7	1.2	19.5	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
24	CJ 1 8	Ⅱ		10.5	5.2	2.7	90	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
25	CA 1 2	Ⅱ—16		7.4	7.2	3.1	130	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
26	CI 0 3	Ⅱ		2.6	1.9	0.6	2	硬質泥岩	〃 — 〃
27	CJ 1 5	Ⅱ		5.2	3.9	1.6	30	石質極細粒凝灰岩	〃 — 〃
28	CHCJC150	Ⅱ		5.1	5	0.9	30	硬質泥岩	〃 — 〃
29	CH 1 5	Ⅱ		3.6	3.1	0.9	5.5	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
30	CCCD 9	Ⅰ—2		4.8	4	1.1	20	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
31	06グリット	Ⅱ		7.7	3.3	1.3	30	硬質泥岩	〃 — 〃
32	CJ 1 5	Ⅱ		5.1	3.7	1.2	15	〃	〃 — 〃
33	CJ 0 9	Ⅱ		2.5	3.7	0.5	4.8	〃	〃 — 〃
34	CB 1 5	Ⅱ		2.9	1.2	0.4	1.3	〃	〃 — 〃
35	CJ 0 9	Ⅱ		4.4	3.2	0.3	6.3	〃	〃 — 〃
36	CI 1 2	Ⅱ		5.9	3.2	1	19.3	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
37	CH 0 3	Ⅱ		4.7	4.5	1.1	21.3	硬質泥岩	〃 — 〃
38	CJ 0 9	Ⅱ		4	1.9	0.4	15	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
39	CC 0 9	Ⅱ		7	6.7	1.3	40	〃	〃 — 〃
40	CG 0 6	Ⅱ		6.2	4	1.6	40	(鉄石英) 玻璃質流紋岩	〃 — 〃
41	CH 0 6	Ⅱ		6	4.2	1.6	38	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
42	CJ 0 9	Ⅱ		5	3.1	0.7	19.8	硬質泥岩	〃 — 〃
43	CH 0 3	Ⅱ		6.9	4.1	2.1	50	粘板岩	相賀信人付近—中新統
44	CJ 1 8	Ⅱ		5.6	1.4	0.7	5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
45	CH 5 0	Ⅱ		4.2	1.6	0.8	7	凝灰質硬質泥岩	〃 — 〃
46	CJ 0 9	Ⅱ		6.4	3.9	1.1	25	〃	〃 — 〃
47	CJ 1 2	Ⅱ		7.6	3.2	1.1	20	珪質凝灰質泥岩	〃 — 〃
48	CD 0 9	Ⅱ		5	3.1	0.8	11.5	硬質泥岩	〃 — 〃
1	DF 5 9	Ⅰ		8.7	6.2	3.3	100	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
2	DD 1 2	Ⅰ		5.2	5	0.9	25.3	〃	〃 — 〃
3	DF 5 9	Ⅰ		7.5	4.4	1.4	30	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
4	DF 5 9	Ⅰ		3.4	5	1	21.5	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
5	DF 5 9	Ⅰ		4.9	4.7	1.4	26.2	珪質質流紋岩 (鉄石英)	〃 — 〃
6	DI 5 9	Ⅰ		5.9	3.9	0.8	16.8	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
7	DADB15	Ⅰ		7	3	1	15.3	硬質泥岩	〃 — 〃
8	DD 1 8	Ⅱ		6.1	4.1	1	17.2	〃	〃 — 〃
9	DA 0 9	Ⅱ		6.2	5.8	1.1	40	粘板岩	信人付近—古生界
10	DC 1 5	Ⅱ		5.7	4.5	0.8	20	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
11	DE 2 4	Ⅱ		6.9	5.3	1.7	40	硬質泥岩	〃 — 〃
12	DA 1 5	Ⅱ		7.2	6.5	1.3	50	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
13	DA18G	Ⅱ		7.5	5.1	1.7	70	硬質泥岩	〃 — 〃
14	DA06G	Ⅱ		6.2	3.5	1.8	20	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
15	DA 1 2	Ⅱ		5.9	4.3	1.3	20	硬質泥岩	〃 — 〃
16	DA 0 9	Ⅱ		5.2	3.7	1.4	22.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
17	DF 1 5	Ⅱ		3.4	2	0.4	3	硬質泥岩	〃 — 〃
18	DE12G	Ⅱ		3.6	2.2	0.5	5	〃	〃 — 〃
19	DE 2 1	Ⅱ		6.3	3.4	2.4	40	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
20	DA 5 6	Ⅱ		5.6	4.2	1.8	30	玉髄	育梁山地東縁—中新統
21	DI 1 2	Ⅱ		4.9	4.5	1.7	30	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
22	DE 1 2	Ⅱ		2.3	4.7	0.8	7.8	珪質泥質凝灰岩	〃 — 〃
23	DG 1 5	Ⅱ		4.9	2.8	2	16.6	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
24	DJ 1 2	Ⅱ		4.1	1.8	0.6	1.8	硬質泥岩	〃 — 〃
25	DD 2 1	Ⅱ		5.2	3.6	1	16.5	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
26	DF 2 1	Ⅱ		4.8	2.6	0.6	8	〃	〃 — 〃
27	DJ 1 2	Ⅱ		4.5	5	1.8	28	〃	〃 — 〃
1	EG 1 8	Ⅰ		5.8	1.8	0.9	10.5	硬質泥岩	奥羽山地—中新統
2	EA 1 8	Ⅰ		5.3	4.7	1.3	26	〃	〃 — 〃
3	ED 6 2	Ⅰ		6.3	4.6	0.9	22.5	〃	〃 — 〃
4	EA 5 9	Ⅰ		6.7	5.3	1.2	30	〃	〃 — 〃
5	EB 5 9	Ⅰ		5.8	4.2	1	20.3	〃	〃 — 〃
6	EA 0 9	Ⅰ		4.6	4	0.9	15.8	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
7	EA ?	Ⅰ		3.2	6	1.6	21.5	珪質泥質細粒凝灰岩	〃 — 〃
8	EF 2 4	Ⅰ		5.4	3.8	1.2	18	硬質凝灰質泥岩	〃 — 〃
9	EF 2 4	Ⅰ		3.6	6.8	1	22.8	〃	〃 — 〃
10	EH 6 2	Ⅰ		5.5	4.1	1	19	泥質極細粒凝灰岩	〃 — 〃

11	E G　7 4	Ⅰ				6.	4.8	1.8	60	粘板岩ホルンフエルス	夏油川上流—古生界
1	O I　5 3	Ⅲ				5.3	3.8	1.7	30	硬質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
2	O I　5 3	Ⅲ				2.2	4.7	1	3	〃	〃 — 〃
〔磨製石斧〕				完全	破損						
1	A E　2 7	Ⅰ—2			○	7.3	3.9	1.2	45	凝灰質粘板岩	仙人付近—古生界
1	B H　1 2	Ⅲ—1		○		5.2	2.5	1	19	粘板岩	夏油川上流，仙人—古生界
1	C A　1 5	Ⅰ—12			○	7.2	4.9	3	150	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	C H　0 9	Ⅱ			○	6.7	5.1	3.5	190	〃	〃 — 〃
3	D E　5 0	Ⅱ—4			○	7.8	5.1	1.3	80	淡緑色凝灰岩	〃 — 〃
4	C I　5 0	Ⅲ			○	9.2	5.9	3.1	270	硬砂岩	北上山地—古生界
5	C J　1 2	Ⅲ			○	6.4	2.8	1.2	30	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
6	C F　0 6	Ⅰ—2			○	10.8	4.1	2.2	150	粘板岩ホルンフエルス	夏油川上流—古生界
1	D A　1 8	Ⅲ			○	7.4	4	1.7	70	粘板岩	仙人付近—古生界
2	D G　1 5	Ⅲ				6.1	4.2	3.2	140	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	D J　1 2	Ⅱ				2.8	4.4	2.8	270	〃	〃 — 〃
4	D E　2 4	Ⅱ				9.2	5.6	3.2	270	粘板岩ホルンフエルス	夏油川上流—古生界
5	D A　5 3	Ⅲ—1				5.7	4.5	1.1	60	粘板岩	和賀仙人（？）—古生界
6	D A　5 3	Ⅲ—1				8.8	5.5	4.1	300	花崗閃緑岩	豊沢ダム（？）—中生代
1	E F　1 2	Ⅰ			○	12.2	5.1	3.5	350	プロピライト	奥羽山地—中新統
2	E F　0 6	Ⅰ			○	6.8	5	1.8	100	石質細粒凝灰岩	〃 — 〃
3	E G　7 4	Ⅰ			○	8	5.7	2.7	170	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
4	E A　7 1	Ⅰ		○		4.1	4.2	2	50	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
〔打製石斧〕											
1	C B　0 6	Ⅰ—2		○		11.8	5.8	3.1	220	粘板岩ホルンフエルス	夏油川上流—古生界
2	C E　5 6	Ⅰ—2		○		9.8	5.2	2.6	190	〃	〃 — 〃
〔片刃石器〕											
1	C A　1 8	Ⅰ		○		9.9	8.2	3.1	250	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	C G　5 0	Ⅰ		○		13.1	8.3	2.4	490	粘板岩ホルンフエルス	夏油川上流—古生界
1	D F　5 0	Ⅱ—U				9.8	7.8	2.5	160	細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	D G　0 3	Ⅱ				10.1	7.6	3.2	330	粘板岩	和賀仙人（？）—古生界
〔両　石器〕											
1	E F　0 6	Ⅰ		○		13.4	8.6	2.5	420	流紋岩	奥羽山地—中新統
〔石刃鏃〕											
1	C J　1 2	Ⅲ		○		3.8	1.4	0.5	1.6	石質極細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
1	D B　5 3	Ⅱ—6			○	4.5	1	1.1	2.2	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
〔石　鏃〕											
1	B I　1 8	Ⅱ—1	B	○		5.7	4.5	1.4	40	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	B H　1 2	Ⅱ—4	C	○		8	1.8	2.3	160	流紋岩質凝灰質砂岩	〃 — 〃
3	B H　1 5	Ⅱ—10	C	○		7	6.4	1.3	60	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
4	B E　5 0	Ⅱ—1	B	○		7.2	5.7	1.9	100	〃	〃 — 〃
5	B I　1 5	Ⅱ—2	B	○		5.6	4.2	1.4	40	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
6	B J　1 2	Ⅳ—16	B	○		6.2	4.1	1.6	70	流紋岩質細粒凝灰岩	〃 — 〃
7	B J　1 2	Ⅳ—6	A	○		6.7	5.4	1.5	60	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
8	B J　1 2	Ⅳ—9	B	○		9.5	7.7	2	200	流紋岩質細粒凝灰岩	〃 — 〃
9	B H　1 2	Ⅰ—1	A	○		7.2	6.2	2	100	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
10	B H　1 5	Ⅲ	B	○		5.5	4.6	1.5	40	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
11	B H　1 5	Ⅲ—8	A	○		9.2	6.8	2	180	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
12	B J　1 8	Ⅱ—10	B	○		5.7	4.5	1.3	50	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
1	C A　5 0	Ⅰ—2	A	○		6	5.2	1.7	60	淡緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	C B　1 8	Ⅰ—12	A	○		8.5	4.7	2	110	〃	〃 — 〃
3	C H　1 5	Ⅰ—1	A	○		8.1	5.2	1.7	80	プロピライト質角礫凝灰岩	〃 — 〃
4	C B　1 8	Ⅰ—9	C	○		6.9	6.8	1.5	90	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
5	C F 1 8 G	Ⅰ	B	○		8.6	7.8	2	180	〃	〃 — 〃
6	C B　5 0	Ⅰ—5	A	○		9	6.1	1.4	130	淡緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
7	C E　1 2	Ⅱ	B		○	4.5	3.9	1.5	40	緑色砂質凝灰岩	〃 — 〃
8	C H　5 3	Ⅱ	B		○	4.5	3.2	1.3	24	〃	〃 — 〃
9	C F　5 0	Ⅱ—5	A		○	7.4	6.1	2.2	120	輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
10	C H　5 3	Ⅱ	B		○	7.8	6.5	1.5	90	緑色砂質凝灰岩	奥羽山地—中新統
11	C J　5 6	Ⅱ—4	B		○	6.3	5.2	1.8	70	〃	〃 — 〃
12	C E　0 6	Ⅱ	B		○	8.6	6.3	2	160	輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
13	C G　5 3	Ⅱ—2	B		○	7.7	6.2	1.5	110	斗花閃岩	[illegible]
14	C I 0 6 G	Ⅱ	B		○	6.8	5.5	1.7	90	輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
15	C I　2 1	Ⅱ—2	A		○	7.5	5	1.3	80	緑色砂質凝灰岩	奥羽山地—中新統
16	C B　1 5	Ⅱ—12	A		○	8.9	5.9	2.6	180	濃緑色凝灰岩	〃 — 〃
17	C I　2 1	Ⅱ—2	C		○	5.4	5.2	1.5	70	輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統

18	CI 50	Ⅲ—15	B		○	7.2	5.3	1.8	90	石英安山岩	羽山～前塚見山—中新統
19	CA 15	Ⅱ—2	B		○	5.2	4	1	30	緑色砂質凝灰岩	奥羽山地—中新統
20	CH 53	Ⅱ	B		○	6.4	5.7	1.5	80	プロピライト質凝灰岩	〃—〃
21	CG 09	Ⅱ	A		○	8	6.4	1.6	120	輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
22	CJ 53	Ⅱ—1	A		○	7.3	4.3	1.6	80	緑色砂質凝灰岩	奥羽山地—中新統
23	CF 30	Ⅱ—6	A		○	7.8	6.5	2.8	190	輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
24	CB 18	Ⅱ—15	B		○	8.1	6.9	2.1	180	プロピライト	奥羽山地—中新統
25	CF 50	Ⅱ—9	A		○	7.8	5.3	2	90	輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
26	CH 50	Ⅱ	B		○	6.7	5.7	1.8	110	緑色砂質凝灰岩	奥羽山地—中新統
27	CI 15G	Ⅱ	B		○	8.9	6.3	2.2	140	石英安山岩	羽山～前塚見山—中新統
28	CH 53	Ⅱ	B		○	6.3	5.4	1.1	60	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
29	CF 06	Ⅱ—2	A		○	10.9	5.4	2.4	140	輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
30	CF 06G	Ⅱ	A		○	6.9	4.6	1.7	60	緑色砂質凝灰岩	奥羽山地—中新統
31	CE 50	Ⅱ—3	C		○	4.8	4.7	1.8	60	輝石安山岩	奥羽山地東縁—中新統
32	CB 12	Ⅳ—16	C	○		6.3	6	1.7	80	両輝石安山岩	〃—鮮新統
33	CA 15	Ⅳ—17	A	○		7.2	6.1	1.7	110	〃	〃—〃
34	CA 12	Ⅳ—13	B	○		9.4	7.1	2	190	粘板岩ホルンフエルス	夏油川上流—古生界
35	CA 15	Ⅳ—19	B	○		5.9	4.4	1.4	50	石質泥岩	奥羽山地—中新統
36	CI 15G	Ⅳ	B	○		6.4	5.9	2	90	凝灰質硬質泥岩	〃—〃
37	CI 06	Ⅳ	C	○		6.1	5.4	1.6	90	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
38	CJ 15	Ⅲ	C		○	8.4	7.4	2.4	180	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
39	CJ 18	Ⅲ	C		○	5.2	5	1.6	50	淡緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
40	CJ 12G	Ⅲ	B		○	6.1	5.2	1.4	40	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
41	CJ 15	Ⅲ	A		○	5.5	4.1	1.4	40	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
42	CJ 15G	Ⅲ	A		○	6.5	1.9	1.6	14.8	両輝石安山岩	〃—〃
43	CG20～53ベルト	Ⅲ	A		○	7.2	5.1	1.3	70	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
44	CH 06	Ⅲ	C		○	5.2	4.3	2.1	60	〃	〃—〃
45	CJ 12G	Ⅲ	A		○	6.6	5.4	2.3	100	〃	〃—〃
46	CG 59	Ⅲ	A		○	7.7	6.9	1.6	90	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
47	CJ 18G	Ⅲ	A		○	9	5.6	1.4	70	淡緑色凝灰岩	〃—〃
48	CD 09G	Ⅲ	B	○		5.8	4.3	1.7	40	石質細粒凝灰岩	〃—〃
49	CG 06G	Ⅲ	B	○		5.1	5.2	1.3	40	淡緑色凝灰岩	〃—〃
50	CJ 12	Ⅲ	B	○		7.7	6.2	1.8	90	石質細粒凝灰岩	〃—〃
51	CH 06G	Ⅲ	B	○		7.3	5.8	1.6	100	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
52	CG 03G	Ⅲ	B	○		5.5	5.4	1.1	40	〃	〃—〃
53	CH 06G	Ⅲ	B	○		7.2	4.8	1.5	70	〃	〃—〃
54	CI 03G	Ⅲ	C	○		6.3	5.7	1.6	70	〃	〃—〃
55	CJ 12G	Ⅲ	A	○		9.5	6.7	2.7	190	〃	〃—〃
56	CJ 15G	Ⅲ	A	○		7	5.2	2.1	90	〃	〃—〃
57	CG 06G	Ⅲ	B	○		5.4	4.5	1.8	60	〃	〃—〃
58	CI 12G	Ⅲ	C	○		6.1	5.7	1.8	90	〃	〃—〃
59	CI 18G	Ⅲ	C	○		6.6	5.8	1.8	110	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
60	CJ 18G	Ⅲ	B	○		5.9	4.8	1.5	40	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
61	CI 03	Ⅲ	C	○		5.5	5	1.4	40	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
62	CJ 12G	Ⅲ	B	○		7.9	4.8	1.9	90	〃	〃—〃
63	CI 03G	Ⅲ	C	○		7.5	7.3	1.4	120	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
64	CH 03G	Ⅲ	B	○		5.2	4	1.9	50	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
65	CH 67G	Ⅲ	B	○		6.8	4.4	1.7	80	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
66	CE 03G	Ⅲ	B	○		7	6.2	2	120	両輝石安山岩	脊梁山地—鮮新統
67	CJ 50	Ⅲ	C	○		8.2	8.4	2.5	230	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
68	CH 06	Ⅲ	B	○		6.3	5.2	1.9	90	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
69	CH 03G	Ⅲ	C	○		6.9	5.4	2.1	90	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
70	CC 09G	Ⅲ	A	○		6.2	4.6	1.4	50	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
71	CI 12G	Ⅲ	B	○		6.5	4.6	1.5	60	プロピライト	〃—〃
72	CB 15	Ⅲ—19	C	○		6.2	5.3	1.7	90	〃	〃—〃
73	CI 12G	Ⅲ	B	○		10.2	6.4	1.7	160	プロピライト質角礫凝灰岩	〃—〃
74	CJ 18G	Ⅲ	B	○		7.1	5.7	2.2	120	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
75	CH 03G	Ⅲ	B	○		4	3.4	0.6	11.2	〃	〃—〃
76	CF 06G	Ⅲ	B	○		7	5.7	2	100	〃	〃—〃
77	CH 50	Ⅲ	C	○		6.6	5.8	1.8	90	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
78	CF 06G	Ⅲ	A	○		9.4	7.9	1.7	160	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
79	CJ 12G	Ⅲ	A	○		9.3	4.9	2.4	110	〃	〃—〃
80	CJ 50	Ⅲ—2	C	○		6	5.4	1.7	80	〃	〃—〃
81	CI 15G	Ⅲ	C	○		5.5	5.4	2.1	80	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
82	CA 15G	Ⅲ	B	○		5.4	4.6	1.5	50	石質細粒凝灰岩	〃—〃
83	CG 03G	Ⅲ	A	○		5.1	4.3	1.9	50	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
84	CI 50	Ⅲ	C	○		5.1	4.7	2.1	60	〃	〃—〃
85	CA 12	Ⅲ	C	○		8.1	7.3	1.1	70	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
86	CJ 12G	Ⅲ	B	○		6.4	5.3	2.4	110	プロピライト質角礫凝灰岩	〃—〃
87	CH 03G	Ⅲ	B	○		6.5	5.2	2.1	90	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
88	CH 03G	Ⅲ	B	○		7.9	5.5	1.6	70	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
89	CI 18G	Ⅲ	B	○		7.1	6.1	1.9	130	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
90	CI 03G	Ⅲ	A	○		7.8	6.2	1.7	140	〃	〃—〃

91	CG 50	Ⅲ	C	○		5.1	4	1.9	50	角閃石安山岩	背梁山地東縁—鮮新統
92	CJ12G	Ⅲ	B	○		5.9	4.5	1.8	70	〃	〃—〃
93	CI12G	Ⅲ	C	○		6.2	5.9	1.4	70	〃	〃—〃
94	CJ 50	Ⅲ—7	B	○		9	7.8	2.2	160	〃	〃—〃
95	CI03G	Ⅲ	A	○		7.8	6.3	2.4	160	〃	〃—〃
96	CJ12G	Ⅲ	A	○		8.4	6.5	2.1	150	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
97	CD09		A	○		6.9	5.6	1.6	70	角閃石安山岩	背梁山地東縁—鮮新統
98	CG 59	Ⅲ	B	○		7.4	5.5	1.8	110	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
99	CG 50	Ⅲ—6	B	○		6.4	5.1	2.4	120	プロピライト	〃—〃
100	CG 59	Ⅲ	C	○		5.8	5.6	1.8	90	角閃石安山岩	背梁山地東縁—鮮新統
1	DGDH15	Ⅰ	C	○		7.5	7.3	2	120	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	DDE 3	Ⅰ—1	B	○		6.4	6.8	1.8	90	〃	〃—〃
3	DA 09	Ⅰ—1	B	○		7.5	5.5	1.2	50	石質凝灰岩	〃—〃
4	DB 03	Ⅰ	B	○		6	4.7	1.5	40	緑色凝灰岩	〃—〃
5	DA 09	Ⅰ—2	C	○		6.7	6.3	1.9	110	〃	〃—〃
6	DE 15	Ⅰ—1	B	○		8.9	6.2	2.1	130	石質凝灰岩	〃—〃
7	DE 12	Ⅲ	?		○	5.1	4	1.5	30	緑色凝灰岩	〃—〃
8	DD 09	Ⅲ	B		○	7.7	5.6	1	50	石質凝灰岩	〃—〃
9	DA15G	Ⅲ	B	○		6.3	5	1.7	50	石英安山岩	羽山—前塚見山—中新統
10	DA15G	Ⅲ	A	○		7.6	6.7	1.5	80	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
10	DA15G	Ⅲ	A	○		7.6	5.7	1.3	90	〃	〃—〃
11	DA 09	Ⅲ	A	○		5.4	4.6	1.5	50	〃	〃—〃
12	DD06G	Ⅲ	A	○		4.7	3.7	1.7	30	〃	〃—〃
13	DG03G	Ⅲ	B	○		5.9	5.2	1.4	50	〃	〃—〃
14	DA06G	Ⅲ	B	○		6.9	4.9	1.6	70	〃	〃—〃
15	DA 09	Ⅲ	C	○		6.2	5.2	1.5	70	角閃石安山岩	背梁山地東縁—中新統
16	DA 09	Ⅲ	A	○		6.7	6.1	1.7	100	石質凝灰岩	奥羽山地—中新統
17	DA 18	Ⅲ	A	○		9.5	8	1.8	220	緑色凝灰岩	〃—〃
18	DE 24	Ⅲ	A	○		8.5	5	2	90	石英安山岩	羽山—前塚見山—中新統
19	DA 03	Ⅲ	A	○		5.7	4.9	1.6	50	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
20	DA 06	Ⅲ	B	○		6.4	5	1.8	80	〃	〃—〃
21	DA 09	Ⅲ	B	○		6.5	5.4	1.3	50	〃	〃—〃
22	DA 03	Ⅲ	B	○		7.2	5.3	1.5	60	〃	〃—〃
23	DA 03	Ⅲ	B	○		6.8	4.4	1.4	50	〃	〃—〃
24	DA15G	Ⅲ	A	○		6.9	5.5	1.9	80	〃	〃—〃
25	DA15G	Ⅲ	A	○		6.2	4.5	1.7	50	〃	〃—〃
26	DA 06	Ⅲ	B	○		5.6	4.5	1.6	60	〃	〃—〃
27	DA 06	Ⅲ	B	○		5.9	4.9	1.8	70	〃	〃—〃
28	DB 18	Ⅲ	A	○		7.8	4.8	1.6	70	角閃石安山岩	背梁山地東縁—鮮新統
29	DC 18	Ⅱ	A		○	8.9	5.2	1.3	70	緑泥片岩	和賀仙人(?)—古生界
30	DH 12	Ⅱ	?		○	6.5	4.8	2.3	60	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
31	DA 56	Ⅱ	A		○	7.2	5.8	1.2	50	〃	〃—〃
32	DI 12	Ⅱ	A		○	7.9	4	1.4	70	石英安山岩	羽山—前塚見山—中新統
33	DJ 12	Ⅱ	A		○	7.2	5.8	1.7	80	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
34	DA 53	Ⅱ	A	○		8.6	5.8	1.7	120	石英安山岩	羽山—前塚見山—中新統
35	DC 24	Ⅱ	C	○		7.6	7.1	2.6	190	〃	〃—〃
36	DH 12	Ⅱ	A	○		7.4	4.8	1.4	60	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
37	DD 15	Ⅱ	A	○		8.9	5.3	2	100	〃	〃—〃
38	DA 18	Ⅱ—V	B	○		8.8	5.2	1.8	100	〃	〃—〃
39	DJ 09	Ⅱ	C	○		6.9	6.7	1.7	100	石質凝灰岩	〃—〃
40	DI 12	Ⅱ	B	○		4.8	4.7	1.7	40	緑色凝灰岩	〃—〃
41	DI 09	Ⅱ	B	○		7.3	6.3	1.9	100	〃	〃—〃
42	DF 24	Ⅱ	B	○		8	6.6	1.7	120	〃	〃—〃
43	DH 12	Ⅱ	A	○		6	3.9	1.6	40	〃	〃—〃
44	DC 24	Ⅱ	B	○		8.2	6.6	3.1	170	〃	〃—〃
45	DA 56	Ⅱ	A	○		6.9	5.9	1.4	70	〃	〃〃—〃
46	DI 12	Ⅱ	C	○		6.5	6	1.5	90	〃	〃—〃
49	DJ 09	Ⅱ	C	○		9	7.6	1.6	130	〃	〃—〃
48	DC 21	Ⅱ	B	○		7.3	6.4	2.1	130	〃	〃—〃
49	DC 24	Ⅱ	B	○		6.6	4.9	2.2	80	〃	〃—〃
50	DI 12	Ⅱ	A	○		8	5.5	1.4	70	〃	〃—〃
51	DA 56	Ⅱ	B	○		6	5.5	1.8	70	〃	〃—〃
52	DD 15	Ⅱ	A	○		7.9	5.6	2	90	角閃石安山岩	背梁山地東縁—鮮新統
53	DH 09	Ⅱ	A	○		8.4	4.4	2.2	90	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
54	DJ 15	Ⅱ	B	○		6.8	5.4	1.5	70	〃	〃—〃
55	DG 12	Ⅱ	A	○		6.5	6.2	1.7	90	〃	〃—〃
56	DC 06	Ⅱ	C		○	5.2	5.5	1.6	60	〃	〃—〃
57	DA 12	Ⅲ	A	○		9.7	4.3	1	70	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
1	EF 06	Ⅰ—1	C	○		7.3	6.7	1.8	100	角閃石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	EH 53	Ⅱ	B	○		7.9	6.5	2.5	140	〃	〃—〃
3	EF 12	Ⅰ	C	○		6.4	6.2	1.9	100	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統

4	EB 59	I	A	○		5.8	3.4	1.2	20	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
5	EF 06	I	C	○		6.7	5.1	2.1	100	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
6	EF 12	I	B	○		7.8	5.6	2.3	110	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
7	EJ 62	I	C	○		6	6.3	0.8	30	〃	〃 — 〃
8	EF 12	I	A	○		5.4	4.5	1.3	30	流紋石質凝灰岩	奥羽山地—中新統
9	EA 18	I	A	○		9.2	6.7	2	190	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
10	EF 06	I	A	○		7.7	5.7	1.7	90	〃	〃 — 〃
11	EG 66	I—3	B	○		7.4	6.4	2.1	120	〃	〃 — 〃
12	EF 12	I	B	○		7.6	5.5	1.8	90	〃	〃 — 〃
13	EH 03	I—2	A	○		10.5	8.6	2.3	320	〃	〃 — 〃
14	EF 12	I	A	□		9.1	7.7	2.2	250	〃	〃 — 〃
15	EA 09	II	C	○		6.8	6.9	2.3	120	〃	〃 — 〃
16	EG 12	II—2	A	○		8.9	7	2.4	170	〃	〃 — 〃
1	FB 63	I	A	○		8.2	6	2.4	120	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
2	FB 62	I	B	○		6.7	5	1.5	50	玄武岩	奥羽山地—中新統
3	FB 62	I	B	□		6.7	5	1.5	70	両輝石安山岩	脊梁東縁—鮮新統
1	CD 24	系 25	B	○		8.4	5.4	2	130	淡緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	CD 24	系 44	A	○		6.7	5.5	2.4	110	〃	〃 — 〃
3	CD 24	系 42	A	○		8.1	5.4	2.4	150	〃	〃 — 〃
4	CD 24	系 29	A	○		8.1	6.1	1.7	140	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
5	CD 24	系 36	A	○		7.6	6.2	1.6	90	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
6	CD 24	系 39	A	○		7.8	6.7	1.8	150	淡緑色凝灰岩	〃 — 〃
7	CD 24	系 37	C	○		6.6	6	2	90	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
8	CD 24	系 33	A	○		6.2	5.5	1.9	100	〃	〃 — 〃
9	CD 24	系 48	A	○		7.2	5.9	2.6	160	プロピライト	奥羽山地—中新統
10	CD 24	系 31	A	○		8.8	5.4	2.4	150	淡緑色凝灰岩	〃 — 〃
11	CD 24	系 47	A	◇		7.2	6	2	120	粘板岩	夏油川—和賀仙人火上山地—古生界
12	CD 24	系 28	A	○		8	5.4	2	120	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
13	CD 24	系 46	A	○		9	5.9	2.2	140	〃	焼石岳火山群—第四紀
14	CD 24	系 32	A	○		8.4	5.6	1.7	130	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
15	CD 24	系 40	A	○		7.1	6.4	2.4	130	プロピライト	奥羽山地—中新統
16	CD 24	系 39	C		○	6.6	6.1	1.6	70	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
17	CD 24	系 2	B	○		4.8	4.3	1.6	40	〃	〃 — 〃
※3	DC 24		石錘			8.4	7.2	1.7	140	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
※4	DC 24		石錘			4.8	4.3	1.6	45	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
※5	DC 24		石錘			7.5	6.4	2.4	150	〃	〃 — 〃
※6	DC 24	系 3	石錘			6.6	4.6	1.8	70	〃	〃 — 〃
101	CE 06	III	B	◇		6.8	5.9	1.5	80	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
102	CH 63 G	III	C	◇		6.1	5.5	1.8	80	〃	〃 — 〃
103	CH 03 G	III	C	○		9.9	9.1	3.2	420	〃	〃 — 〃
104	CJ 15 G	III	A	○		9.8	6.2	2.5	220	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
105	CG 18 G	III	C	○		5.4	5	1.8	60	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
106	CJ 15 G	III	A	○		5.8	4.8	1.4	40	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
107	CI 50	III—2	B	○		10.6	7.8	2.7	310	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
108	CA 15 G	III	A	○		7.5	5.5	1.5	100	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
109	CJ 56	II—1	B	○		6.2	5.6	2.2	120	輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
110	CI 50	I	B	○		7	5.8	1.9	100	〃	〃 — 〃
111	CA 53	II	B	○		8	6.3	2.6	150	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
断面三角形磨石											
1	CG 09	I	b—1	○		12.5	5.6	4	320	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
2	CE 12	I	b—2		○	5.8	4.4	2.2	50	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	CG 50	I	a—2		○	10	5.8	5.5	470	プロピライト	〃 — 〃
4	CC 50	I—1	b—2		○	13.9	7	3.3	440	濃緑色凝灰岩	〃 — 〃
5	CB 50	I—7	a—2		○	9.1	5.7	4.8	380	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
6	CI 50	I—9	b—3		○	7.4	7.3	3.5	320	〃	〃 — 〃
7	CH 03	I	a—2		○	6.5	6.2	5.2	380	〃	〃 — 〃
8	CG 50	I			○	9.4	6.3	4.3	420	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
9	CC 03	I—6	b—2		○	6.7	6.5	4.8	250	〃	〃 — 〃
10	CE 50	I	a—2		○	8.6	5.4	2.6	180	プロピライト	奥羽山地—中新統
11	CB 50	I—3	b—2		○	8	6.4	4.6	350	〃	〃 — 〃
12	CB 50	I—7	b—2		○	5.8	5.3	3.6	150	淡緑色凝灰岩	〃 — 〃
13	CB 50	I—4	a—2		○	9	5.5	3.1	170	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
14	CA・CB 6	I	b—2		□	9.1	3.5	2.2	100	石質細粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
15	CE 06	II—4	b—2		○	9.4	8.4	4.9	520	濃緑色凝灰岩	〃 — 〃
16	CE 06	II	b—2		○	7	4.7	3.3	210	〃	〃 — 〃
17	CC 03	II—4	b—2		○	11.1	6.6	4	430	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
18	CF 50	II—3	b—2		○	10.8	8.1	3.9	470	〃	〃 — 〃
19	CH 53	II	b—2		○	9.8	6.6	2.4	270	淡緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
20	CD 06	II	b—2		○	7.3	6.3	3.7	270	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀

21	C F 0 6	Ⅱ	b—2		○	10.2	8	3.9	450	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
22	C I 1 5	Ⅱ	b—2		○	7	5.9	3.4	200	粘 板 岩	夏油川～和賀仙人か北上山地—古生界
23	C E 6 0	Ⅱ	b—2		○	7.8	6.2	3	240	凝 緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
24	C C 0 3	Ⅱ—5	b—2		○	9	8.1	4.6	460	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
25	C E 0 6	Ⅱ—6	b—2		○	9.1	6.9	4.5	380	プ ロ ピ ラ イ ト	奥羽山地—中新統
26	C E 1 2	Ⅱ	b—2		○	11	6.2	3.3	320	凝 緑 色 凝 灰 岩	〃 — 〃
27	C G 5 0	Ⅱ	b-2-f		○	8.4	7.2	2.4	250	〃	〃 — 〃
28	C H 0 9	Ⅱ	b-2-f		○	8.7	7	2.2	160	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
29	C F 5 0	Ⅱ—18	b-2-f		○	9.8	8.4	3.8	470	〃	焼石岳火山群—第四紀
30	C F 5 0	Ⅱ—2	b—1	○		15.8	6.9	3.1	540	凝 緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
31	C I 1 5	Ⅱ	b—1	○		4.9	5.8	3.1	340	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
32	C E 0 6	Ⅱ	b—1	○		14.5	7.7	2.7	430	〃	焼石岳火山群—第四紀
33	C D 0 6	Ⅱ	b—1	○		16.3	10.6	3.1	840	淡 緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
34	C C 0 3	Ⅱ—1	b—1	○		16.4	7.8	3.4	730	〃	〃 — 〃
35	C D 0 6	Ⅱ	a—1	○		12.8	6.6	5.2	500	斑 糲 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
36	C J 5 3	Ⅱ—2	a—1	○		17.8	8.7	4.8	1,200	淡 緑 色 砂 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
37	C C 0 3	Ⅱ—3	a—2		○	12	6.1	4.2	510	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—中新統
38	C G 5 6	Ⅱ	a—2		○	13.6	7.5	3.7	450	凝 緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統最下部
39	C I 2 1	Ⅱ—3	a—2		○	10.5	7.6	5.5	480	輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
40	C E 0 6	Ⅱ	a—2		○	13	7.3	4.8	480	斑 糲 石 安 山 岩	〃 — 〃
41	C E 0 6	Ⅱ	a—2		○	6.4	5.9	6	210	斑 糲 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
42	C G 5 6	Ⅱ	a—2		○	7.5	6.3	2.7	210	淡 緑 色 砂 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
43	C E 5 0	Ⅱ	a—2		○	9.1	7.7	3	340	凝 緑 色 凝 灰 岩	〃 —中新統最下部
44	C F 5 0	Ⅱ—17	a—2		○	7.4	6.5	3.6	240	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
45	C D G	Ⅱ	a—2		○	15	7.6	4.6	770	淡 緑 色 砂 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
46	C A 1 5	Ⅱ—6	a—2		○	6.7	6.3	3.5	180	輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
47	C E 5 0	Ⅱ—16	a—2		○	8.7	7.8	4.1	410	斑 糲 石 安 山 岩	〃 — 〃
48	C C 0 3	Ⅱ—2	a—2		○	10.6	7.5	6	480	輝 石 安 山 岩	〃 — 〃
49	C D G	Ⅱ	a—2		○	10.1	8.9	4.4	450	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
50	C E 0 6	Ⅱ	a—2		○	13.2	7.2	5	580	斑 糲 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
51	C D 0 3	Ⅰ—1	b—1	○		13.3	6.3	1.7	240	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
52	C B 1 2	Ⅳ—14	b-2-f		○	10	8.1	3.5	490	プ ロ ピ ラ イ ト	奥羽山地—中新統
53	C J 1 8	Ⅲ	b—2		○	9.8	5.8	3.6	170	凝 緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統最下部
54	C J 1 8	Ⅲ	b—2		○	11.8	11.8	4.3	780	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
55	C J 5 0	Ⅲ—4	b—2		○	13.5	12	3.1	800	〃	〃 — 〃
56	C D 0 9	Ⅲ	b—2		○	11.3	7.7	2.2	340	凝 緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
57	C J 1 2	Ⅲ	b—2		○	9	6.9	2.9	380	黒 雲 母 岩	北上山地か和賀仙人付近—古生界
58	C J 1 2	Ⅲ	b—2		○	7.4	5.7	2.7	170	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
59	C I 1 2	Ⅲ	b—2		○	6.2	6.5	3.5	220	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
60	C A 1 5	Ⅲ—8	b—2		○	10.5	7.1	3.4	390	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
61	C I 5 0	Ⅲ	b—2		○	9.7	7.1	2.5	300	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
62	C J 1 8	Ⅲ	b—2		○	10	3.6	1.5	90	粘 板 岩	夏油川～和賀仙人か北上山地—古生界
63	C J 5 0	Ⅲ—3	b—2		○	8.3	6.7	3.3	320	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
64	C J 1 8	Ⅲ	b—2		○	9.6	5.7	2.7	250	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
65	C F 0 3	Ⅲ	b—2		○	9.9	7.4	3.4	300	凝 緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
66	C I 1 2	Ⅲ	a-2-f		○	9.1	4.9	3.2	220	淡 緑 色 凝 灰 岩	〃 — 〃
67	C J 1 5	Ⅲ	b—1	○		14.5	5	3	290	プロピライト質角礫凝灰岩	〃 — 〃
68	C J 1 8	Ⅲ	b—1	○		13.8	6.8	5	540	プ ロ ピ ラ イ ト	〃 — 〃
69	C H 0 3	Ⅲ	b—1	○		17.5	7.8	3.7	650	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
70	C B 1 5	Ⅲ	b—1	○		13.8	8.6	2.4	380	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
71	C J 5 0	Ⅲ	b—1	○		16.2	8.7	2	430	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
72	C I 5 3	Ⅲ	b—2		○	8.2	7.3	4.8	340	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
73	C I 0 9	Ⅲ	b—2		○	6.8	7.4	3.9	240	〃	〃 — 〃
74	C J 1 2	Ⅲ	b—2		○	10.5	5.9	4.8	200	流 紋 岩	奥羽山地—中新統
75	C J 1 2	Ⅲ	b—2		○	5.7	5.2	3.5	130	凝 緑 色 凝 灰 岩	〃 — 〃
76	C J 1 8 G	Ⅲ	b—2		○	8.7	4.6	3.6	220	プロピライト質角礫凝灰岩	〃 — 〃
77	C I 5 0	Ⅲ—4	b—2		○	8.2	6.9	3.6	270	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
78	C I 1 2	Ⅲ	b—2		○	6.7	4.7	3.9	120	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
79	C I 5 0	Ⅲ—20	b—2		○	10.5	7.4	6.1	450	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
80	C I 5 0	Ⅲ	b—2		○	12.4	7.8	5.8	600	斑 糲 石 安 山 岩	焼石岳火山群—第四紀
81	C J 5 0	Ⅲ	a—1	○		15.2	7.1	4.3	730	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
82	C H 0 3	Ⅲ	a—1	○		13.8	5.3	3.3	420	凝 緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
83	C J 5 0	Ⅲ	a—1	○		11.9	4.9	5	320	〃	〃 — 〃
84	C I 0 3	Ⅲ	a—1	○		12.8	7.7	5.2	540	〃	〃 — 〃
85	C J 0 6	Ⅲ	a—1	○		12.2	5.7	5.8	400	斑 糲 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—中新統
1	B I 1 5	Ⅱ—3	a—2		○	8.9	5.2	5.3	340	流 紋 岩 質 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
2	B I 1 2	Ⅱ—4	a—2		◇	12.4	7.9	4.7	390	斑 糲 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
3	B I 1 5	Ⅱ—10	a—2		○	13.2	6.3	5.3	560	花 崗 閃 緑 岩	豊沢ダム付近—中生代
4	B I 1 5	Ⅱ—18	a—2		○	13.8	6	3.7	390	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
5	B H 1 5	Ⅲ—5	a—2		○	4.9	2.1	5.4	270	花 崗 閃 緑 岩	豊沢ダム付近—中生代
6	B H 1 5	Ⅲ	a—1	○		14.2	6	2.4	280	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
7	B I 1 5	Ⅲ	a—1	○		9.4	7.5	2.4	270	斑 糲 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統

8	BH 15	Ⅱ—6	a—2		○	9.4	6.6	3.7	280	輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
1	DC03G	Ⅱ	a—1	○		13.9	5.5	3.5	390	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
2	DD 09	Ⅱ	b—2		○	8.9	6.7	3.4	290	〃	〃 — 〃
3	DF 15	Ⅱ	a—1	○		11.4	8.4	3.8	550	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
4	DC 18	Ⅱ	a—2		○	10.3	6.8	4.7	440	〃	〃 — 〃
5	DC18G	Ⅱ	b—2		○	7.4	6.8	4.9	350	プロピライト	奥羽山地—中新統
6	DA 18	Ⅱ	a—2		○	11	6.3	5.5	360	両輝石安山岩	育梁山地東縁—中新統
7	DA 03	Ⅱ	a—2		○	11.8	9.2	6.4	820	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
8	DA15G	Ⅱ	a—2		○	8.4	5.5	2.9	190	プロピライト	〃 — 〃
9	DA 12	Ⅱ	b—2		○	8.5	5.8	3.3	250	緑色凝灰岩	〃 — 〃
10	DA 15	Ⅱ	b—2		○	14	7.5	3.6	600	〃	〃 — 〃
11	DA 03	Ⅱ	a—2	○	○	11.2	9.6	3.7	660	プロピライト	〃 — 〃
12	DJ 15	Ⅱ	a—1	○		15.7	5.6	4	530	緑色凝灰岩	〃 — 〃
13	DC 27	Ⅱ	a—1		○	14.6	5.5	3.2	380	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
14	DC 37	Ⅱ	a—2		○	11.8	11.4	4.6	730	〃	〃 — 〃
15	DI 12	Ⅱ	a—2		○	9	8	4	390	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
16	DH 12	Ⅱ	b—2		○	11.3	6.5	3	370	〃	〃 — 〃
17	DT 03	Ⅱ	b—2		○	9.7	3.4	2.8	110	〃	〃 — 〃
18	DD 21	Ⅱ	b—1	○		13.1	6	6	550	細粒凝灰岩	〃 — 〃
19	DE 24	Ⅱ	b—1	○		12.5	6	2.3	190	石英安山岩	羽山～萩塚見山—中新統
20	DC 21	Ⅱ	a—2		□	12.3	7.2	4.6	530	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
21	DF 59	Ⅰ—2			○	8.2	6.4	4	300	両輝石安山岩	育梁山地東縁—中新統
22	DG 15	Ⅰ			○	7.9	6.4	3.4	210	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
23	DB 56	Ⅱ			○	8.1	4.6	2.9	120	プロピライト	〃 — 〃
24	DB 53	Ⅱ—5			○	9.1	6.8	2.7	250	緑色凝灰岩	〃 — 〃
25	DF 59	Ⅰ—1		○		14.2	7.9	5	840	プロピライト	〃 — 〃
26	DG 15	Ⅰ		○		18	7.9	3.9	820	緑色凝灰岩	〃 — 〃
27	DB G	Ⅱ			□	8.2	6.1	3.8	290	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
28	DB18G	Ⅱ	a—1	○		14.1	5	3.6	440	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
参14	DJ12G	Ⅰ	〃			14.3	6.6	3.0	430	〃	〃 — 〃
1	FF 62	Ⅰ	a—2		○	9.2	6.3	5.1	460	プロピライト	育梁山地—中新統
2	FF 62	Ⅰ	a—2		○	13.6	7.3	4.1	600	濃緑色凝灰岩	〃 — 〃
3	FA 62	Ⅰ	a—2		○	11.7	8.5	5.8	850	花崗閃緑岩	豊沢ダム付近—中生代
4	FE 62	Ⅰ	a—2		○	9.6	6.9	4.3	240	プロピライト	育梁山地—中新統
5	FB 62	Ⅰ	a—2		○	9	6.5	3.7	320	〃	〃 — 〃
6	FA 65	Ⅰ	a—1	○		15.7	5.5	4.1	580	濃緑色凝灰岩	〃 — 〃
7	FB 62	?				5.8	6.3	6.8	280	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
1	EA 62	Ⅰ	a—1	○		19.5	6.7	3.8	640	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	EG 59	Ⅰ	a—2		○	9.8	7.7	7.1	630	〃	〃 — 〃
3	EF 12	Ⅰ	a—2		○	6.4	5.7	2	120	粘板岩ホルンフェルス	夏油川—古生界
4	EF 06	Ⅰ	a—1		○	10	5.7	4.6	300	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
5	EG 78	Ⅰ	a—2		○	10.6	7.1	3.8	410	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
6	EF 12	Ⅰ	a—2		○	5.8	5.7	3.3	110	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
7	EF 12	Ⅰ	a—2		○	9.7	6	3.9	370	両輝石安山岩	〃 — 〃
8	EF 65	Ⅰ	a—2		○	7.5	7.3	5.4	440	流紋岩	〃 — 〃
9	EA 12	Ⅰ—1	a—2		○	7.9	6.9	3.6	210	プロピライト	〃 — 〃
10	EF 06	Ⅰ	a—2		○	8.2	6.7	4.5	340	流紋岩	〃 — 〃
11	EJ 56	Ⅰ—1	a—2		○	10.9	9	5.2	500	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
12	EG 78	Ⅰ	a—2		○	10	5.9	3.9	370	花崗閃緑岩	黒沢ダム—中生代
13	EJ 56	Ⅰ—1	a—2		□	14.1	7.7	5.7	570	プロピライト	奥羽山地—中新統
14	EB 24	Ⅱ	a—1		○	11.9	7.3	3.7	460	粘板岩ホルンフェルス	夏油川—古生界
15	EA 50	?	a—2		○	11.3	9.5	5.4	670	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
16	EE24G	?	a—2		□	7.6	7.2	3.5	240	プロピライト	〃 — 〃
〔半円形磨石〕											
1	CE 50	Ⅰ—2	1	○		15.4	5	2.9	350	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
2	CF 53	Ⅰ—5	1	○		16.2	8.8	4	710	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	CB 50	Ⅰ—4	1	○		18.8	5.4	2.7	400	濃緑色凝灰岩	〃 — 〃
4	CF 53	Ⅰ—6	1	○		12.5	3.5	2.4	180	〃	〃 — 〃
5	CF 53	Ⅰ—2	1	○		10.7	6.4	2.6	200	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
6	CF 53	Ⅰ—1	1	○		13.1	4.9	2.4	190	粘板岩	夏油川—和賀仙人付近上流—古生界
7	CA 12	Ⅰ—3	1	○		13.3	6	1.9	220	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流——古生界
8	CC 56	Ⅰ	1	○		11.4	6.1	2.3	240	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
9	CJ 12	Ⅰ—1	1	○		12.8	5.5	2.5	170	石英斑岩質粘板岩	和賀仙人付近(?)—古生界
10	CB 50	Ⅰ—10	2		○	8.1	6.2	3	220	硬砂岩	北上山地——古生界
11	CB 53	Ⅰ—1	2		○	8.9	8.2	3.9	290	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
12	CE 06	Ⅱ	2		□	6.8	4.2	2.4	60	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
13	CB 50	Ⅰ—12	2		○	11.1	6.1	3.2	350	〃	〃 — 〃
14	CI 50	Ⅱ—1	1		○	13.8	6.1	2.7	300	淡緑色細粒凝灰岩	〃 — 〃
15	CG 50	Ⅱ	1		○	13.5	6.9	2	310	粘板岩	夏油川—和賀仙人付近上流—古生界
16	CD 06	Ⅱ	1		○	15.6	9	3	680	淡緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統

17	C E 0 6	Ⅱ	2		○	9.7	4.8	2	140	粘板岩	夏油川—古生界
18	C F 5 0	Ⅱ—12	1		□	13.9	7	3.8	540	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
19	C D 0 9	Ⅲ	2			14	5.8	4.8	490	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
20	C I 1 2	Ⅲ	2			10.3	6	3.1	260	粘板岩	夏油川—和賀仙人か北上山地—古生界
21	C D 0 9	Ⅲ	2			11.1	6.2	3.4	330	硬砂岩	北上山地—古生界
22	C J 0 3	Ⅲ	2			9.6	7.6	2.5	300	〃	〃—〃
23	C E 0 6	Ⅲ	2			14.4	8.4	3	520	粘板岩	夏油川—和賀仙人か北上山地—古生界
24	C J 5 6	Ⅲ—5	2			10.3	8.3	4.2	360	プロピライト	奥羽山地—中新統
25	C J 5 6	Ⅲ	2			9.8	7.1	3.4	380	硬砂岩	〃—〃
1	B J 1 8	Ⅰ—7	2		○	14.7	6.1	3.1	360	粘板岩	夏油川・仙人—古生界
2	B I 1 8	Ⅱ—5	2		○	6.2	7.4	3.4	180	プロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
3	B C 1 2	Ⅱ—3	2		○	11	7.8	2.6	340	〃	〃—〃
4	B I 1 8	Ⅱ—4	2		○	6	3.3	1.5	30	流紋岩質細粒凝灰岩	〃—〃
5	B I 1 5	Ⅱ—10	2		○	14	6.4	2.6	340	プロピライト質凝灰岩	〃—〃
6	B J 1 2	Ⅳ—6	2		○	17.7	6.7	3.1	500	〃	〃—〃
1	F D 6 2	Ⅰ	2			15.2	8.1	5.3	950	プロピライト	脊梁山地—中新統下部
2	F B 6 2	Ⅰ	2—イ			9.9	7.2	3.4	330	粘板岩	和賀仙人付近—古生界
3	F B 6 2	Ⅰ	2—イ			10.9	7	3.9	320	濃緑色凝灰	脊梁山地—中新統下部
1	D G 5 6	Ⅰ	2		○	7.1	8.4	2.8	290	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
2	D A 5 3	Ⅲ	2		○	10.3	7.6	2.6	250	粘板岩	和賀仙人(?)—古生界
3	D D 0 9	Ⅲ	2		○	17.7	8.5	3.2	780	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
4	D J 0 9	Ⅱ	2		○	8.2	6.8	2.1	150	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
5	D J 1 2	Ⅱ	2		○	5.8	6.9	3.5	370	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
7	D B 5 6	Ⅱ	2		○	8.1	4.7	2.5	120	プロピライト質凝灰岩	〃—〃
8	D B 5 3	Ⅱ—5	2		○	9.6	6.9	2.7	250	流紋岩質細粒凝灰岩	〃—〃
1	E F 5 0	Ⅰ—1	1	○		17.9	7	4.2	830	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	E H 6 2	Ⅰ	2		○	7	8.9	3.8	310	〃	〃—〃
3	E F 1 2	Ⅰ	2		○	8	4.2	2	90	〃	〃—〃
4	E G 6 5	Ⅰ	2		○	8.7	7.7	3	290	〃	〃—〃
5	E C 0 6	Ⅰ	1		○	14.1	7.1	3.3	440	〃	〃—〃
6	E J 0 6	Ⅰ	2	○		12.1	6.2	2	190	粘板岩	仙人付近—古生界
7	E G 1 2	Ⅲ—3	2		○	17	7.7	3.2	420	濃緑色凝灰岩	奥羽山地東縁—鮮新統
8	E F 2 7	Ⅰ—1	2		○	12.9	5	2.6	200	凝灰質粘板岩	仙人付近—古生界
9	E F 0 6	Ⅰ	2		○	11.3	6.8	4.3	430	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統

〔磨 石〕

1	C J 1 2	Ⅰ			○	6.4	5.2	3.3	40	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
2	C B 5 0	Ⅰ—8			○	7.5	5.6	4.6	260	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
3	C I 1 5	Ⅰ		○		10.3	8.7	5.2	650	〃	〃—〃
4	C F 5 0	Ⅰ		○		5.8	5.5	1.3	50	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
5	C F 5 3	Ⅰ—4		○		10.1	9.2	4.9	640	両輝石安山岩	脊梁山地東縁—鮮新統
6	C B 1 8	Ⅰ—1		○		7.3	6.6	5.2	330	〃	焼石岳火山群—第四紀
7	C E 5 6	Ⅰ—3		○		7.9	7.4	4.3	350	〃	〃—〃
8	C B 0 6	Ⅰ—1		○		15.3	7.4	5.4	990	花崗閃緑岩	和賀仙人付近か豊沢ダム付近—中生代
9	C F 1 2	Ⅰ			○	9.4	2.2	2.3	70	千枚岩	和賀仙人付近—古生界
10	C E C F 15	Ⅱ			○	3.1	3	1.6	19.5	輝緑凝灰岩質チャート	北上山地—古生界
11	C I 1 2	Ⅰ			○	13.1	2	1.5	40	粘板岩	夏油川—和賀仙人か北上山地—古生界
12	C D 1 5	Ⅰ			□	11.1	4.9	2.9	90	千枚岩	和賀仙人付近—古生界
13	C E C F 15	Ⅱ			○	6.6	2	0.7	10	粘板岩	奥羽山地か北上山地—古生界
14	C G 5 0	Ⅱ			○	7.4	7.4	5.3	430	両輝石安山岩	奥羽山地東縁部(夏油川流域)—鮮新統
15	C J 5 3	Ⅱ—6		○		11.7	9.5	6	980	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
16	C G 5 0	Ⅱ		□		5.3	4.6	4.1	120	〃	〃—〃
17	C J 5 3	Ⅱ—4		○		7.7	7.1	4.8	350	花崗閃緑岩	和賀仙人付近か豊沢ダム付近—中生代
18	C C 1 5	Ⅱ		○		10	7.2	3.4	350	両輝石安山岩	奥羽山地東縁部(夏油川流域)—鮮新統
19	C I 5 3	Ⅱ—5		□		6.9	7	6	450	濃緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
20	C F 5 0	Ⅱ—10		○		11	7.7	5.7	760	花崗閃緑岩	和賀仙人付近か豊沢ダム付近—中生代
21	C I 2 1	Ⅱ		○		5.8	5.1	4.3	160	両輝石安山岩	奥羽山地東部(夏油川流域)—鮮新統
22	C C 5 6	Ⅱ—2		□		6.6	5.6	4.6	240	〃	〃—〃
23	C J 5 3	Ⅱ—3		□		9.9	8.4	6.4	540	〃	〃—〃
24	C G 5 0	Ⅱ		○		11.2	9.9	4.7	780	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
25	C I 1 5	Ⅳ			○	11.6	3.7	4	210	〃	〃—〃
26	C J 1 5	Ⅲ			○	11.4	7.2	5	490	〃	〃—〃
27	C J 1 2	Ⅲ			○	6.7	5.9	2.4	90	花崗閃緑岩	和賀仙人付近か豊沢ダム付近—中生代
28	C J 5 0	Ⅲ—9			○	10.4	9.1	6.2	380	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
29	C I 5 3	Ⅲ			○	12.4	10.1	8.4	1,140	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
30	C A 1 5	Ⅲ—9			○	10.5	8	5.4	460	〃	焼石岳火山群—第四紀
31	C H 0 3 G	Ⅲ			○	9	9.8	5.8	640	プロピライト	奥羽山地—中新統
32	C B 1 2 G	Ⅲ			○	7.1	7.4	3.3	230	流紋岩質凝灰岩	〃—〃
33	C I 1 8	Ⅲ		□		10.7	8	5.8	740	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
34	C H 0 3	Ⅲ		○		7.6	5.8	3.5	230	花崗閃緑岩	和賀仙人付近か豊沢ダム付近—中生代

35	C G 0 3	Ⅲ		○		10.2	9	6.1	790	両 輝 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
36	C B 0 3	Ⅲ		○		6.6	6.3	5.4	300	石 英 ?	?
37	C I 5 3	Ⅲ		○		13	8.9	7	770	両 輝 石 安 山 岩	磯石岳火山群—第四紀
38	C I 50～53	Ⅲ		○		13.1	10.1	5.1	1,040	〃	〃 — 〃
39	C J 1 2	Ⅲ		◇		14.7	5.7	4.9	690	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
1	D C ?	Ⅲ			○	7.9	6.1	3.8	200	両 輝 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
2	D C 1 8	Ⅲ			□	9	7.1	4.5	330	〃	〃 — 〃
3	D A 1 5	Ⅲ			○	8.4	6.5	4.3	300	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
4	D A 5 3	Ⅱ			○	7.3	4.1	2.3	60	〃	〃 — 〃
5	D A 1 5 G	Ⅲ			○	11.6	6.3	3.5	360	〃	〃 — 〃
6	D D 0 9	Ⅲ		○		8.6	5.4	5.3	330	〃	〃 — 〃
7	D A 1 8 G	Ⅲ		○		9.1	8.9	6.6	690	両 輝 石 安 山 岩	磯石岳火山群—第四紀
8	D B 0 3	Ⅲ		○		9.2	7.5	5.2	490	〃	〃 — 〃
9	D F 2 4	Ⅱ			○	7.1	5.7	3	60	〃	〃 — 〃
10	D C 2 1	Ⅱ			○	6.7	19	5.6	510	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
11	D H 1 2	Ⅱ			○	9.3	5.6	4.3	350	〃	〃 — 〃
12	D B 5 3	Ⅱ—2		○		11.5	10	5.3	860	花 崗 閃 緑 岩	豊沢ダム(?)—中生代
13	D C 2 7	Ⅱ		○		9.6	6.5	5.9	450	〃	〃 — 〃
14	D A 5 6	Ⅱ		○		10.8	8.1	5.1	650	〃	〃 — 〃
15	D D 2 4	Ⅱ		○		6	4.7	1.7	50	両 輝 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
16	D J 1 2	Ⅱ		◇		13.3	6.1	4.1	510	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
17	D D 1 5	Ⅱ		○		11	9.6	5.3	760	両 輝 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
18	D J 1 2	Ⅱ		○		10.9	9.3	6.6	910	〃	〃 — 〃
19	D C 1 8	Ⅱ		○		10.6	10.6	3.7	620	〃	〃 — 〃
20	D A 5 6	Ⅱ		○		7.9	7.1	1.8	110	〃	〃 — 〃
21	D F 2 4	Ⅱ				9.3	6.8	3	220	石 英 安 山 岩	羽山～前塚見山—中新統
22	D D 2 1	Ⅱ				8.4	6.9	3	240	両 輝 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—中新統
23	D E 2 4	Ⅱ				9.7	8.7	5.2	600	石 英 安 山 岩	羽山～前塚見山—中新統
24	D H 1 2	Ⅱ				8.2	4.3	2.4	100	両 輝 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—中新統
1	F A 6 2	Ⅰ		○		12.4	7.1	3.7	540	アロピライト	脊梁山地—中新統下部
2	F F 6 2	Ⅰ		○		10.5	7.8	6.5	800	両 輝 石 安 山 岩	磯石岳火山群—第四紀
3	F F 6 8	Ⅰ		○		10.1	8.8	5.2	500	凝 灰 質 粗 粒 砂 岩	奥羽山地—中新統
4	F A 6 8	Ⅰ		○		5.1	5	3.8	100	玉 髄	〃 — 〃
5	F B 6 5	Ⅰ		○		8.5	4.1	2.7	120	凝 灰 岩	脊梁山地—中新統
6	F E 6 2	Ⅰ		◇		10.3	7	2.6	270	凝灰質粗粒砂岩	〃 — 〃
7	F B 6 2	Ⅰ			○	6.9	6.3	6.2	260	両 輝 石 安 山 岩	〃 — 〃
1	E G 6 8	Ⅰ		○		10.1	9.8	3.5	460	両 輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	E G 6 8	Ⅰ		○		6	6.7	5.9	320	〃	〃 — 〃
3	E A 0 3	Ⅰ		○		10.3	9	5.2	660	〃	〃 — 〃
4	E F 6 2	Ⅰ		○		11.2	9.9	3.2	280	〃	〃 — 〃
5	E G 6 2	Ⅰ		○		10	8.1	5.4	580	〃	〃 — 〃
6	E A 5 0	Ⅰ—2		○		9	7.2	5.8	460	〃	〃 — 〃
7	E F 1 2	Ⅰ		○		10.2	8.6	6.8	770	〃	〃 — 〃
8	E G 6 2	Ⅰ			○	6.9	6.6	4.1	190	〃	〃 — 〃
9	E G 7 4	Ⅰ			○	9	5.1	2	110	流 紋 岩	奥羽山地—中新統
10	E D 6 5	Ⅰ			□	10.8	10.5	7.2	900	両 輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
11	E G 7 4	Ⅰ			□	10.4	10.7	5.7	970	〃	〃 — 〃
12	E E 1 8	Ⅰ—1			○	8.2	7.7	5.1	440	〃	奥羽山地東縁—鮮新統
13	E G 1 2	重—1		○		9.4	7.9	6.8	670	〃	磯石岳火山群—第四紀
1	B I 1 2	Ⅱ		○		4.1	3.5	2.8	70	両 輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	B I 1 5	Ⅱ		○		6.1	4.6	2.7	150	〃	〃 — 〃
3	B I 1 5	Ⅱ—20			○	8.2	7.9	3.8	220	〃	磯石岳火山群—第四紀
4	B J 1 2	Ⅱ—1			○	10.1	5.3	4.3	400	〃	奥羽山地東縁—鮮新統
5	B J 1 2	重—2		○		15.5	5.3	3.9	500	〃	〃 — 〃
6	B J 1 5	重—4		○		13.8	11.4	1.9	470	アロピライト質凝灰岩	奥羽山地—中新統
〔凹み石〕											
1	C G 5 0	Ⅰ		○		8.1	6.2	4	250	石 英 安 山 岩	羽山～前塚見山—中新統
2	C G 5 0	Ⅰ		○		11.9	7	2.6	320	両 輝 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
3	C H 1 5	Ⅰ—3		○		11.4	7.8	3.4	390	〃	磯石岳火山群—第四紀
4	C G 5 0	Ⅰ		○		13.8	6.3	2.5	330	凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
5	C A 5 3	Ⅰ—1		○		8.8	8	5.7	420	両 輝 石 安 山 岩	脊梁山地東縁—鮮新統
6	C A 5 0	Ⅰ—9		○		10.4	9.5	5.8	800	〃	〃 — 〃
7	C I 2 1	Ⅱ—2		○		8.9	5	4.1	260	〃	磯石岳火山群—第四紀
8	C G 5 0	Ⅱ		○		9.9	9	4.3	500	アロピライト	奥羽山地—中新統
9	C D 5 6	Ⅱ—1		○		8.1	6.3	5.1	300	輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
10	C I 5 0	Ⅱ—19		○		12.3	7.5	4.4	570	石 英 安 山 岩	羽山～前塚見山—中新統
11	C I 5 6	Ⅱ—1			○	10.3	8.2	4.7	590	両 輝 石 安 山 岩	磯石岳火山群—第四紀
12	C I 2 1	Ⅱ			□	7.1	6.8	3.1	200	〃	脊梁山地東縁—鮮新統
14	C I 5 0	Ⅱ—4			○	10.3	6.5	3.7	260	輝 石 安 山 岩	〃 — 〃

14	CA 15	Ⅳ—16		○		12.8	7.3	4.6	420	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
15	CA 15	Ⅲ—13		○		12.1	9.1	5.5	880	〃	〃 — 〃
16	CI 50	Ⅲ—18		○		12	7.1	4.8	480	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
17	CI 18	Ⅲ		○		10.1	8.6	3.8	500	〃	〃 — 〃
18	CJ 12	Ⅲ		□		10.5	7.9	4.1	500	花崗閃緑岩	相賀仙人付近か豊沢ダム付近—中生代
19	CI 18	Ⅲ		○		10.1	8.8	4.5	590	〃	〃 — 〃
20	CI 50	Ⅲ		○		13.1	7	4.4	510	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
21	CI 50	Ⅲ—25		○		11.2	10.4	4.8	670	〃	〃 — 〃
22	CJ 15	Ⅲ		○		11.1	9.6	5.6	800	〃	〃 — 〃
23	CI 18	Ⅲ		○		9.5	9.2	2.8	310	プロピライト質角礫凝灰岩	奥羽山地—中新統
24	CJ 12	Ⅲ		○		9.4	6.6	3.7	370	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
25	CI 53	Ⅲ		○		13.3	9.7	6.6	1,280	花崗閃緑岩	相賀仙人付近か豊沢ダム付近—中生代
26	CJ 09	Ⅲ			○	8.5	6.5	3.6	130	凝灰岩質細粒凝灰岩	奥羽山地東縁—中新統
27	CJ 50	Ⅲ—6			○	6.4	5.8	4.1	110	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
28	CE 00	Ⅲ			○	11.8	11.7	6.2	760	〃	〃 — 〃
29	CI 50～53	Ⅲ—14			○	9.5	7.6	5.1	350	〃	〃 — 〃
30	CJ 12	Ⅲ			○	12.1	11.1	6.9	370	〃	〃 — 〃
1	ED 63	Ⅰ		○		11.9	8.7	5	650	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	EF 58	Ⅰ		○		9.9	6.6	2.5	210	〃	〃 — 〃
3	EF 71	Ⅰ		○		12.2	9.8	6.9	1,020	〃	〃 — 〃
4	EG 62	Ⅰ		○		10.5	7.5	4.8	510	花崗閃緑岩	豊沢ダム—万生代
5	EF 65	Ⅰ		○		14.5	6.7	2.8	260	石質粗粒凝灰岩	奥羽山地—中新統
6	EF 12	Ⅰ		○		10.2	7.5	4.4	380	流紋岩	〃 — 〃
7	EF 13	Ⅰ		○		10.7	9.2	5	690	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
8	EA 12	Ⅱ			○	7.6	7.7	3.6	250	流紋岩質凝灰岩	奥羽山地—中新統
1	DF 59	Ⅰ—3		○		10.8	10	5.1	770	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
2	DG 15	Ⅰ			○	9.9	6.8	3.1	210	〃	〃 — 〃
3	DF 15	Ⅲ		○		12.4	4.3	3.5	260	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
4	DA 15	Ⅲ			○	5.1	5.3	2.8	70	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
5	DA 15 G	Ⅲ			○	7.4	7.1	4.9		〃	焼石岳火山群—第四紀
6	DB 18	Ⅲ			○	11.7	8.2	5.4	620	〃	育梁山地東縁—鮮新統
7	DB 18	Ⅲ			○	7.7	6	2.8	180	〃	〃 — 〃
8	DC 27	Ⅱ		○		9	6.3	3	220	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
9	DJ 15	Ⅱ		○		7.8	6.9	3	170	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
10	DG 15	Ⅱ			○	8.6	4.4	2.8	170	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
11	DJ 09	Ⅱ			○	8.9	6.5	4	200	石英安山岩	羽山—前塚見山—中新統
12	DJ 12	Ⅱ			○	8.2	5.3	3.4	160	プロピライト	焼石岳火山群—第四紀
13	DJ 12	Ⅱ			○	9.8	8.4	5.5	450	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
1	BH 15	Ⅱ—4		○		11.7	8.2	5.2	770	両輝石安山岩	焼石岳火山群—第四紀
[石 皿]											
1	CB 50	Ⅰ—9			○	15.4	11.3	9.7	3,170	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
2	CB 03	Ⅰ—2			○	14.4	12.1	3.9	1,100	石英安山岩	羽山—前塚見山—中新統
3	CA 53	Ⅰ			○	8	6.5	1.1	70	〃	〃 — 〃
4	CA 50	Ⅰ—4			○	8	6.3	1	70	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
5	CD 53	Ⅰ			○	12.7	7.4	1.8	190	〃	〃 — 〃
6	CE 50	Ⅰ			○	11	4.5	1.5	90	石英安山岩	羽山—前塚見山—中新統
7	CD 03	Ⅰ			○	8.8	6.2	2.6	190	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
8	CC 53	Ⅰ			○	10.2	8	2.6	380	流紋岩	〃 — 〃
9	CE 09	Ⅰ			○	10.2	8.8	8.2	1,150	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
10	CI 12	Ⅰ			○	5.4	4.7	2.8	80	石英安山岩	羽山—前塚見山—中新統
11	CD 03	Ⅰ—2			□	10.6	9.6	3.6	600	〃	〃 — 〃
12	CF 50	Ⅱ—3			□	6.7	5.3	5.1	300	両輝石安山岩	奥羽山地東部(夏油川流域)—鮮新統
13	CG 50	Ⅱ			○	9.6	9.6	1.6	110	〃	〃 — 〃
14	CA 15	Ⅱ—3			□	28.2	20	4.6	1,840	〃	育梁山地東縁—鮮新統
15	CF 50	Ⅱ—8			○	8.9	6	2.1	230	〃	奥羽山地東部(夏油川流域)—鮮新統
16	CI 15	Ⅲ			○	10	11.1	8.8	1,010	〃	焼石岳火山群—第四紀
17	CG 53	Ⅲ			□	12.7	7.4	1.3	170	〃	育梁山地東縁—鮮新統
18	CE 12	Ⅲ			○	9.3	7.2	3.7	420	〃	焼石岳火山群—第四紀
19	CJ 15	Ⅲ			○	7.4	6	3.1	230	石英安山岩	羽山—前塚見山—中新統
20	CJ 12	Ⅲ			□	12.7	10.4	6.3	1,300	両輝石安山岩	育梁山地東縁—鮮新統
21	CJ 18	Ⅲ				4.2	3	3.4	40	〃	育梁山地東縁—鮮新統
22	CJ 50～53	Ⅲ				10.8	10.6	7.2	920	〃	〃 — 〃
23	CD 21	Ⅱ—a				5.3	3.3	0.9	31	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
1	EF 12	Ⅰ			○	7.6	7.5	0.9	70	両輝石安山岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	EG 62	Ⅰ			□	20	14.7	7.6	2,840	〃	〃 — 〃
3	EF 12	Ⅰ			○	7.9	8.8	1.7	130	プロピライト質凝灰岩	〃 — 〃
4	EF 12	Ⅰ			□	15.5	15.2	3.9	1,800	両輝石安山岩	〃 — 〃
5	EF 12	Ⅰ			○	3.3	4	1	30	〃	〃 — 〃
6	EF 12	Ⅰ			○	6.3	5.2	3.6	160	〃	〃 — 〃

7	E F 1 2	I			○	4.8	4.6	4.1	190	斜 輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
8	E G 7 4	I			○	12.9	7.6	7.1	510	〃	〃 — 〃
9	E G 6 5	I			○	12.1	9.8	2.7	520	〃	〃 — 〃
10	E F 1 2	I			○	12.4	9.4	2.9	340	〃	〃 — 〃
11	E F 6 8	I			○	13.3	8.5	6.7	760	〃	〃 — 〃
12	E F 5 0	II			○	7.1	5.4	4	230	石 英 安 山 岩	羽山～前塚見山—中新統
13	E E 5 0	II			○	5.3	6.5	4	240	〃	〃 — 〃
1	D D 1 8	II			○	5.7	4.7	3.6	130	斜 輝 石 安 山 岩	台原山地東縁—鮮新統
2	D A 0 3	II			○	5.9	3	2.9	100	〃	〃 — 〃
3	D B 1 8	II			○	12.3	7.3	5.3	630	〃	〃 — 〃
4	D E 1 8	II			○	10.6	9.5	1.9	240	〃	〃 — 〃
5	D A 5 6	II			○	12.5	12.3	9.2	1,860	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
6	D F 1 8	II			○	11.5	14.5	12.8	720	斜 輝 石 安 山 岩	台原山地東縁—鮮新統
7	D E 2 4	II			○	11.9	13	4	710	〃	〃 — 〃
8	D C 2 7	II			○	5.8	4.9	5.1	230	〃	〃 — 〃
9	D H 1 2	II			○	11.1	6.4	2.4	190	〃	〃 — 〃
10	D B 5 3	II — 3			○	5	4	2.6	60	〃	〃 — 〃
12	D A 5 6	II			○	5.9	5.6	3.7	100	石 英 安 山 岩	羽山～前塚見山—中新統
13	D B 5 3	II — 2			○	13.8	9.3	2.2	440	斜 輝 石 安 山 岩	台原山地東縁—鮮新統
14	D I 1 2	II			○	11.9	10.8	2.3	570	〃	〃 — 〃
1	B F 0 9	I — 1			○	11.6	5.8	5.7	500	斜 輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	B I 1 5	I			○	3	3.6	0.8	8.5	石 英 粗 粒 輝 石 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
3	B I 1 8	I			○	4.3	2.6	1.1	11.3	〃	〃 — 〃
4	B H 1 5	I			○	6.8	5.6	1.3	60	〃	〃 — 〃
5	B F 5 3	II			○	6.2	6.9	1.4	70	斜 輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
(緑 石)											
1	C I 0 6	I			○	5.1	2.9	3.3	80	粘板岩ホルンフェルス	夏油川上流—古生界
2	C F 5 0	I			○	7.4	4.8	2.4	70	斜 輝 石 安 山 岩	焼石岳火山群—第四紀
3	C F 1 2	I			○	7.8	4.5	4.3	220	石 英 粗 粒 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
4	C F 5 0	I			○	8	6	4.1	310	凝 緑 色 凝 灰 岩	〃 — 〃
5	C F 5 3	II				7.2	4.8	3.9	140	斜 輝 石 安 山 岩	焼石岳火山群—第四紀
6	C H 5 3	II				6	4.7	2.9	60	〃	〃 — 〃
7	C I 5 0	II				11.1	7.9	4.6	190	〃	〃 — 〃
8	C B 1 5	II			○	9.9	5.1	2.8	80	〃	〃 — 〃
9	C J 5 0	II			○	14.3	7.1	4.8	350	〃	〃 — 〃
10	C J 1 2	II			○	11.1	8.3	2.3	190	〃	奥羽山地東縁—中新統
1	D A 1 2	II			○	18.4	7.8	2.6	300	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
2	D C 1 5	II			○	5.7	4.9	1.4	30	石 英 凝 灰 岩	〃 — 〃
3	D E 1 2	II			○	9.5	7.6	3.9	350	斜 輝 石 安 山 岩	台原山地東縁—中新統
1	F B 6 2	I				3	2.6	2.6	15.8	斜 輝 石 安 山 岩	焼石岳火山群—第四紀
(磨製品)											
1	A I 2 1	I — 2			○	4.7	3.3	0.8	16	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
1	B I 1 8	II			○	14.5	1.2	2.5	110	粘 板 岩	夏油川・仙人—古生界
2	B J 1 2	II			○	7.8	3.2	1.3	30	斜 輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
3	B H 1 5	II — 3			○	6.8	2.4	0.7	20	粘 板 岩	夏油川上流・仙人—古生界
1	C H 0 3	II		○		7.2	6.9	1.7	100	斜 輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	C H 0 3	II		○		10.8	5.1	1.6	130	〃	〃 — 〃
3	C H 5 0	II			○	5	4.2	1.2	30	〃	〃 — 〃
4	C I 50～53	II			○	4.3	3.6	1.4	28	〃	〃 — 〃
5	C I 2 1	II			○	11.8	7.8	1	110	凝 緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
1	E F 0 6	I			○	7.9	5.1	1.9	60	ヌロピクライト質凝灰岩	奥羽山地東縁—鮮新統
2	E E 5 0	I			○	6.1	2.6	0.7	22.5	砂 質 泥 岩	奥羽山地—中新統
3	E E 5 0	I			○	15.8	5	3.6	300	凝 灰 質 粘 板 岩	仙人付近—古生界
4	E B 5 9	I			○	6.4	5.1	1.4	50	斜 輝 石 安 山 岩	奥羽山地東縁—鮮新統
5	E E 5 0	I			○	17.8	2.5	3.7	650	〃	〃 — 〃
1	D I 1 2	II			○	6.8	5.2	1.9	80	石 英 安 山 岩	羽山～前塚見山—中新統
2	D B 5 3	II			○	10.9	3.8	0.7	35.6	千 枚 岩	北上山地か和賀仙人—古生界
3	D H 1 2	II			○	7.8	3.1	0.8	13.8	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
4	D A 5 3	II			○	7.2	7.2	1.6	32.1	凝 灰 質 粘 板 岩	仙人付近—古生界
5	D G 1 8	II			○	3.6	2.7	0.8	6.7	石 英 粗 粒 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
6	D F 2 1	II			○	5.1	2.7	1.9	26	粘 板 岩	和賀仙人(？)—古生界
7	D F 0 3	II			○	5.5	1.7	0.6	8.8	千 枚 岩	仙人付近—古生界
8	D A 5 6	II			○	5	3.8	1	28	緑 色 凝 灰 岩	奥羽山地—中新統
9	D I 5 0	II — 1			○	8.6	10.8	7.8	850	石 英 安 山 岩	羽山～前塚見山—中新統

1	DC 09	I		○		14	2.6	0.8	40	粘板岩	相賀仙人(?)—古生界
2	DG 03	I			○	7.3	1.2	0.7	9	〃	相賀仙人(?)—古生界
3	DC 15	II				9.5	2.2	0.5	16.3	千枚岩	北上山地ヶ相賀仙人—古生界
4	DA 03	II				4.6	3.2	2	31.3	石質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統
5	DG 03	II				5.5	4	0.8	15	緑色凝灰岩	奥羽山地—中新統
6	DB 18	II				8.8	2.2	0.5	11.6	粘板岩	信人付近—古生界
7	DA 03	II				9.3	1.6	0.9	20.3	粘板岩ヤホルンフエルス	夏油川上流—古生界
8	DC 18	II				3.8	4	1	22	石質凝灰質泥岩	奥羽山地—中新統

(4) **土偶**（第6－1～10図・図版22～25） すべて破片の形で得た。いずれも偏平で、所謂板状土偶の仲間である。特異な状況下に検出されたものはないと思われる。また遺構出土のものにあっては、土器からする年代観に合致するもの（併行期と見做しうるもの）も若干あるが、多くは本質的な対応関係をもたない（概ね、土器以前）ものが多い。したがって土偶の時期決定には慎重にならざるを得ず、従来の編年観に従がった。なお異なる遺構出土のものが接合できた例もあり、これらが通常の廃棄(他の遺物と同様の意味で)の対象とされたものであることを示すかのようである。また遺物包含層出土のものにあっても相互に隔った地点出土のものが接合した例もあり、この包含層が二次堆積層である可能性を示すとともに、その投棄状況に上述の如きものを想定させるものといえよう。細部の異同により分類できる。

第Ⅰ類 短かい頭部・腕と、胴部にくびれをもち、分銅形に近い体形をもつ。下端部には抉り込みを入れ、短かいながら脚部を表現する。頭部形状には方形基調・扇形基調・楕円形基調などがある。顔面の表現は省略化が目立ち抽象的であり、2～4個を組み合せとする小孔が穿たれる程度である。体部のそれと同様の半截竹管文や円形竹管文等が施文される例もある。両腕は短かい張り出し程度に表現され、各一孔が穿たれる例が多い。その孔が未貫通のものも多い。ここにも体部と同様の施文が行なわれる例が多い。体部中央においては、頭部下方に楕円形の凹部が形成され、そこに1～3程度の小孔が穿たれる。凹部を欠き小孔のみのものもある。体部中央やや下位にヘソを表現したかのような小さい膨隆部をもつものが多い。体部には各種の施文が見られるが、正面により多く正中線的な文様配置が目立ち、背面には体側縁方向に開く矢印状の施文が特徴的に加えられる。施文は竹管・半截竹管・箆状の各工具によったと思われ、結節沈線文・半截竹管文・刺突文・円形竹管文・沈線文等が展開される。沈線主体のものと、それに刺突文が付加される二類型があるとも見える。

以上のものは従来大木6～7a式といわれてきたものに該当しょう。6式と7a式の土偶がいかに分離しうるかは今後の課題である。

第2類 全体的形状は板状の仲間と見做しうるが、その表現がより具体的になっているものである。それは眉・鼻・眼・口と判別可能な顔面の表現や、乳房のそれ、などに顕著である。半截竹管によったと思われる併行沈線文が付加され、また乳房下位に小孔が穿たれる。これも従来大木7a式期といわれてきたものに合致する。

第3類 第2類と同様により具体的になったものであるが、顔面の表現は無く、かつ背面中央部に縦走する凹部を形成するものである。乳房下位の小孔は同様に存在する。これに比すべきな良好な類例をもたないが、背面中央の凹部が後述の第4類に共通する点を重視すれば、大7a式期よりはやや新しくなる可能性がある。なお共伴土器のもっとも新しいものは大木7b式

前後のものであり、一応矛盾はないとも見える。

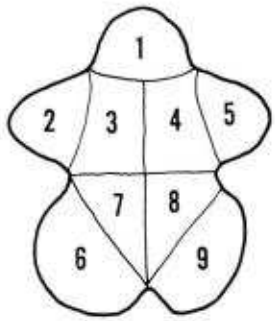
第4類　体形が分銅形ではなく、体下半（腰部以下）が急激に両側に張り出すものである。ヘソと思われる膨隆部もかなり下位にくる。施文も見られるが、沈線主体の簡素なものであり他者ほど盛行しない。地文には縄文が付される。脚～足部のつくり出しは比較的具体的であり、ある程度の安定感を得る程度のものになっており、土偶を立たせる意図が見えるともとれる。体部中央に縦位の凹部が形成され、正中線的な表現とも見える。CJ 27住居跡からの出土からすると、大木 8a 式期の可能性をもつ。

第5類　棒状の体部に乳房状の2個の円形貼付文を付し、その上位に貫通孔を有する。一応土偶と分類した。時期は不明である。

第6類　小さな頭部と逆三角形の体部を有し、乳房状の2個の膨隆部をもつ。体部表面は無文である。従来大木1式期とされてきたものの体形によく類似するといえるが、本例には繊維の混入は見られない。したがって時期の特定は避けておくが、その可能性の一つとして、前期部頭というものを掲げておく。

以上のように本遺跡出土の土偶類は前期末～中期部のものを主体として、若干量の、前期初頭例、中期中葉例を含む可能性をもつ。なお、第2類としたものは従来は岩手県央～県北部に多く検出されているかのようであり（代表例、盛岡市上米内畑井野遺跡）、ひいては東北北部の円筒土器分布図により多く見られるものである。土器施文上に見られた円筒土器の影響が土偶の上にも見られて興味深い。

最後に破片して残存したその部位を集計すると次のようになる。上半身・下半身ほぼ同率で見られる。



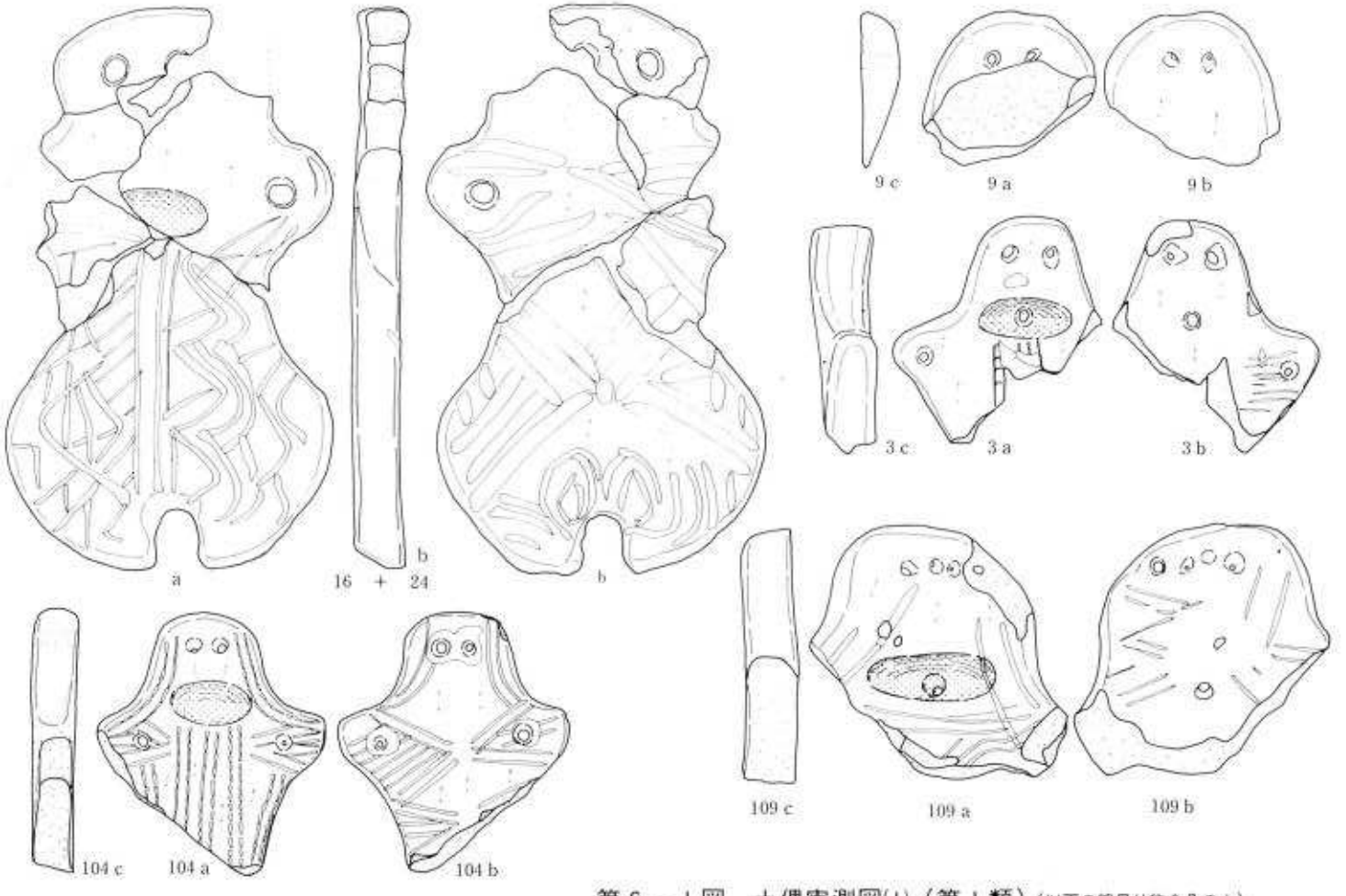
残存部位	1・2・3・4・6・7・8・9	7	7・8	8・9	7・8・9	6・7・8・9	9	6	3・4・6・7・8・9	2・3・4・6・7・8	2・3・4・5・7・8	1・3・4・5	1・2・3	1・2・3・4・5	3・4	3・4・5	2・3・4	2・3・4・5	5	2	1
数	1	1	2	4	1	16	1	4	1	1	1	3	1	4	5	2	4	4	1	7	6

第6－5表　遺構出土土偶一覧

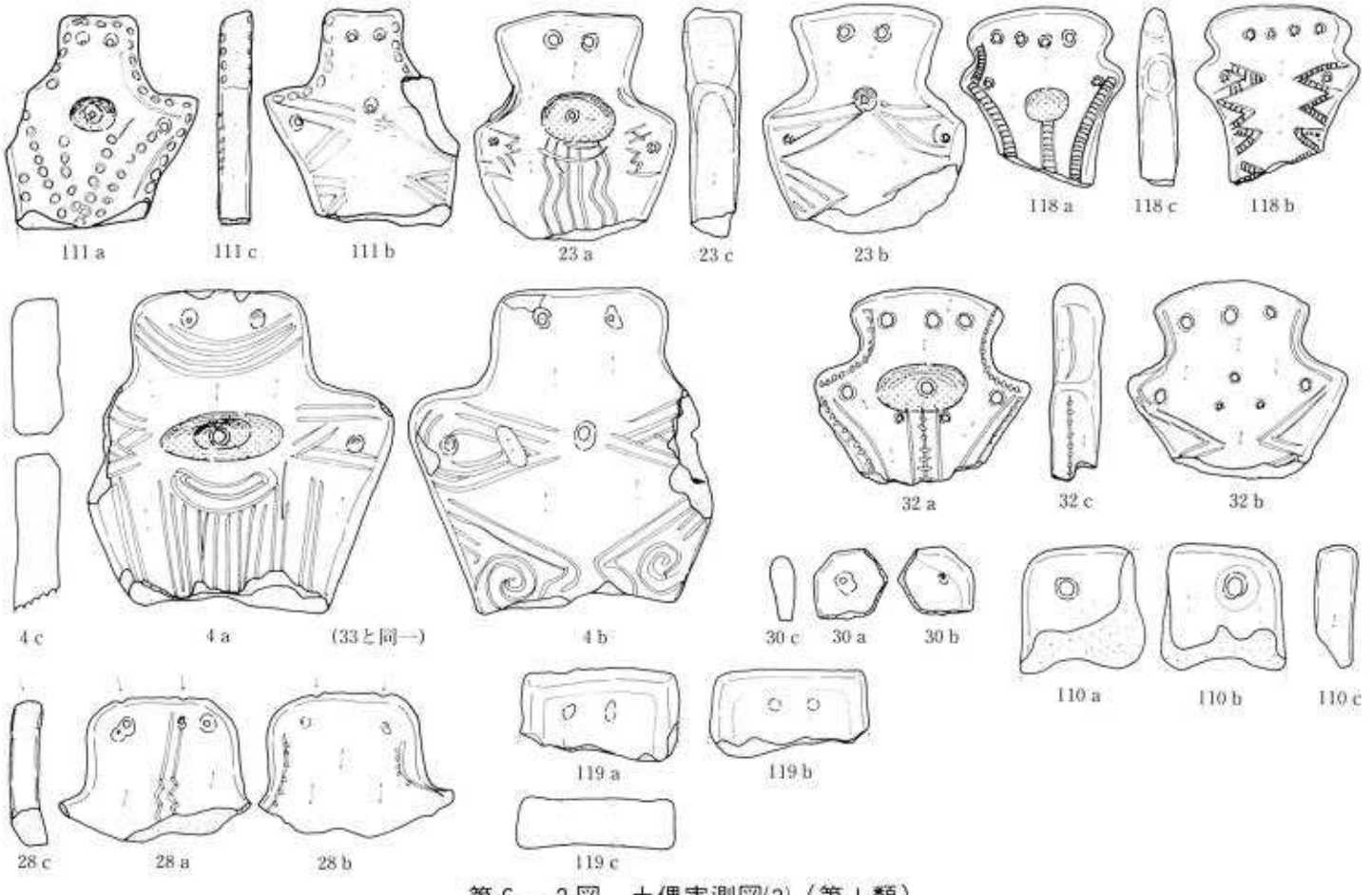
番	地点	旧ラベル	層序	最大長cm			備考	番	地点	旧ラベル	層序	最大長cm			備考
				たて	よこ	あつさ						たて	よこ	あつさ	
1	DE18住	DF09G住	埋土	9.8	8.8	1.9		8	?	EA15p. 1	?	3.9	6.6	2.4	2類(?)
12	〃	DF12G竪穴	?	3.0	2.4	1.6		9	EA15f. p. 1	EA15f. p. 1	?	4.2	5.4	1.5	
13	〃	DE09G住	埋土	2.9	1.8	0.9		30	EA03p. 3	EA03p. 3	?	2.0	2.3	0.7	
15	〃	DE09G竪穴	〃	3.9	4.9	1.2		2	?	EA06p. 1	?	8.1	6.7	1.9	
28	〃	DE06G 〃	〃	4.2	5.5	1.9		14	?	EB50p. 1	?	5.5	5.3	2.1	39と接合 4類
41	〃	DF03G住	?	4.7	4.6	1.3		34	EB03f. p.	EB03p.	?	4.0	4.2	0.9	
43	〃	DE09住	埋土	5.0	5.1	1.2		39	EB50f. p. 2	EB50p. 2	?	3.5	3.1	1.0	4類
4	CJ24住	CI21住拡張区	Ⅱ-3	9.1	8.2	1.6	33と接合	19	EC27p. 1	EC27p. 1	?	5.2	4.7	1.0	29と接合
10	〃	〃	〃	4.9	5.1	1.7		21	EC03f. p. 1	EC03p. 1	?	3.5	2.5	1.2	
18	〃	CJ24住 〃	Ⅱ-1	5.6	7.8	1.9		22	〃	EC03p. 2～3	?	4.8	3.2	1.7	
20	〃	CI21 〃	Ⅱ-3	6.7	5.6	1.7		29	ED15p. 2	ED15p. 2	?	3.4	3.0	0.9	
33	CI21住	CI21住E南北ベルト北	?	5.6	7.1	1.3		6	?	EE03p.	?	8.8	12.5	2.3	2類
16	CG15住	CG15住内	?	12.0	9.4	1.4	24と接合	26	EE15f. p. 1	EE15p. 1	?	5.8	5.0	1.4	6類
23	〃	〃	Ⅰ	6.2	5.2	1.4		32	EE50f. p. 1	EE50p. 1	?	5.4	6.0	1.3	
24	〃	〃 土偶②	?	9.3	6.9	1.3		33	〃	EE50p.	?	11.2	6.2	2.1	
45	〃	〃	埋土	4.8	8.3	1.2		36	?	EE03p.	?	7.6	6.6	1.7	
17	CJ27住	CJ24住拡張区隅	Ⅱ－(1)	7.0	6.6	1.9	4類	38	EJ71p.	EJ71p. 1	?	5.0	4.0	1.2	
31	〃	〃	Ⅱ	7.9	7.9	2.0	〃	11	?	CJ21f. p.	埋土	3.4	3.5	0.9	
44	〃	CJ27住	埋土	7.2	6.4	1.3		37	DE18溝状遺構	DE18溝状遺構	?	5.8	4.8	1.2	
42	〃	CJ27住B－B′ベルト	?	3.9	3.7	1.5									
25	CB18f. p.	CB18f. p.	Ⅰ	5.0	5.5	1.1									
27	〃	〃	?	5.0	5.7	1.6									
7	?	DE24Gp. 2	?	3.4	3.8	1.0									
3	DB24f. p.	DB24f. p.	?	4.5	6.1	1.9									
5	EA59f. p.		?	14.1	5.1	3.1	3類								

第6－6表　遺構外出土土偶一覧

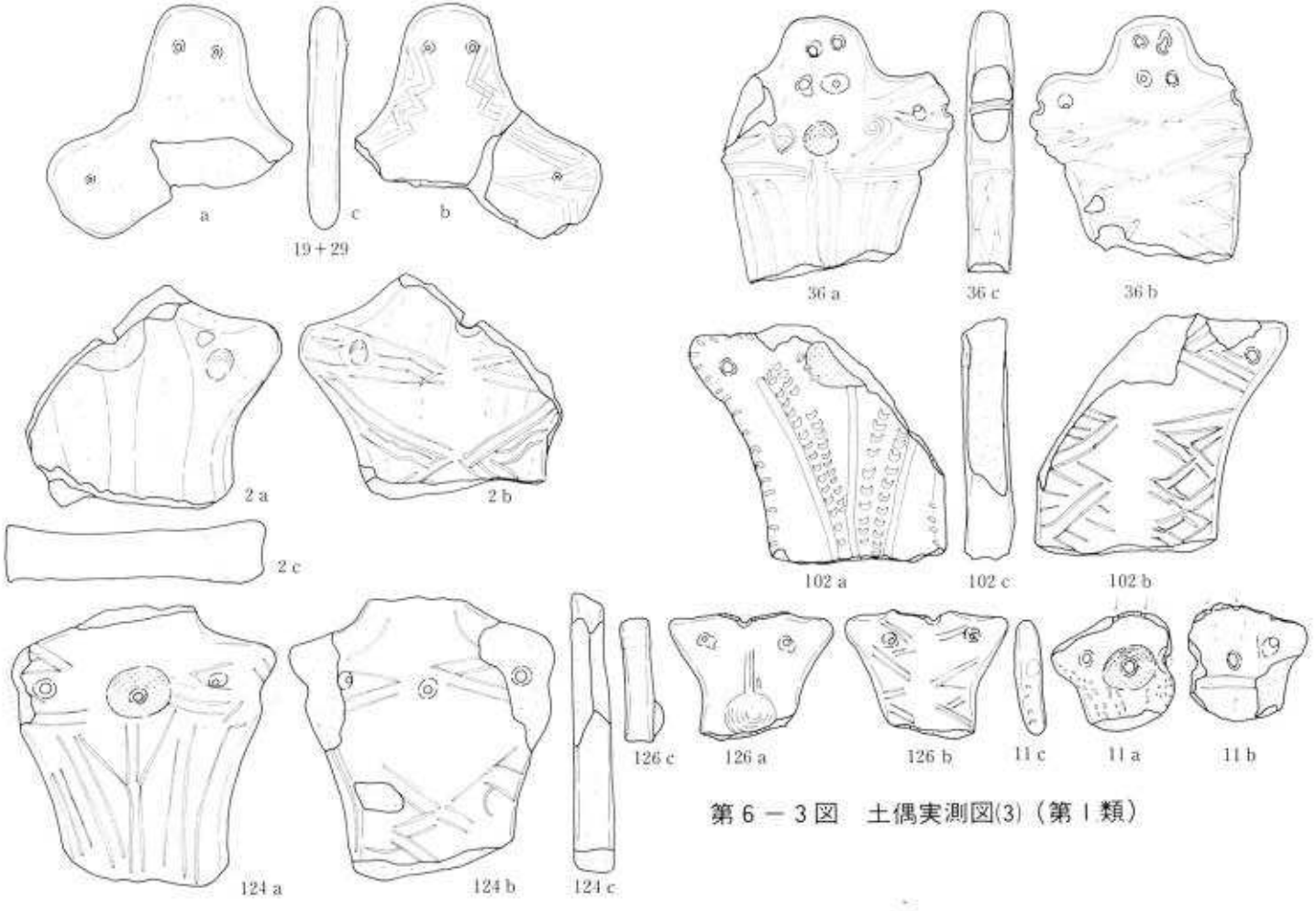
番号	地点	層序	最大長 cm よこ	たて	あつさ	備考	番号	地点	層序	最大長 cm よこ	たて	あつさ	備考
101	DA15	Ⅲ	7.7	6.6	1.5		126	? 06	Ⅲ	3.7	4.8	1.2	
102	石器製造址	?	7.2	5.4	1.1		127	CJ18－1	Ⅰ	16.5	15.7	2.2	接合
103	CC12	Ⅰ	8.0	6.9	1.3		128	CB15	Ⅲ				
104	CG15	Ⅲ	7.8	6.8	1.4								
105	CJ18	Ⅰ	5.8	4.7	1.4								
106	DB15	Ⅲ	2.8	2.5	1.5								
107	CJ18	Ⅲ	5.8	4.4	1.7								
108	DB18	Ⅲ	5.2	6.3	1.3								
109	CG09	Ⅲ	7.2	7.7	2.0								
110	DE53	?	3.6	3.6	1.4								
111	CA18	Ⅱ	6.2	4.8	1.9								
112	DA03	Ⅲ	5.8	4.1	1.5								
113	DG18	Ⅲ	2.9	3.7	1.9	2類(?)							
114	BG15	Ⅳ-5	5.5	4.0	1.5								
115	DC24	Ⅱ	8.5	8.6	1.4								
116	EG74	Ⅰ	4.3	1.5	1.1	5類							
117	CA12	Ⅱ	7.0	3.9	2.1	4類							
118	CA18	Ⅰ	4.9	4.5	1.0								
119	CCD09	Ⅰ－Ⅱ	2.6	4.4	1.5								
120	DG15	Ⅱ	4.7	5.4	1.7								
121	DF03	Ⅰ	8.4	6.7	1.9								
122	CG18	?	6.2	6.6	1.1								
123	DA18	Ⅲ	5.4	4.5	0.8								
124	CJ15	Ⅲ	8.4	7.8	1.5								
125	DE09	?	7.1	4.5	1.7								



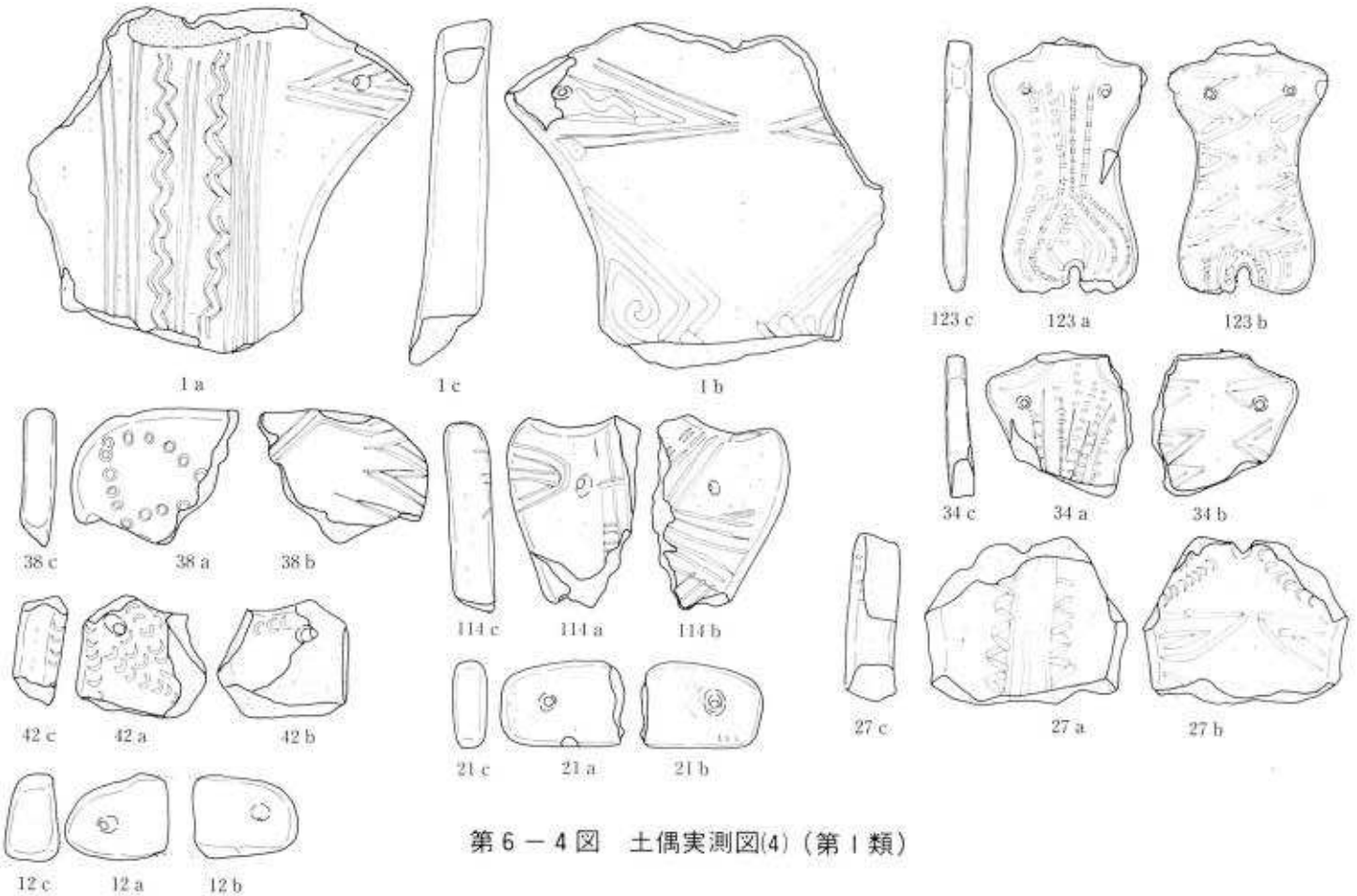
第６－１図　土偶実測図(1)（第Ⅰ類）（以下の縮尺は約２分の１）



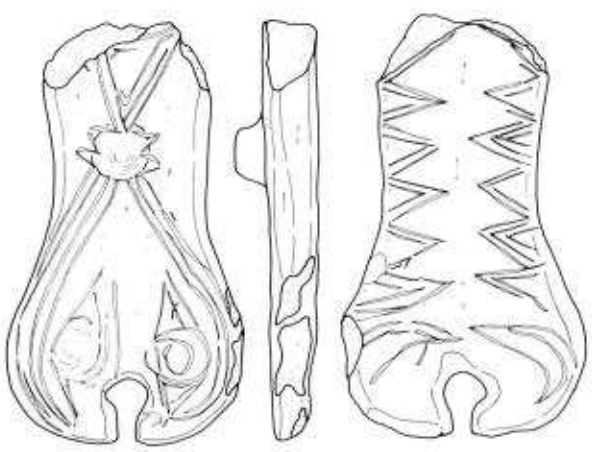
第6－2図　土偶実測図(2)（第Ⅰ類）

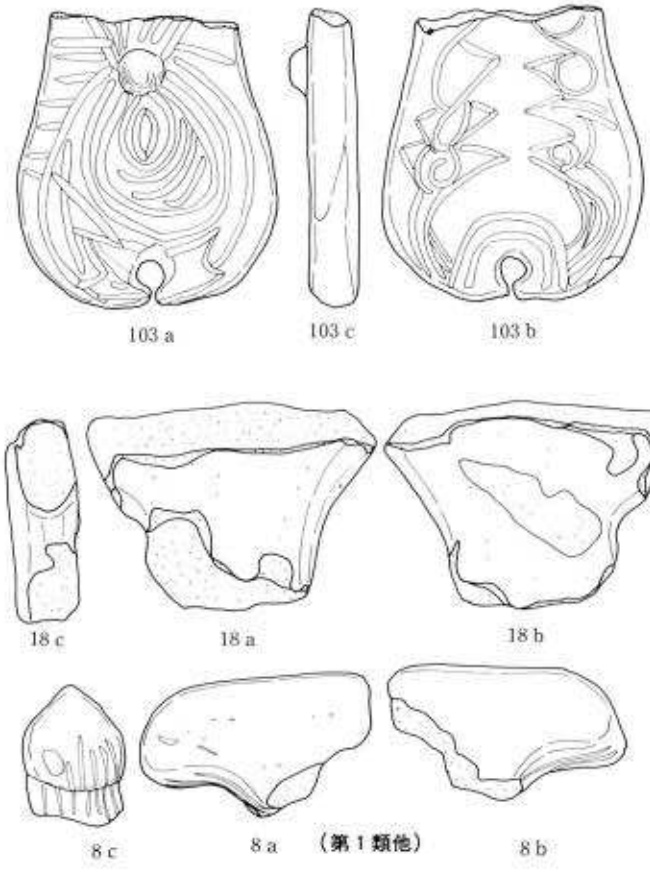


第６－３図　土偶実測図(3)（第Ⅰ類）

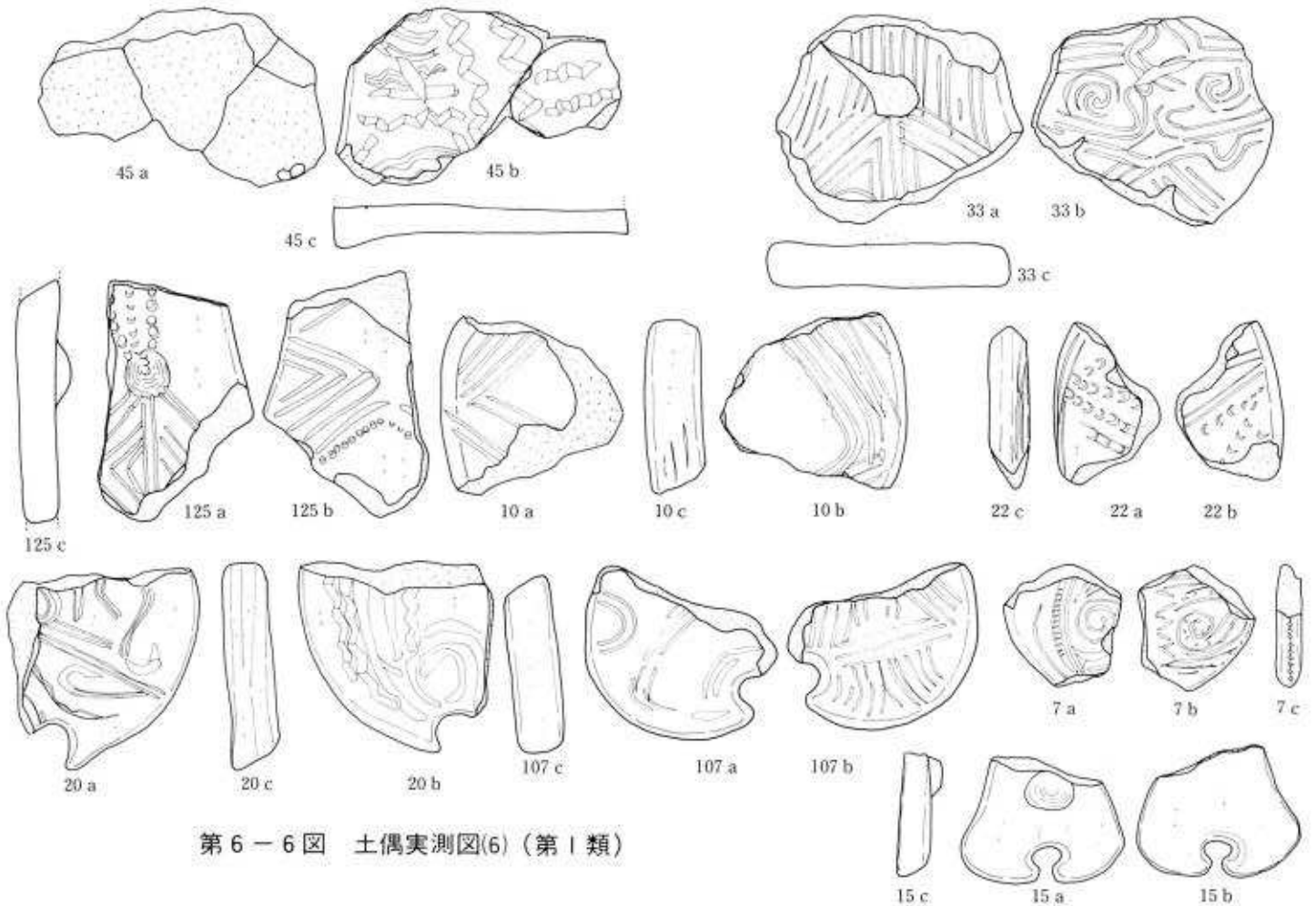


第６－４図　土偶実測図(4)（第Ⅰ類）

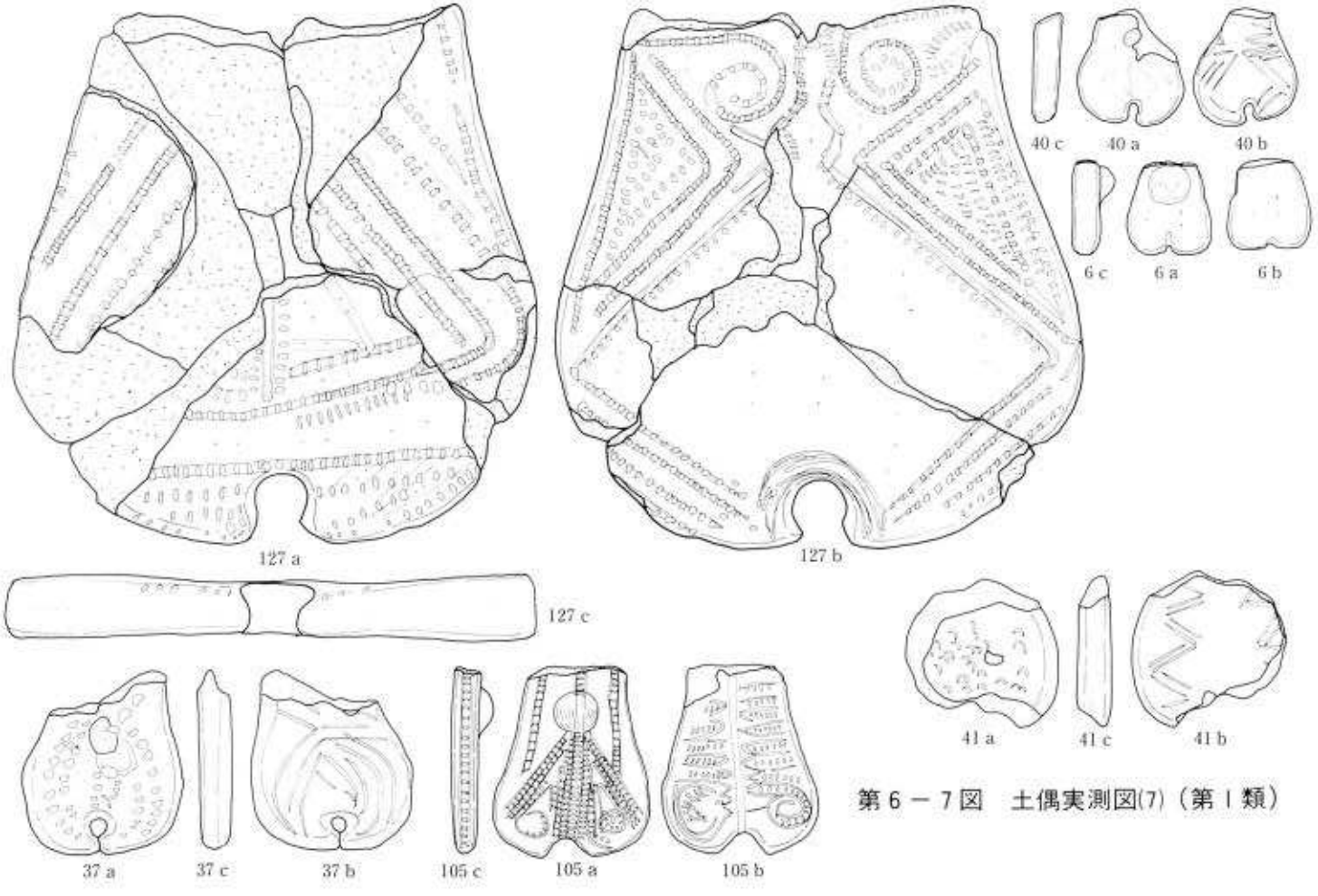




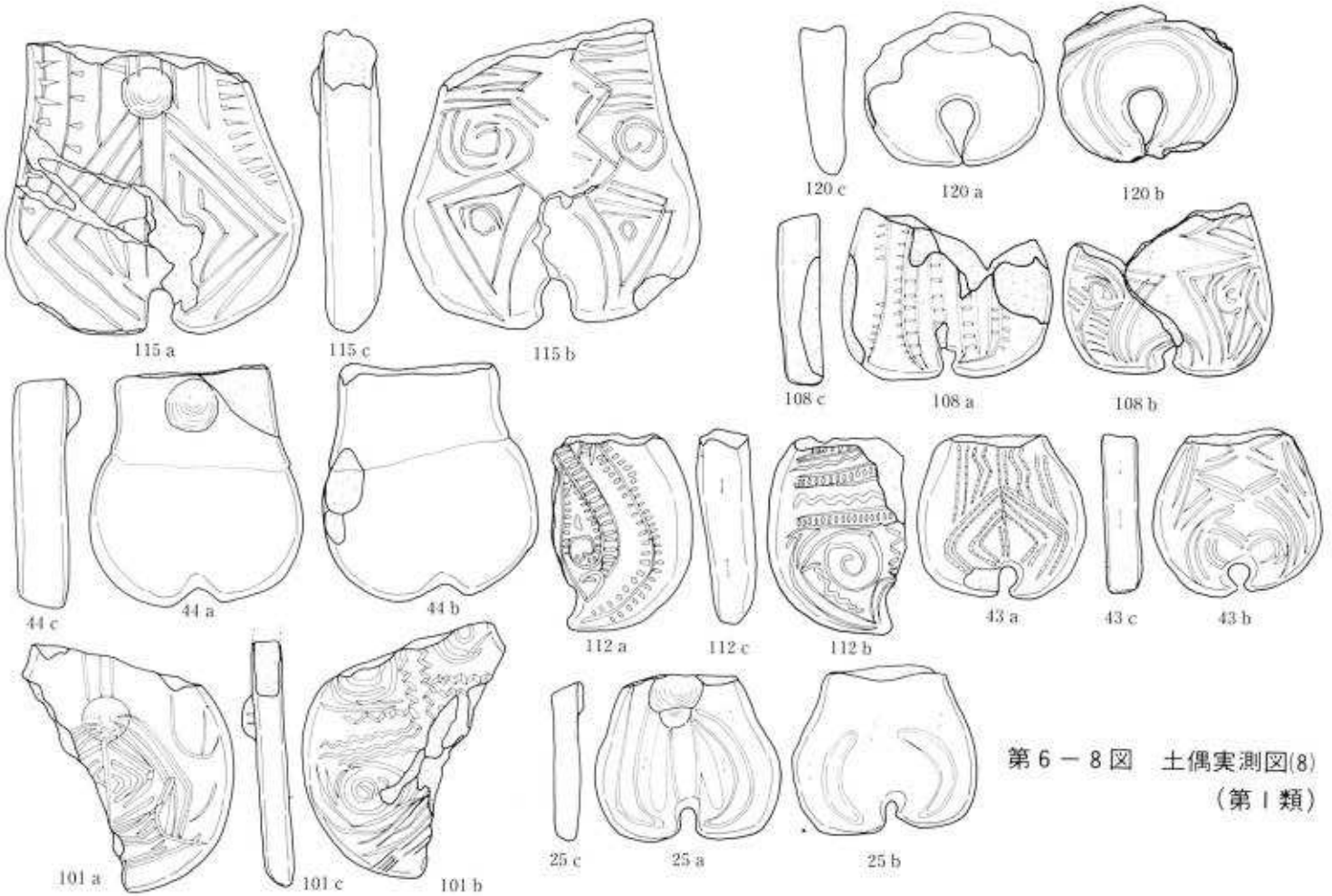
第6－5図　土偶実測図　(5) (第1類他)



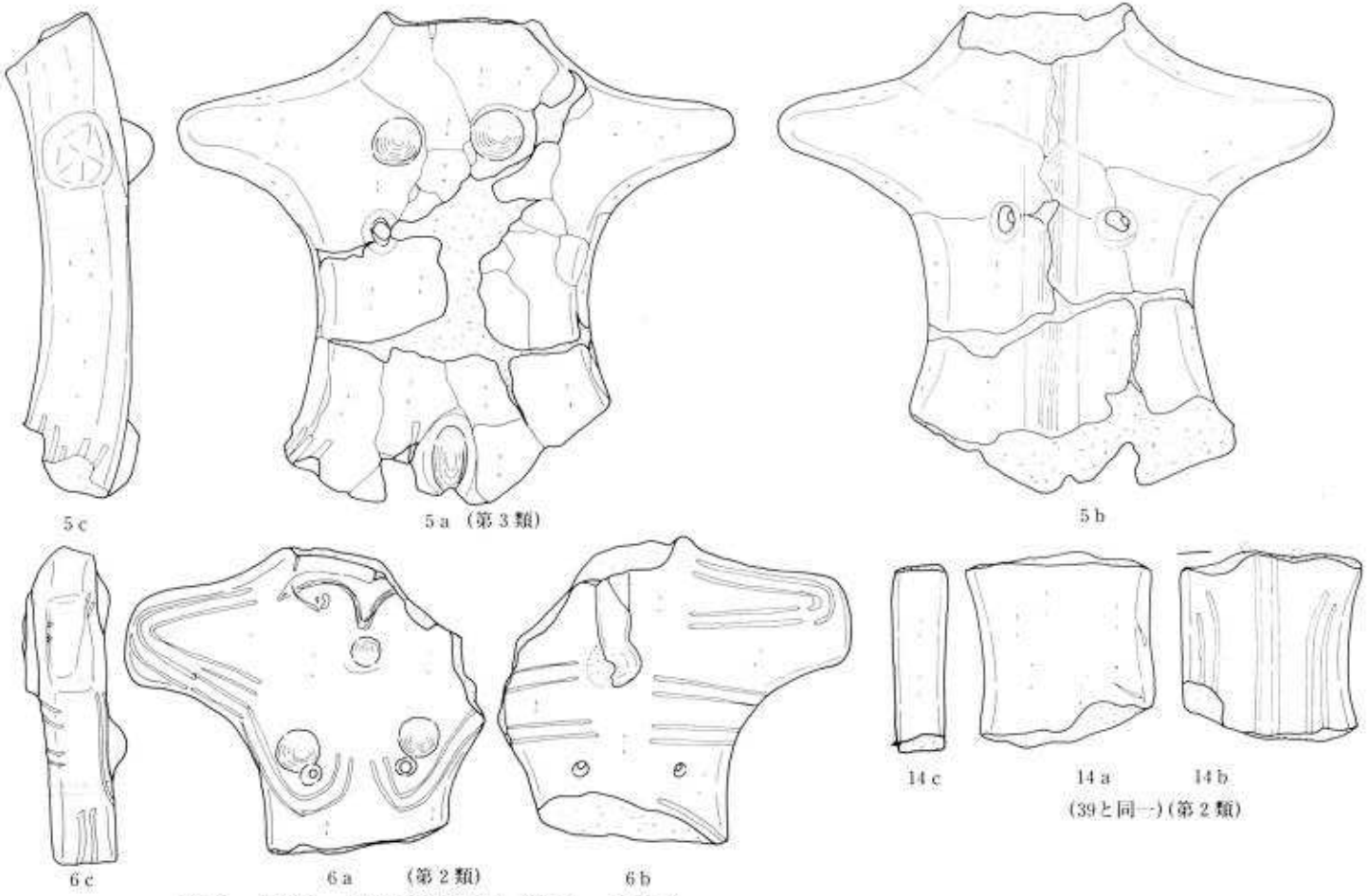
第６－６図　土偶実測図(6)（第Ⅰ類）



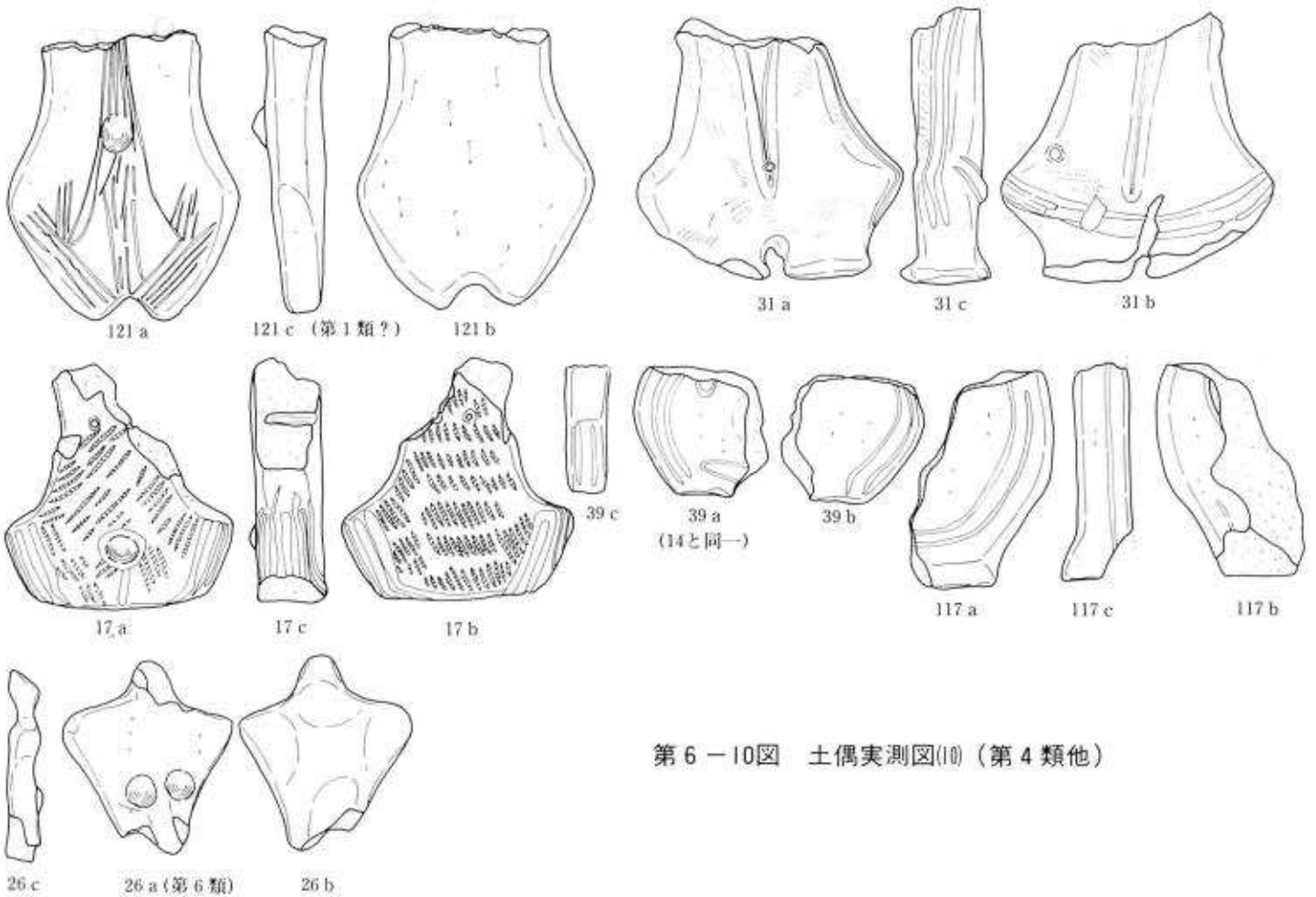
第６－７図　土偶実測図(7)（第Ⅰ類）



第６－８図　土偶実測図(8)
（第Ⅰ類）



第6－9図　土偶実測図(9)（第2・3類）



第6－10図　土偶実測図(10)（第4類他）

(5) 土製品類（第7－1・2図・図版25・26)種別毎に土製品を記す。種別には⓪耳栓、⓫管玉状土製品⓬ボタン状土製品、⓭土製円板、⓮円盤状土製品、⓯断面三角形土製品、⓰棒状土製品、⓱その他、などがある。以下順に記す。

⓪ 耳栓　縦断面が鼓状になる軽量のものである。表面に赤色塗彩が施こされる。二個一対でピット中から出土した。

⓫ 管玉状土製品　上と同様に鼓状の断面型をもつが、長めでかつ部厚・重いものである。素地も⓪より粗い。耳栓とも思われるが、管玉状石製品の存在をも考慮してこう呼んだ。より棒状に近いものと、開きの大きいものの二種があるが一括した。

⓬ ボタン状土製品　浅いドーム状に湾曲する器形をもち、4ケの小孔を有する。適当なものではないが仮にこう呼ぶ。住居跡埋土中出土である。装飾品であろうか。

⓭ 土製円板　土器破片を円形に仕上げたものである。中央に小孔を穿つものと無孔のものの両者がある。縄文時代早期後半～晩期まで存続するタイプである。具体的用途は不明だが、錘関連のものでもあろうか。

⓮ 円盤状土製品　⓭のような転用品ではなく、その自体を目的として別個に作成されたものである。片面に凹部や、同心円状の凹線部を有するもの、さらには赤色顔料を塗彩されるものがある。具体的用途は不明だが、装飾品の仲間でもあろうか。

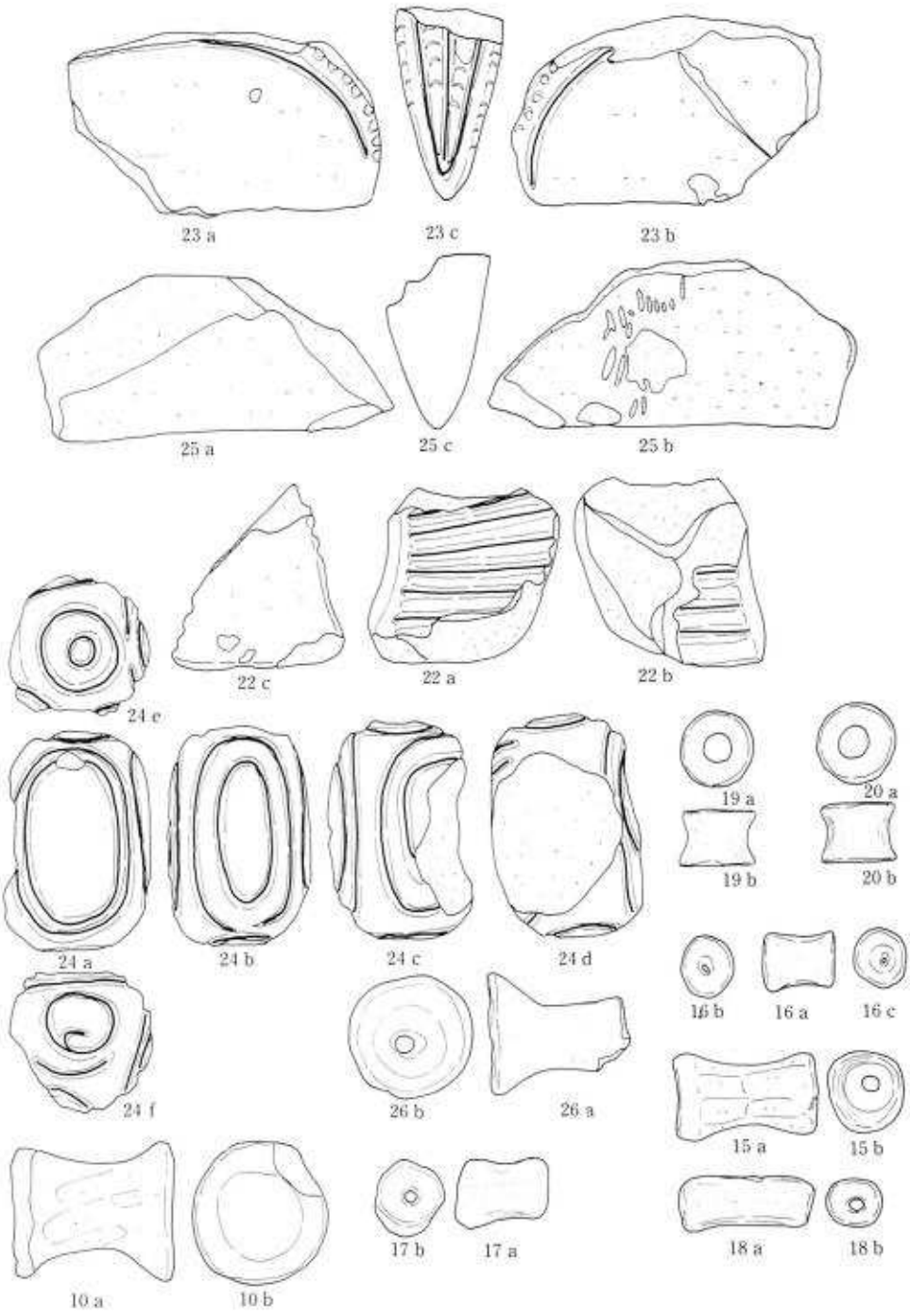
⓯ 断面三角形土製品　適当な名称を知らないので仮にこう呼ぶ。半円形の平面形と、三角形の断面形をもつ。湾曲部の縁辺に竹管文・沈線を有し、かつ表面は入念に研磨される。断面三角形磨製品とした石製品の土製品化的な色彩が強い。なお仮にこの類に含めたDJ27住居跡東南隅ピット出土のものは土器の装飾部（把手？）とも考えられる。具体的用途は不明である。

⓰ 棒状土製品　棒状の土製品である。完全品・破片の両者があるが、破片には異種のものが混じる可能性がある。具体的用途はこれも不明である。

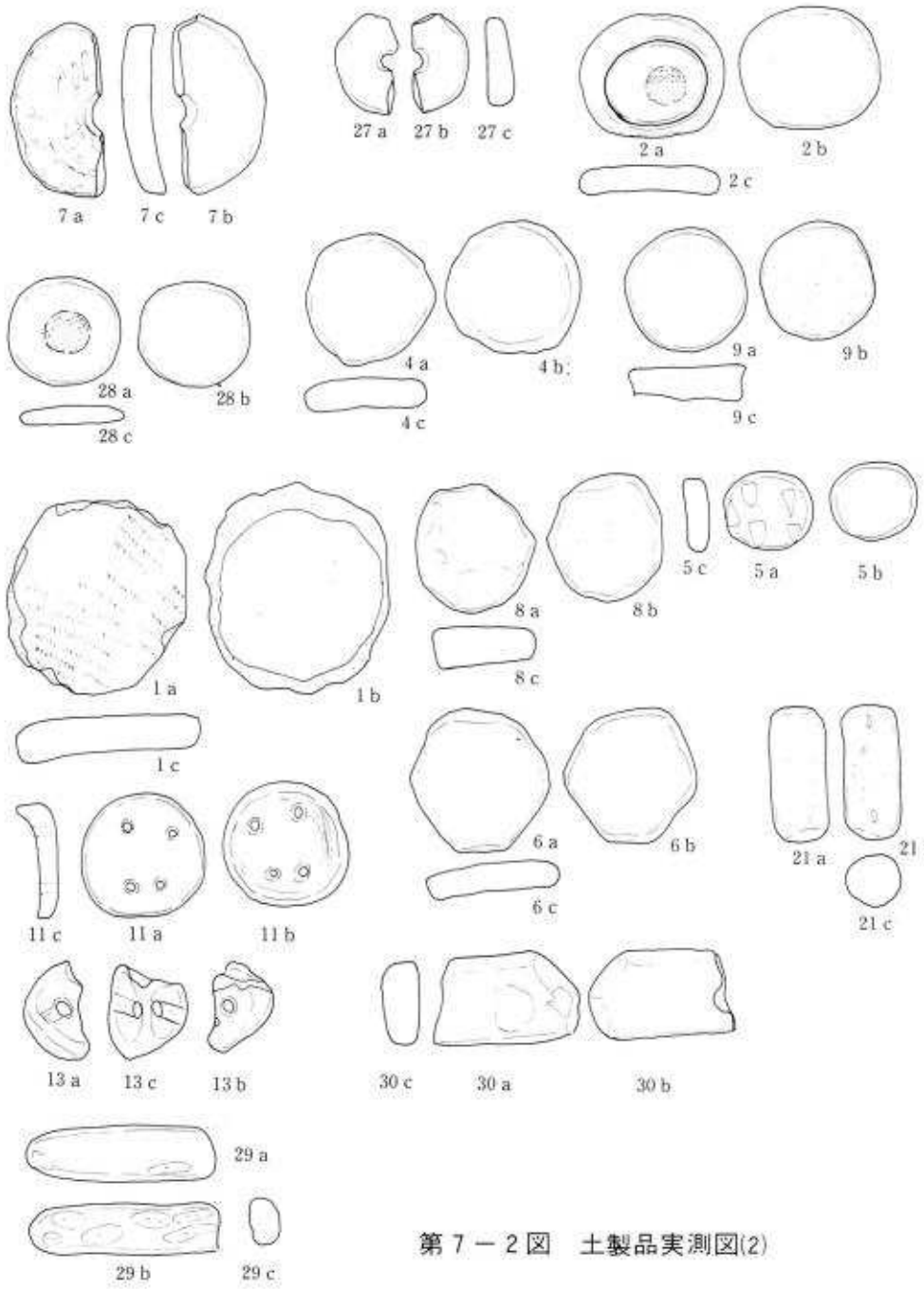
⓱ その他としては　DA18から有孔のものが出土している。土偶の頭部破片とも見られるが詳細不明である。

第7－3表　土　製　品　一　覧

番号	地点	旧ラベル	層序	種別	破損	最大長 cm			番号	地点	層序	種別	破損	最大長 cm		
						たて	よこ	あつさ						たて	よこ	あつさ
5	CG15住	CG15住内	?	土製円板	完	2.5	2.2	0.9	7	B I 18	Ⅱ	土製円板(有孔)	破	5.1	2.7	1.1
11	C J 24住	C I 21住拡張区	Ⅱ-2	ボタン状土製品	〃	3.5	3.5	1.0	2	C J 18	Ⅲ	円盤状土製品	〃	4.2	3.7	0.9
30	〃	〃	Ⅱ-3	棒状　〃	破	3.8	2.3	1.1	14	C J 18	?	〃	完	4.8	3.0	3.0
12	C J 27住	C J 27住内南東ピット		用途不明　〃	〃	2.3	2.6	1.9	15	C J 15	?	管玉状　〃	〃	4.2	2.5	2.4
26	C I 21住	C I 21住	Ⅱ	管玉状　〃	〃	4.0	3.3	1.8	21	C J 12	Ⅲ	棒状　〃	〃	3.9	1.7	1.7
16	D E 18住	D E 18住Q_3 No.92	?	〃　〃	完	2.1	1.5	1.7	18	C H 03	〃	管玉状　〃	〃	3.9	1.8	1.8
27	〃	D E 09住	埋土	土製円板(有孔)	破	2.6	1.6	0.7	28	C G 06	〃	土製円板	破	3.0	3.0	0.5
23	D D 18住	D D 18住Q_3	〃	断面三角形土製品	〃	9.3	5.0	2.6	25	C A 12	Ⅰ	断面三角形土製品	〃	4.5	10.2	2.5
24	D J 27住	D J 27住東南隅ピット	?	〃	〃	6.2	4.0	3.8	3	C G ?	Ⅲ	土製円板		3.1	3.2	0.7
29	CD15f. P.	C D 15 f . P.		棒状土製品	〃	5.2	1.4	0.8	13	D A 18	?	用途不明土製品		2.3	2.6	1.9
1	?	DH50P. 2	?	土製円板	完	5.6	5.1	1.1	10	D E 12	?	管玉状　〃	破	4.8	4.0	2.3
4	〃	〃	〃	〃	〃	3.7	3.8	1.1								
6	〃	〃	〃	〃	〃	3.8	3.8	1.0								
9	ED18f. P.	E D 18 f . P.	?	円盤状土製品	破	3.5	3.5	1.1								
17	E B03f. P.	E B 03 P.	?	管玉状　〃	完	2.5	2.0	1.8								
22	?	E F 156 P.	?	断面三角形土製品	破	5.1	4.9	5.0								
19	EH65f. P	E H 65 P. 2	?	耳　栓	完	1.6	2.2	1.8								
20	〃	〃	?	〃	〃	1.7	2.3	1.8								
8	?	EC68切りあい遺構B.L5		土製円板	〃	3.6	3.4	1.2								



第７－１図　土製品実測図(1)（以下の縮尺は約２分の１）



第７－２図　土製品実測図(2)

(6) 石製品（第8－1～3図・図版26･27)石製品としたものは⓪玦状耳飾、⓫管玉状石製品、⓬垂飾、⓭円盤状磨製品、⓮球状有孔石製品、⓯断面三角形磨製石製品、⓰その他である。以下順に見る。

⓪ 球状耳飾り　平面形態が卵形（縦長の倒卵形）に近いものと、略円形に近いものの二種がある。大半は半欠品であるが、一例の完全品かつ未製品が存在する。この種の石器は破損後も投棄されず、垂飾等へ転用されたものが多いことは注意されてよい。

⓫ 管玉状石製品　5㎝以上とやや長目のものと、3㎝前後と若干短かめのものの二種がある。いずれも開口部の器厚が薄くなっており、穿孔の難かしさを物語る。

⓬ 垂飾り　数種のものを含む。㋑小型で棒状乃至長方形の平面形をもち、扁平なもの。㋺同様のもののうちで、二等辺三角形的平面形を有するもの。㋩前二者より大型で厚く、長大な台形的な平面形を有するもの。前二者と㋩は石材の使用も異なり、異種とすべきかとも思われるが、一括しておく。㋥小型で楕円形の板状礫の一端乃至両端に孔を穿つ。表面は入念に研磨される。ボタン状土製品としたものに類似しないこともない。

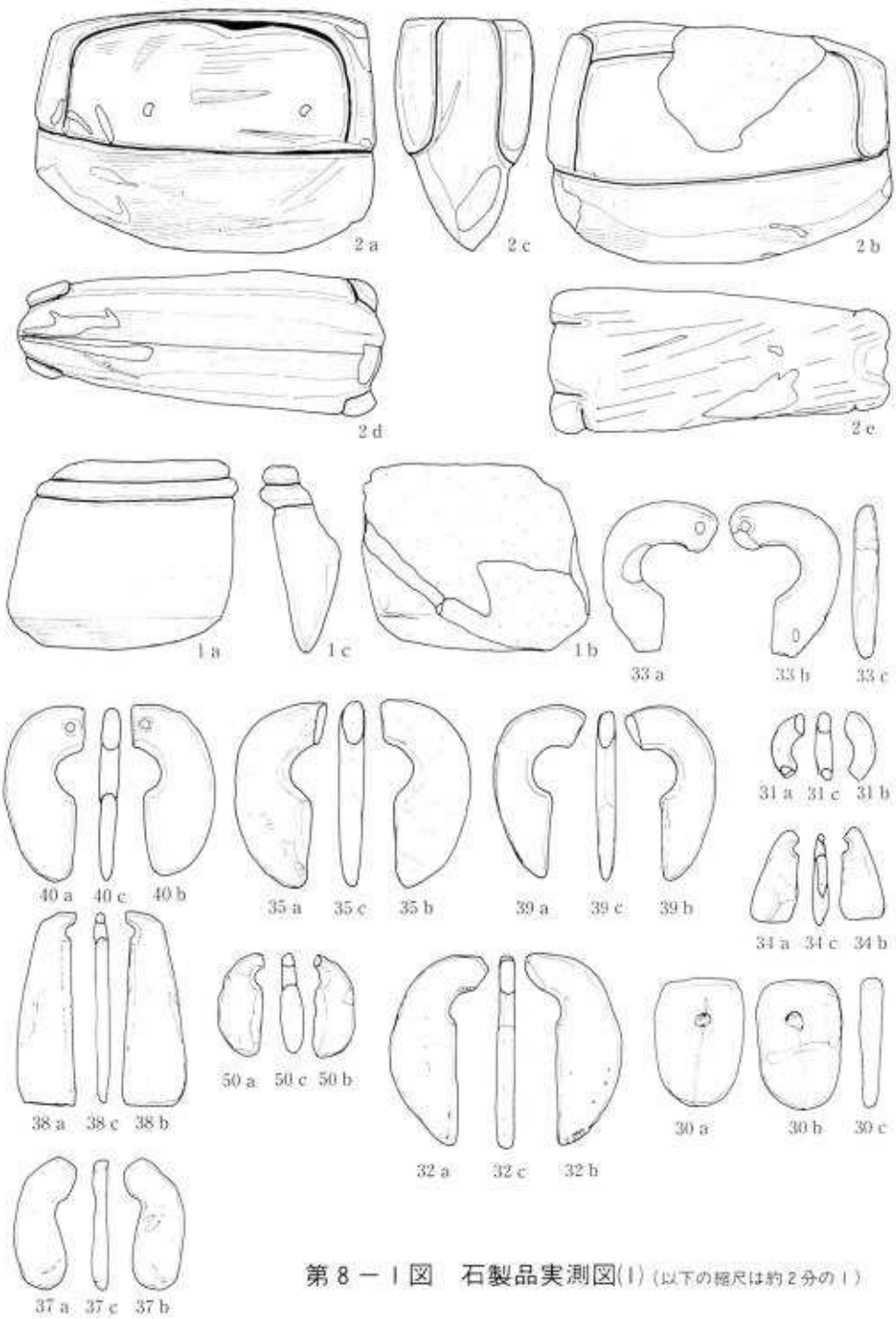
⓭ 円盤状磨製品　⓬の㋥より大型の楕円形・扁平礫の表面を研磨する。類例は少ないが独立させた。用途は不明である。

⓮ 球状有孔石器製品　軟質の素材に孔を穿ったもの。穿孔途中のものを含む。用途は不明である。

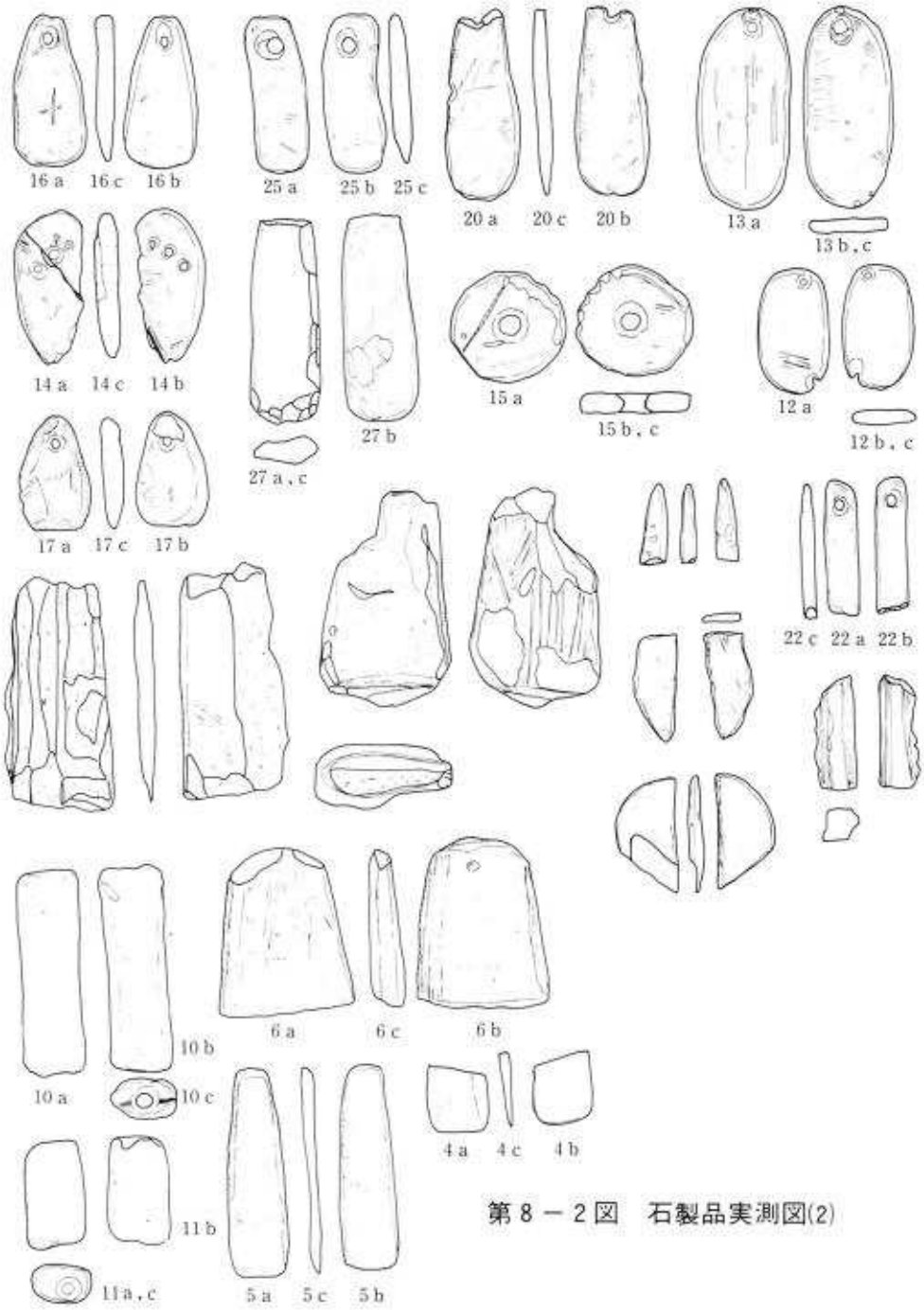
⓯ 断面三角形磨製石製品　断面三角形磨石に類似するが、その成形・施文技法が際立って入念なものである。器厚の薄くなる縁辺は刃部風に入念に研磨され仕上げられる。刃部形成といい切っても大過無いと思われる。器厚の厚い部分（三角形の底辺部）には格別な施文は無く、表裏の両面には縁に沿った沈線が付され、それは側面にも展開する。少なくとも表裏面のいずれか一方に二ヶ所の浅い凹部風のものが見られる。これが有意的なものか否かは不明である。用途は不明だが、刃物としての機能（対象は植物質のもの、茎等）は十分に果たしうるものと考えられる。

⓰ その他　実用品、とりわけノミ的な機能を想定すべきかとも思われるが、極めて小型の磨製石斧もここで紹介しておく。その一端に穿孔すれば、垂飾りにもなりうるからである。他には装飾品風のものの破片と思われるものの各種がある。

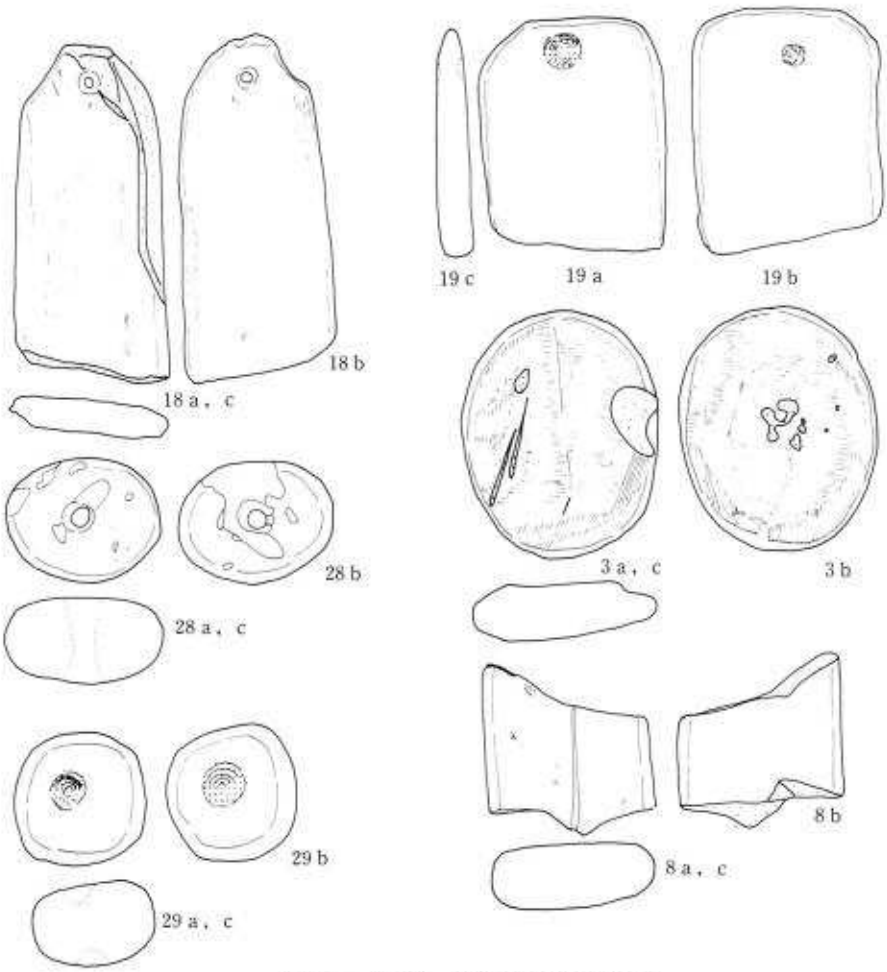
装飾品の素材には顕著な傾向性を指摘でき、かつその産地が特定されていることなどは種々の問題を提起するものと考えられる。



第８－１図　石製品実測図(1)（以下の縮尺は約２分の１）



第８－２図　石製品実測図(2)



第 8 － 3 図　石製品実測図(3)

第 8 － 3 表

版	地　点	旧 ラ ベ ル	層序	種　別	破損	最大長 cm			重量 g	材　質	産 出 地	その他
						たて	よこ	あつさ				
1	C J 24住	C J 24住 拡張区N-30ベルト	?	断面三角形磨製石製品	破	5.5	6.2	1.8		細砂質凝灰岩	奥羽山地	中新統
3	〃	C I 21住 西側拡張区	Ⅱ-3	円盤状　〃	完	6.5	5.2	1.5	7.0	流紋岩質細粒凝灰岩	〃	〃
9	〃	〃	Ⅰ	不 明	破	6.2	3.8	1.6	50.0	滑 石	宮守村？	古生界
30	〃	C I 21住拡張区	Ⅱ-3	耳飾（未製品）	完	3.7	2.5	0.7	13.0	〃	〃（岩根橋？）	〃
40	〃	〃　西側　〃	Ⅱ-2	〃	〃	4.9	2.2	0.6	9.0	〃	〃	〃
4	C I 21住	C I 21住(DA18)	床面	小型磨製石斧	〃	1.9	1.7	0.3	2.0	淡緑色石質細粒凝灰岩	奥羽山地	中新統
17	〃	C I 21住(DA15) DA15f．p．	?	垂 飾	〃	3.2	2.1	0.7	5.8	滑 石	宮守村？	古生界
16	D E 18住	D E 18住 Q_4　No.158	〃	〃	〃	4.3	2.1	0.6	7.5	〃	〃	〃
20	〃	〃 Q_2 No.139	〃	〃	〃	5.2	2.1	0.5	8.5	チャート質粘板岩	北上山地	〃

25	DE18住	DE18住DE15G	?	垂 飾	破?	4.3	1.6	0.4	3.0	滑 石	宮守村	古生界
26	〃	DG09G整穴	埋土	〃	〃	2.4	0.7	0.6	1.2	〃	〃	〃
31	〃	DF15G整穴	〃	耳 飾	完	2.0	0.6	0.5	1.0	〃	〃	〃
35	〃	DE18住	?	〃	〃	5.3	2.2	0.7	14.0	〃	〃	〃
39	〃	DE18G住	?	〃	〃	5.0	2.2	0.5	4.6	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	中新統
45	〃	DE18住内	?	こはく	—	—	—	—	—			
?	〃?	ED18住	?	不 明	破	6.7	3.0	0.6	14.8	粘板岩	北上山地	古生界
10	〃	DE18住	?	管玉状石製品	完	5.7	1.2	1.8	20.0	滑 石	宮守村	〃
36	?	DJ24住Q。屋下下位ピット	?	耳 飾	〃	3.0	1.2	0.7	2.6	チャート質粘板岩	北上山地	〃
43	CG15住	CG15住内	?	こはく	—	—	—	—	—			
44	〃	〃	?	〃	—	—	—	—	—			
21	CD15f.p.	CD15f.p.	?	垂 飾	破	4.3	1.9	0.6	7.0	滑 石	宮守村(?)	古生界
5	ED15p.1	ED15p.1	?	小型磨製石斧	完	5.9	1.8	0.4	7.5	粘板岩	北上山地	〃
18	EC24p.1	EC24f.p.1	?	垂 飾	破	6.7	5.1	1.4	40.0	流紋岩質凝灰岩	奥羽山地	中新統
27	ED53p.2	ED53p.2	?	〃	〃	5.7	2.0	0.8	14.5	緑色凝灰岩	〃	〃
32	EB15p.	EB15p.	?	耳 飾	〃	5.5	2.0	0.6	8.3	流紋岩質細粒凝灰岩	〃	〃
37	ED53p.2	ED53p.2	?	〃	破	3.8	1.6	0.6	5.0	滑 石	宮守村	古生界
38	〃	〃	?	〃	〃	5.6	1.8	0.5	7.3	淡緑色石質細粒凝灰岩	奥羽山地	中新統
42	EA18f.p.	EA18p.	〃	水 晶								
15	〃	〃	〃	垂 飾	完	4.5	1.6	0.5	5.4	滑 石	宮守村(?)	古生界
2	EB09			底面三角形磨製石製品	破	6.5	5.3	1.5	40.0	細砂質凝灰岩	奥羽山地	中新統
6	CA15		Ⅲ-7	小型磨製石斧	完	4.7	3.7	1.1	40.0	淡緑石質細粒凝灰岩	〃	〃
8	CF50		〃	不 明	破	4.5	4.0	1.9	40.0	石質細粒凝灰岩	〃	〃
12	CJ15		Ⅲ	垂 飾	完	3.5	2.1	0.5	5.0	〃	〃	〃
19	CF18		Ⅰ	〃	破	6.7	5.1	1.4	40.0	流紋岩質凝灰岩	〃	〃
22	CJ09		Ⅲ	〃	〃	3.8	1.0	0.5	3.0	滑 石	宮守村(?)	古生界
33	CG06		〃	耳 飾	〃	4.6	2.7	0.6	8.3	〃	〃	〃
34	CJ18		〃	〃	〃	2.7	1.3	0.4	2.0	〃	〃	〃
11	DA15ベルト		B-3	管玉状石製品	完	1.2	1.7	1.3	9.6	〃	〃	〃
13	DA15		床面	垂 飾	〃	5.6	2.7	0.5	11.5	流紋岩質細粒凝灰岩	奥羽山地	中新統
23	DA21		埋土	〃	破	3.2	1.2	1.0	5.2	滑 石	宮守村(?)	古生界
24	DE06		Ⅱ	〃	〃	3.0	1.2	0.3	1.7	〃	〃	〃
28	DJ09		Ⅰ	球状有孔石製品	完	4.2	3.5	2.6	30.0	淡緑色細粒凝灰岩	奥羽山地	中新統
29	EA03 ?		?	〃 (未穿孔)	〃	3.8	3.7	2.4	50.0	淡緑色凝灰岩	〃	〃
50	ED53p.2		?	耳 飾	破	3.0	1.2	0.6	7.0	滑 石	宮守村	古生界
14	〃		?	垂 飾	完	4.5	1.6	0.5	5.4	〃	〃	〃

B．古代の遺物

古代に関連する遺物の大半は竪穴住居跡から出土した。ここではそれらについて略述する。比較的単純な内容をもつので細分は行なわず、大別のみにとどめた。大別は須恵器・土師器・赤焼土器、ロクロ使用・不使用、甕（長胴・球胴）・坏　程度とした。〝調整〟なる語と〝型〟なる語（器種に関する）は省いた。

ＤＡ24住居跡（第　　図）ロクロ不使用の土師器長胴甕の破片２個体分を得た。肩部に段をもつ。口縁部内外両面とも刷毛目後横ナデ、体部外面刷毛目後篦ミガキか篦ケズリ、内面は刷毛目のみ。遺構の特徴などから、国分寺下層式相当の可能性がある。

ＤＤ18住居跡（第 9-1図）土師器甕・坏各１と、土製紡錘車１を得た。甕は先と同様に口縁部刷毛目後横ナデ、体部外面に刷毛目が見られる。坏推定値径12cm前後の小型のもので、外面は体・底部とも篦ケズリ後篦ミガキが行なわれ、内面は篦ミガキ後黒色処理される。最後者の紡錘車は円錐台形であるが、上面が凹部を形成し、ナデが施こされる。その他の面は入念に篦ミガキされる。これのみが床面出土である。出土状況は若干不明瞭であるが、坏の形状は国分寺下層式の特徴に合致し、大略その時期に関連すると見做しておく。

ＤＧ24住居跡（第 9-1図）ロクロ使用土師器坏の破片２を得た。底部大半欠失のため詳細不明だが回転糸切・無調整らしい。内面は篦ミガキ後黒色処理される。平安時代のものと思われるが、時期の特定は避けておく。

ＤＨ18住居跡（ 9-1図）須恵器坏４、同高台付坏１、大甕１、土師器小型甕を得た。坏は篦切り・無調整３、回転糸切り・無調整１である。前者の器高は３cmと低く、全体が小ぶりである。高台付坏の切り離し技法は不明である。ロクロ使用土師器甕は推定口径14.0cmで、これも小ぶりである。須恵器切り離し技法の上記の組みあわせ、ロクロ使用土師器の組みあわせは、本県においては平安時代初期の特徴の一つとされているので、本遺構の時期もそれに近いと見做しておく。

ＤＪ21住居跡（第 9-3図）ロクロ不使用土師器甕２、同坏１の各破片を得た。甕の調整技法は他に共通し、刷毛目・横ナデ・篦ミガキなどが見られる。肩部の段は顕著ではない。坏は口径12cm前後の小ぶりのもので、体・底部境界の段は痕跡的になっている。体部外面はナデ後篦ミガキ、底部外面も篦ケズリ後一部篦ミガキされ、内面は全面が入念に篦ミガキされ、黒色処理される。出土状況不明なものを混じえるので正確は期しがたいが、坏の特徴は国分寺下層式のそれに一致するので、大略それに近いものと見做しておく。